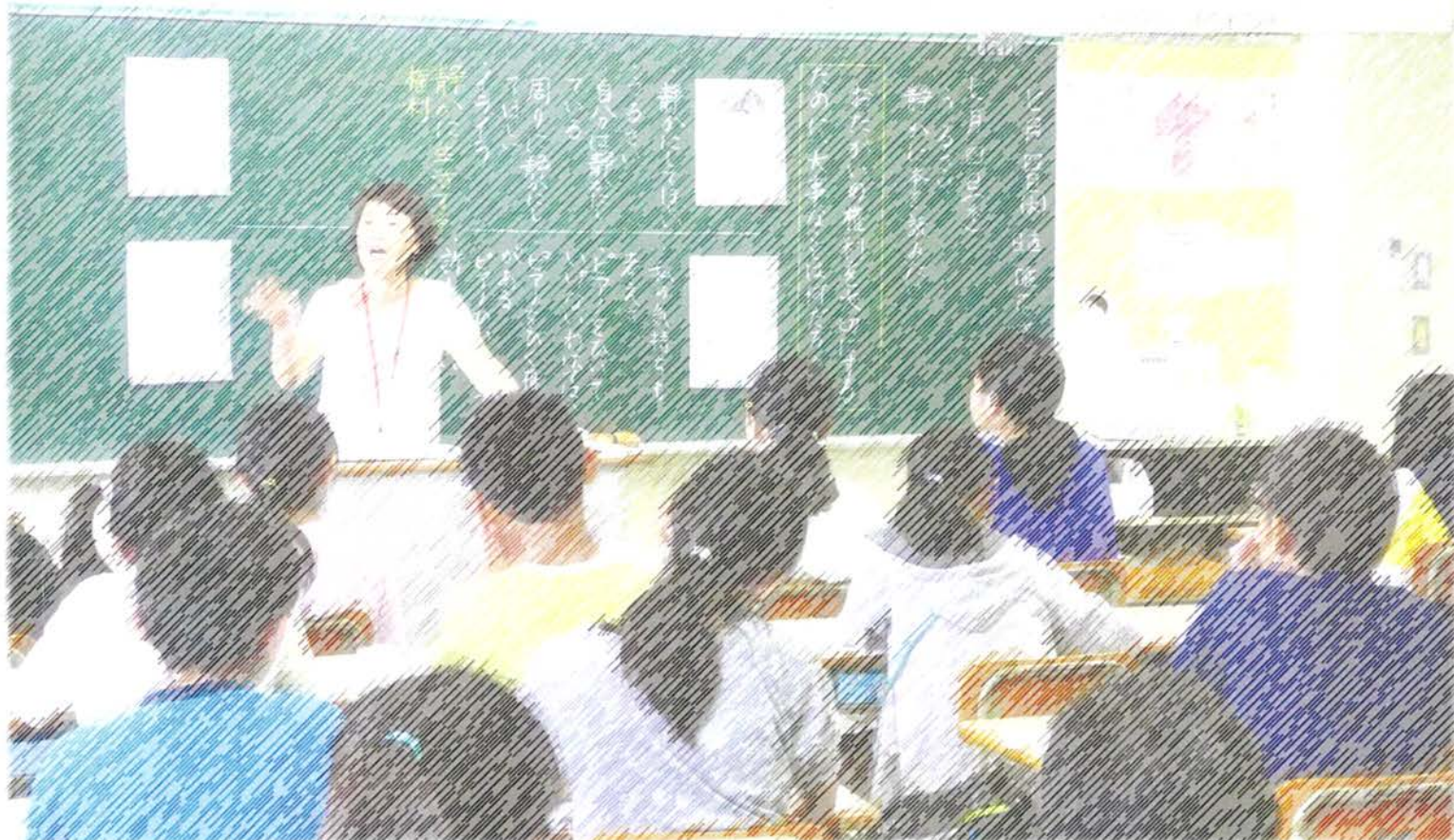


研究論文が
「令和元年度・第58回下中科学研究助成金」に入選！

道徳科の授業づくり × Support Book



Support Book を

あなたの授業づくりのいつもそばに

② 道徳科用語集 ③ 内容項目集 ④ ポイント集 ⑤ 学習指導案集

目 次

○道徳科用語集	3
○内容項目集	9
○ポイント集	35
○学習指導案集	57
学習指導案	58
学習指導案の書き方ガイド	225
学年，内容項目別 教材・資料一覧	229

道徳科用語集

小・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説を参考に作成
(小) p.〇, (中) p.〇は学習指導要領解説のページ番号
本文中の () は, 中学校学習指導要領解説の文言

あ行

か行

価値理解

内容項目を, 人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

(小) p.18

考え, 議論する道徳

児童生徒一人一人が, 答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え, 向き合う道徳。

論文→「主体的・対話的で深い学び」を実現する道徳科の授業のこと。

(小) p.2 (中) p.2

さ行

主題

指導を行うに当たって, 何をねらいとし, どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すもの。

(小) p.73 (中) p.71

重点的指導

内容項目は, 関連的, 発展的に捉え, 年間指導計画の作成や指導に際して重点的な扱いを工夫することで, その効果を高めることができる。

○ 小学校

各学年段階で重点化されている内容項目や学校として重点的に指導したい内容項目をその中から選び, 教育活動全体を通じた道徳教育において具体的な指導を行うこと。

○ 中学校

各内容項目の充実を図る中で, 各学校として更に重点的に指導したい内容項目をその中から選び, 多様な指導を工夫することによって, 内容項目全体の指導を一層効果的に行うこと。

(小) p.25 (中) p.21~p.22

重点内容項目

- 小学校
各学年段階で重点化されている内容項目や学校として重点的に指導したい内容項目。
- 中学校
各内容項目の充実を図る中で、各学校として更に重点的に指導したい内容項目。
(小) p.25 (中) p.21~p.22

情報モラル

情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度。

(小) p.97 (中) p.99

説話

- 小学校
教師の体験談や願い、様々な事象についての所感などを語ったり、日常の生活問題、新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられた問題などを盛り込んで話したりすることであり、児童がねらいの根底にある道徳的価値をより身近に考えられるようにするもの。
- 中学校
教師の体験談や願い、生徒の日常生活における身近な話題、生徒の関心や視野を広げる時事問題、ことわざや格言、心に残る標語、地域の自然や伝統文化に関することなどを盛り込んで話すことによって、生徒がねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにするもの。
(小) p.85 (中) p.85

た行

他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

(小) p.18

(中) p.15

多面的・多角的に考える

○ 小学校

物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むこと。

○ 中学校

諸事象の背景にある道徳的諸価値の多面性に着目し、それを手掛かりにして考察し、様々な角度から総合的に考察することや、いかに生きるかについて主体的に考えること。

(小) p.18~p.19 (中) p.16~p.17

動作化

児童生徒が、教材または資料の登場人物の動きや言葉を模倣して（せりふのまねをして）理解を深める表現活動。

(小) p.85 (中) p.84

道徳科

道徳教育の要として、児童生徒が道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習である。

(小) p.16 (中) p.13

道徳教育

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、道徳科を要として学校教育全体を通じて行うものである。

(小) p.10 (中) p.8

道徳性

- 人間としてよりよく生きようとする人格的特性。
- 道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を諸様相とする内面的資質。

(小) p.20, p.109 (中) p.17, p.111

道徳性の諸様相

道徳性の諸様相とは、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度のこと。

一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深め（深く考え）、日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質。

（小） p.20～p.21 （中） p.17～p.18

道徳的価値

よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの。

（小） p.17 （中） p.14

道徳的行為に関する体験的な学習

○ 小学校

具体的な道徳的行為を通して、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりする学習。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習。

○ 中学校

具体的な道徳的行為の場面を想起し追体験して、実際に行うことの難しさとその理由を考え、弱さを克服することの大切さを自覚する。また、道徳的行為の難しさについて語り合ったり、それとは逆に、生徒たちが見聞きしたすばらしい道徳的行為を出し合ったりして、考えを深めることも考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習。

（小） p.96 （中） p.97～p.98

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。

（小） p.20 （中） p.18

道徳的実践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳的実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。

(小) p.20 (中) p.18

道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

(小) p.20 (中) p.17

な行

内容項目

児童生徒が人間として他者と共によりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したもの。

(小) p.22 (中) p.19

人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること。

(小) p.18 (中) p.15

は行

別葉

各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを一覧にしたもの。

(小) 総則 p.131 (中) 総則 p.134~p.135

補充・深化・統合

道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。

○ 補充

各教科等で行う道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を道徳科の授業で補うこと。

○ 深化

児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導を道徳科の授業でより一層深めること。

○ 統合

道徳科の授業で内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすること。

(小) p.10, p.89~p.90 (中) p.8, p.88~p.89

ま行

問題解決的な学習

○ 小学校

ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うこと。

○ 中学校

生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力を養う学習。

(小) p.95~p.96 (中) p.96~p.97

や行

役割演技

児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技させる表現活動。

(小) p.85 (中) p.84

ら行

わ行

内容項目一覧

✓ 小学校

A 主として自分自身に関すること

善悪の判断, 自律, 自由と責任
正直, 誠実
節度, 節制
個性の伸長
希望と勇気, 努力と強い意志
真理の探究

✓ 中学校

自主, 自律, 自由と責任
自主, 自律, 自由と責任
節度, 節制
向上心, 個性の伸長
希望と勇気, 克己と強い意志
真理の探究, 創造

B 主として人との関わりに関すること

親切, 思いやり
感謝
礼儀
友情, 信頼
相互理解, 寛容

思いやり, 感謝
思いやり, 感謝
礼儀
友情, 信頼
相互理解, 寛容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

規則の尊重
公正, 公平, 社会正義
勤労, 公共の精神
勤労, 公共の精神
家族愛, 家庭生活の充実
よりよい学校生活, 集団生活の充実
伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
国際理解, 国際親善

遵法精神, 公德心
公正, 公平, 社会正義
社会参画, 公共の精神
勤労
家族愛, 家庭生活の充実
よりよい学校生活, 集団生活の充実
郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度
我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度
国際理解, 国際貢献

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

生命の尊さ
自然愛護
感動, 畏敬の念
よりよく生きる喜び

生命の尊さ
自然愛護
感動, 畏敬の念
よりよく生きる喜び

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「善悪の判断、自律、自由と責任」
中学校「自主、自律、自由と責任」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.28,29
(中) p.26,27

発達段階に応じた指導

小学校低学年	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。
小学校中学年	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。
小学校高学年	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
中学校	自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(1)	積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していくことが大切である。また、身近な事例を踏まえ、人としてしてはならないことをしないことについて、一貫した方針をもち、毅然とした態度で指導していくことが重要である。
小学校中学年 A-(1)	正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え、正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。特に、正しくないと考えられることを人に勧めないことはもとより、人から勧められたときにきっぱりと断ったり、正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるように指導することが大切である。
小学校高学年 A-(1)	自由と自分勝手の違いや、自由だからこそできることやそのよさを考えたりして、自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。また、自由に伴う自己責任の大きさについては、自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して、多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが、自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を一層深めることにつながる。
中学校 A-(1)	小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意志に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。 さらに、悪を悪としてはっきり捉え、それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは、自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で、善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付き、自分の行為の動機の純粋さにとどまらず、その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず、自らを律し、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動がとれるように指導することが大切である。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「正直，誠実」

中学校「自主，自律，自由と責任」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.30,31
(中) p.26,27

🔍 発達段階に応じた指導

小学校低学年	うそをついたりごまかしたりしないで，素直に伸び伸びと生活すること。
小学校中学年	過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること。
小学校高学年	誠実に，明るい心で生活すること。
中学校	自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

🔍 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(2)	うそやごまかしをしないで明るい心で楽しく生活することの大切さを押さえておくことは，児童が成長の過程で健康的な自己像を確立していくためにも大切なことである。
小学校中学年 A-(2)	正直であるからこそ，明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し，この段階の活動的な特徴を生かしながら，児童それぞれが元気に生活できるようにしていくことが望まれる。
小学校高学年 A-(2)	一人一人の誠実な生き方を大切にしながら，みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが大切である。一方で，よくないことと知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまうことは，決して心地のよいものではなく，後ろめたさから，誇りや自信を失ってしまうことにつながることを考えられるように指導することが必要である。
中学校 A-(1)	<p>小学校における指導内容を更に発展させ，より高次の自立心や自律性を高め，規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず，自己の気高さに気付かせ，何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても，自ら考え，判断し，自分の自由な意志に基づいて決定し，それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し，失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。</p> <p>さらに，悪を悪としてはっきり捉え，それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは，自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で，善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気づき，自分の行為の動機の純粋さとどまらず，その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず，自らを律し，自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し，人間としての誇りをもった，責任ある行動がとれるように指導することが大切である。</p>

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「節度、節制」
中学校「節度、節制」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.32,33
(中) p.28,29

発達段階に応じた指導

小学校低学年	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事。
小学校中学年	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする事。
小学校高学年	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。
中学校	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(3)	時刻を守り時間を大切にすることや、生活に一定のリズムを与え、わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり、そのような生活が快適な毎日を送ることにつながることに気付かせ、基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるように繰り返し指導する必要がある。
小学校中学年 A-(3)	適宜、自分でできることを考えさせるようにすることが求められる。また、低学年の内容として示されていた基本的な生活習慣に関する具体的な事項については、この段階では内容の表現上は省略されているが、児童の状況に応じて適宜、継続的に指導していく必要がある。
小学校高学年 A-(3)	基本的な生活習慣は心身の健康を維持増進し、活力のある生活を支えるものであることへの理解を一層深めるようにする必要がある。また、児童一人一人が自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて進んで見直しながら、望ましい生活習慣を積極的に築くとともに、自ら節度を守り節制に心掛けるように継続的に指導することが求められる。
中学校 A-(2)	まず、小学校段階からの節度、節制の大切さについて理解を一層深めるとともに、生活全般にわたり安全に配慮して、心身の調和のある生活を送ることの意義をしっかりと考えることができるようにすることが大切である。そのために、そこでは行動の仕方や物事の処理の問題として捉えさせるだけでは十分ではない。心身の健康の増進、生涯にわたって学ぼうとする意欲や習慣、時間や物を大切にすること、常に安全に配慮して生活すること、望ましい生活習慣を身に付けることなどが、充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを、生徒自らが自覚できるようにすることが大切である。 さらに、改めて基本的な生活習慣や防災訓練、交通安全等の安全に関わる活動の意義について学ぶ機会を設けることが大切である。きまりある生活を通して自らの生き方を正し、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活の実現に努めることが、自分自身の将来を豊かにするものであることを自覚できるようにすることが何よりも重要である。単に日々の生活だけの問題ではなく、自らの生き方そのものの問題であり、人生をより豊かなものにする事との関係で学ぶことができるようになることが必要である。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「個性の伸長」
中学校「向上心、個性の伸長」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.34,35
(中) p.30,31

🔍 発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分の特徴に気付くこと。
小学校中学年	自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。
小学校高学年	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
中学校	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

🔍 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(4)	児童の長所を積極的に認め、励まし、児童自身が具体的な場面で芽生えてくる自分の長所にできるだけ多く気づき、実感していけるようにすることが、よさを伸ばすことにつながっていく。
小学校中学年 A-(4)	友達など他者との交流の中で互いを認め合い、自己を高め合える場を設定したりして、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切である。
小学校高学年 A-(4)	この段階においては、自己の生き方を見つめ、自分の特徴を多面的・多角的に捉えることが必要である。そうすることにより、自分自身の長所と短所の両面が見えてくる。その際、まず、自分が気付いた長所に目を向けて現状を維持し続けることの大切さや、更に積極的に長所を伸ばそうとする態度を育てる必要がある。そして同時に自分の短所などもしっかり見極め、短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ、それを課題として改善していく努力も重ねつつ、自分自身を伸ばしていくことが大切である。また、自己を振り返って改めるところは改め、自己を高めようとする意欲や態度は、継続されなければ将来にわたっての自己実現とはならず、本当の個性にはなっていない。 指導に当たっては、このことをよく理解し、具体的な実践を試みることができるようにすることも重要である。
中学校 A-(3)	まず、短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえつつ、かけがえのない自己を肯定的に捉え(自己受容)させるとともに、自己の優れている面などの発見に努め(自己理解)させることが大切である。自分のよさは自分では分からないことが多いため、生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い、高め合う人間関係をつくっていくように指導することが重要となってくる。 さらに、自己との対話を深めつつ、自分自身のよさを伸ばしていくようにすることが大切である。例えば、優れた古典や先人の生き方との感動的な出会いを広げる中で、充実した人間としての生き方についての自覚を深め、これまで気付かなかった自分自身のよさや個性を見いだしていくこともある。教師は、生徒がそれぞれの人生で培ってきた個性を大切に、生徒のよさの発見に努めなければならない。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「希望と勇気、努力と強い意志」
中学校「希望と勇気、克己と強い意志」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.36,37
(中) p.32,33

発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
小学校中学年	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。
小学校高学年	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
中学校	より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(5)	自分のやるべき勉強や仕事にはどのようなものがあり、しっかりと行うことの意義を自覚させる必要がある。また、家族や教師の励ましや賞賛、適切な助言などの下に、自分がやるべき勉強や仕事を、自分がやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導することが大切である。やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分に気付くことができるように指導することが大切である。
小学校中学年 A-(5)	目標を立て、あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ、今よりよくなりたいという願い、努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。目標を実現するためには、自分自身の努力だけでなく、家族や教師など、周りの人の励ましや賞賛があることに気付き、粘り強く努力しようとする態度を育てることが大切である。
小学校高学年 A-(5)	苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ、希望をもつことの大切さや、希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中により積極的で前向きな自己像が形成されるようにすることが大切である。
中学校 A-(4)	まず、生活の中で具体的な目標を設定させ、その実現に向けて努力する体験をさせ、その体験を振り返って、目標の達成には何が必要かを考えたり、自らの歩みを自己評価させたりすることが大切である。そして、達成できたときの成就感や満足感を繰り返し味わわせるとともに、希望をもつが故に直面する困難や失敗の体験を勇気をもって受け止め振り返る活動を通して、目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感させ、困難や失敗を乗り越える自分なりの方法について考えさせることが重要である。一方で、努力が全て思いどおりの結果に結び付くわけではない。したがって、教師は生徒の努力を評価し、挑戦することから逃げないで努力し続ける姿勢が大切であることを伝えていくことが重要である。 さらに、様々な人の生き方に学びながら、生涯をかけての理想や目標をもち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが、日々の生活を充実することにつながるのと同時に、文化や社会の発展を支える力ともなってきたことに気付かせることが大切である。また、困難や失敗を乗り越える強い意志や逆境から立ち直る力を育むには、積極的な自己像の形成や困難に直面したときの心構えについて繰り返し学習し、積極的な思考や行動を習慣化していく指導も効果的である。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「真理の探究」
中学校「真理の探究、創造」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.38,39
(中) p.34,35

発達段階に応じた指導

小学校高学年	真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。
中学校	真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

指導に当たって	
小学校低学年	
小学校中学年	
小学校高学年 A-(6)	<p>真理を求める態度を大切にし、物事の本質を見極めようとする知的な活動を通して興味や関心を刺激し、探究する意欲を喚起させることが大切である。そのためには、物事を多面的・多角的に見ようとする開かれた心をもって、疑問を探究し続けることの大切さを実感させることである。また、生活の中で思い付いたことをそのままにすることなく、自分の生活を少しでもよりよくしていくために工夫していこうとする心を育てることが、新たな見方や考え方の発見や創造につながる。このように日々の生活の充実とその指導を通して、将来の夢や理想を実現することにつながる。</p>
中学校 A-(5)	<p>まず、生徒自身の学習体験を振り返りながら、分からないことを謙虚に受け止めて探究し続け、真理や真実を求めつつ、好奇心をもって意欲的に学び、工夫して新しいものを創造していこうとする積極的な態度を育てることが重要である。一般的に、科学的な真実や真理は個々の具体的な自然現象や社会現象の背景にあるものであり、何もないところから突然生まれるものではない。したがって、真実や真理の探究には、広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心や、結論を鵜呑みにせずに論理的・批判的に考える姿勢が必要であることに気付かせ、疑問や問いを探究し続けることが新たな見方や考え方の発見や創造につながり、自分の生涯を豊かにすることにつながることを自覚できるようにすることが必要である。</p> <p>さらに、真実や真理を探究して社会の発展や学問、科学技術に貢献した人々の生き方に学ぶとともに、それらの人々の探究心を支えたものについて考え、生徒が自らの生き方に生かすことができるよう工夫することが重要である。また、高等学校段階への発展を踏まえて、葛藤や論争のある問題を道徳的な視点で取り上げ、よりよい解決を目指して協働で探究することを通して、生徒がアイデアを出し合っ、よりよい見方や考え方を主体的・協働的に創っていく学習活動を実践し、創意工夫して新しい見方や考え方を生み出すことを生徒が身近なこととして体験できるようにすることが大切である。</p>

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「親切，思いやり」
中学校「思いやり，感謝」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.40,41
(中) p.36,37

◎ 発達段階に応じた指導

小学校低学年	身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。
小学校中学年	相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
小学校高学年	誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

◎ 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(6)	幼い人や高齢者，友達など身近にいる人に広く目を向けて，温かい心で接し，親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして，身近にいる様々な人々との触れ合いの中で，相手のことを考え，優しく接することができるようにすることが求められる。また，その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし，具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。
小学校中学年 B-(6)	相手の置かれている状況，困っていること，大変な思いをしていること，悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え，親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。
小学校高学年 B-(7)	特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し，対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また，人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え，思いやりの心とそれが伴った親切な行為を，児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには，児童が多様な人々と触れ合い，助け合って何かをするような機会を増やすとともに，それらの体験を生かし，思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。
中学校 B-(6)	まず，単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく，根本において自分も他者も，共にかげがえのない存在であるということをしかり自覚できるようにすることが大切である。そして，思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が，今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ，結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。 さらに，重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは，決して容易なことではない。これらのことを踏まえた上で，互いに支え合う経験を積みながら，温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし，人間として生きることの喜びを見いだすとともに，思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。なお，感謝の心は，他者との関わりに始まり，多くの社会の人々への感謝，さらには自然の恵みへの感謝と次第に広がっていくものである。したがって，Cの視点やDの視点との関連を図りつつ指導する必要がある。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「感謝」
中学校「思いやり、感謝」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.42,43
(中) p.36,37

◎ 発達段階に応じた指導

小学校低学年	家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。
小学校中学年	家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
小学校高学年	日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

◎ 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(7)	感謝の対象や具体的な内容を教師が適切に示す必要がある。世話をしてくれる人々の善意に気づき、感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表す指導が求められる。
小学校中学年 B-(7)	自分の生活を支えてくれる人の思いを考え、その人たちの存在意義に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。
小学校高学年 B-(8)	過去から、人々が何を願い、何を残し伝えてきたのか。それは自分の生活とどう関わり、支えられているのかに気付くことができるようにすることが大切である。支え合い助け合おうとする人々の善意に気づき感謝する心情や態度を育て、自他を尊重する温かな人間関係を築くことができる資質・能力を育てることが求められる。温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、人々の善意に応じて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践できるようにするところまで指導する必要がある。
中学校 B-(6)	まず、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかげがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。そして、思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ、結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。 さらに、重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは、決して容易なことではない。これらのことを踏まえた上で、互いに支え合う経験を積みながら、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることに喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。なお、感謝の心は、他者との関わりに始まり、多くの社会の人々への感謝、さらには自然の恵みへの感謝へと次第に広がっていくものである。したがって、Cの視点やDの視点との関連を図りつつ指導する必要がある。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「礼儀」
中学校「礼儀」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.44,45
(中) p.38,39

◎ 発達段階に応じた指導

小学校低学年	気持ちのよい挨拶，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接すること。
小学校中学年	礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接すること。
小学校高学年	時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接すること。
中学校	礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとること。

◎ 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(8)	日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶などについて，具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせることが重要である。また，外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀についても考えさせることが重要である。
小学校中学年 B-(8)	この段階の児童が気の合う友達同士で仲間集団をつくる傾向が見られるため，誰に対しても真心をもって接する態度を育てるようにすることが特に重要である。人に頼むときや失敗して謝るときなど人との関わりを通して，真心は相手に態度で示すことができることに気付かせることもできる。また，家庭や地域社会での日常の挨拶，学習や給食の際の態度，校外学習など見学先での振る舞いなどについて考えさせることも大切である。
小学校高学年 B-(9)	行動範囲の広がりとともに様々な人との関わりも増えてくることから，挨拶などの礼儀は社会生活を営む上で欠くことのできないものであることを押さえ，礼儀作法の形にこめられた相手を尊重する気持ちを児童自身の体験などを通して考えさせることが効果的である。また，礼儀に対する意識を高めるために，自分の一日の生活の中にある礼儀を見直したり，武道や茶道など我が国に古くから伝わる礼儀作法を重視した文化に触れたりすることも考えられる。
中学校 B-(7)	まず，教えられ無意識に習慣として実践してきた受け身の姿勢から，挨拶の意義などを主体的に考え理解し，例えば，時・場所・場面(TPO)に応じて，自ら挨拶をしてからお辞儀をするなど，適切な言葉や行動ができる自律した態度へ変わっていくことが求められる。日常生活において，時と場に応じた適切な言動を体験的に学習するとともに，形の根底に流れる礼儀の意義を深く理解できるようにすることが大切である。心情面を整えることによって，形として外に表すことができるようになることもある。 さらに，礼儀の形は時代や社会によって変わる相対的な面をもっている一方で，その精神は伝統として受け継がれるものもある。例えば我が国には伝統的な礼儀作法があるように，他国にもそれぞれの国に応じた礼儀作法がある。国際化の進展に伴い他国の人々に接する機会が多くなった今日，他国の礼儀についても理解を深め，他国の人々に気持ちよく接することができるように指導することが大切である。礼儀は，相手を人間として尊重する精神の現れであることを十分に理解させ，時と場に応じて主体的に適切な言動が行われることが求められている。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「友情、信頼」
中学校「友情、信頼」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.46,47
(中) p.40,41

① 発達段階に応じた指導

小学校低学年	友達と仲良くし、助け合うこと。
小学校中学年	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
小学校高学年	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
中学校	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

② 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(9)	特に身近にいる友達と一緒に、仲良く活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また、友達とけんかをして、友達の気持ちを考え、仲直りできるようにする。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲良くする大切さを育てていく必要がある。
小学校中学年 B-(9)	友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。
小学校高学年 B-(10)	健全な友達関係を育てていくことが一層重要になる。この段階が第二次性徴期に入るため、異性に対する関心が強まり、これまでとは異なった感情を抱くようになる。この異性間の在り方も根本的には同性間におけるものと同様、互いの人格の尊重を基盤としている。異性に対しても、信頼を基にして、正しい理解と友情を育て、互いのよさを認め、学び合い、支え合いながらよい関係を築こうとすることに配慮して指導することが大切である。
中学校 B-(8)	まず、友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であること、互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させたい。友達であるからこそ、悩みや葛藤を経験し、共にそれを乗り越えることで、生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築くことができることへの自覚が重要である。友情は、人間にとってその人生を豊かにするかけがえのないものである。友情によって喜びは何倍にもなり、悲しみや苦しみは分かち合うことができる。人間として互いの人格を尊敬し高め合い、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していこうとする意欲や態度を育てていくことが肝要である。 さらに、自分から友情を築くための共通の課題について考えを深めたり、互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築かれることに気付いたりするための工夫が望まれる。そして、自ら友情を大切に、育てようとする態度を育てることや、信頼を基盤として成り立つ友情が人間として生きる上で、いかに尊いものであるかを実感できるよう指導を工夫する必要がある。異性であっても、相手のものの見方や考え方を理解するなど、友情を築き、共に成長しようとする姿勢が求められる。各自の異性に対する姿勢を見直すきっかけとなるよう指導することも必要である。相手の内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係のよさを味わわせたい。また、友情を培うために自分はどうかあればよいか、友情とは何か、などについて発達の段階に応じて意見を交換し合うなど、発展的な指導を心掛けることも重要である。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「相互理解，寛容」
中学校「相互理解，寛容」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.48,49
(中) p.42,43

④ 発達段階に応じた指導

小学校中学年	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
小学校高学年	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
中学校	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

④ 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年	
小学校中学年 B-(10)	相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付くようにすることが大切である。日常の指導においては、児童同士、児童と教師が互いの考えや意見を交流し合う機会を設定し、異なる考えや意見を大切にすることのよさを実感できるように指導することが大切である。
小学校高学年 B-(11)	広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるように指導することが大切である。
中学校 B-(9)	まず、個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意志に背いて他に同調するのではなく、自分の考えや意見を伝えること、そして互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てることが大切である。中学生は、他者の考えや立場を尊重し調和して生活していかなければならないと知っているが、その一方で、寛容に生きていくための処世の術のように理解していないか、問わなくてはならない。寛容は、他人の過ちを大目に見たり、見て見ぬふりをしたりすることではない。他人の過ちを許すことは、他人の不正を許すことではないのである。 さらに、いろいろなものの見方や考え方から学び、自分自身を高め、他者と共に生きるという自制を伴った気持ちで、判断し行動することの大切さを理解できるような指導の工夫が必要になる。このような指導を通して、例えばいじめや不正を見逃さず、排除しようとする主張や不正を指摘する資質や能力を培うことにつなげることができる。この内容項目の学習を通して、人間が相互に個性や立場を尊重することが、自分の人生にとってどのような価値をもつのかを考えるとともに、誰もが様々な立場に立って個性を発揮することのよさと、相手や場面が変わっても、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解できるようにすることが大切である。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「規則の尊重」
中学校「遵法精神、公德心」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.50,51
(中) p.44,45

Q 発達段階に応じた指導

小学校低学年	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。
小学校中学年	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
小学校高学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。
中学校	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

Q 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(10)	身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなで使う物や場所を進んで大切に、工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。
小学校中学年 C-(11)	一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。さらに、社会集団を維持発展する上で、社会生活の中において守るべき道徳としての公德を進んで大切に作る態度にまで広げていく必要がある。特に、集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分考えることが必要である。
小学校高学年 C-(12)	社会生活を送る上で必要であるきまりや、国会が定めるきまりである法(法律)などを進んで守り従うという遵法の精神をもつところまで高めていく必要がある。また、他人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかりと果たそうとする態度を育成することが重要である。また、身近な集団生活を送る上においても、みんなで互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動ができるようにする必要がある。
中学校 C-(10)	まず、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められる。自他の権利を大切に、義務を果たすことで、互いの自由意志が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解した上で、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結び付ける指導が必要である。その際、法やきまりを守ることは、自分勝手に放縦な反発等に対してそれらを許さないという意思をもつことと表裏の関係にある。 さらに、法やきまりの他律的な捉え方を越えて、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができるようになるため、遵法精神には、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心が関わっていることに気付かせる指導が求められる。また、高等学校段階への発展を踏まえて、自分たちを拘束すると感じる法やきまりが自分たちを守るだけでなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせ、よりよいものに変えていこうとするなど積極的に法やきまりに関わろうとする意欲や態度を育てるとともに、権利と義務の関係について、例えば法的に強制力のない義務を果たすことが理性的な人間としての生き方につながることを考えさせるなど、公德心に関わる道徳性を意識した指導の工夫が必要である。これらのことを踏まえて、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら、「私」を大切にすることと「公」を大切にすることの関係について考えを深めさせることが望まれる。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「公正、公平、社会正義」
中学校「公正、公平、社会正義」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.52,53
(中) p.46,47

P 発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分の好き嫌いにとらわれなくて接すること。
小学校中学年	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。
小学校高学年	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
中学校	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

P 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(11)	日常の指導において、公正、公平な態度に根ざした具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えさせるようにすることが大切である。また、偏見や差別が背景にある言動については、毅然として是正することが必要である。これらの指導を通して、児童が誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C-(12)	不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、そのことが人間関係や集団生活に支障を来したいじめなどにつながることを理解させることが求められる。誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにすることが重要である。
小学校高学年 C-(13)	不正な行為は絶対に行わない、許さないという断固たる態度を育てることが大切である。日頃から自分自身の考えをしっかりと持ち、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意志を強くもったり、学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど、周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てるようにする。また、社会的な差別や不正さなどの問題はまだまだ多く生起している状況があるため、これらについて考えを巡らせ、社会正義の実現について考え、自覚を深めていく指導を適切に行うことが大切である。
中学校 C-(11)	まず、自己中心的な考え方から脱却して、公のことに自分のこととの関わりや社会の中における自分の立場に目を向け、社会をよりよくしていこうとする気持ちを大切にすることが必要である。また、「見て見ぬふりをする」や、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、不正を憎み、不正な言動を断固として否定するほどの、たくましい態度が育つように指導することが大切である。 さらに、この世の中から、あらゆる差別や偏見をなくすように努力し、望ましい社会の理想を掲げ、正義が通り、公平で公正な社会の実現に積極的に努めるよう指導する必要がある。 なお、正義の実現を目指す社会の在り方について考えることは、社会科における公民的分野の学習や、特別活動における集団生活の向上についての学習とも関連させ取り組むことが求められる。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「**勤労，公共の精神**」
中学校「**社会参画，公共の精神**」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.54,55
(中) p.48,49

Q 発達段階に応じた指導

小学校低学年	働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。
小学校中学年	働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。
小学校高学年	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。
中学校	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め，公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。

Q 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(12)	学級の清掃や給食などの当番活動，学級生活の充実に向けた係活動，家庭や地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとする意欲や態度に結び付けていくことが求められる。
小学校中学年 C-(13)	特に，身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考え，自分ができる仕事を見付けたり，集団生活の向上につながる活動に参加したりして，みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことが重要になる。
小学校高学年 C-(14)	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また，ボランティア活動など，社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとする態度を育てることが望まれる。
中学校 C-(12)	<p>まず，学級活動や生徒会活動に積極的に参画するなどの体験を生かして，社会参画や社会連帯についての考えを深めさせ，現実の学校生活に生かすことができるよう公共の精神についての考えを深めさせることが大切である。生徒一人一人に自分も社会の一員であるという自覚を深めるようにして，互いに積極的に協力し合おうとする意欲を育てるように工夫することが必要である。</p> <p>さらに，よりよい社会を実現するためには，社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身に付けるとともに，進んで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる必要がある。そして，進んで社会的な責任を果たすために，どのような行動を取るべきかを主体的に考えられるようにすることが重要になる。また，この内容項目を通じて，例えば，生徒が将来，選挙権を付与される年齢に達した際には，自分も社会の一員であるという認識のもと，積極的に権利を行使するという，主体的に社会に参画し，その発展に寄与する態度を養うという視点も重要である。</p> <p>また，例えば，社会科の公民的分野での社会参画や社会連帯の在り方や公共の精神の学習など，他教科等と関連付けたり，高等学校段階への発展につなげたりすることも必要である。</p>

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「勤労，公共の精神」
中学校「勤労」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.54,55
(中) p.50,51

発達段階に応じた指導

小学校低学年	働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。
小学校中学年	働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。
小学校高学年	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。
中学校	勤労の尊さや意義を理解し，将来の生き方について考えを深め，勤労を通じて社会に貢献すること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(12)	学級の清掃や給食などの当番活動，学級生活の充実に向けた係活動，家庭や地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとする意欲や態度に結び付けていくことが求められる。
小学校中学年 C-(13)	特に，身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考え，自分ができる仕事を見付けたり，集団生活の向上につながる活動に参加したりして，みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことが重要になる。
小学校高学年 C-(14)	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また，ボランティア活動など，社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとする態度を育てることが望まれる。
中学校 C-(13)	まず，勤労の尊さを重んじる生き方を基に，社会における自らの役割や将来の生き方等についてしっかり考えさせることが大切である。保護者や地域の方に外部講師として，働くことの意味や大切さについて語ってもらう機会を設けることも効果的である。 さらに，体験的な学習を生かして，働くことの重要性について理解を深めさせることが重要である。そのためには，キャリア教育と関連させて，職場体験活動やボランティア活動，福祉体験活動などの体験活動を生かすなど指導の工夫が求められる。勤労の尊さや意義についての考えを深めるとともに，働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることが大切である。勤労を通して，社会貢献に伴う喜びが自らの充実感として生徒一人一人に体得され，心から満足でき，生きがいのある人生を実現しようとする意欲にまで高めたい。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「家族愛、家庭生活の充実」
中学校「家族愛、家庭生活の充実」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.56,57
(中) p.52,53

発達段階に応じた指導

小学校低学年	父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。
小学校中学年	父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
小学校高学年	父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
中学校	父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(13)	家庭生活においては自分にできることを進んで手伝うなどして、積極的に家族と関わり、家族の一員として役に立つ喜びが実感できるようにしていくことが大切である。
小学校中学年 C-(14)	家庭生活において自分の行動が具体的に家族の役に立っていることを実感したり、家族に喜ばれ感謝されるという経験を積み重ねたりすることができるようにすることが必要である。自分が家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって、協力し合って楽しい家庭をつくろうとする積極的な姿勢をもつことができるようになる。家庭との連携を図りながら、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする態度を育てるよう指導することが大切である。
小学校高学年 C-(15)	自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して、尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えてみる機会を設定することが求められる。そして、充実した家庭生活を築いていくためには、家族の一員としての自分の役割を自覚し、家族のために、積極的に役立つことができるよう指導することが必要である。そのためにも、家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることについて考えを深められるよう指導することが大切である。
中学校 C-(14)	まず、父母や祖父母を敬愛する気持ちをより一層深めることが大切である。そして、自我意識が強まりつつある中で、家族関係を子供の視点だけでなく、家族のそれぞれの立場になって考えられるよう、多面的・多角的に捉えることができるよう指導することが大切である。 さらに、自分と家族との関わり、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解し、家族の在り方について考えることも大切なことである。その際、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、家庭生活を営む上で、自分は何のような役割を果たせばよいのかを考え、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが、自分の課題であることに気付くことができるようにすることが大切である。 また、例えば、技術・家庭科の家庭分野で家族・家庭と子供の成長を学習した後後に改めて家庭生活や家族の有様について考えるなど、他教科等と関連した指導も積極的に行っていく必要がある。 なお、指導に当たっては、多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ、一人一人の生徒の実態を把握し十分な配慮を欠かさないようにすることが重要である。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領

(平成29年告示)解説

内容項目 小学校「よりよい学校生活, 集団生活の充実」(小) p.58,59

中学校「よりよい学校生活, 集団生活の充実」(中) p.54,55

発達段階に応じた指導

小学校低学年 小学校中学年	先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
小学校高学年	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
中学校	教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(14)	児童が教師や友達と一緒に遊んだり学んだりして共に生活する機会を設定して、そのことを通して楽しさを味わい、学校のことをより深く知り、集団の中での行動の仕方を学び、自分の居場所をつくっていきけるような指導をすることが求められる。
小学校中学年 C-(15)	教師をはじめ学級や学校で自分を支え励ましてくれる様々な人々との関わりにおいて感謝と敬愛の念を深め、進んで学級や学校のために働くなど具体的な活動を通して、楽しく充実した学校生活が構築できるように指導していくことが求められる。
小学校高学年 C-(16)	様々な集団での活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付かせると同時に、集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとする態度を育てるよう指導することが大切である。
中学校 C-(15)	<p>まず、生徒は学校や教師などへの関心が十分とは言えない状況の中、学校のよさや校風等を取り上げ、学級や学校の一員であることの自覚を促すことが必要である。生徒の立場に立って考え、共感的で確かな生徒理解に努めることにより人間関係を深めていくことも重要なことである。</p> <p>さらに、自らの所属する集団の目的や意義を理解するとともに、個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなど、集団の在り方について多面的・多角的に考えられるようにすることが大切である。自分が所属する集団にのみ関心を寄せ、自分たちの利益のみを追求し、自分との関わりが薄いと思われる集団や成員に対して無関心になってはいないか省みることも必要である。利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合って、集団生活の向上に努める態度を育てることが重要である。生徒一人一人が集団の中で個性を失うことがないように留意して、それぞれが伸び伸びと自らのよさを発揮できるような集団の在り方を考えられるようにする必要がある。</p> <p>また、例えば、特別活動における学校行事の儀式的行事で学校への所属感を深めた後や、文化・体育的行事において学校や学級での自らの役割や責任を果たした後などに、よりよい校風作りや集団生活の充実について考えるなど、他教科等と関連した指導も積極的に行っていく必要がある。</p>

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説

内容項目 小学校「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」(小) p.60,61
中学校「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」(中) p.56,57

発達段階に応じた指導

小学校低学年	我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。
小学校中学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。
小学校高学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。
中学校	郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(15)	児童が住む町の身近な自然や文化などに直接触れる機会を増やしたり、そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで国や郷土への愛着を深め、親しみをもって生活できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C-(16)	地域の人々や生活、伝統、文化に親しみ、それを大切にすることを通して、郷土を愛することについて考えさせ、地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが必要である。さらに、自然や文化、スポーツなどへの関心も高まり、郷土から視野を広げて、我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。そこで、様々な活動を通して我が国の伝統と文化に関心をもち、これらに親しむ気持ちを育てるように指導することが必要である。
小学校高学年 C-(17)	機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり、直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して、伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、努めていこうとする心構えを育てる必要がある。
中学校 C-(16)	まず、地域の人々との人間関係を問い直したり、地域社会の実態を把握させたりして、郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めるよう指導していく必要がある。問題意識をもち、進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲と態度を育てることが求められる。 しかしながら、多くの地域で、生徒たちは地域に住む人々との触れ合いや、共に協力して何かを成し遂げるといった機会が少なくなっている状況は否めない。そこでさらに、地域の方に郷土の伝統文化を尊重し郷土を愛する思いを語ってもらうことや、郷土について調べたことや地域の行事への参加体験等に基づいた話合いを通して、郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めるよう指導していく必要がある。また、地域社会に尽くし、自己の人生を大切に生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちを育むよう指導の工夫に努めることも大切である。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説

内容項目 小学校「伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度」(小) p.60,61

中学校「我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度」(中) p.58,59

発達段階に応じた指導

小学校低学年	我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着をもつこと。
小学校中学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし, 国や郷土を愛する心をもつこと。
小学校高学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし, 先人の努力を知り, 国や郷土を愛する心をもつこと。
中学校	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに, 日本人としての自覚をもって国を愛し, 国家及び社会の形成者として, その発展に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(15)	児童が住む町の身近な自然や文化などに直接触れる機会を増やしたり, そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで国や郷土への愛着を深め, 親しみをもって生活できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C-(16)	地域の人々や生活, 伝統, 文化に親しみ, それを大切にすることを通して, 郷土を愛することについて考えさせ, 地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが必要である。さらに, 自然や文化, スポーツなどへの関心も高まり, 郷土から視野を広げて, 我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。そこで, 様々な活動を通して我が国の伝統と文化に関心をもち, これらに親しむ気持ちを育てるように指導することが必要である。
小学校高学年 C-(17)	機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり, 直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して, 伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し, 努めていこうとする心構えを育てる必要がある。
中学校 C-(17)	<p>まず, 我が国の発展に尽くし優れた伝統と文化を育んできた先人たちの努力とその精神をたどり, そのよさを理解して継承するとともに, 新たな文化を創造してその発展に寄与していく責務があることを自覚し, 国家及び社会の形成者として, そのことに努めていこうとする意欲と態度を育てる必要がある。そのためには, 人間が既にそうした伝統や文化の中に身を置いて生きており, また身をもってそれらを理解する働きを通して先人たちと対話し, 新たな伝統や文化を形成してきたことを踏まえる必要がある。</p> <p>さらに, 次の内容項目の「国際理解, 国際貢献」との関わりをも踏まえて, 国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚に関する内容や, 国際社会との関わりについて考えを深めることも求められる。グローバル化や情報通信技術などが進展すればするほど, 日本人としての自覚をもつことが大切になってくる。</p> <p>なお, その際, 国を愛することは, 偏狭で排他的な自国賛美ではなく, 国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚と責任をもって, 国際貢献に努めようとする態度につながっている点に留意する必要がある。そのためにも, 国を愛することと, 次の内容項目の「国際理解, 国際貢献」とは切り離せない関係にあることに配慮した指導が大切である。</p>

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「国際理解、国際親善」
中学校「国際理解、国際貢献」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.62,63
(中) p.60,61

P 発達段階に応じた指導

小学校低学年	他国の人々や文化に親しむこと。
小学校中学年	他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。
小学校高学年	他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。
中学校	世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。

P 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校 低学年 C-(16)	まず、身近な出来事や書籍、衣食住の中にある他国の文化に気付いたり、スポーツや身近な行事などを通じた他国との交流に触れたりしながら、他国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできるようにすることが大切である。そして、他国の人々と交流したり、文化を味わったりしたことを互いに出し合ったり深めたりしながら、更に他国を知り、親しもうとする気持ちが高まるように工夫することが大切である。
小学校 中学年 C-(17)	児童の様々な生活や学習において、更に関心をもって他国の人々や他国の文化に気付き、郷土や自国の文化と他国の文化との共通点や相違点などにも目を向けられるようにすることが大切である。その上で、それぞれのよさを感じ取らせることが求められる。また、他国の人々もそれぞれの文化に愛着をもって生活していることを理解させるなどして、更に他国の文化に関心や理解を深めさせ、親しませることが大切である。また、自国の文化と他国の文化のつながりや関係にも目を向けさせることが大切である。
小学校 高学年 C-(18)	この段階においては、特に社会的認識能力が発達し、日常生活において新聞などのマスメディアに接することや社会科、外国語活動等で学習することによって、例えば、我が国と同様、他国にも国旗や国歌があり、相互に尊重すべきことなどを知る中で、他国への関心や理解が一層高まる。また、様々な学習において、他国の芸術や文化、他国の人々と接する機会も出てくる。 指導に当たっては、そのことを踏まえ、様々な文化やそれに関わる事柄を互いに関連付けながら国際理解を深め、国際親善に努めようとする態度を育てることが重要である。その際、他国の人々が、我が国と同じようにそれぞれの国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることについて一層理解が進むようにすることが大切である。また、日本人としての自覚や誇り、我が国の伝統と文化を理解し、尊重する態度を深めつつ、自分にできることを考えるなどして、進んで他国の人々とつながり、交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする国際親善の態度を養うことが求められる。
中学校 C-(18)	まず、他国には日本と同じように、その国の伝統に裏打ちされたよさがあることや、例えば、我が国と同様、他国にも国旗や国歌があり、相互に尊重すべきことなどを学習する中で、その国独自の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることなどを理解させることが大切である。その際、伝統や文化は、人間としての共通の願いから形成されてきているという理解に立って、他国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念が重視されなければならない。その上で、様々な文化のもつ多様性の尊重や価値観の異なる他者との共生などについても考えを深める必要がある。今後ますますグローバルな相互依存関係の中で生きていく中学生にとって、広く世界の諸情勢に目を向け、国際社会で生きる能力を身に付けることはこれまで以上に必要となる。そうした社会の変化に能動的に対応できるとともに、国際社会において自らの役割と責任を果たすことができる日本人となることが求められる。 さらに、世界の平和と人類の発展に貢献するという理想を抱き、その理想の実現に努めることが大切である。その理想の実現のための基本になるのは、国によってももの感じ方や考え方、生活習慣などが違って、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接するということであり、このことは、日本人だけに求められるものではない道徳的価値である。 なお、宗教が社会で果たしている役割や宗教に関する寛容の態度などに関しては、教育基本法第15条の規定を踏まえた配慮を行うとともに、宗教について理解を深めることが、自ら人間としての生き方について考えを深めることになるという意義を十分考慮して指導に当たることが必要である。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

内容項目 小学校「生命の尊さ」
中学校「生命の尊さ」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.64,65
(中) p.62,63

P 発達段階に応じた指導

小学校低学年	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
小学校中学年	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
小学校高学年	生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
中学校	生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

P 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(17)	この段階においては、生命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心になる。例えば、「体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている」「夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる」「おいしく朝食が食べられる」「学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる」などが考えられる。 指導に当たっては、これらの当たり前の中で見過ごしがちな「生きている証」を実感させたい。また、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや、自分の生命に対して愛情をもって育ててきた家族の思いに気付くなど、自分の生命そのもののかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。そのことを喜び、すばらしいことと感じることによって、生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。
小学校中学年 C-(18)	生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育てられている尊いものであることについて考えたり、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。あわせて、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情や態度を育てることが求められる。
小学校高学年 C-(19)	家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。
中学校 C-(19)	まず、人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。例えば、それぞれの生命体が唯一無二の存在であること、しかもそれらは全て生きているということにおいて共通であるということ、自分が今ここにいることの不思議(偶然性)、生命にいつか終わりがあること、その消滅は不可逆的で取り返しがつかないこと(有限性)、生命はずっとつながっているとともに関わり合っていること(連続性)、生命体の組織や生命維持の仕組みの不思議などを手掛かりに改めて考えさせることができる。そうした学習を通して、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切である。 さらに、理科や保健体育、技術・家庭などの他教科等での学習も踏まえつつ、生命倫理に関わる現代的な課題を取り上げ、話し合い、多様な考えを交流することにより、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、生命尊重への学びをより深めることもできる。 この内容項目は、道徳科の内容全体に関わる項目であり、他の内容項目の指導においても、生命尊重に関連する事項を扱う場合には、この内容項目との関連を意識した指導に留意したい。また、教育活動全体の取組を通じて、自己肯定感や自己有用感の高まりから、生徒一人一人の自尊感情を高めることにもつながるような指導の工夫も大切である。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

内容項目 小学校「自然愛護」
中学校「自然愛護」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.66,67
(中) p.64,65

Q 発達段階に応じた指導

小学校低学年	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。
小学校中学年	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。
小学校高学年	自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
中学校	自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。

Q 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(18)	<p>この段階においては、特に身近な自然の中で楽しく遊んだり、自然と親しんだりする活動を行うことが多い。また、生活科の学習などを通して動物の世話や飼育をしたり、植物の栽培や観察などを根気よく丁寧に行ったりしながら、自然や動植物などと直接触れ合う多くの体験をしている。</p> <p>指導に当たっては、児童のこうした活動や体験を通して、自然に親しみ動植物に優しく接しようとする心情を育てることが求められる。自然や動植物のもつ不思議さ、生命の力、そして、共に生きていることのおしさなどを自然や動植物と触れ合うことを通して実際に感じることによって、自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが強く育まれる。</p>
小学校中学年 C-(19)	<p>自然に親しみながら自然のもつ美しさやすばらしさを感じ得るようにする必要がある。それらを踏まえて、身近なところから少しずつ自分たちなりにできることを、動植物と自然環境との関わりを考え実行しようとする意欲を高めることも大切である。</p>
小学校高学年 C-(20)	<p>自然環境と人間との関わりから、人間の生活を豊かにすることを優先し、十分な思慮や節度を欠いて自然と接してきたことに気付かせたい。その上で、人間も自然の中で生かされていることを自分の体験を基に考えられるようにすることが必要である。人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境を大切に、持続可能な社会の実現に努めようとする態度を育むことが望まれる。</p>
中学校 C-(20)	<p>まず、例えば、すばらしい自然風景・絶景との出会いを振り返り、そこでの感動や不思議に思ったことなどの体験を生かして、人間と自然との関わりを多面的・多角的に捉え、自然を愛し、守ることといった環境の保全を通して、有限な人間の力を越えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。</p> <p>さらに、高等学校段階への発展を踏まえて、自然を美の対象としてだけでなく、畏敬の対象として捉えさせることが大切である。その際、阪神・淡路大震災、東日本大震災などの災害の事実の理解から自然に対する人間の有限性を考えさせるなど、事実や事象の知的な理解を基にしながら、自然の中で生かされていることを謙虚に受け止める感性を高めることに留意する必要がある。そのことが、自然を外から制御する者となって保護するという自然への対し方ではなく、一人一人が自然との心のつながりを見いだし同行する者として生きようとする自然への対し方につながり、持続可能な開発目標(SDGs)のための教育でも求められる、現在及び未来の自然環境の課題に取り組むために必要な心を育てることになる。</p>

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

内容項目 小学校「感動、畏敬の念」
中学校「感動、畏敬の念」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.68,69
(中) p.66,67

P 発達段階に応じた指導

小学校低学年	美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。
小学校中学年	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
小学校高学年	美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
中学校	美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。

P 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(19)	児童が美しいものに触れて心が揺さぶられたときには、その思いを教師が大切にするとともに、児童の感動を他の児童にも共有できるように働きかけることで、児童自身も持っている初々しい感性を豊かに育てていくことが考えられる。
小学校中学年 C-(20)	感性や知性が著しく発達する段階であることに配慮して、児童が自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心をもっている自分に気付き、その心を大切にし、更に深めていこうとする気持ちを高めるようにすることが重要である。
小学校高学年 C-(21)	文学作品、絵画や造形作品などの美術、壮大な音楽など美しいものとの関わりを通して、感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすることで、人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるようにすることが大切である。
中学校 C-(21)	まず、例えば、体験活動等における、自然の織りなす美しい風景や優れた芸術作品等の美しいものとの出会いを振り返り、そこでの感動や畏敬の念、不思議に思ったことなどの体験を生かして、人間と自然、あるいは美しいものとの関わりを多面的・多角的に捉えさせることが大切である。畏敬は、非日常的な体験を通して初めて自覚されることが多い。例えば、小さな子供が遊びの中で昆虫の命を奪ってしまったときに感じる恐ろしさや、その子供が同時に抱く命への尊敬の気持ちなど、これまでの経験を想起させ、生命の尊さの内容と関連させながら畏敬の念について話し合わせることで、抽象的な言葉による理解ではなく、人間理解に基づいて畏敬の念について深く考えることができる。 さらに、心の奥深さや清らかさを描いた文学作品等の気高いものとの出会いを振り返り、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。こうした指導を通して豊かな心を育てることが、人間としての成長をより確かなものにつなげるのである。

D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

内容項目 小学校「よりよく生きる喜び」
中学校「よりよく生きる喜び」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.70,71
(中) p.68,69

🔍 発達段階に応じた指導

小学校高学年	よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し，人間として生きる喜びを感じることを。
中学校	人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し，人間として生きることの喜びを見いだすこと。

🔍 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年	
小学校中学年	
小学校高学年 C-(22)	まず自分だけが弱いのではないということや，人間がもつ強さ，気高さについて自分自身を振り返ることで理解できるようにすることが大切である。人間の弱さだけを強調したり，弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく，目指す生き方，誇りある生き方に近付けるということが大切である。このように，人間の強さや気高さを理解させることで，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方につなげるようにすることが求められる。
中学校 C-(22)	まず，自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり，弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく，自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。 さらに，人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから，内なる自分に恥じない，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が，自分の弱さを強さに，醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき，よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

【ポイント集】 目 次

01	教師の明確な意図を持つ	
○	内容項目を理解するポイント	37
○	児童生徒の実態把握	38
○	教材の活用	39
○	教師の明確な意図	41
<hr/>		
02	本時のねらいを設定する	
○	ねらいの設定	42
<hr/>		
03	学習指導過程を構想する	
○	導入の工夫	43
○	展開の工夫	44
○	終末の工夫	45
<hr/>		
04	指導方法を工夫する	
○	自分との関わりで考えさせる学習	46
○	問題解決的な学習	47
○	多面的・多角的に考えさせる学習	48
○	発問づくり	50
○	道徳的行為に関する体験的な学習	52
○	板書の工夫	53
○	他の教育活動との関連	54
<hr/>		
05	子どもの学びを評価する	
○	道徳科の評価	55
○	指導要録と通知表における道徳科の評価の違い	56

✓ 道徳科の授業づくり

授業づくりで最も大切なのは「教師の明確な意図」。
教師の明確な意図を基に、本時のねらいの設定や
学習指導過程の構想、指導方法の工夫等を考えよう。

STEP
01

教師の明確な意図を持つ

内容項目を理解するポイント 児童生徒の実態把握
教材の活用 教師の明確な意図

STEP
02

本時のねらいを設定する

ねらいの設定

STEP
03

学習指導過程を構想する

導入の工夫 展開の工夫 終末の工夫

STEP
04

指導方法を工夫する

自分との関わりで考えさせる学習 問題解決的な学習
多面的・多角的に考えさせる学習 発問づくり
道徳的行為に関する体験的な学習 板書の工夫
他の教育活動との関連

STEP
05

児童生徒の学びを評価する

道徳科の評価
指導要録と通知表における道徳科の評価の違い

内容項目を理解するポイント

✓ 児童生徒の発達段階に応じた指導



内容項目を理解するときのポイントを教えてください。

内容項目を理解するときのポイントは、**児童生徒の発達段階に応じた指導**と**計画的な指導**の2点です。

例1のように、同じ「個性の伸長」という内容項目でも、児童生徒の発達段階に応じて、**指導する内容は異なります**。小学校、中学校の指導内容を確認することが大切です。



例1 「個性の伸長」(小・中学校学習指導要領解説)

第1学年及び第2学年	自分の特徴に気付くこと
第3学年及び第4学年	自分の特徴に付き、 <u>長所を伸ばすこと</u>
第5学年及び第6学年	自分の特徴を <u>知って</u> 、 <u>短所を改め長所を伸ばすこと</u>
中学校	<u>自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること</u>

✓ 計画的な指導

例2の①～⑤のように、1つの内容項目に**複数の道徳的価値が含まれている**場合があります。複数の道徳的価値を1つの教材で扱うことが難しい場合は、1単位時間に指導するのではなく、小学校は低、中、高学年のそれぞれ2年間、中学校は3年間の中で計画的に指導することが大切です。



今日の授業では、「節度、節制」の「身の回りを整え」に関する部分を考えさせていく等、授業で取り扱う道徳的価値を絞って、計画的に指導していくことが大切なのです。



例2 「節度、節制」(小学校学習指導要領解説 第1学年及び第2学年)

健康や安全に気を付け①、物や金銭を大切に②、身の回りを整え③、わがままをしないで④、規則正しい生活をする⑤

参考文献

[1]	文部科学省：小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	p32 - 34	あかつき
[2]	道徳教育編集部：道徳教育 2018年 6月号	p68 - 70	明治図書

児童生徒の実態把握



道徳科における児童生徒の実態把握について教えてください。

道徳科における児童生徒の実態把握とは、**道徳的価値に根差した問題**を把握することです。専門家会議では、道徳的価値に根差した問題として、以下の4つの問題が例示されています。



専門家会議で例示された4つの問題と実態把握例

- 1 道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題**
物を大切にしない、ルールを守らない、わがままな児童生徒が多い。
- 2 道徳的諸価値について理解が不十分または誤解していることから生じる問題**
相手の気持ちを考えることなく、何かをしてあげることが親切と捉えている児童生徒が多い。自由とは自分の思うままに行動してよいことと捉えている児童生徒が多い。
- 3 道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とできない自分との葛藤から生じる問題**
あいさつは大切だと分かっているが、なかなかできない児童生徒が多い。いじめはダメだと分かっているが、公正、公平に消極的な態度の児童生徒が多い。
- 4 複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題**
友達に間違っていることを正直に伝えた方がよいか、相手のことを考えて黙っていた方がよいか悩み、どのように行動したらよいか判断できない児童生徒が多い。

児童生徒の道徳的価値に根差した問題は、発達段階や生活体験、道徳科以外の教育活動と関わっているため、授業の実施時期によって異なります。学級担任を中心に、日頃の児童生徒との関わりの中で、道徳的価値に根差した問題について、**どのようなことが身に付きつつあり、どのようなことが課題として残されているのか**を把握することが大切です。



参考文献

- | | | |
|---|----------|------|
| [1] 道徳教育編集部：道徳教育 2018年 9月号 | p68 - 70 | 明治図書 |
| [2] 平成28年7月22日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議：「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告） | p6 | |

教材の活用



教材の活用の仕方、大切なポイントは何ですか？

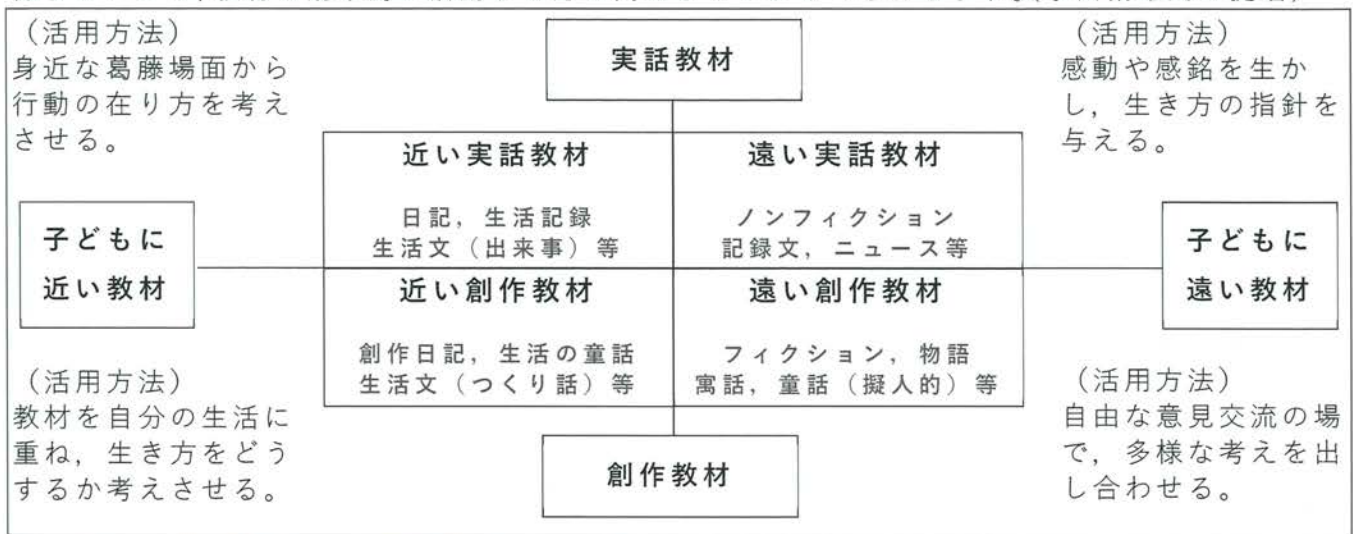
大切なポイントは2つあります。

- ①教材の特質を教師が捉えること、
 - ②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを決めること
- です。ものの感じ方、考え方は生活経験等によって一人一人違います。集団での話し合いを可能にするために、教材を共通の素材として使用します。教材に含まれる複数の道徳的価値について児童生徒に考えさせ、自分との関わりで道徳的価値を深めさせます。



①教材の特質を教師が捉えること

「教材群四タイプ」を参考にしてみましょう。教材が実話なのか創作なのか、また話の内容が児童生徒の生活経験に身近かどうかで分類する教材の特質の捉え方です。また、教材のタイプを意識することで、教材を効果的に活用する力を高めることにもつながります。(永田繁雄氏が提唱)



②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを決めること

「資料活用類型」を参考にしてみましょう。授業者である教師の意図や指導観による活用方法の分類です。同一資料同一学年でも指導者によって活用方法は異なるため、活用の意図や発問例が参考になります。(青木孝頼氏が提唱)

活用類型	活用の意図	発問の例
範例的活用	登場人物の行為を、望ましい行為の一つの範例として受け取らせる。望ましくない行為の例として扱う場合もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○の優れているところは、どのようなところですか。 ・～する(しない)○○の行動から、どのようなことを学びましたか。
共感的活用	登場人物の考え方、感じ方に共感させることによって、現在の自分の価値観に気付かせ自覚を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○に「～」と言われた時の、△△はどのような気持ちでしょうか。 ・この場面で、○○は迷っているようですが、どのようなことを考えているのでしょうか。
感動的活用	児童生徒が教材から受ける感動を特に重視しながら、ねらいとする道徳的価値の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・最も心を動かされたのはどこですか。また、その理由は何ですか？ ・○○は人間ではなく鳥であるのに、なぜみんなの心をこのように感動させるのでしょうか。
批判的活用	登場人物の行為や考え方を批判させ、話し合わせることを通して、道徳的な問題に対する考え方、感じ方を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○の考え方や行動について、どのようなことを感じましたか。また、それはなぜですか。 ・～しなかった周りの人たちについて、どのように思いますか。

教材の活用例 「二通の手紙」(東京書籍 新しい道徳3) C-(10) 遵法精神, 公德心

(あらすじ) 動物園の飼育員である「元さん」は、動物園にやってきた姉弟を、入園終了時間後、保護者の同伴なしに規則を破って入園させてしまう。その後、閉園してもなかなか戻って来ない二人は、園内の雑木林で遊んでいるところを発見される。元さんは子供達の母親から感謝の手紙をもらうが、上司からも懲戒処分の手紙をもらい、自主退職する。

①教材の特質を教師が捉える





教材の特質	活用方法
創作であると共に、飼育員の話は子供から遠い話と言える (教材群四タイプ右下)	自由な意見交流を行う中で、「元さん」の行動について多面的・多角的に捉えさせ、規則を守ることの大切さや意義について深めさせる。



②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを決める

活用類型	活用の意図	具体的な活用方法と発問
共感的活用	姉弟を入園させた元さんに共感させ、自分との関わりで道徳的心情を捉えさせる。	元さんの心情を捉えさせると共に、自主退職した元さんの思いや行動について、考えを出し合い、きまりを守ることの大切さとともに考えさせる。発問「姉弟を入園させた時の元さんはどのような気持ちだったのでしょうか？」
批判的活用	元さんの行動を批判的に捉えさせ、元さんはどうすべきだったのか、考えさせる。	問題解決的な学習を取り入れ、ペアやグループでの話し合いを学級全体で共有する。なぜきまりはあるのかということについても考えを深めさせる。発問「姉弟を入園させた元さんの判断についてどのように考えますか」

教材を提示する工夫

 <p>教材の映像資料や音声資料を活用すると、イメージを持たせるとともに、興味・関心を高めることができます。</p>	 <p>資料の分割提示や部分削除、新たな場面の追加により意図的に議論を展開することができます。また、事前読みさせておくと考える時間を確保できます。</p>
 <p>教材を劇や紙芝居形式にして提示したり、場面絵のみを見せて範読したりすると興味・関心を引くことができます。</p>	 <p>教材の補助説明で教材の理解を促す。また、ねらいとする道徳的価値に関する補助資料を用意し、価値を深める参考資料にする。</p>

参考文献

[1] 道徳教育編集部：道徳教育 2016年 9月号	p71 - 73	明治図書
[2] 道徳教育編集部：道徳教育 2020年 1月号	p53 - 61	明治図書
[3] 青木孝頼：道徳資料の活用類型 (1979)	p6 - 16	明治図書

教師の明確な意図



道徳科の授業づくりで大切なことは何ですか？

道徳科の授業づくりでは、
教師の明確な意図を持つことが大切です。



教師の明確な意図とは
児童生徒に考えさせたい内容を
明らかにした**指導の方向性**のこと

内容項目の理解，児童生徒の実態把握，教材の活用の3点から
教師の明確な意図を持ちましょう。

教師の明確な意図の例

中学校 卒業文集最後の二行（文部科学省 わたしたちの道徳中学校）「C-(11) 公正，公平，社会正義」

① 内容項目「公正,公平,社会正義」の理解

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

→差別や偏見のない社会を実現する大切さに気付かせたい。

② 児童生徒の実態把握

いじめをしてはいけないと分かっているが、ダメなことをダメと言えない等、公正、公平な社会の実現に消極的な生徒が多い。

→**道徳的実践意欲と態度を育てたい。**

③ 教材の活用

小学6年生の女の子が、服が汚いという理由で同級生からいじめの標的にされる。女の子は卒業文集最後の二行に、いじめに対する思いを込めた。

→卒業文集最後の二行「…私が一番欲しいのは母でもなく、本当のお友達です。そして、きれいなお洋服です」に込められた、いじめに対する思いについて考えさせたい。

教師の明確な意図

いじめられていた女の子の心の痛みに共感させることで、いじめを許さない心について考えさせる。

「卒業文集最後の二行にはどのような思いが込められているか」を中心となる発問に設定する。いじめの被害者、加害者それぞれの立場でいじめについて多面的・多角的に考えさせる。

参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年 9月号	p68 - 70	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年 10月号	p68 - 70	明治図書

ねらいの設定



授業のねらいは、どのように設定すればよいの？

指導する内容項目と児童生徒の実態から、道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業をするのかを検討し、授業のねらいを設定します！



道徳性の諸様相に関する基礎知識

道徳性の諸様相とは、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度のこと。様相は、一つ一つが独立しているものではなく、関わり合っている。よって、授業のねらいを設定する際も、必ず一つに絞るということではない。
例) 授業のねらい 「～道徳的心情を育てる」「～道徳的実践意欲と態度を育てる」

授業のねらいを設定する例 小学校高学年「B-(7) 親切, 思いやり」

1. 指導する内容項目の中から授業のねらいとする道徳的価値を明らかにする。
内容項目「親切, 思いやり」の中で、授業では、相手の立場に立って親切にするという道徳的価値について指導する。

小学校第5学年及び第6学年「B-(7) 親切, 思いやり」

誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

2. 児童生徒の実態把握から授業のねらいを設定する。

児童の実態把握	授業のねらい
相手の気持ちを考えることなく、何かをしてあげることが親切と捉えている児童が多い。	相手の立場を考えて親切にしようとする 道徳的判断力 を育てる。
親切にすることが大切と分かっているがなかなか親切にできない児童が多い。	相手の立場に立ち、進んで親切にしようとする 道徳的態度 を育てる。

ど う と く プ ラ ス 道徳性の様相を内容項目に当てはめると・・・

道徳性の様相を中学校の内容項目「礼儀」に当てはめると、例えば、以下の表のような道徳性の様相の具体的なイメージを持つことができ、授業のねらいを設定する際に役に立つ。

道徳性の様相	内容項目に合わせた道徳性の様相の具体的なイメージ
道徳的判断力	時と場に応じた適切な言動を判断する。
道徳的心情	自分から進んで礼儀にかなった行動をとると、相手と程よい距離を保つことができることのよさに気付く。
道徳的実践意欲	照れる気持ちやその場の状況に左右されず、尊敬や感謝等の気持ちを示そうとする。
道徳的態度	礼儀の意義や時と場に応じた適切な言動について主体的に考えて行動しようとする。

参考文献

[1] 道徳教育編集部：道徳教育 2019年 11月号 p68 - 70 明治図書

導入の工夫



導入で大切なことは何ですか？

主題に対する児童生徒の興味・関心を高めることです。「考えたい」と思わせ、**自分との関わりで考えさせる**ことが大切です。

学習指導要領解説には、以下の2つが例としてあげられています。



導入には、本時の**主題に関わる問題意識を持たせる導入**、**教材の内容に興味や関心を持たせる導入**などが考えられます。下のイメージを参考にしてください。

導入のイメージ（主題に関わる問題意識を持たせる導入）

授業の流れ「中学校 C-(14) 勤労」	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○主題に関わる問題意識を持つ。 教師：働く上で大切なことは？ 生徒A：一生懸命働くことが大切です。 生徒B：自分に合っているか、または好きかどうかです。 教師：本当にそれだけですか？教材の主人公の行動を通して、働くことについて考えていきましょう。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 ○物事を多面的・多角的に考える。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見つめる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の持っていた価値観が、授業を通してどのように深まり、何が自分にとって大切なのか考え、児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。

「本当にそれだけですか？」と問うことにより、知っているつもりになっている価値観を崩し、児童生徒に、「他にどのような考えがあるのかな？」「自分の考えとの違いは？」「なぜなのだろう？」のような問題意識を持たせることができる。

指導の工夫例

主題に関わる問題意識を持たせる	教材の内容に興味や関心を持たせる
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活のアンケート結果を提示する。 ・学校行事等の体験学習を振り返らせる。 ・新聞やニュース等から時事問題を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で補足説明を加える。 ・教材の写真や場面絵、実物等を提示する。（ICT機器を活用するとよい。）

導入五箇条

- 一 短時間で
・三〇五分を目標にし、長くなりすぎない。
- 一 全員参加を意識して
・考える視点をそろえ、焦点化する。
- 一 学びの喚起を
・「考えたい」という意欲を高める工夫を行う。
- 一 つながり意識して
・展開、終末を意識した発問や仕掛けを考える。
- 一 学級経営を大切に
・導入の雰囲気づくりは普段の信頼関係から。

展開の工夫



展開で大切なことは何ですか？

教材を活用し、教材に含まれる道徳的価値について自分との関わりで「考え」させ、様々な方法で「議論する」ことを通して、物事を多面的・多角的に捉えさせることが大切です。

考え、議論した内容を基に、自己を見つめ、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めさせます。



展開では、児童生徒が導入で持った問題意識をどのように深めさせていくかが大切です。下に示した**展開のイメージ**を参考に、学習過程や指導方法を検討してください。

展開のイメージ

授業の流れ「中学校 C-(14) 勤労」	
導入	○主題に関わる問題意識を持つ。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 →自分の中の「働くことの大切さ」について、登場人物に自分に関わらせながら考えさせる。 ○物事を多面的・多角的に考える。 →最後まで仕事をやり遂げた登場人物の行動には、どのような思いがあるのか、様々な立場や視点、角度から考えさせる。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見つめる。 →登場人物の思いや他の生徒の意見を聞き、自分ならどうするのだろうと再度考える。
終末	○自分の持っていた価値観が、授業を通してどのように深まり、何が自分にとって大切なのか考え、児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。

このような展開にするために

○教材のどこを中心場面として取り上げたらよいのだろうか？
→教材の活用へ

○多面的・多角的に考えさせる発問はどうすればよいのだろうか？
→発問づくりへ

○板書をどのように生かしたら、児童生徒の思考が深まるだろうか？
→板書の工夫へ

○表現活動を取り入れて、登場人物の心情を実感的に理解させるには？
→道徳的行為に関する体験的な学習へ

○どのように話し合いを設定すれば様々な意見がでるだろうか？
→問題解決的な学習へ

展開五箇条

一 時間配分を意識して

・中心となる発問や活動に時間が取れるように。

一 少数意見も大切に

・様々な意見を受け止め、生かす。

一 学びの交流を

・様々な活動を通して互いの学びを交流させる。

一 つながり意識して

・終末での深まりを意識した学習展開にする。

一 学級経営を大切に

・本音をぶつけ合い、本気で活動させるために。

終末の工夫



終末で大切なことは何ですか？

自分との関わりで考え、議論の中で出た多面的・多角的な考えを基に、**納得解を導き出させる**ことが大切です。

授業を通して考えたことや学んだことをまとめ、今後の発展につなげさせます。



児童生徒に、導入で持った問題意識がどのように深まったかを振り返らせます。価値を押し付けたり、決意表明をさせたりするような終末にならないようにし、**自己（人間として）の生き方についての考えを深めさせます。終末のイメージを参考にしてください。**

終末のイメージ

授業の流れ「中学校 C-(14) 勤労」	
導入	○主題に関わる問題意識を持つ。
展開	○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 ○物事を多面的・多角的に考える。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見つめる。
終末	○自分の持っていた価値観が、授業を通してどのように深まり、何が自分にとって大切なのか考える。児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。 生徒A：働く喜びを大切にしながら、自分のやりたいことを第一に考えて働きたい。 生徒B：好きな仕事をするばかり考えていた。これからは、 家族や地域に貢献 することも考えたい。 生徒C：みんなの意見や主人公の生き方はとても参考になったが、やっぱり 一生懸命働くことを大切にしたい。

振り返りの視点

感想を書かせる時には
「何を感じたか」
「何を考えたか」
「何を学んだか」
「何が大切だと思ったか」
「これからの生かしたいことは何か」
等の視点を与えるようにする。

ねらいを意識した振り返りをさせたい場合の発問例

道徳的判断力

「あなたは同じ状況に置かれたとき、どのようなことを大切にしたいですか」今日の授業を基に考えてみましょう。

道徳的心情

「あなたはどのような気持ちを大切にしていきたいですか」今日の授業で学んだことを含め、感想を書きましょう。

道徳的実践意欲と態度

今日の授業で学んだことを、「これからの生活にどのように生かしていきたいですか」感想も含めて書きましょう。

終末五箇条

一 振り返る時間の確保を

・授業を振り返り一人一人が納得解を出せるように。

一 思考を深める工夫を

・説話や書く活動で思考を深め、考えを整理させる。

一 学びの共有を

・学んだことを互いに共有し、高め合わせる。

一 関連を意識して

・次の学習や諸活動につながる投げ掛けを行う。

一 学級経営を大切に

・自信を持って生き方につなげさせるために。

自分との関わりで考えさせる学習



自分との関わりで考えるって
どういうこと？

児童生徒がねらいとする道徳的価値について、**自分の問題として受け止め、自分の事として考える**ことです。



□自分との関わりで考えさせる学習の例

中学校 明かりの下の燭台（講談社 なせば成る！）「C-(15) 集団生活の充実」

導入	T	集団生活を充実させるために大切なことは何ですか。	日常生活や共通体験の想起 自分との関わりで問題意識を持たせます。 →導入の工夫へ
	S	・・・	
	T	体育祭や新人戦の事を思い出して考えてみましょう。	
	S	ルールを守る。	
	S	自分勝手に行動しない。	
展開	T	マネージャーを頼まれたら、どのような気持ちになりますか。	自分だったら… 登場人物の立たされた状況に共感させ、これまでの自分の体験から感じたり、考えたりしたことを基に考えさせます。
	S	選手として認めてもらえなくて悔しい。	
	S	選手としてプレーしたい。	意図的指名 児童生徒の実態把握から意図的指名をします。
	T	Aさんは、野球をしているけれど、全員が選手だったらチームは成り立つかな。	
	S	・・・(考え込む)	
	S	誰かが引き受けないと、困る。	建前から自分事へ 自分の事として考えないと、建前で答えてしまうことが考えられます。自分の事として考えられるように発問の工夫をします。 →発問づくりへ
	T	みなさんは、自分だったらマネージャーを引き受けますか。	
	S	選手になりたいから引き受けない。	
	S	わたしは、引き受けます。誰かがやらないといけないと思うので。	
	T	集団のために、選手になりたいという気持ちは我慢しないといけないのかな。	
	S	・・・(考え込む)	

学習の中で児童生徒の以下のような様子が見られるといいですね。

- 教材の登場人物を自分に置き換えて考えているか。
- 教材の問題点を自分のこととして受け止めて考えているか。
- 日常生活や学校生活等を想起しながら考えているか。
- 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか。
- 自分だったらどうするかなど考えているか。



参考文献

- [1] 赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと P158-172 東洋館出版社
 [2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料

問題解決的な学習



道徳科における問題解決的な学習って？

単なる日常生活の問題に関する話合いではなく、**道徳的価値に根差した問題を解決するための話合い等**を行う学習のことをいいます。決まった型があるわけではありません。



☑ 道徳的価値に根差した問題を把握する。(→児童生徒の実態把握へ)

日常の児童生徒との関わりの中で、本時のねらいとする道徳的価値に根差した問題を把握する。
→きまりを守ることが大切と分かっているが、自分の事を優先させてしまい、きまりを守ることができない。
→時と場合に応じて礼儀にかなった行動をとることのよさに気付いていない児童生徒が多い。

※ 道徳的価値に根差した問題を把握するために、事前アンケート等を取り、導入で活用することも効果的

☑ 話合い等によって問題を解決する。

話合いの形態として、**ペアや少人数グループ等**が考えられる。
話合いでは、解決方法を考えることに終始するのではなく、自分だったらどのような解決方法がよいと考えているのか、その考えの根拠は何なのか等、児童生徒が問題を自分との関わりの中で考え、他者の異なる多様な考え方にも理解を示しながら、問題を解決するために必要な道徳的価値に気付くことができるような学習指導過程を構想することが大切です。

☑ 問題解決的な学習の例

小学校 ピアノの音が…… (東京書籍 新しい道徳6) 「C-(12) 規則の尊重」

道徳的価値に根差した問題の把握

休み時間、自由に過ごす権利はあることを知っているが、騒々しくすることで静かに本を読みたい友達の権利を守っていないことには気付いていない。

1. 導入

児童の実態把握を基に、道徳的価値に根差した問題を自覚させる課題を設定する。

お互いの権利を大切にするために、大事な思いや考えは何だろう。

2. 展開

教材の登場人物である女性とおじさんの自他の権利を尊重するために解決する場面を問題解決の場面に設定し、問題を解決するための話合い等を取り入れる。

発問1 「裁判を起こすと言ったおじさんの気持ちを考えよう」

発問2 「おじさんにうるさいと言われた女の人の気持ちを考えよう」

発問3 「お互いの権利を尊重しながら解決する方法をグループで話し合みましょう」

発問4 「二人を解決に向かわせた思いや考えは何か考えよう」

3. 終末

発問5 「自分にとってお互いの権利を大切にするために、大事な思いや考えは何だろう」

参考文献

[1] 赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと

p172 - 184 東洋館出版社

[2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料

多面的・多角的に考えさせる学習



多面的・多角的に考えさせる学習って？

道徳科においては、多面的と多角的は、2つの言葉を合わせて意味をなすと捉えましょう。

多面的・多角的に考えさせる学習とは、道徳的価値に根差した問題を、一つの見方ではなく、様々な見方で考えさせたり、様々な角度から考察させたりすることで、道徳的価値についての理解を深めさせる学習のことです。
例えば、以下の **1**～**4** の4つの視点が考えられます。



多面的・多角的に考えさせる学習の視点

1 ねらいとする道徳的価値の様々な面から捉えて考えさせる

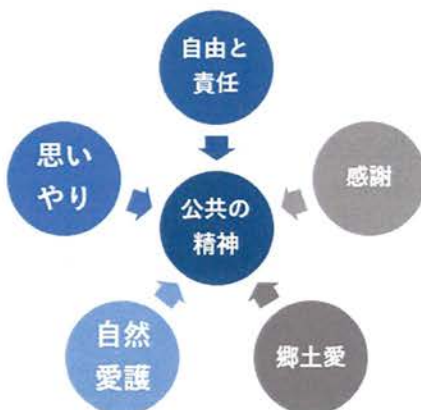
生命の尊さ

- ・偶然性
- ・有限性
- ・連続性 等

「生命の尊さ」を「偶然性」「有限性」「連続性」等の様々な面から考えさせる。

「生命の尊さ」に関するどの面について考えさせることができる教材なのかを教師が捉え、本時の授業の展開を考える。

2 ねらいとする道徳的価値を支える様々な根拠を考えさせる



「公共の精神」を支える道徳的価値には、「自由と責任」「感謝」「郷土愛」「自然愛護」等、人それぞれ、立場や場面などによって様々な根拠があることを考えさせる。

発問例

「主人公が自分の生活を犠牲にしてまで地域のために尽くしたのはなぜでしょうか」

3 様々な登場人物の立場で考えさせる

「いじめる側」「いじめられる側」「傍観者」等の立場で捉えて考えさせる。

発問例
 「本当の友達がほしいという言葉には、いじめの被害者のどのような思いが込められているのでしょうか」
 「大いなる悔いという言葉には、いじめの加害者のどのような思いが込められているのでしょうか」

4 人間の強さや弱さを捉えて考えさせる

道徳的価値の実現に向けて

あきらめてしまいそうになる心の弱さと
 こんな自分になりたいという心の強さを捉えて考えさせる。

発問例
 「薬物に手を出さないと決めていた〇〇選手がドーピングをしてしまったのはどうしてでしょうか」
 「自分からドーピングを認める発表を行ったのはどうしてでしょうか」

多面的・多角的に考えさせる学習のイメージ (4)の例

中学2年 内容項目「よりよく生きる喜び」 教材 「本当の私」東京書籍

1. 人間の“弱さ”について 「ドーピングをしたのはどうして？」

以下、予想される生徒の反応

- ・周りにばれないと思ってドーピングをした。
- ・どうしても試合に勝ちたかった。
- ・応援してくれている人を喜ばせたかった。

2. 人間の“強さ”について 「自分からドーピングを認めたのはどうして？」

- ・自分を応援してくれている人にうそをついていることが辛かった。
- ・発表して周りから非難されることは怖かったかもしれないけれど、自分らしい生き方をしたかった。

3. 自己の生き方について 「よりよく生きるとはどのような生き方？」(終末)

- ・自分の弱さに負けてしまってもそのままにしないで、もう一度自分らしい生き方を見つけること。
- ・一度苦しい思いをしてもあきらめずに挑戦していくこと。
- ・私も嫌だなと思うこともあるけれど、あきらめずに挑戦していきたい。
- ・辛いこと、苦しいこともあるけれど、その先に楽しいこと、嬉しいことを見つけたりすること。そういう気持ちを持って、生きる喜びをたくさん感じたい。

参考文献

[1] 道徳教育編集部：道徳教育 2018年 11月号 p68 - 70 明治図書
 [2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料

発問づくり



どのような手順で発問を考えていけばよいの？

まず、授業のねらいに深く関わる**中心的な発問（中心発問）**を考えます。次に、それを生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的に捉えるようにすると有効な場合が多いです。



■発問づくりの例 中学校 短文投稿サイトに友達の悪口を書くと（東京書籍 新しい道徳1） 「B-(8) 友情, 信頼」

【あらすじ】本教材は、同級生の悪口を「ネットに投稿してやる」と言い出した友達（イチロウ）を心配する、主人公（コウタ）の葛藤や行動を取り上げている。

【ねらい】友達の発言に対してはじめは同調した主人公が、次の日、友達に忠告するためにあわてて電話に向かわせたものは何かを考えさせることを通して、安易に友達の意見に同調するのではなく、お互いの幸せのために、正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てる。

○主な発問（◎中心発問）・生徒の反応例	発問の意図
<ul style="list-style-type: none"> ○ ネット上に人の悪口を書くと、どのようなことが起きるか知っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 炎上します。 ・ 訴えられて処罰されるかも知れません。 ○ コウタが、なかなか眠れなかったのはなぜでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ イチロウが心配になったからです。 ・ 自分の行動を後悔しているからです。 ○ もしも、あなたがコウタの立場だったら、イチロウに忠告することはできますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ できます。友達が後で大変なことに巻き込まれないようにするためです。 ・ できません。仲が悪くなったら嫌だからです。 	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">教材の内容や、関連する知識を確認する。</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">中心場面に向かうまでの、主人公の言動の変化が表れているところを取り上げ、その言動の背景にある道徳的価値について問う。</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">ねらいとする道徳的価値を実現するよさや難しさについて、自分との関わりで考えさせる。</div>
<p>道徳的価値を実現するよさや難しさについて、多面的・多角的に考えさせるための問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「できる」と答えたいけれど、もしも逆に文句を言われたらどうしますか。 ○ 「できない」と答えたいけれど、大切な友達が大変なことに巻き込まれてもよいのですか。 	
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">◎ コウタをあわてて電話に向かわせたものは何だと思えますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達を良い方向に導いてあげたいという、思いやりだとも思います。 ・ これからもずっと信頼し合える友達でいたいという思いです。 ○ 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何でしょうか <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違ったことを注意し合ったりすることが大切だと思いました。 ・ 自分が言いたいことだけではなく、相手の話も聞いてあげることが大切です。 	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><中心発問> 中心場面で、主人公が、これまでの葛藤を乗り越えて実現させた行動の背景にある、道徳的価値について気付かせる。</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">自己の生き方についての考えを深めさせ、納得解を得させる。</div>

■ねらいに迫るための発問

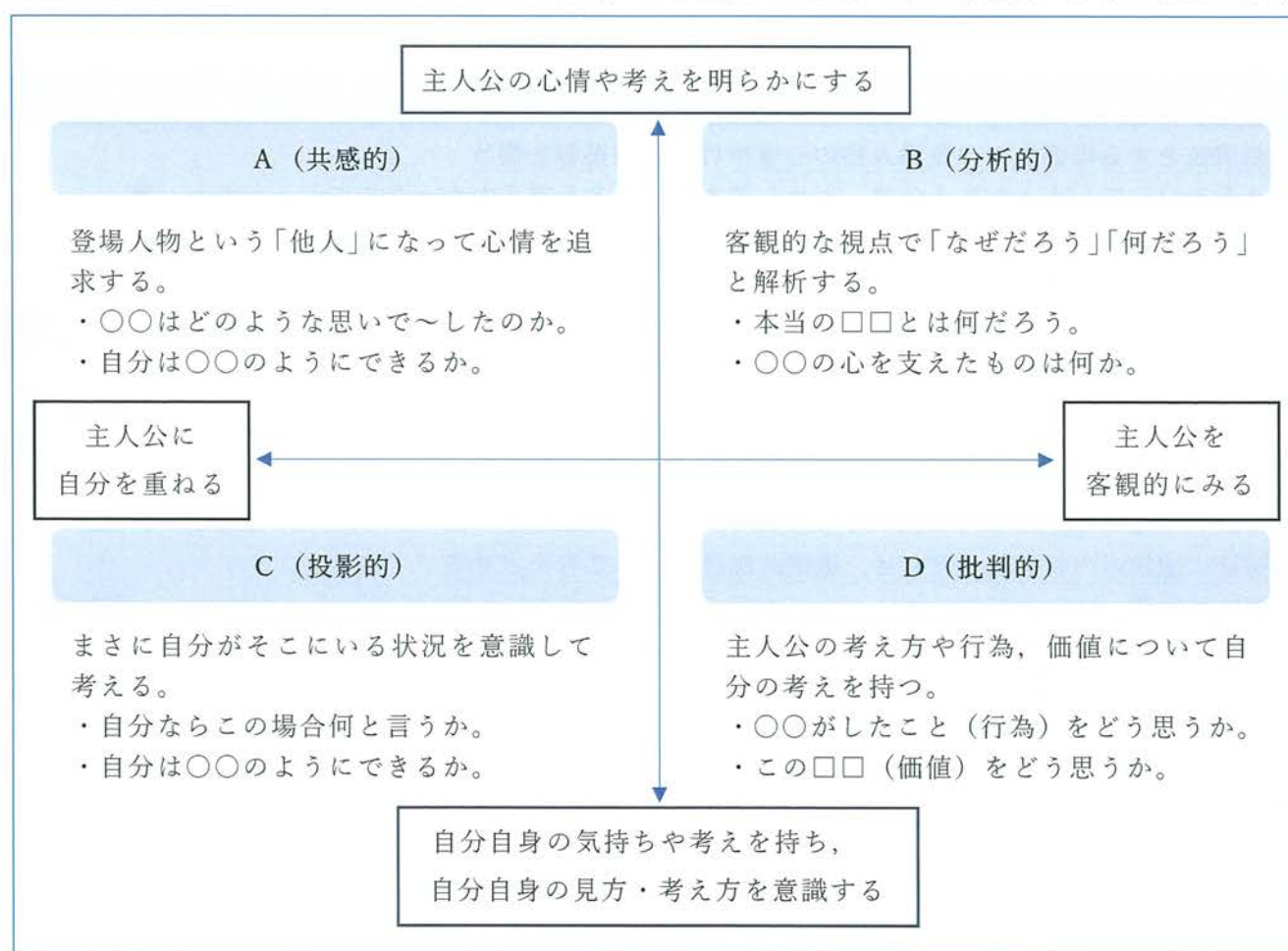
ねらいに迫るために、児童生徒の実態から道德性のどの諸様相を育てたいのかを明確にして発問を考える。

育てたい 道德性の諸様相	発問のポイント	発問例
道德的判断力	様々な状況の中でどのように対処することが望ましいかを考えさせる。	「もし自分だったらどうするか」「〇〇はどのような行動をとればよかったのか」
道德的心情	登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えさせる。	「〇〇はなぜ～したのか」「〇〇はどのようなことを思っていたのか」
道德的 実践意欲と態度	自己を見つめ、自己の生き方と結び付けてどのようにしていきたいか考えさせる。	「〇〇が大事にしているものは何か」「今後〇〇はどのような生き方をしていくと思うか」

■多面的・多角的に考えさせるための発問

教材や登場人物に対して多様な立ち位置で考えさせ、児童生徒の思考を広げる。


発問の立ち位置の4区分（永田繁雄氏による）を基に作成



参考文献


[1]	道德教育編集部：道德教育 2018年 2月号	p71 - 73	明治図書
[2]	道德教育編集部：道德教育 2019年 2月号	p7 - 9	明治図書
[3]	ベネッセ教育総合研究所：VIEW21 教育委員会版2017 vol.3	p21	Benesse

道徳的行為に関する体験的な学習



道徳的行為に関する体験的な学習にはどのようなものがあるの？

児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技させる**役割演技**、動きやせりふのまねをさせる**動作化**、教材の内容を劇の形に変え、脚本にしたがって演技させる**劇化**などがあります。ここでは、役割演技を取り上げ、説明します。



▶ 役割演技の目的

児童生徒の演技の背景には、本人が自覚していない道徳的価値についての考えが隠れています。演技後に、演技の内容を振り返ることで、道徳的価値への理解を深めたり、新たな気づきを生んだりすることができます。

▶ 役割演技の留意点

- 児童生徒が自分の考えを表現できる人間関係や学級の雰囲気が必要です。
- 内容によっては（例：いじめに関すること等）、演技させてよいかどうか、検討が必要です。

▶ 役割演技の前に

- ふざけない、からかわない、演技が上手いかどうかは学習には関係ないこと、登場人物の心情を理解するための学習であることを伝えます。
- 演技をする場面（いつ、どこで、だれが、どのようなことをしているのか等）を明確に示します。

役割演技を取り入れた学習の流れ

役割演技をする場面までの登場人物の心情や行動の根拠等を問う

「うそをついてしまった主人公は、どうして本当のことを言えなかったのでしょうか」 等

中心場面で役割演技をさせる（葛藤場面や、道徳的価値を実現するよさや難しさに気付かせることができる場面）

「うそをついてしまった主人公は、どのような気持ちで電話を掛けたのでしょうか。」

主人公が友達に電話をした場面を演じてみましょう」

■ 役割演技をさせるときの組合せ

- ・ 全員に役割演技をさせる（隣同士のパア、3～4人グループ）
- ・ 代表者にのみ役割演技をさせる（代表の児童生徒同士、代表の児童生徒と教師）



演技後に演技の内容を振り返らせ、道徳的価値について考えさせる

※演技の背景にある道徳的価値についての考えを全体で共有し、理解を深めさせるために、演技後の話合いが重要である。

■ 教師→観衆役の児童生徒

「演技中、〇〇さんはどうして～と言ったと思いますか」

「2人の演技を見て、どのように思いましたか」 等

■ 教師→演じた児童生徒

「演じてみて、主人公はどのような気持ちで友達に電話を掛けたと思いますか」

「演技中、～と言ったのはどうしてですか」 等

※終末で、授業を通して大切だと思ったこと、今後の生活に生かしていきたいことなどを書かせる。

参考文献

[1]	赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと	p184 - 200	東洋館出版社
[2]	道徳教育編集部：道徳教育 2019年 3月号	p13,15,51	明治図書
[3]	早川裕隆：体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業	p60 - 63	明治図書

板書の工夫



板書を生かすために重要なことは何ですか？

道徳科の板書は、児童生徒が**道徳的価値**についての**思考を深めるため**の重要な手掛かりです。思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることが大切です。



思考の深まりを意識した板書例

ホワイトボードの活用
グループでの話し合いがスムーズになり、視覚的に意見を共有できます。

ネームプレートの活用
児童生徒が立場を表しやすくなります。

「第〇回」
道徳科の量的確保につながります。

きまりは何のために？
みんなが安心して生活できるよように
・住みよい社会のため
・自己の権利を尊重

グループ① の意見	グループ④ の意見
グループ② の意見	グループ⑤ の意見
グループ③ の意見	グループ⑥ の意見

○主人公はどうすべきだったのでしょうか？

「第〇回道徳」
きまりについて考えよう
○「きまり」ってなぜあるの？
・ルールだから
・嫌な思いをしないように
・ないと困るから

道徳的価値の深まり
終末に児童生徒の思考の深まりが分かるようにします。

心情円
個人やグループの立場を示す方法もあります。

黒板に書かせる
児童生徒の主体性が高まります。

思考を構造的に表す板書例

ウェビング (マップ)
関連したことをつなげて網のように発想を広げていく方法です。短い言葉で表現でき、自分の考えを表出しやすいほか、視覚的に分かりやすく、考えを広げたり、考えたりできます。

考えの類別
「友達を思う気持ち」と「自分中心の気持ち」を上下に分けます。

考えの対比
「言う」と「言わない」を左右に分けます。

紹介したものは、ほんの一例です。**ウェビングマップ**以外にも**座標軸**や**ベン図**、**マトリクス図**など、様々な**思考ツール**があります。学習指導案集「8 実践の記録」に実際の板書を掲載してありますので参考にしてください。

参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育	2017年	6月号	p34 - 35	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育	2018年	8月号	p38 - 39	明治図書

他の教育活動との関連



他の教育活動との関連について詳しく教えてください。

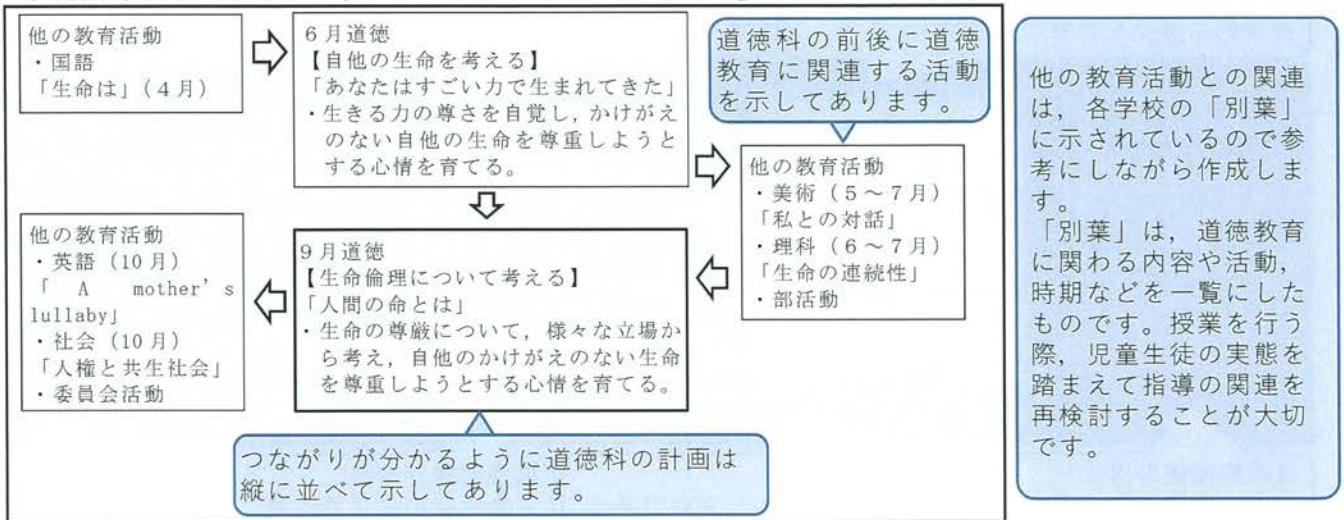
学習指導要領 第3章の第3には、「道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う**道徳教育の要**としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うこと」とあります。他の教育活動と相互に関連を図ることで児童生徒の道徳性を一層豊かに育むことができます。



▶他の教育活動との関連を意識した指導について

(小) 解説p.89,90 (中) 解説p.88,89

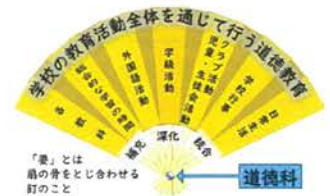
※学習指導案集の細案には、「5 他の教育活動との関連」に以下のように関連を示してあります。



▶道徳教育の要としての「道徳科」について

(小) 解説p.10-15 (中) 解説p.8-12

道徳科が道徳教育の要として、**補充**、**深化**、**統合**の役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うことが大切である。いわば、扇の要のように道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割を持つ。(右図)
 ※学習指導案集の細案には、「6 補充・深化・統合の視点」として示してあります。



- 補充**→各学年の道徳教育において、それぞれの内容項目が十分に扱われているものとそうでないものがある。取扱いが不十分な内容項目について、それを道徳科で補うこと意識する。
- 深化**→各教科等における道徳教育は、それが主たる目標ではないため、掘り下げが十分とは言えない。児童生徒の実態を踏まえ、授業で扱う内容項目の指導を、道徳科でより一層深めることを意識する。
- 統合**→各教科等における道徳教育で様々な体験をしていたとしても、それらの相互の関連までは意識しないまま過ごしてしまうことがある。授業で扱う内容項目に関わる様々な道徳的価値について、道徳科で関連を捉え直したり、自分なりに発展させたりすること意識する。

その他の教育活動における道徳教育	道徳科（統合の例）
<ul style="list-style-type: none"> ・職業講話で働くことの意義を理解する。 ・職場体験活動で仕事のやりがいを体験する。 ・学級活動で自他の個性について理解する。 ・総合的な学習の時間に郷土について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を基に、地域のために尽くした主人公の思いや行動について考えさせる。 ・これまで学んだことを振り返りながら、「社会参画」や「個性の伸長」「郷土を愛する態度」などの関連についても考え、「勤労」の意義を捉え直させる。

道徳科の評価



道徳科の評価はどうすればいいの？

道徳科における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、道徳科の目標に照らし、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます視点から、個人内評価として記述します。その際、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とします。
※大きくくり…年間を学期で区切る等大まかな時間的なくくり。



■評価の基本的な考え方

1 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

- (1) 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉えようとしている。
- (2) 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- (3) 道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

児童生徒のノート記述例

・役割演技でAさんとBさんの気持ちも分かるし、CさんとDさんの気持ちもなるほどと思うので、すごく悩みました。そして、授業の最後には、互いに気遣い、相手の気持ちを考えることが大事だとよく分かりました。(2)

2 道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか

- (1) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりにイメージして理解しようとしている。
- (2) 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直そうとしている。
- (3) 自己の取り得る行動を教師や児童生徒と議論する中で、道徳的価値の理解を深めている。
- (4) 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

児童生徒のノート記述例

・大事なことは、相手の気持ちを考えて冷静に話し合うことで、今までは、自分は考えを相手のことを考えずに言うてしまうことがあったので、そこを直した方がいいのかなと思いました。(2)

☑評価のための具体的な工夫例

授業では

- ・発言（座席表に記録）
- ・感想（道徳ノートやワークシート）
- ・質問紙の記述（ワークシート）
- ・板書を写真で残す

年間や学期を通じて

- ・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの。
- ・児童生徒が道徳性を養っていく過程での、児童生徒自身のエピソードを累積したもの。
- ・作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の成長を把握すること。

☑発言が多くない児童生徒や、考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒の見取り方

児童生徒が教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿から見取ります。例えば、他の教師と協力して、複数の教師が一つの教室を参観して児童生徒の新たな一面を発見します。

参考文献

- | | | | |
|-----|-----------------------------|------------|------|
| [1] | 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料 | | |
| [2] | 文部科学省：小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 | p107 - 114 | あかつき |
| [3] | 文部科学省：中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 | p109 - 116 | 教育出版 |

指導要録と通知表における道徳科の評価の違い



指導要録と通知表の評価の違いは何ですか？

評価の基本的な考え方は共通ですが、記述の仕方が異なる場合があります。



■ 評価の記述の違い

指導要録は、個々の教材、内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を記述します。

通知表は、難しい表現は極力避けて、児童生徒の学習状況や成長の様子が保護者に伝わるよう、分かりやすく記述します。教材名、内容項目、道徳的価値を記述してもよいかどうかは学校の判断とし、これらを記述する場合も、具体的な学習状況や成長の様子についての記述があるとよいです。

指導要録の記述例

（「多面的・多角的な見方」についての評価）

立場を変えて考えると、相手の気持ちがよく分かることに気付くなど、多様な視点から考え、今後の生き方についての考えに生かすことができた。



いじめの内容が扱われた学習を通して、いじめをしたら、加害者、被害者、傍観者がみんな嫌な気持ちになるということに気付きました。

（「自分との関わり」についての評価）

自分が主人公と同じ立場だったら、という目線で物事を考えていた。授業で考えたこと、学んだことを、これからの生活の中に生かそうとしている。



教材の主人公の立場に、自分を重ね合わせて考えています。思いやりについて考える学習では、相手の気持ちを察して行動することの大切さに気付きました。

（「自分との関わり」についての評価）

役割演技では、登場人物になりきって、素直な心を表出するなど、自分との関わりで学びを深める姿が多く見られる。



父母の立場になって役割を演じる授業では、家族が自分を支えてくれる愛情の深さに気付く、自分の果たすべき役割の自覚と、家族への感謝の気持ちが高まりました。

■ 評価の記述のNG例

「～を通して、道徳的判断力が高まった」・・・道徳性が育ったかどうかは評価しない。

「授業で学んだことを生かし、学校のきまりを守って」・・・道徳科の授業以外の学習状況を評価しない。

「役割演技を学級で一番一生懸命に取り組みます」・・・他の児童生徒と比較しない。

参考文献

[1] 鈴木明雄：主体的・対話的で深い学びを実現する 中学校「道徳科」授業	p52 - 65	教育開発研究所
[2] 毛内嘉威：道徳授業のPDCA 指導と評価の一体化で授業を変える!	p122-143	明治図書
[3] 服部敬一：「特別の教科 道徳」の授業と評価実践ガイド	p104-109	明治図書

【学習指導案集】

目 次

学 年	教材／資料名	内容項目	頁
小学校 1年	かぼちゃのつる (東京書籍)	節度, 節制 A-(3)	58
小学校 2年	きいろいベンチ (東京書籍)	規則の尊重 C-(10)	66
小学校 3年	いただいたいのち (東京書籍)	生命の尊さ D-(18)	74
小学校 4年	バルバオの木 (東京書籍)	生命の尊さ D-(18)	81
小学校 4年	大きな絵はがき (東京書籍)	友情, 信頼 B-(9)	88
小学校 5年	コースチャぼうやを救え (東京書籍)	生命の尊さ D-(19)	96
小学校 5年	豆電球 (自作資料)	正直, 誠実 A-(2)	103
小学校 5年	くずれ落ちただんボール箱 (東京書籍)	親切, 思いやり B-(7)	114
小学校 6年	ピアノの音が・・・・・・・・ (東京書籍)	規則の尊重 C-(12)	122
小学校 6年	心をつなぐ音色～ピアニスト (東京書籍)	希望と勇気, 努力と強い意志 A-(5)	131
中学校 1年	決断! 骨髄バンク移植第一号 (東京書籍)	生命の尊さ D-(19)	138
中学校 1年	短文投稿サイトに友達の悪口を書くと (東京書籍)	友情, 信頼 B-(8)	140
中学校 1年	サザンカ	希望と勇気, 克己と強い意志 A-(4)	152
中学校 1年	スイッチ (文部科学省 読み物資料集)	自主, 自立, 自由と責任 A-(1)	160
中学校 1年	花に寄せて (東京書籍)	よりよく生きる喜び D-(22)	169
中学校 2年	あの子のランドセル (東京書籍)	自主, 自立, 自由と責任 A-(1)	176
中学校 2年	心に寄り添う (東京書籍)	思いやり, 感謝 B-(6)	178
中学校 2年	明かりの下の燭台 (講談社 なせば成る!)	よりよい学校生活, 集団生活の充実 C-(15)	180
中学校 2年	この人に学ぶ メッセージ 山中伸弥 (文部科学省 私たちの道徳 中学校)	向上心, 個性の伸長 A-(3)	189
中学校 3年	ふるさとの絵を胸に (自作資料)	向上心, 個性の伸長 A-(3)	196
中学校 3年	卒業文集最後の二行 (文部科学省 私たちの道徳 中学校)	公正, 公平, 社会正義 C-(11)	201
中学校 3年	人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える (東京書籍 新しい道徳3)	生命の尊さ D-(19)	209
中学校 3年	たんぼぼ作業所 (東京書籍)	勤労 C-(13)	216
	学習指導案の書き方ガイド		225
	学年, 内容項目 教材・資料一覧		229

【主題名】わがままな行い 内容項目 「A-(3) 節度, 節制」

【教材名】かぼちゃのつる (東京書籍 新しいどうとく1)

<あらすじ>かぼちゃのつるは、どんどん伸びていった。道路を挟んだ隣のすいかの畑までつるを伸ばして行く。すいかや小犬に注意されてもつるを伸ばすことをやめないかぼちゃ。そこへトラックがやってきて、かぼちゃのつるは切られてしまった。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

節度, 節制の中で、わがままをしないという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

自分のやりたいことや気持ちを優先し、わがままな行動をして、周りを困らせていることに気付いていない児童が多い。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自分勝手な行動をしないで、周りの人のことを考え、わがままな心を抑えて生活しようとする道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 本時のねらいとなす道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 天気のいい日に遊んでいる時、どのような気持ちですか。</p> <p>○ かぼちゃさんはどうしたいと思いますか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>周りの友達と仲良く過ごす大切さを考えよう。</p>	<p>導入の工夫</p> <p>自分との関わり</p>
展開	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ つるをぐんぐん伸ばしているとき、かぼちゃさんは、どのような気持ちだったでしょう。</p> <p>○ みつばちやちょうに注意されたとき、かぼちゃさんは、どのようなことを考えていましたか。</p> <p>◎ 車にひかれてつるを切られてしまったとき、かぼちゃさんは、どのような気持ちだったでしょう。</p> <p>4 お互いに気持ちよく生活する大切さについて考える。</p> <p>○ あなたがかぼちゃさんだったらどうしますか。</p>	<p>自分との関わり</p> <p>体験的な学習</p> <p>多面的・多角的</p>
終末	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 周りの友達と仲良く過ごすために大切なことは何だと思いますか。</p>	<p>終末の工夫</p>

【板書計画】

かぼちゃさんだったらちがうところにつるをのばす。まわりの人のめいわくにならないようにする。ちゆういをされたら、どうしたらいいかわかんがえる。まわりのひとのこともかんがえる。

トラックにつるを切られた絵

注意されてる絵

つるを伸ばすかぼちゃの絵

だいいかいどうとく
・きもちいい
・たのしい
つるをのばしたい。
「かぼちゃのつる」

まわりのひととなかよく過ごすには、どうしたらよいかかんがえよう。

うるさいな。
のばしたいだけのばしたいんだ。
かっつけてにさせて。
えーん。なんてのはしちやっただらう。どうして、こんなめにあうんだ。
いうことをきけばよかったな。
わがままだったのかな。

どんどんのばすぞ。
大きくなるぞ。
たのしいな。

【評価】

わがままをしないで周りの人のことも考えるよさについて、体験的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)

授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

わがままな行い「A-(3) 節度, 節制」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自分勝手な行動をしないで、周りの人のことを考え、わがままな心を抑えて生活しようとする道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「かぼちゃのつる」(東京書籍 新しいどうとく1年)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

わがままをしないとは、自分勝手な行動をしないで、周りの人のことを考えて行動することである。児童は、友達と仲良く遊ぼうという気持ちは育っている。その反面、友達に対して自己中心的でわがままな態度をとる様子も見られるようになってくる。そこで、集団生活を送る際に自分勝手な行動はせず、周りの人のことを考えて、自分のわがままな気持ちを抑えて生活することが大切であるという道徳的心情を育てることが大切であると考えます。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、小学校に入学し、少しずつ集団生活に慣れてきている段階である。日常生活の行動を通して、周囲への気配りや、思いやりを持つことや、安全のきまりを守ってそれを実現すること、身の回りを整えて気持ちの良い生活ができるようにすることなど、繰り返し指導されてきている。さらに、それらを守ろうとする様子も見られてきている。しかし、友達同士で過ごすとなると、友達の注意を聞かなかつたり、自分のわがままを押し通したりすることで友達とトラブルが起きることがある。集団で生活する中で、自分勝手な行動を慎んだり、注意をされたらすぐにやめたりするなど、お互いに気持ちよく生活するためにわがままをしないことについて深く考えさせたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、わがままなかぼちゃが、自分のやりたい放題にかぼちゃのつるを伸ばしていき、みつばちやチョウに注意されても聞き入れず、ついには、道路を挟んだ隣のすいかの畑までつるを伸ばしていき、すいかや小犬にも注意されてもつるを伸ばすことをやめなかったが、とうとう、走ってきたトラックにつるを切られるという話である。

本時の指導に当たっては、つるを伸ばしたことがいけないのではなく、自分勝手にわがままにつるを伸ばしたことが問題なのだとすることを考えさせたい。そこで、まず、導入では、天気の良い日は、みんなはどのような気持ちになるのかを問い、かぼちゃはつるを気持ちよく伸ばしたかったことを捉えさせる。そして、展開では、役割演技を取り入れ、かぼちゃや他の生き物に十分に自分との関わりで考えさせ、周りの人達の気持ちを考えて行動することの大切さに気付かせたい。

4 学習指導過程

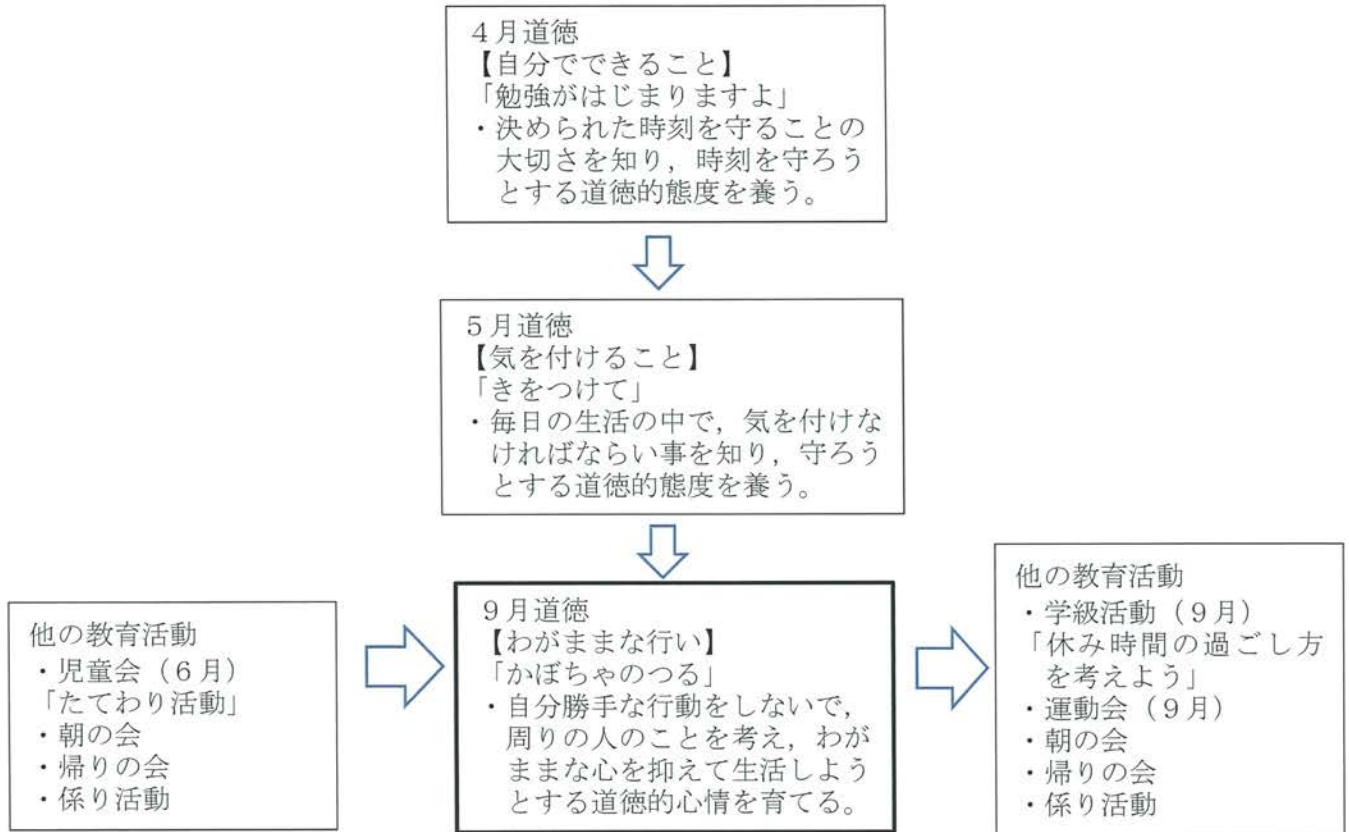
	学習活動 主な発問 ・ 予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 7分	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について、問題意識を持つ。</p> <p>○ みなさんは、天気の良い日は、どのように過ごしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外で元気に遊ぶ。 <p>○ かぼちゃはどのように成長するか知っていますか。どのようにつるを伸ばしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐんぐんつるを伸ばしたい。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>周りの人と仲良く過ごす大切さを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の生活を振り返り、天気の良い日は、どのように過ごしたいのか想起させ、自分との関わりで問題意識を持たせる。 ・かぼちゃはつるを伸ばして成長する野菜であることを確かめ、かぼちゃは天気の良い日はつるを伸ばしたいということをつえ、その後の話合いで、かぼちゃはつるを伸ばしてはいけないという展開にならないよう留意する。 ・課題をつえさせるために、元気に遊ぶことは、良いことだけれど、周りの人から注意を受けたこともある経験を思い出させる。
展開 前段 28分	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ つるをぐんぐん伸ばしているとき、かぼちゃさんは、どのような気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちいいなあ。 ・もっと遠くまで伸ばそう。 ・楽しいな。 <p>○ みつばちやチョウに注意されたとき、かぼちゃさんは、どのようなことを思っていましたか。役割演技をして考えてみましょう。</p> <p>かぼちゃ 「あー、気持ちいいなあ。ぐんぐんつるを伸ばすぞ」</p> <p>みつばち 「かぼちゃさん、こっちへ伸ばしてだめですよ。人の通る道ですよ」</p> <p>かぼちゃ 「うるさいな」</p> <p>チョウ 「かぼちゃさんの畑は、まだ空いていますよ」</p> <p>かぼちゃ 「ほっといてくれよ」</p> <p>すいか 「ここは、わたしの畑ですよ」</p> <p>かぼちゃ 「けちけちするなよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容を掴みやすくするために、場面絵を紙芝居のように準備をして、黒板に貼る。 ・ぐんぐん伸びているときのかぼちゃの気持ちに共感させるために、自分は、天気の良い日はどのようにして遊びたいか考えさせる。 ・かぼちゃが他の生き物たちの忠告を聞き入れずに、つるを伸ばしているときの気持ちを考えさせたり、注意している他の生き物たちの気持ちを考えさせたりするために、役割演技を取り入れる。 ・役割演技の注意点を確かめるために、最初に、かぼちゃの役を教師、他の生き物を児童が行う。 ・見ている児童には、代表児童が演じている様子を見て、どのように感じたのかを発表するということを伝える。 ・かぼちゃの視点で考えさせるために、かぼちゃは即興の台詞で言わせ、その他の生き物は台詞を用意する。 ・他の生き物役の児童には、かぼちゃが言うことを聞いてくれなくてどのように思ったのか、見ている児童は、かぼちゃの言動を見ていてどのように思うか、という視点を与える。

	<p>小犬 「みんなの通る道だよ。じゃまだな」</p> <p>かぼちゃ 「またいで通ればいいだろ」</p> <p>○他の生き物の役をやってみてどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言うことを聞いてくれなくていやだった。 <p>○かぼちゃさんは、どうして言うことを聞かなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと、つるを伸ばしたかったのに、注意されていていやだった。 <p>○見ていたみなさんは、どのようなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃさんは、どうして言うことを聞かないんだろう。 ・もっと、伸ばしたかったのかな。 ・注意は、聞いた方がいいと思った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ 車にひかれてつるを切られてしまったとき、かぼちゃさんは、どのようなことを思ったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・痛いよう。みんなの言うことを聞けば良かった。 ・なんで、切られてしまったんだろう。隣の畑まで伸ばさなければ良かった。 ・みんなの気持ちを考えないで、わがままだったかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技後に、他の生き物役の子童の感想や、かぼちゃ役の子童の感想を聞くことを通して、子童の本音に迫る。 ・演技を見ていた子童には、かぼちゃがどうすれば良かったのか、その考えを聞くことで、わがままをすることは、周りに迷惑をかけてしまうことへの理解を深めさせる。 ・かぼちゃはつるを伸ばしてはいけないという意見に偏りそうなときは、問い返しの発問を用意する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問い返しの発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃは、つるを伸ばしてはいけないのですか。 ・みなさんは、遊んではいけないのですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを書きやすくするために、吹き出しのワークシートを用意し、かぼちゃが思ったことを考え、記入させる。 ・多面的・多角的に考えさせるために、全体で発表し考えを共有する。
<p>展 開 後 段 5 分</p>	<p>4 お互いに気持ちよく生活する大切さについて考える。</p> <p>○あなたが、かぼちゃさんだったら、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちがうところにつるを伸ばす。 ・周りの人に迷惑にならないようにする。 ・注意をされたら、どうしたらいいか考えて、わがままとやめる。 ・周りの人のことも考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が「かぼちゃさんだったら」と問うことで、子童が、状況を考えてどのようにすれば自分のやりたいことを周りに迷惑を掛けずにできるのか考えさせる。
<p>終 末 5 分</p>	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○周りの友達と仲良く過ごすために大切なことは何だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わがままとしないで、周りの友達のことにも考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

わがままをしないで周りの人のことも考えるよさについて、体験的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

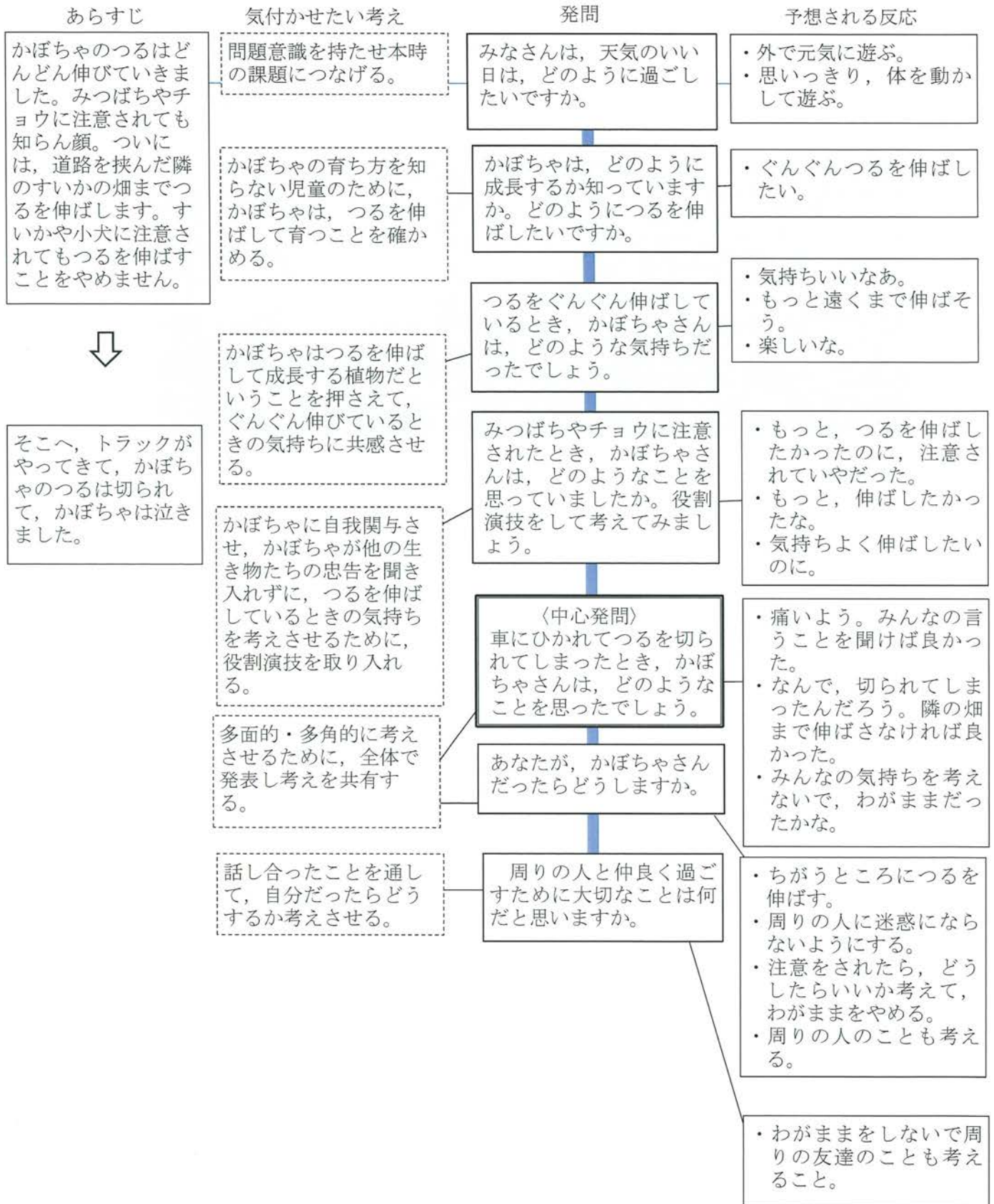
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、自分勝手につるを伸ばしたいというわがままをしたことで、周りに迷惑を掛け、自分も痛い思いをするという内容である。児童は、「節度・節制」が大切であることは、これまでの学習を通して学んできているが、実感を持った理解には至っていない。そのため、この教材を通して、わがままな心を抑えて生活することのよさや、周囲に対する気配りや思いやりを持つことのよさについて深く考えさせたい。

7 教材分析・発問構成



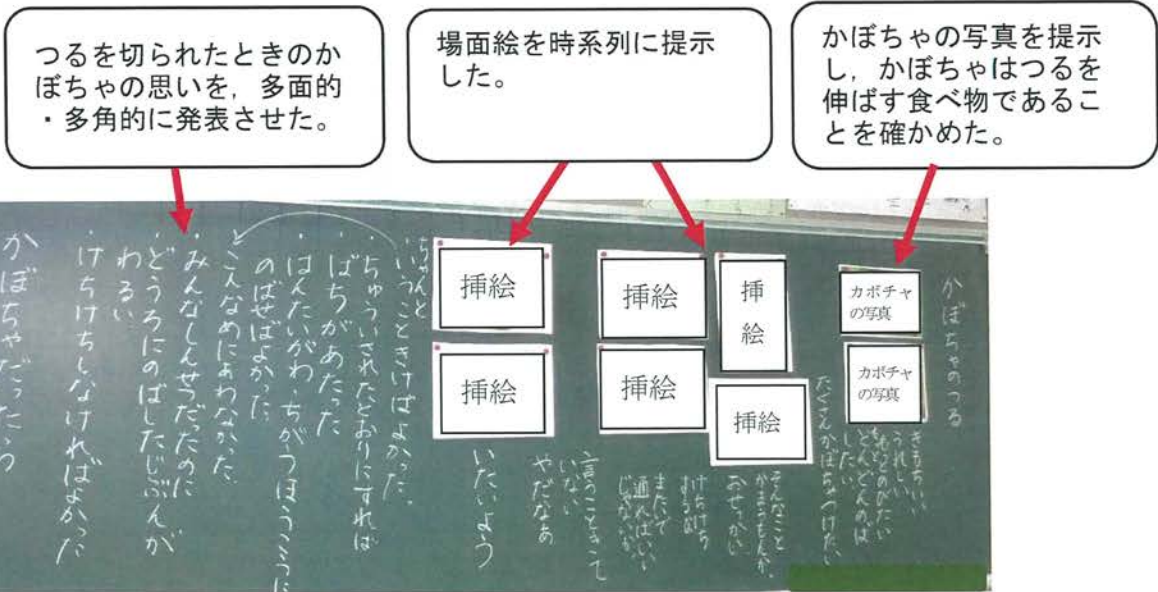
8 準備物

教師：教科書、場面絵、動画

児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】



(1) 導入

自分との関わりで考えさせた

小学校1年生「節度・節制」を扱った教材である。かぼちゃはつるを伸ばす野菜であることを確かめる。自分たちは、天気の良い日には、どのようにして遊びたいか問い、「外に出たい」「元気に走りたい」と思わせてから、では、かぼちゃさんは天気の良い日は、どのようにしたいか問うと「つるをどんどん伸ばしたい」と、自分との関わりを通してかぼちゃはどうしたいのか考えさせた。そうすることで、子供たちは、かぼちゃを通して自分の考えを言うことができた。

実際のやり取り

- T 「みんなは天気の良い日は、どう過ごしたい」
- C 「外で遊びたい」
- C 「プールに入りたい」
- T 「どんな気持ちで遊んでいる」
- C 「気持ちいい」
- C 「もっと遊びたい」
- T 「かぼちゃさんは天気の良い日はどうしたいと思う」
- C 「お水飲みたい」
- T 「他には」
- C 「太陽の光をたくさんたくさん浴びたい」
- C 「つるのばしたい」
- T 「今日は、かぼちゃさんがつるを伸ばすお話です。どんなお話かな。かぼちゃさんや他の動物さんはどんなことを考えているのかなと思いながら、お話を聞きましょう」

(2) 展開

役割演技を通して登場人物の気持ちを自分のこととして考えさせた

- 即興的に演技することが難しく、なかなか本音を引き出すことが難しかったので、かぼちゃに自我関与させながら、物語に沿って考えさせていくことがよかったのではないかと思った。

役割演技の様子（他の生き物）

- T「言うことを聞いてくれなくてどうだった」
C「嫌だった」
C「嫌な気持ちだった」
C「けちだった」
T「どういうこと」
C「だって、じゃまだったから」
T「じゃまで、嫌だなんて思ったのね」
T「見ていたみんなはどうだった」
C「嫌だった」
C「悲しかった」
C「なんで言うことを聞いてくれなかったんだろう」

(3) 終末

自己の生き方について考えさせた

終末では、「自分がかぼちゃさんだったら」として振り返り、今日の授業を通して、考えたことを記述させた。

道徳ノート記述より

- ・やっぱり、はんたいがわにのばせばよかった。いうことをきけばよかった。みんなにめいわくをかけた。
- ・みんなにちゅういされたら、すなおにきく。どうろのほうにのばさないで、じぶんのはたけにのばす。
- ・みんなをこまらせない。
- ・はちさんたちにごめんなさいっていえばよかった。
- ・やさしいきもちになればよかった。

【主題名】みんなのものを大切に 内容項目 「C-(10) 規則の尊重」

【教材名】きいろいベンチ（東京書籍 新しいどうとく2）

<あらすじ>雨が上がって晴れた日に、たかしとてつおは公園で紙飛行機を飛ばして遊んでいた。より高く飛ばそうと、ベンチの上から飛ばすことにした。夢中になってベンチを汚してしまったことに気付かなかった。その後、小さな女の子がベンチに座ってスカートに汚してしまう。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にするという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

約束やきまりは守らなければならないことを理解はしているが、それらをなぜ守らなければならないのか理解は不十分である。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自分勝手な行動をしないで、周りの人のことを考え、わがままな心を抑えて生活しようとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ 学校のきまりには、どのようなものがありますか。 ○ きまりは、何のためにあるのでしょうか。 2 課題をつかむ。 みんなが気持ちよく過ごすために大切なことを考えよう。	導入の工夫 自分との関わり
展開	3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。 ○ 2人はどうしてベンチの上に乗って飛行機を飛ばしたのでしょうか。 ○ 2人は遊んでいるとき、どのような気持ちでしたか。 ◎ おばあさんの話を聞いて、2人はどのようなことを考えたでしょうか。 4 みんなが気持ちよく生活するために必要なことについて考える。 ○ 2人にどのようなことを教えてあげますか。	自分との関わり 体験的な学習 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ みんなが気持ちよく生活するためには、どのようなことに気を付けていけばよいでしょう。	終末の工夫

【板書計画】

めいわくをかけた。

教えてあげること
 ・すわる人のことも考えて、くつでのつてはいけないよ。
 ・くつをぬいであがろうね。
 ・まわりにめいわくをかけてはいけないよ。
 ・みんなきもちよく過ごすために
 ・ほかの人のことも考えて、きまりを守る。

どろだらけの女の子の絵

・どうしよう。
 ・ぼくたちがわるいのかな。
 ・おばあちゃんに、しかられる。
 ・あやまったほうがいいのかな。
 ・わるいことをしたつもりはないのに。

ベンチで遊ぶ絵

・ひさしぶりに晴れてうれしい。
 ・もっと遠くまでとばしたい。
 ・あそんで、気持ちがいい。楽しい。

第○回道とく

・ろうかを走らない。
 ・時間はまもる。
 ・なかよくあそぶ。
 ・「きいろいベンチ」
 ・みんながきもちよく過ごすために、大切なことを考えよう。

【評価】

たかしとてつおの心情の変化を考えることを通して、きまりを守ることの大切さについて、自分との関わりで考えようとしていたか。

第2学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)

授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

みんなのものを大切に「C-(10) 規則の尊重」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

身近な約束やきまりは、みんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解し、しっかりと守ろうとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

(2) 教材名

「きいろいベンチ」（東京書籍 新しいどうとく2）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第1学年及び第2学年の「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の指導事項「(12) 規則の尊重」 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」を受けている。

身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなでする物や場所を進んで大切に、工夫して使いたいという道徳的判断力や道徳的態度を養うことが必要である。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、これまでの学習を通して、集団や社会で必要な規範を学んできている。しかし、この時期の児童は、まだ自己中心性が強く、ともすると周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動を取ることも少なくない。また、身の回りの公共物や公共の場所の使い方や過ごし方についてはどうするのがよいのか、さらに、それはなぜなのかといった理解は不十分である。このような時期だからこそ、公共物や公共の場所の使い方や過ごし方について考えさせ、身近な約束やきまりは、みんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解させ、しっかりと守ろうとする道徳的実践意欲や態度を育てる必要があると考える。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、公共物や公共の場所を使うときの約束やきまりの意義について、周りの人が困っている様子や気持ちよく過ごせない様子に触れ、考えさせる教材である。

本時の指導に当たっては、紙飛行機を高い所から飛ばしたいという男の子たちの気持ちに共感させ、夢中になって遊んでいるうちにベンチに乗ってしまったことに、自分との関わりで捉えさせたい。きまりを守らなかったことで、女の子のスカートが泥だらけになってしまったことを取り上げ、二人はどのようなことを考えたのか、役割演技を通して考えさせる。役割演技後に、夢中になって遊ぶことで、周りに迷惑を掛けてしまったことに気付かせ、女の子へ謝罪したいという意欲や、今後からは、きまりを守って生活していこうとする態度を育てたい。

4 学習指導過程

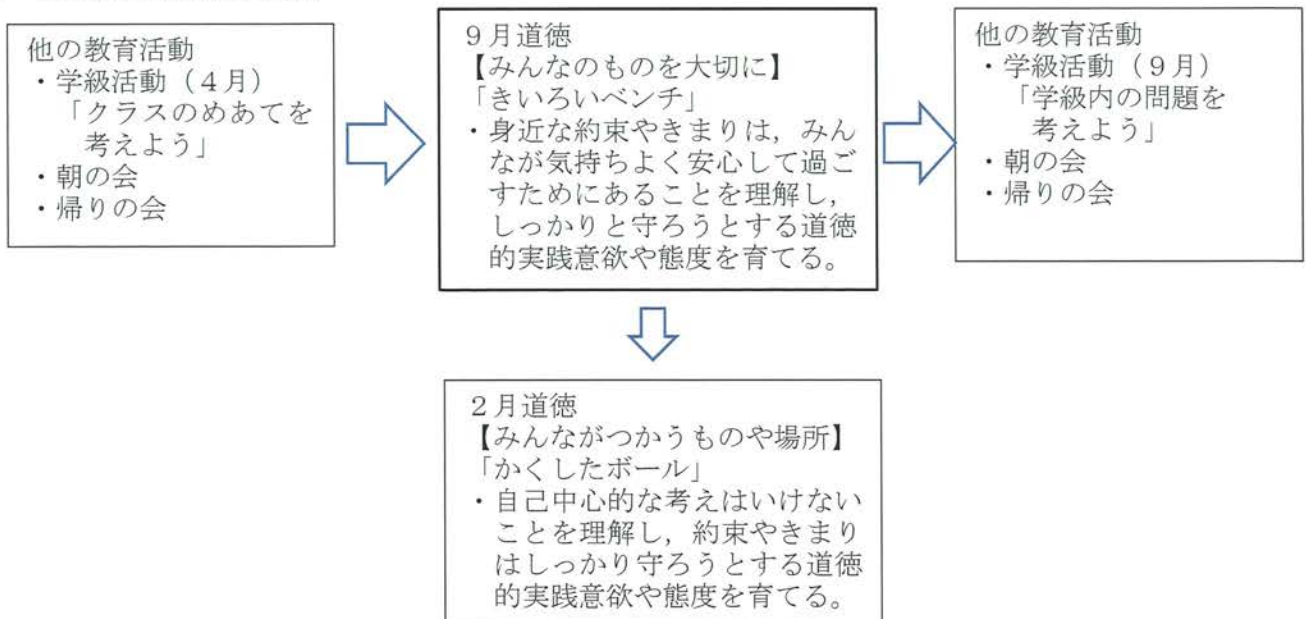
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問 ・予想される児童生徒の反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 学校のきまりには、どのようなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下は走らない。 ・時間は守る。 <p>○ きまりは、何のためにあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなを守るため。 ・みんなが気持ちよく生活するため。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんなが気持ちよく過ごすために大切なことを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりにはどのようなものがあるのか想起させ、何のためにきまりはあるのか問い掛けることを通して、本時の課題につなげる。
<p>展開 前段 20分</p>	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ 2人はどうしてベンチの上に乗って飛行機を飛ばしたのでしょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと遠くまで飛ばしたい。 ・久しぶりに晴れて嬉しいから、もっと遊びたくなった。 <p>○ 2人は遊んでいる時、どのような気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくて、夢中になった。 ・もっと、もっと遊びたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ おばあさんの話を聞いて、2人はどのようなことを考えたでしょう。</p> </div> <p>○ たかし役とてつお役になって、何を話したのか考えましょう。</p> <p>おばあさん 「まあまあ、こんなにどろだらけのベンチにすわって、スカートがよごれてしまったわ」</p> <p>たかし 「どうしよう。ぼくたちのせいで、スカートよごれてしまった」</p> <p>てつお 「あやまったほうがいいのか」</p> <p>たかし 「うん、あやまろうよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は、天気のいい日はどのようにして遊びたいか想起させることを通して、雨が続いて久しぶりに外で遊ぶことができた登場人物の気持ちに共感させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自我関与させるための問い返しの発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりに晴れた日は、どのようにして遊びたいですか。 ・紙飛行機を持って遊ぶなら、どうしたいですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちに共感させることで、自分も夢中になって遊び、約束を守らなかった体験などを思い出させる。 ・役割演技を通して、たかしとてつおが遊びに夢中になって、おばあさんや女の子に迷惑を掛けたことに気付かせる。 ・役割演技の注意点を確かめてから、おばあさんの役は教師、たかし役とてつお役は児童が行う。 ・役割演技後に、教師がインタビューアーとして、たかし役やてつお役には、どうして謝ろうと思ったのか、汚れたスカートを見てどのように思ったのかについて聞くことで、きまりを守ることの大切さに気付かせせる。 ・見ていた子供達には、演技を見ていてどう思ったのかについて聞くことを通して、道徳的価値の理解を深める。 ・役割演技を通して、きまりを守らないことで

展 開 後 段 15 分	<p>てつお 「おばあさん、ごめんなさい。ぼくたちがよごしたの」</p> <p>たかし 「ごめんなさい」</p>	<p>周りの人に迷惑を掛けていることに気付かせる。</p>
	<p>4 みんなが気持ちよく生活するために必要なことについて考える。</p> <p>○ 2人にどのようなことを教えてあげますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチの上に乗って遊んでは、だめだよ。 ・他の人のことも考えながら、楽しく遊んでね。 ・周りの人に迷惑を掛けないように、きまりを守ろうね。 ・楽しく遊ぶことはいいことだけど、きまりは守ろうね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考えさせるために、グループで話し合い、登場人物の2人に、どのような声掛けをするのか聞き合う。さらに、全体でも考えを共有する。
終 末 5 分	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ みんなが気持ちよく生活するためには、どのようなことに気を付けていけばよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守って、周りの人たちに迷惑を掛けない。 ・ブランコに立ち乗りをしたことがあったけど、次に使う人のことを考えて、もう立たない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

たかしとてつおの心情の変化を考えることを通して、きまりを守ることの大切さについて、自分との関わりで考えようとしていたか。

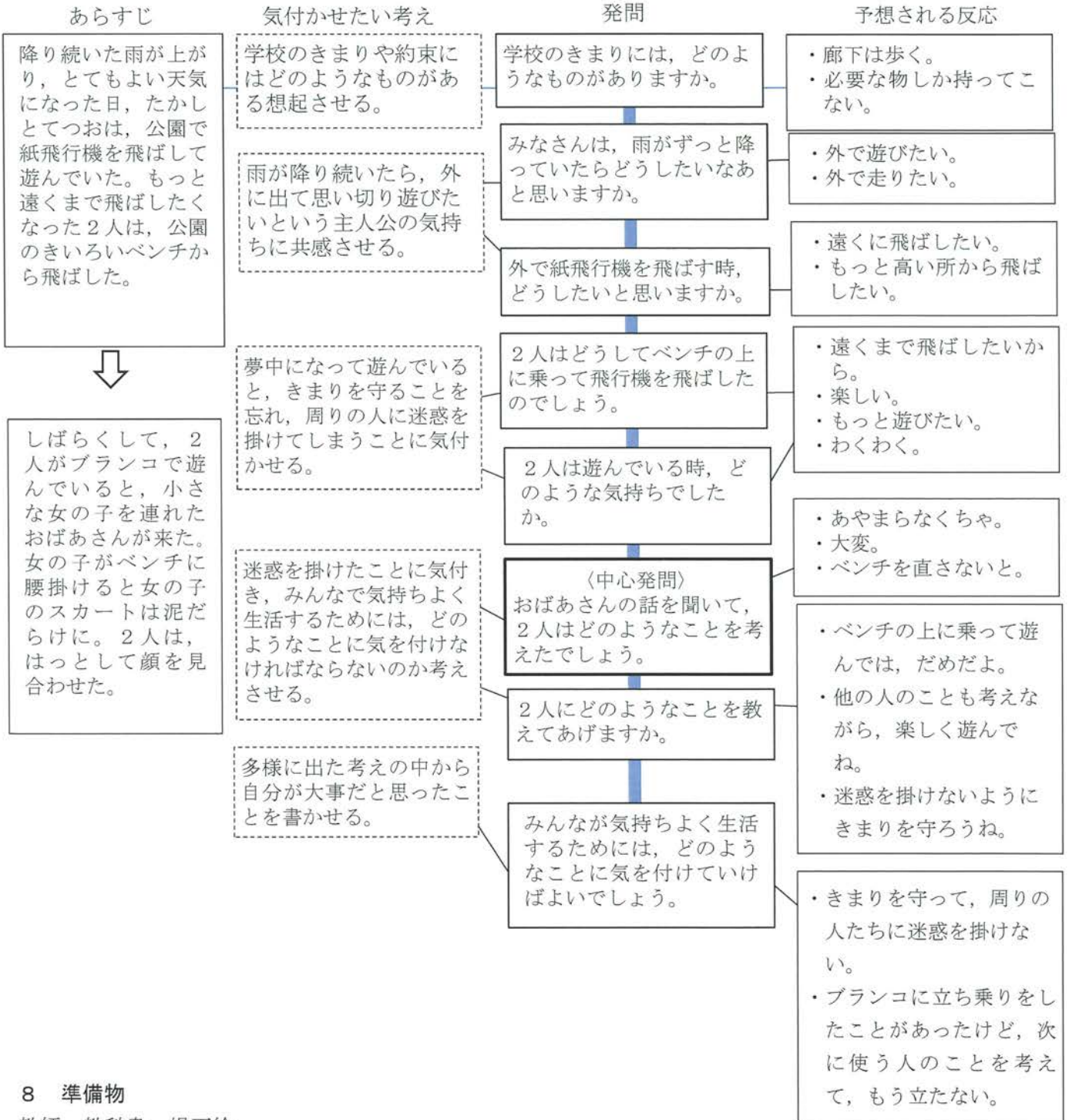
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

児童はきまりを守らなければならないことは、今までに学習している。しかし、遊びに夢中になって、きまりを守らないことや、きまりがあることに気付かず、過ごしていることも多い。この教材を通して、きまりや約束を守らないことで、他の人に迷惑を掛けてしまうこと、きまりや約束を守ることで、みんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解し、集団生活におけるきまりや約束をしっかりと守ろうとする道徳的実践意欲や態度を育てるようにする。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

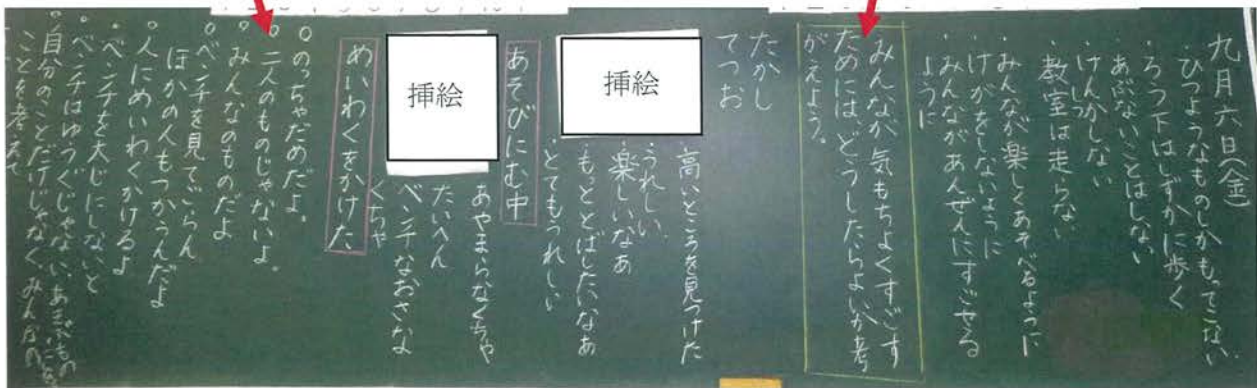
教師 教科書 場面絵
児童 教科書 ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

児童の多様な考えを黒板に書き、多面的・多角的に考えさせるために活用した。

児童に問題意識を持って考えさせるために、考えることを提示した。



(1) 導入

問題意識を持たせた

問題意識を持たせるために、「学校にはどのようなきまりがあるのか」「きまりは何のためにあるのか」について話し合ってから、課題「みんなが気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいか考えよう」につなげた。

○ 自分たちの身近なきまりを想起させ、何のためにきまりは守るのか、きまりを守ることがどのようなことにつながるのか考えるという、問題意識を持たせることができた。

実際のやり取り

- T「学校には、どのようなきまりがありますか」
- C「必要な物しか持ってこない」
- T「他にはどのようなきまりがありますか」
- C「廊下は静かに歩く」
- C「あぶないことはしない」
- C「けんかしない」
- T「では、何のために、きまりはありますか」
- C「みんな楽しく遊べるように」
- C「けがをしないように」
- C「安全に過ごせるように」
- T「そうですね。みんな楽しく遊べて、怪我をしないで、安全に過ごせるようにきまりはありますね。今日は、みんなが気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいか考えていきます。」

(2) 展開

問い返しを通して、登場人物に共感しながら考えさせた

児童は、きまりは守らなければならないということは分かっている。しかし、夢中になって遊んでいると、きまりを破ってしまい、周りに迷惑を掛けてしまうことがある。登場人物の行動に対しての

児童の発言に問い返しをしながら、自分もそういう場合があるということに気付かせ、だからこそ、どうしなければいけないのかについて考えさせた。

- ベンチの上に乗って遊んだという状況を自分と重ねて考えさせる、自分もベンチの上に、上がってしまうかも知れないなど想像させることにより、他人事ではなく自分の事として考えさせることができた。

実際のやり取り

- T「みんなはずうっと雨が降っていたらどうしたいなあとありますか」
C「外で遊びたい」
T「たかしとてつおは、何をして遊びたくなりましたか」
C「公園で紙飛行を飛ばして遊ぶ」
T「みんなは、紙飛行機でどうやって遊びたくなりますか」
C「高く飛ばす」
C「遠くへ飛ばす」
T「高く遠くに飛ばすために、どうやって遊びますか」
C「高い所に上る」
T「たかしとてつおは公園で高い所を見付けましたね」
C「ベンチ！」

役割演技を通して

- 役割演技を通すことで、実感を伴いながら、夢中になって遊んでできまりを守らないことで周りに迷惑を掛けてしまうことに気付かせることができた。

ノートの記述より

- ・じぶんたちだけのことを考えないで、みんなのことを考えてつかってね。
- ・ベンチに立つとめいわくをかけるし、みんながすわるものだよ。二人のものじゃないし、ゆうぐでもないよ。みんなのことも考えてね。
- ・ベンチはすわるものだよ。立たないよ。ほかの人もつかうから考えてつかってね。

(3) 終末

「みんなが気持ちよく生活するためには、どのようなことに気を付けていけばよいでしょう。」と課題に対して改めて着目させ、ノートに記述させた。

ノートの記述より

- ・みんなのものだから、みんなで大じにする。
- ・みんなのことを考えてルールをまもる。
- ・まわりの人の気持ちを考える。
- ・やくそくをまもってあそぶこと。

【主題名】みんなのものを大切に 内容項目 「C-(10) 規則の尊重」

【教材名】きいろいベンチ（東京書籍 新しいどうとく2）

<あらすじ>雨が上がって晴れた日に、たかしとてつおは公園で紙飛行機を飛ばして遊んでいた。より高く飛ばそうと、ベンチの上から飛ばすことにした。夢中になってベンチを汚してしまったことに気付かなかった。その後、小さな女の子がベンチに座ってスカート汚してしまふ。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にするという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

公共物を使うときにもきまりがあるということに気付いていない。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力

心情

実践意欲

態度

自分勝手な行動をしないで、周りの人のことを考え、わがままな心を抑えて生活しようとする道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ みんなで使う物は、どのような物がありますか。 ○ みんなが使う物は、どのような気持ちで使いますか。 2 課題をつかむ。 みんなが気持ちよく過ごすために大切な気持ちについて考えよう。	導入の工夫 自分との関わり
展開	3 登場人物の心情を自分との関わりで捉え、みんなが気持ちよく生活するために大切な気持ちについて考える。 ○ 2人はどうしてベンチの上に乗って飛行機を飛ばしたのでしょうか。 ○ 2人は遊んでいるとき、どのような気持ちでしたか。 ○ 女の子の汚れたスカートを見て、2人はどのような気持ちになりましたか。 ◎ みんなが気持ちよく生活するために、どのような気持ちが大事ですか。	自分との関わり 多面的・多角的
終末	4 自己の生き方について考える。 ○ 今までの生活を振り返り、今日分かったこと、考えたこと、いいなあと思ったこと、これからしたいことを書きましよう。	終末の工夫

【板書計画】

<p>みんなきもちよく過ごすために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなであつかうものを大切にす ・まわりの人のこともかんがえる ・めいわくをかけないように、よくそくをまもる。 	<p>めいわくをかけた。</p> <p>どろだらけの女の子の絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・しかられる。 ・こんなことになるなんて。 ・こまったな。 ・あやまりたい。 	<p>む中になつてゐる。</p> <p>ベンチで遊ぶ絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいなあ。 ・もつと遠くまで飛ばしたいなあ。 ・気持ちがいいなあ。 	<p>第○回道とく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろうかを走らない ・時間はまもる。 ・なかよくあそぶ。 ・「きいろいベンチ」 <p>みんながきもちよく過ごすために、大切な気持ちについて考えよう。</p>
--	--	---	---

【評価】

たかしとてつおの心情の変化を考えることを通して、きまりを守ることの大切さについて、自分との関わりで考えようとしていたか。

【主題名】命を大切に 内容項目 「D-(18) 生命の尊さ」

【教材名】いただいのち（東京書籍 新しいどくとく3）

〈あらすじ〉ゆきは、小学2年生の夏に血液のがんになった。お母さんは、ゆきを優しく励まし、学校の友達も、ゆきのために血液がたくさん集まるようにとお願いの手紙を書いた。そのおかげでたくさんの血液が集まり、ゆきは、元気になった。「ゆきは、たくさんの人から命をいただいたのよ。」とうれしそうに話すお母さんの顔を、ゆきは忘れられない。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にするという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

命が大切だということは、学んできているが、命は唯一無二であり、尊いものであるということを実感していない児童が多い。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

命の尊さを知り、生命あるものを大切に
する道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ これまで、命が大切だと思ったことはありますか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>命の大切さについて考えよう。</p>	導入の工夫
展開	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ 入院している間、お母さんや家族はどのような気持ちで過ごしていましたか。</p> <p>○ ゆきの友達は、どのような気持ちで過ごしていますか。</p> <p>○ ゆきは、どのような気持ちで入院していましたか。</p> <p>○ お母さんや友達はゆきのためにどんなことをしましたか。</p> <p>4 命の大切さについて考える。</p> <p>◎ お母さんに「ゆきは、たくさんの人から、いのちをいただいたのよ。」と言われたゆきは、どのようなことを考えたでしょう。</p>	自分との関わり 多面的・多角的
終末	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 命の大切さについてどのようなことを思いましたか。</p>	終末の工夫

【板書計画】

<p>第○回道とく</p> <p>いのちの大切さについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんやおばあちゃんが死んだとき ・妹や弟が生まれたとき ・入院したとき ・病気になったとき 	<p>お母さんや家族 死ななくて 悪いところがなくなって 治ってほしい。 心配で不安。</p> <p>ゆき 早く良くなりたい。 お母さんや家族に心配かけたくない。 こわい。 どうなるのだろう。</p>	<p>「たくさんの人からいのちをいただいた。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の友達 ・血液をくれた人たち ・家族の支え ・自分一人だけでは、助からなかった。 ・みんなへの感しゃの気持ち 	<p>→</p>	<p>おたがいに助け合って生きている。</p>
---	--	---	----------	-------------------------

【評価】

ゆきと家族、友達的心情を考えることを通して、命の大切さについて自分との関わりで考えようとしていたか。

第3学年道徳科学学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

命を大切に「D-(18) 生命の尊さ」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

命の尊さを知り、命あるものを大切にす道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「いただきたいのち」(東京書籍 新しいどうとく3)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編小学校第3学年及び第4学年の「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導事項「(18) 生命の尊さ」 生命の尊さを知り、命あるものを大切にすることを受けている。

生命を大切にす尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にんえようとす心の表れと言え。生命とは、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、更には人間の力を越えた畏敬されるべき生命として捉え。生命のもつ侵し難い尊さが認識されることにより、生命はかけがえのない大切なものであり、決して軽々しく扱われてはならないという態度が育まれる。生命の尊さを概念的な言葉での理解とともに、自己との関わりで、生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、自覚を深められるように指導することが大切である。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、今までの学習を通して、生命は大切であるとういことを分かっている。しかし、改めて、生命について考える機会は少ない。また、この時期になると、現実性をもって死を理解できるようになる。そのため、自分の命だけでなく他人の命も大事であるということ実感を持って考えることが大切である。生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて考えたり、与えられた命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。併せて、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする道徳的心情を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、血液のがんになって入院したゆきとゆきを支えるお母さんの気持ちを考えることを通して、生命の尊さについて考えることができる教材である。お母さんの「ゆきは、たくさんの人からのちをいただいたのよ」という言葉から、生命のかけがえのなさについて、多面的・多角的に考えさせる。そのために、お母さん、ゆきだけでなく、学校の友達の立場でも気持ちを考えさせ、自分が元気になったのは、お母さんや家族、友達の思いや、見えないところで動いてくれていた人達のおかげだとう感謝についても考えさせる。また、自分の生命は、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて深く考えさせたい。

4 学習指導過程

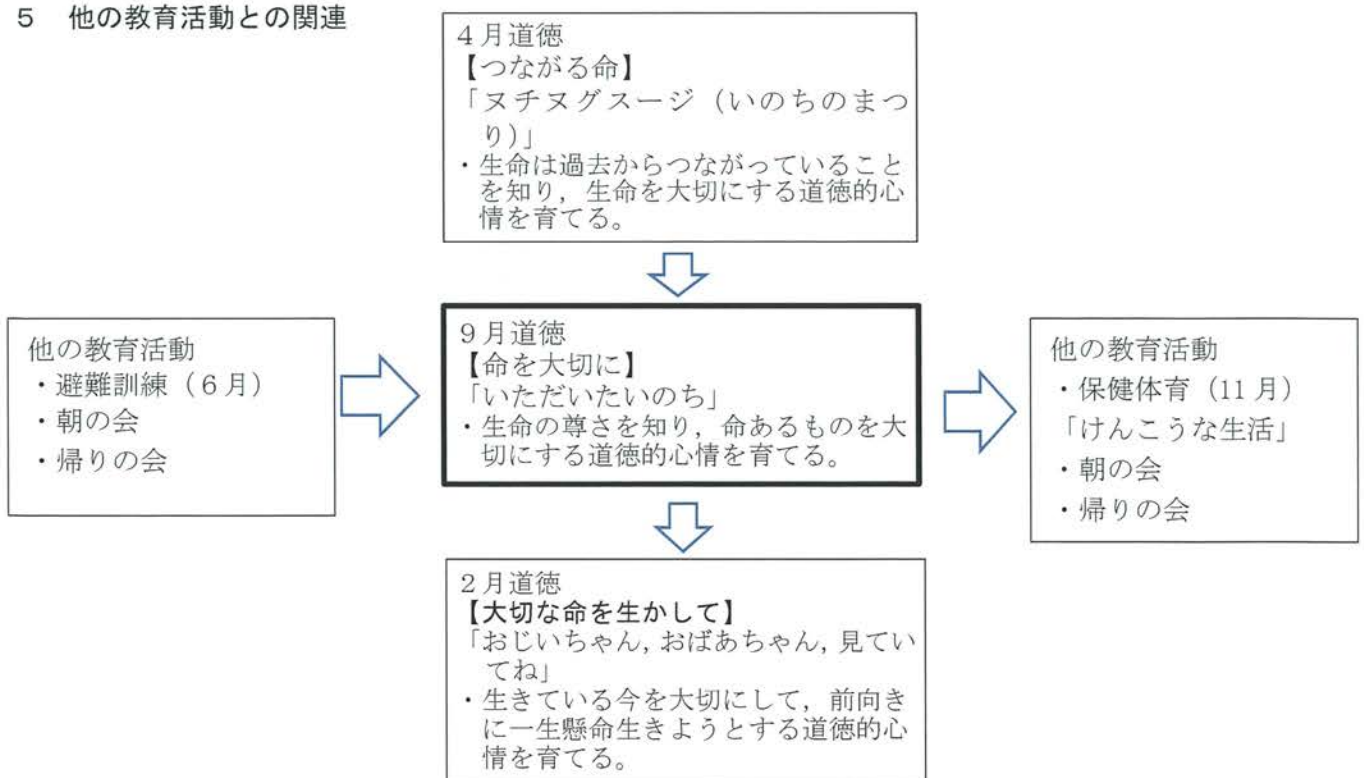
	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ これまで、命が大切だと思ったことは、ありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんやおばあちゃんが亡くなったとき。 ・妹や弟が生まれたとき。 ・入院したりしたとき。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">命の大切さについて考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに怪我や病気をしたときのことを想起させ、命について考えるという課題に対して、問題意識を持たせる。
展開 前段 15分	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ 入院している間、お母さんや家族はどのような気持ちで過ごしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配。 ・本当に治るのかなあ。 ・早くよくなってほしい。 <p>○ 友達は、ゆきの病気を聞いて、どのように思っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。 ・大丈夫かなあ。 ・かわいそう。 ・心配。 <p>○ ゆきは、入院している間、どのような気持ちで過ごしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く良くなりたい。 ・学校に行きたい。 ・お母さんに心配を掛けたくない。どうなってしまうんだろう。 ・こわい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文が長いため、すぐに内容について話し合うことができるように、事前に教材を読ませておく。 ・お母さんやゆきの気持ちを自分との関わりで考えさせるために、自分が病気になった時などのことを想起させる。 ・想像ができないときは、自分の友達が入院したらどのようなことを思うか考えさせるために、補助発問を用意する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>補助発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の友達が入院したら、どのように思っていますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考えさせるために、お母さんの気持ち、友達の気持ち、ゆきの気持ち、それぞれの立場から考えさせる。
展開 後段 20分	<p>○ お母さんや友達はゆきのためにどのようなことをしましたか。</p> <p>友達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙や絵を書いて渡す。 ・応援の手紙。 ・ゆきちゃんは、勇気がでる。 ・血をくださいという呼びかけの手紙。 <p>お母さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・励ます。 ・看病する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院している間に、お母さんや友達がゆきのために思っていたことやしていたことを考えることを通して、周りの人に支えられて生きていることに気付かせる。 ・友達が病気になったとき、自分は何ができるか、それはどのような思いなのか考えさせることを通して、自分との関わりで考えさせる。 ・呼び掛けの手紙によって、献血をしてくれる人が集まったことを考えることを通して、家族や友達以外にも、支えてくれた人がいたこ

<ul style="list-style-type: none"> ・元気付ける。 <p>4 命の大切さについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎ お母さんに「ゆきは、たくさんの人から、いのちをいただいたのよ。」と言われたゆきは、どのようなことを考えたでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の友達や血液をくれた人のおかげだと思う。 ・家族が支えてくれたから、頑張ることができた。 ・たくさんの人から命をもらったのだから、感謝したい。 ・みんなに感謝してこの命を大切にしようと思った。 ・私は、いろいろな人に命をもらったんだな。私もそういう優しい人になりたい。 	<p>とに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理するために、自分の考えをノートに書かせる。 ・多面的・多角的に考えるために、ペアで話した後、全体で話し合い、多様な考えに触れさせる。 ・命は、自分一人のものではなく、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて、考えさせる。
<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 今日の学習を通して、命の大切さについてどのようなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命は、当たり前にあると思っていたけれど、みんなに支えられて生きているんだと思った。 ・家族のためにも、命は大切。大事にしようと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

ゆきと家族、友達の心情を考えることを通して、命の大切さについて自分との関わりで考えようとしていたか。

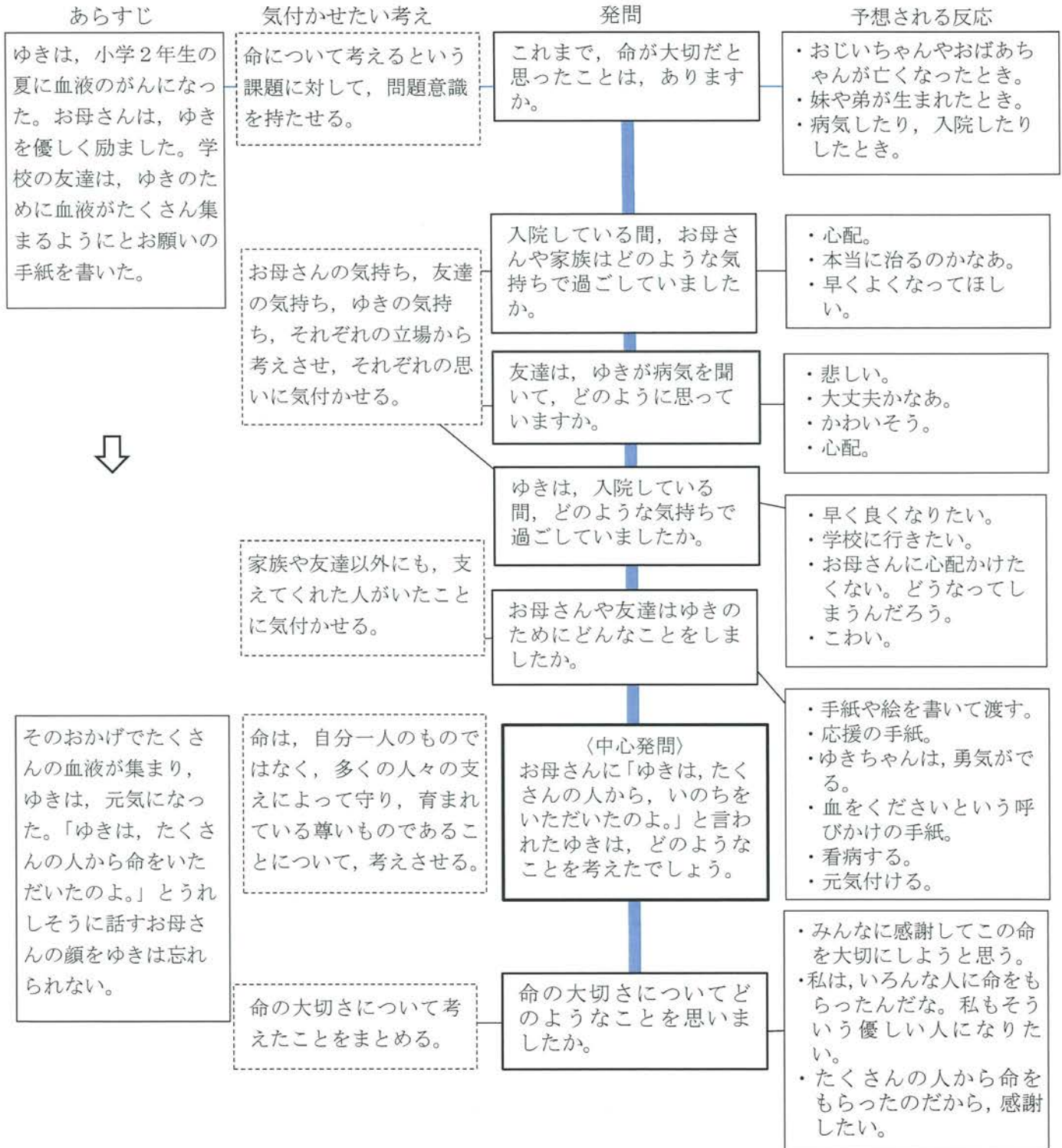
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、登場人物の心情を様々な立場から考えることで、命は、多くの人に支えられて守られていることに気付かせることができる教材である。生命は、自分一人のものではなく、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであるということについて深く考えさせたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

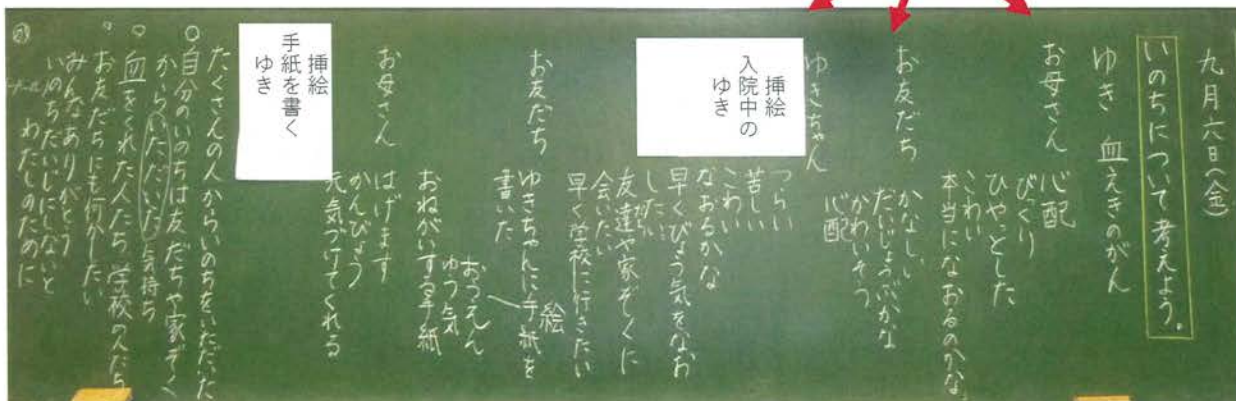
教師：教科書、場面絵

児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

それぞれの立場から考えさせるために、見比べることができるようにした。



(1) 導入

問題意識を持たせた

- 怪我や入院したときの経験を振り返り、その時の自分の気持ちや家族の気持ちを想起させることで本時の「命について考える」という課題に対して、問題意識をもたせることができた。

実際のやり取り

- T 「今まで命が大事だなと思ったことありますか」
- C 「怪我した友達を見て、あー、大丈夫かなと思って」
- C 「はちに刺されたとき、大変だった」
- C 「ぜんそくで入院した」
- T 「入院したときの気持ち覚えてる」
- C 「覚えてる」
- T 「お母さんやお父さんはどんな気持ちなのかな」
- C 「心配していた」
- C 「怪我したときにお父さんに叱られた」
- T 「お父さんが叱った気持ちの奥にどんな思いがあるんだろうね」
- C 「心配している・・・」
- T 「そうだね。きっと心配しているね。今日はね、命についてみんなで考えていきます」

(2) 展開

登場人物の立場に立ちながら考えさせることで、自分との関わりで捉えさせた

ゆきが血液の病気だと聞いたお母さんや学校の友達の気持ちを、自分だったらどのように思うか、想像させながら登場人物の心情を捉えさせた。また、多面的・多角的に考えるために、入院しているゆきの気持ちも考えさせ、それぞれの立場から登場人物の心情を捉えさせた。

- 「自分の友達が入院したら」「自分が入院したら」「入院しているときのお母さんの気持ちは」と問うことで、登場人物に自分を置き換え、様々な側面から考えさせることができた。
- 血液のがんという、児童には馴染みのない病気のため、やり取りの中で治療には、たくさんの血液が必要であり、そのために、学校の友達が献血を呼び掛けるポスターを作ったことや献血をしてくれた人達がいたことに気付かせ、中心発問『たくさんの人から、いのちをいただいたのよ。』とお母さ

んに言われたゆきは、どのようなことを考えたでしょう。」に、つなげることができた。

実際のやり取り

- T 「白血病という病気を聞いたことがありますか」
C 「ない」
C 「テレビで聞いたことがある」
T 「白血病は、治療のためにたくさんの血液が必要になります」
T 「献血という言葉を知ったことがありますか？」
C 挙手
T 「16歳になったら献血することができるんだよ」
T 「血液のがんと聞いたとき、ゆきちゃんのお母さんやお友達はどのようなことを思いましたか」
C 「・・・・・・」（小さなつぶやき）
T 「自分の友達が血液のがんと言われたらどのように思いますか」
C 「こわい、さみしい、悲しい」
C 「すごく心配」
T 「ゆきちゃんが入院している間は、お母さんはどのような気持ちですか」
C 「家の中が暗くなる」
T 「暗くなるということは、どのような気持ちですか」
C 「悲しくなる」
T 「暗くなるって事は、悲しいって気持ちなのですね」
C 「早く治って欲しい」
C 「そばにずっといたい」
T 「どうしてずっとそばにいたいのか」
C 「心配だから」
T 「入院しているゆきちゃんはどんな気持ちで入院していますか」
C 「寂しい」
C 「お母さんや先生に会いたい」
C 「いろんなところへ行きたい」
C 「病気を早く治して学校に行きたい」
C 「勉強して遊びたい」
C 「検査や治療やだ、痛いから」
C 「友達が心配しているから、悪いなあ」
T 「周りの人に心配掛けてわるいなあと、自分も治療しているのに悪いなあって思うの？」
C （うなづく）

(3) 終末

自己の生き方について考えさせた

- 終末では、今日の命の大切さを考える授業を通して、考えたこと、分かったこと、これからどうしたいかをノートに書かせることで、児童がこの時間にどのようなことを大事に思ったのか見取ることができた。

児童の記述

- ・命は本当に本当に大切なんだなと思いました。自分で命を大切にしないとと思いました。ゆきさんの辛い気持ちがととてもとても分かりました。
- ・命は、いろんな人が一緒に守ってくれているんだなあとと思いました。
- ・人の命を守るために、優しい人達がいるんだなあとと思いました。
- ・お互いに、助けたり、助けてもらったりするから、命はとても大事。
- ・命は大事だと思った。誰かの命に関わる仕事をやりたいと思いました。

【主題名】受け継がれる生命 内容項目 「D- (18) 生命の尊さ」

【教材名】バルバオの木 (東京書籍 新しいどうとく4)

<あらすじ> 昔々、広い草原にはたくさんの動物たちがいた。しかし、地球の温度が上がり、雨が降らない日が続き、とうとうバルバオの木一本になってしまった。バオバブの木は、鳥たちに自分の全ての実を与え、シカたちに、全ての葉を与え、ついには、ゾウたちには自分の幹を与えた。バルバオの木はなくなったが、何万年もたち、バルバオの木のあった辺りに、小さな木の芽が生まれた。

【ねらい】

内容項目の理解

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすると
いう道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

生命は大切であることは分かっている。しかし、
自分が他の生き物の命を頂いて生きている
ことを深く理解してはいない。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

受け継がれている生命に気付き、生命ある
ものを大切にしようとする道徳的心情を
育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳 ポイント集
導入	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ みんなが生きるために必要なことは、どのようなことですか。 2 課題をつかむ。 生きることと食べることのつながりについて考えよう。	導入の工夫 自分との関わり
展開	3 教材の内容を把握し登場人物の心情を捉える。 ○ 鳥たちやシカたちは、どのような気持ちでバルバオの実や葉を食べましたか。 ○ ゾウたちは、どのような気持ちでバルバオの幹を食べましたか。 4 生きることと食べることのつながりについて考える。 ◎ バルバオの木は幹をぞうに食べさせているとき、どのようなことを考えていたのでしょうか。	自分との関わり 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 命のつながりで大切だと思うことは何ですか。	終末の工夫

【板書計画】

第○回 道徳

- ・生きるために食べる。
- ・野菜や肉、魚

生きることと食べることのつながりについて、考えよう。

バオバブの木 何十万年も生きています。

バオバブの木の絵

鳥やシカ

- ・やっど、木があった。
- ・食べることができる。
- ・うれしい。
- ・ありがとう。

ゾウ

- ・木の幹を食べたら、バルバオの木は死んでしまう。
- ・食べないと、自分は死んでしまう。
- ・食べていいのかな。

バルバオの木は、自分の木のみきをゾウに食べさせているとき、どのようなことを考えていたのでしょうか。

- ・ゾウが死んでしまったら、かわいそう。
- ・自分の体はなくなっても、また、新しい芽が生えてくる。
- ・ゾウに自分の分も生きてほしい。

だれかのだれかの命はつながっている。命をもらっている。

【評価】

登場人物の心情を考えるを通して、生きることと食べることのつながりについて、自分との関わりで考えようとしていたか。

第4学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)

授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

受け継がれる生命「D-(18) 生命の尊さ」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

受け継がれる生命のたくましさに気付き、生命あるものを大切にする道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「バルバオの木」(新しいどうとく4 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第3学年及び第4学年の「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導事項「(18)生命の尊さ」 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすることを受けている。

生命を大切にして尊重することは、かけがいのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。生命とは、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、更には人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉える。生命の尊さについての理解を深めるために、生命は自分一人だけのものではなく、連綿と受け継がれてきたものであることや、自然の中で支えられ、育まれてきたものであることに気付くようにする。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、人命救助の話題などから生命の大切さについてある程度は理解しているものの、実感を持って生命の尊さを捉えるまでには至っていない。また、食べることは、他の生き物の生命をいただいているということまで深く考える機会は少ない。そこで、児童にとって身近な「食」を通して、生命の支えなしに生きられない事実や、連綿と受け継がれる生命のたくましさを感じ得ることで、命あるものを大切にする道徳的心情を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、樹齢何十万のバルバオという大木が、飢えに苦しむ鳥やシカ、ゾウたちに、実や葉、最後には自分自身の幹を投げ出し、動物たちの危機を救うという創作の話である。バルバオの木が、自分を投げ出してまで、動物たちを救ったのは、どのような気持ちからなのかを深く考えさせるようにする。そして「食」と「生命」のつながりに気付かせ、生命は自分一人だけのものではないことを深く考えさせたい。

教材の活用に当たっては、鳥、シカ、ゾウのそれぞれの気持ちを考えさせてから、バルバオの木が自分を犠牲にしてまで動物達を助けようとしたことについて考えさせる。その上で、生きることと食べることとのつながりや、生命の連続性について考えることができるようにする。そして生きることの尊さや生命の大切さに気付かせ、どのような生命も大切にしようとする道徳的心情を育てたい。

4 学習指導過程

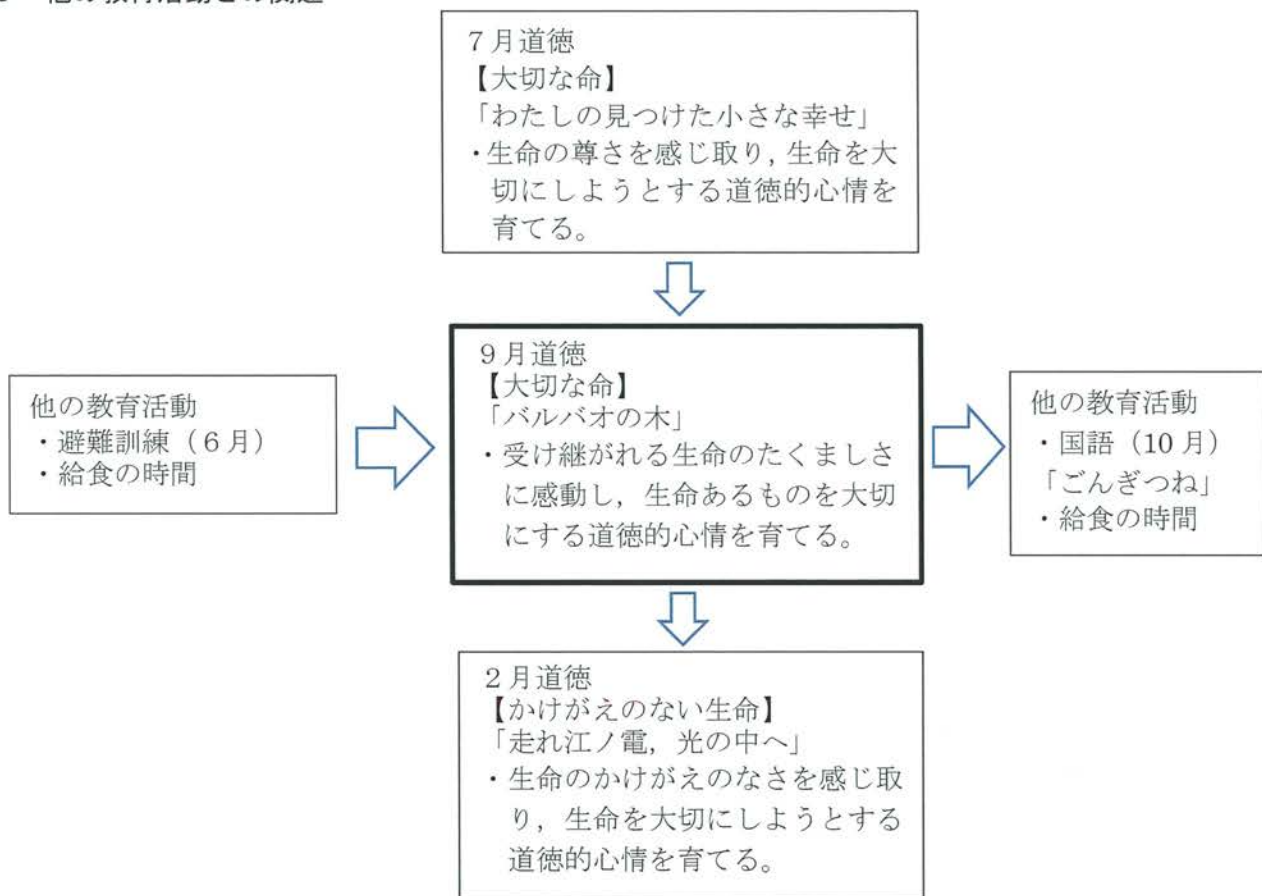
	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 生きるために必要なことは、何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べること。 ・肉や魚，野菜。食べ物。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生きることと食べることのつながりについて、考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題につなげるために、児童が考える必然性がある問題を提示する。 ・当たり前、食べていることは実は、生きるために必要なことだと、意識を持たせる。
展開 前段 15分	<p>3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 鳥やシカたちは、どのような気持ちでバルバオの木の実や葉を食べたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっと、木があった。 ・食べることができる。 ・うれしい。 ・ありがとう。 <p>○ 木の幹を食べなさいと言われたときの象の気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の幹を食べたら、バルバオの木は死んでしまう。 ・食べないと、自分は死んでしまう。 ・食べていいのかな。どうしよう。なやむなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに内容について話し合うことができるように、事前に教材を読ませておく。 ・食べるものがなくて、飢えて苦しんでいる時の動物達の気持ちを考えさせて、感謝して実や葉を食べていることに気付かせる。 ・多面的・多角的に考えさせるために、象が木の幹を食べるということは、バルバオの木がなくなってしまうことを捉え、象の葛藤する気持ちを考えさせる。 ・食べるか食べないかについて葛藤させるために、問い返しの発問を用意する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べたら、木はなくなってしまうですよ。どうしますか。 ・食べないと、象は死んでしまいますよ。どうしますか。 </div>
展開 後段 20分	<p>4 生きることと食べることのつながりについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ バルバオの木は、自分の木のみきをゾウに食べさせているとき、どのようなことを考えていたのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体はなくなってしまうても、また、新しい芽が生えてくるから食べてほしい。 ・ゾウに自分の分も生きてほしい。 ・自分の体は、なくなってしまうてもゾウの体の中で生きているから、食べてもらいたい。 ・ゾウが生き延びることができるのなら、自分は、長く生きているから、犠牲になってもいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理するために、自分の考えをノートに書かせる。 ・多面的・多角的に考えるために、ペアで話した後、全体で話し合い、多様な考えに触れさせる ・前の段階で、象は木の幹を食べないと死んでしまうことを理解しているから、今度は、同じように象に生きてもらうためには、自分の体を与えなければならないことに葛藤させる。 ・葛藤させるために問い返しの発問を用意する <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べさせたら、自分はいなくなりますよ。 ・木は、象にどうしてほしいのだろう。 </div>

終 末 5 分	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 命のつながりで大事だと思うことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも水や食べ物を粗末にしないで、全てを大切にしたいです。 ・これからは、食べ物を大事に食べようと思いました。 ・命の大切さを学び、私もバルバオの木のように命を大切に生きていきたいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。
------------------	---	---

【評価】

登場人物の心情を考えることを通して、生きることと食べることとのつながりについて、自分との関わりで考えようとしている。

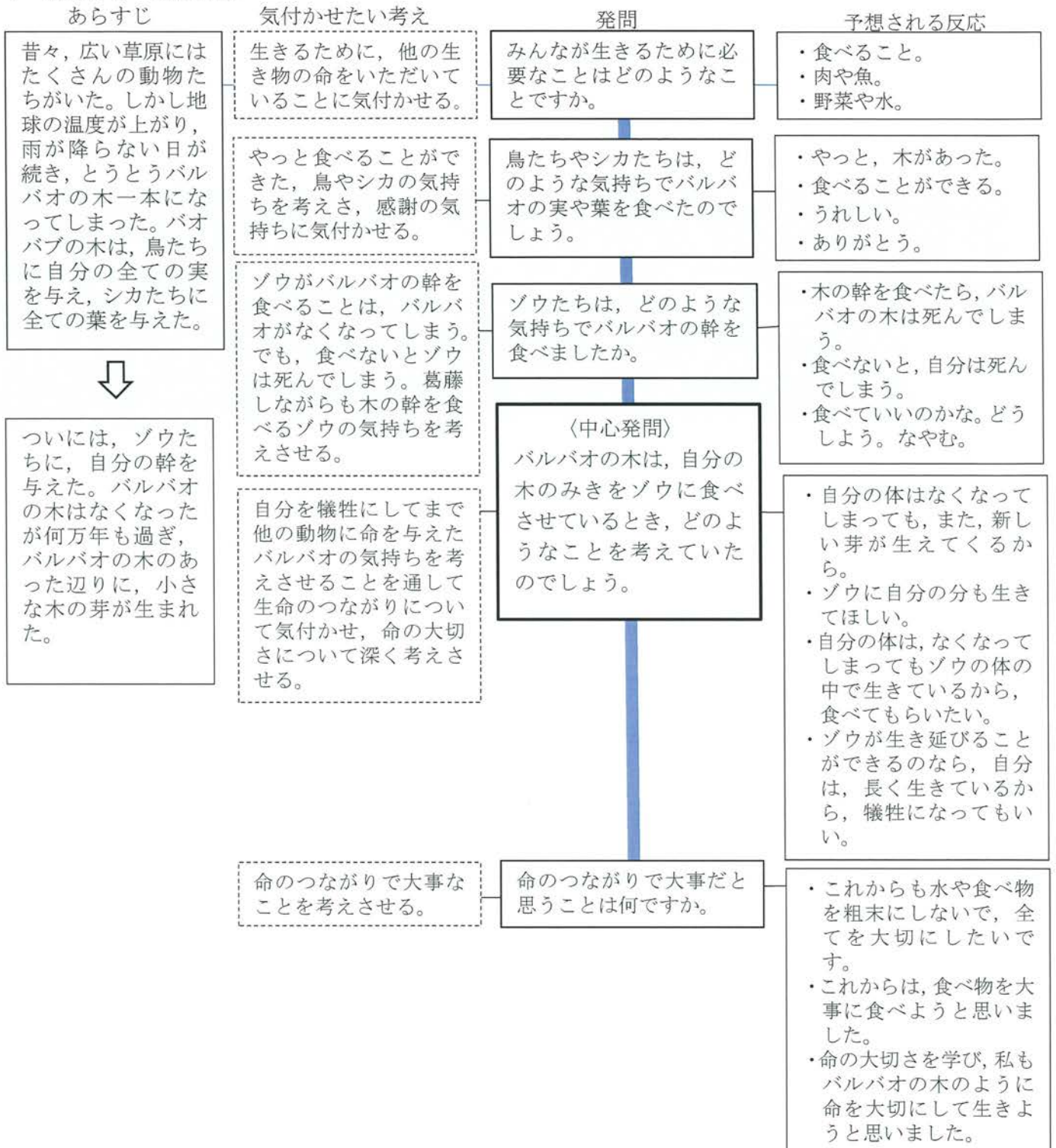
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、食べることと生きることのつながりを考えることができる教材である。児童は、生命は大事なものだとは観念的には分かっているが、実感はあまり伴っていない。また、他の生き物の命をいただいていることを意識はしていない。そこで、食べるということは、他の生き物の命をもらうことであり、その上で、自分達は生きているということや、生命のつながりがあるということに気付かせ、生命あるものすべてを大切にしようという気持ちを育てたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

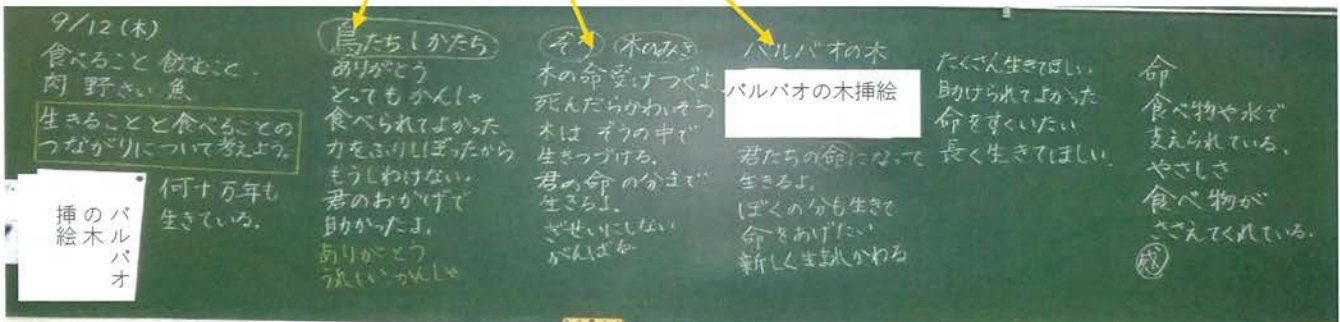
教師：教科書，場面絵

児童：教科書，ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

それぞれの立場から気持ちを考えさせ、
見比べることができるようにした。



(1) 導入

生きるために食べていることを確かめ、生きることと食べることへの問題意識を持たせた

私たちが生きるためには、他の生き物の命をいただいているということを導入で確かめ、生命のつながりについて意識を持たせるために、「みんなが生きるために必要なことは何ですか」と問い掛けた。

- 肉や野菜を食べるということは、他の生き物の命をもらっているんだということに、改めて気付くことができ、「生きることと食べることをつながりについて考えよう」という課題に対して、問題意識を持たせることができた。

実際のやり取り

T「今日は、生きることについて考えていきます。生きるために必要なことは何でしょう」

C「命」

T「うん、命がないと生きていけないね。生きるために必要なことについて、隣の人と話してみよう」

C「口」

T「口ってどういうこと？」

C「口は、食べ物や飲み物が入るところ」

C「食べる必要があります」

T「どのようなものを食べていますか」

C「肉や魚、野菜を食べています」

T「私たちは、他の生き物の命を食べて生きています。食べることで体がつくられています。今日は、生きることと食べることをつながりについて考えていきます」

(2) 展開

登場人物の立場に立たせながら考えさせることで、自分との関わりで捉えさせた

鳥たちやシカたちが、どれぐらい飢えているのかを想像させ、バルバオの木が与えてくれた木の实や葉が、どれだけ有り難いものであり、それを食べたときに、どのような気持ちが湧いてくるのかを

考えさせた。ゾウが木の幹を食べるということは、バルバオの木の命はなくなってしまうことを想像させてから、木の幹を食べたゾウの気持ちを考えさせた。その上で、中心発問「バルバオの木は、自分の幹を象に食べさせながら、どのようなことを考えていたのでしょうか」につなげた。

- 鳥やシカたちが木の実や葉を食べたときには、「ありがとう」という感謝の言葉が多かった。しかし、ゾウの場面では、自分が食べるとバルバオの木が死んでしまう、食べないとゾウが死んでしまうという葛藤場面であるため、感謝の気持ちだけでなく、「バルバオの木の分も生きるよ」「無駄にはしないよ」という言葉も付け足され、深く命のつながりについて考えさせることができた。
- 中心発問までに、それぞれの立場で深く考えさせていたことで、バルバオが自分を犠牲にして命を与えた意味について、様々な側面から考えさせることができた。

児童の考え

- ・君たちの命となって生きるよ。
- ・僕の分も生きてほしい。
- ・僕は、何十万年も生きたから僕の命をあげるよ。
- ・新しい芽となって、生まれ変わるよ。
- ・他の動物を助けることができてよかった。
- ・たくさん生きてほしい。
- ・助けることができてよかった。
- ・ゾウやシカや鳥たちの役に立ててよかった。これから、長く生きてほしい。

(3) 終末

自己の生き方についての考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

- 終末では、「命のつながりで大切だと思うことは何か」と、授業を通して、考えたこと、分かったこと、これからどうしたいかをノートに書かせることで、児童がこの時間にどのようなことを大事に思ったのか見取ることができた。

児童の記述

- ・今日の授業で、命の大切さについて知りました。これからも水や食べ物を粗末にしないで、全てを大切にしたいです。
- ・たくさん命について考えて、命の大切さを知ることができてよかったです。
- ・これからは、食べ物を大事に食べようと思いました。
- ・命の大切さを学び、私もバルバオの木のように命を大切に生きていきたいと思いました。
- ・生きることを大切についてかんがえました。これから、命を大切にしていきたい。
- ・命というものは、一人に一つしかないから大切にしていこうと思いました。
- ・命の大切さについて、真剣に考えることができました。
- ・動物や人間は、食べ物や水やいろいろなもので支えられているんだなと思いました。
- ・生きることも食べることも大切だけど、気持ちは優しさが一番大切だなと思いました。なぜなら、バルバオの木の優しさがなければ、他の動物たちは生きることができなかったから。

【主題名】よりよい友達関係 内容項目 「B-(9) 友情, 信頼」

【教材名】大きな絵はがき (東京書籍 新しいどうとく4)

<あらすじ> 広子宛てに、転校した正子から料金不足の絵はがきが届く。返事を書くときに、兄は「料金不足を正子に教えた方がよい」母は「お礼だけ伝えた方がよい」と言い、広子はどのようにしたらよいのかと迷い、今まで正子と一緒に過ごした日々を思い返し、料金不足を知らせることにした。

【ねらい】

- ☑ 内容項目の理解
友達と互いに理解し、信頼するという道徳的価値について指導する。
- ☑ 児童生徒の実態把握
少人数の学級のため、気心は知れている。しかし、友達関係が固定していて変化はないため、その後の人間関係を気にして友達に注意できない様子が見られる。

☑ 本時のねらいを設定する

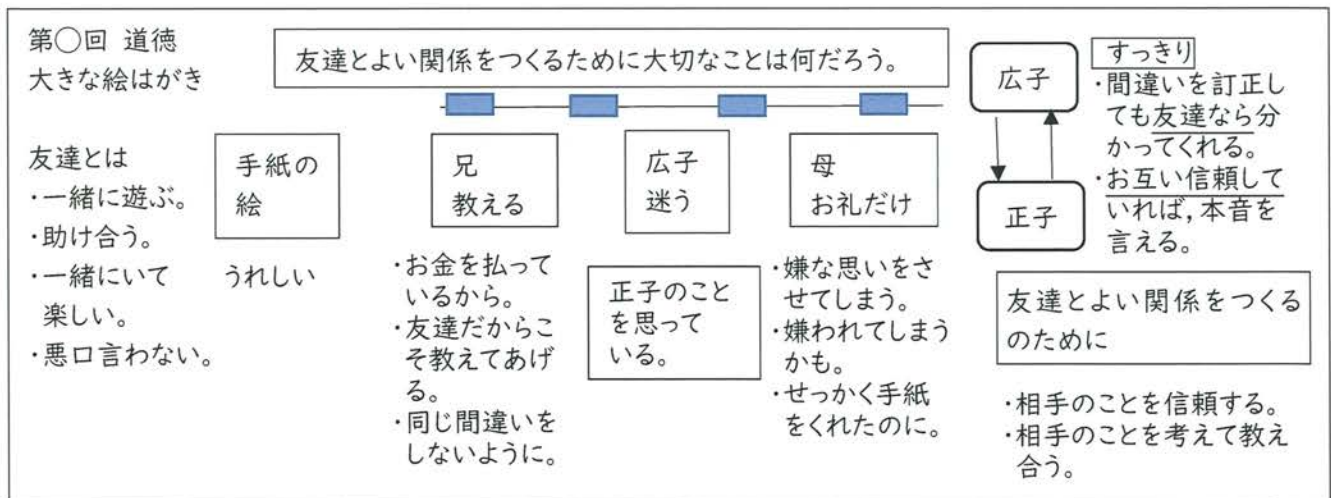
判断力 心情 実践意欲 態度

互いに信頼し、ときには注意し合いながら、よりよい友達関係を築こうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ 友達とは、どのような人ですか。 2 課題をつかむ。 友達とよい関係をつくるために大切なことは何だろう。	導入の工夫 問題解決的な学習
	3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を捉える。 ○ なぜ、広子さんは迷っているのでしょうか。 ○ お兄さんは、どうして教えた方がいいと言ったのでしょうか。 ○ お母さんは、どうしてお礼だけでいいと言ったのでしょうか。 ○ どちらにも共通している思いや考えは何だろう。 4 友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えについて話し合う。 ◎ あなたが広子の立場だったらどうしますか。理由も考えましょう。	自分との関わり 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えは何ですか。	

【板書計画】



【評価】

友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えについて、自分との関わりを通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

第4学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 教諭 〇 〇 〇 〇

1 主題名 よりよい友達関係「B-(10) 友情, 信頼」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

互いに信頼し、ときには注意し合いながら、よりよい友達関係を築こうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「大きな絵はがき」(東京書籍 新しいどうとく4)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第3学年及び第4学年の「B 主として人との関わりに関すること」の指導事項「(10) 友情, 信頼」友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うことを受けている。

「友達」とは、家族以外で特に深い関わりを持つ存在であり、「友達関係」とは、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、世代が同じ者同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考え方などを交え、豊かに生きる上での大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、信頼し、助け合い、信頼感や友情を育んでいこうとする実践意欲と態度を育むことが大切である。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、幼少期から友達と関わり合いながら成長してきた。友達と仲良く活動するだけでなく、けんかをして仲直りをしながら、友達関係を築いてきている。この時期の児童は、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくり、自分たちの世界で楽しもうとする傾向があり、集団での活動などが盛んになる。しかし、学級の人数が少ない場合は必ずしも気の合う仲間がいるとは限らず、互いを理解しながら、助け合って集団生活を送ることが大切である。そこで、友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感できるような道徳的実践意欲と態度を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、転校した友人から、料金不足の絵はがきが届いたことで、料金不足を教えるか、お礼だけにするか、主人公が葛藤する話である。広子は、転校した正子から大きな絵はがきが届き喜んだ。しかし、兄は、「同じ失敗を他の友達にはいけないから、正子に料金不足を教えた方がよい」と言った。悩んだ広子が、母に相談したところ、「正子が嫌な気持ちになるからお礼だけにした方がいい」と言った。広子は、正子に返事を書こうとしてどうしたらよいか迷う。迷う中、今までの正子と過ごした日々を思い出し、正子ならきっと料金不足を教えても、嫌な気持ちにならず、分かってくれると信じて、教えることにした。

本時の指導に当たっては、前段では、手紙が届いてうれしい広子の気持ちに共感させてから、広子が迷っている場面を取り上げ、料金不足を教える場合とお礼だけにする場合の思いをそれぞれの立場で考えさせる。どちらの立場も正子のことを思って迷っていることを捉えさせ、友達のためにどうすることがよいのか、多様な考えに触れさせながら自分との関わりで考えさせる。後段では、前段で考えたことを基に、自分ならどうするか理由も考え、多面的・多角的に友達とよい関係をつくるために大切な思いについて考えを深めさせる。また、広子が正子に手紙を書く場面を取り上げ友達を信頼し、友達のためを思うからこそ、正しいことを伝えるという思いに気付かせたい。

4 学習指導過程

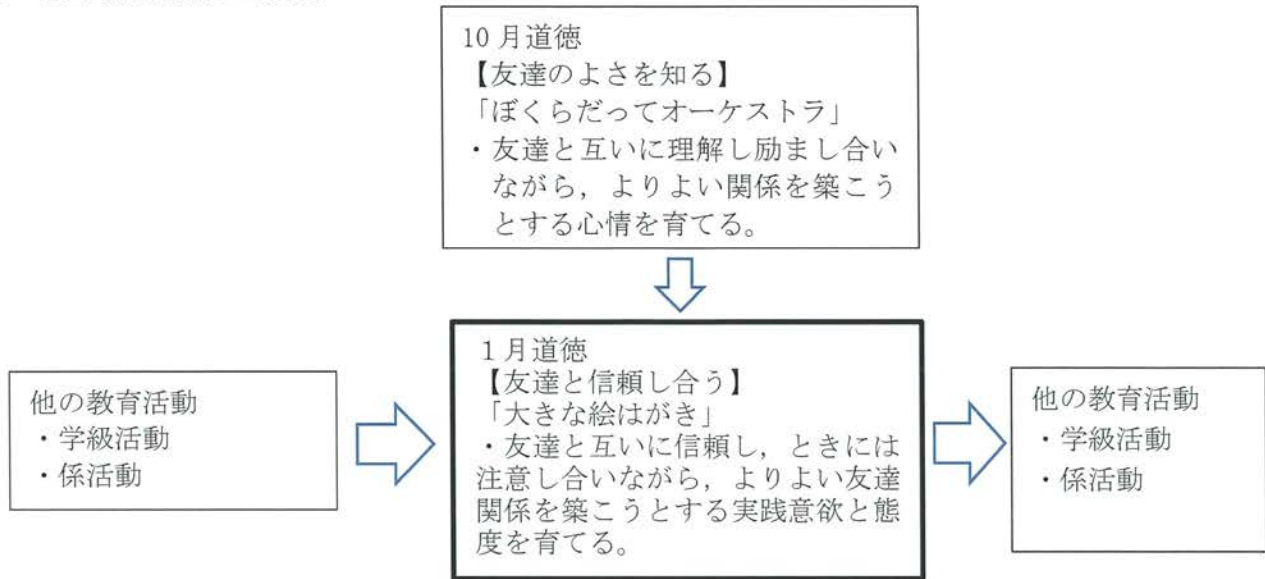
	<p>学習活動 (○主な発問 ・予想される児童生徒の反応)</p>	<p>指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 友達とは、どのような人ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊ぶ。・楽しい人・助け合う ・悪口を言わない。 <p>○ 楽しく遊ぶ人だけが友達でいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離れていても友達 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友達とよい関係をつくるために大切なことは何だろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、友達とはどのような人なのかをこれまでの生活経験から想起させる。その際、一緒に遊ぶだけが友達ではないことに気付かせる。 ・友達とのよい関係とはどのような関係なのかそのためにどのような思いや考えが大切なのかを考えることを知らせる。
<p>展開 前段 20分</p>	<p>3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ なぜ、広子さんは迷っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教えた方がよいのか、教えない方がよいのか分からないから。 <p>○ お兄さんは、どうして教えた方がよいと言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お兄さんは、お金を払っているから。 ・友達だからこそ、正しいことを教えた方がよいから。 <p>○ お母さんは、どうしてお礼だけでいいと言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかくはがきをくれたのに、間違いを伝えたら、嫌な思いをさせるから。 ・間違いを指摘したら、嫌われてしまうかもしれないから。 <p>○ どちらにも共通している思いや考えは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正子のために考えている。 ・友達だからこそという、広子と正子の友達関係のことを思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容を理解させるために、料金不足のはがきとは、どのようなはがきなのか、実物を用意し、説明をしてから範読をする。 ・料金不足を教えるかどうか迷っている場面を考えさせるために、教材は前半だけを読む。 ・よりよい友達関係について、多面的・多角的に考えさせるために、兄の考え方、母の考え方のどちらも考えさせる。 ・なぜ、兄は料金不足を教えた方がよいと言ったのか考えさせる。 ・お金を払ったという事実だけに偏った場合の問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・お金のことだけですか。他にはないですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、母はお礼だけにした方がよいと言ったのか考えさせる。 ・料金不足をことで、相手に嫌な思いをさせないか、自分は嫌われてしまうのではという不安があることだけに偏った場合の問い返し <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・間違いを指摘されたら、友達を嫌いになりますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教えた方がよい、お礼だけがよいという表面的なことではなく、その行動の根拠となる思いは、広子と正子の友達関係のことを考えているということに気付かせる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開後段 15分</p>	<p>4 友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えについて話合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ あなたが広子の立場だったら、どうしますか。理由も考えましょう。</p> </div> <p>お礼だけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いを伝えるのは言いにくいから、お礼だけにしておきたい。 ・嫌われないとは、言い切れないから。 <p>教える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達だったら、間違いを伝えても嫌われることはないから。 ・きっと、本当の友達なら間違いを受け止めてくれると思うから。 ・同じ間違いを他の友達にもしてしまうかもしれないから。 <p>迷う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教えた方がよいことは、分かるけれど、料金不足でしたとは言いにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兄、母、どちらの考え方が自分に近いか考えさせ、ネームプレートを活用し、心情スケールに貼る。 ・自分ならどうするか理由も考えさせ、全体で話し合い、多様な考えに触れさせる。 ・深く考えさせるための問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が正子だったら、どうしてほしいですか。 ・教えてもらわなかったら、どのように思いますか。 ・教えてもらったら、どのように思いますか。 ・今まで、間違っていることを教えたことはありますか。 ・今まで教えようと迷って教えられなかったことはありますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも、広子と正子の友達関係のことを考えているからこそ悩むのだということをつまみさせ、どうすることがよい友達関係を築くために大切なことなのか自分の考えを持たせる。 ・教材の後半部分を読むことを通して、広子の選択に触れさせる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末 5分</p>	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えは何でしょう。今までのことを振り返ったり、今日考えたことを付け足したりしながら、ノートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、なかなか本当のことを言えなかったけれど、相手を信頼して伝えようと思う。 ・友達にとってどうしたら一番いいのか考えて行動することが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

友達とよい関係をつくるために大切な思いや考えについて、自分との関わりを通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

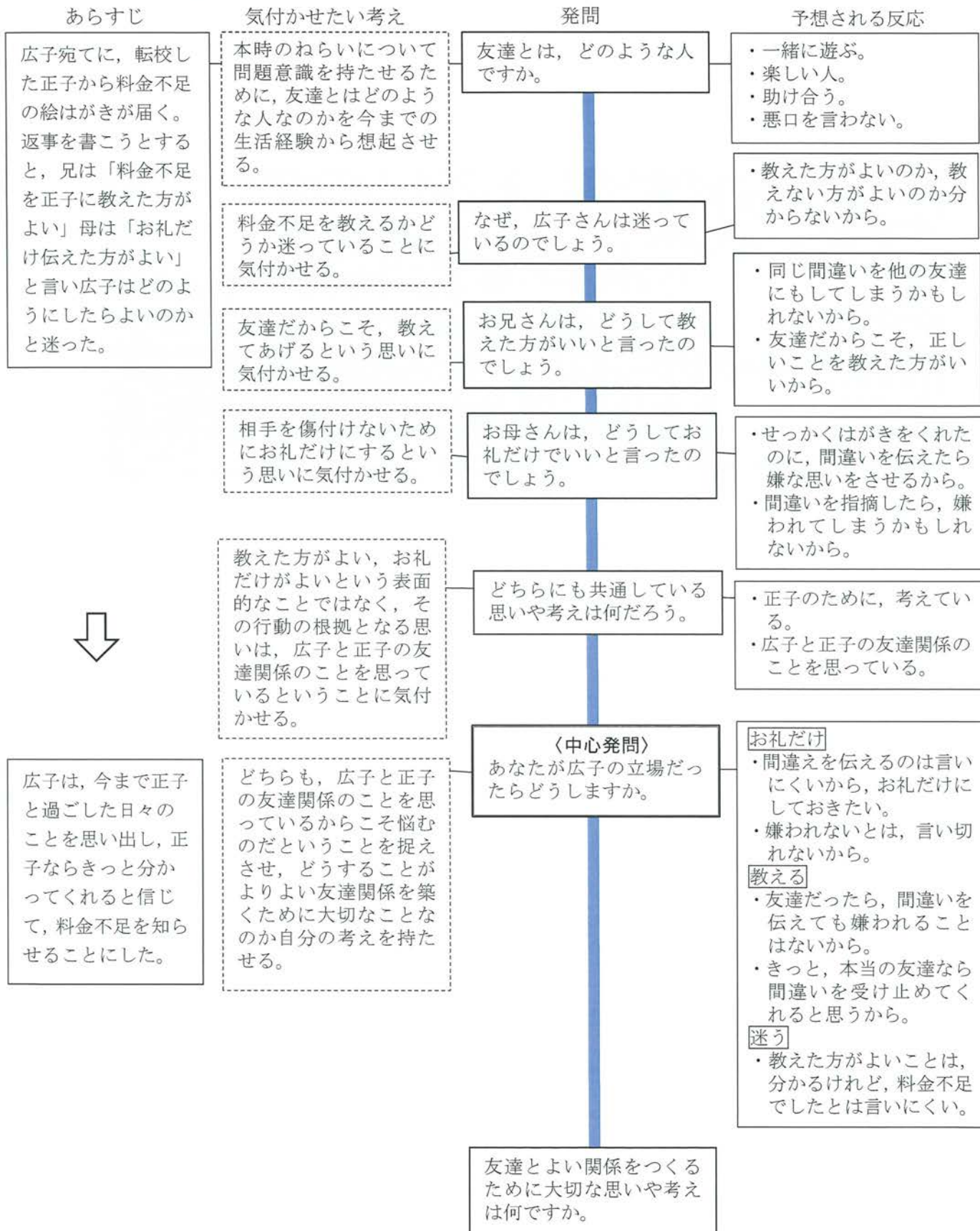
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【統合】

「友情・信頼」という道徳的価値について、児童はこれまでの生活経験を通して学んできている。本時は、児童の実態を踏まえて、よりよい友達関係とは、楽しいことを共有するだけでなく、ときには、友達のことを考えて、間違いを伝えることも大切だということに気付かせたい。間違いを伝えるという行為には、お互いに信頼していることや、伝える勇気が必要であること、正直であることなど複数の道徳的価値が関連することが考えられる。よって、本時は、それらの道徳的価値を統合し友情、信頼について、捉え直すことができるようにする。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

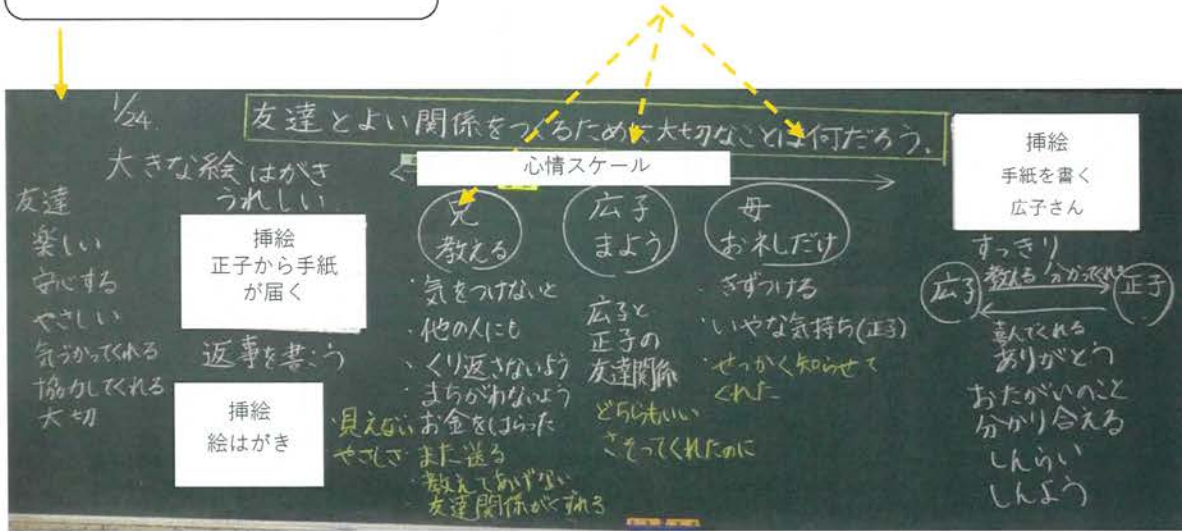
教師：教科書、場面絵、定形外のはがき
 児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

ねらいとする道徳的価値に関する問題意識を持たせる。

兄、母、広子の考えが分かるようにし、多面的・多角的に考えたことを示した。



(1) 導入

授業開始時に、ねらいとする道徳的価値に関する児童の考えを発表させた

- 友達とはどういう人か児童の考えを発表させ、離れても友達であることを確かめた。その上で、ずっと一緒に過ごしてきた友達とよい関係を作るために大切なことは何かという本時の課題につなげた。

児童との対話記録

- T 友達ってどのような人ですか。
 C 大切。
 T 一緒にいてどういう人ですか。
 C 楽しい。安心する。優しい。
 T 他にありますか。隣の友達と話してみても。
 C 気遣ってくれる。協力してくれる。
 T みんな、転校したお友達がいると言っていたけれど、離れてしまったら友達じゃなくなる？
 C 離れても友達。
 T 今日、友達について考えていくよ。
 T 今日の課題は、「友達とよい関係をつくるために大切なことは何だろう」です。みなさんは、ずっと一緒に過ごしている友達ですね。その友達とよい関係をつくっていくために大切な思いや考えについて、先生とみなさんで一緒に考えていきましょう。

(2) 展開

教材を前半と後半で分割読みをした

- 料金不足を教えるかどうか迷っている場面を考えさせるために、教材は前半だけを読み、問題場面を捉えさせたら教科書を伏せて考えさせた。そうすることで、教材に書かれていない登場人物の発言の根底にある思いを、自分の生活体験に照らし合わせながら考えを発表させることができた。

多面的・多角的に考えさせるために、兄と母どちらの立場でも考えさせる

- よりよい友達関係について、多面的・多角的に考えさせるために、兄の考え方、母の考え方のどちらも考えさせることで、どちらも広子と正子のことを思っていることに気付かせ、行為の根底にある思いについて考えさせることができた。話し合う中で、広子を自分に重ねて、考えを話し合う様子がたくさん見られた。

自分との関わりで考えさせるために、心情スケールを活用

- 兄、母、どちらの考え方が自分に近いか考えさせ、ネームプレートを活用し、心情スケールに貼ることで、自分はどちらの考えに近いのか、どうして悩むのかということ自分のこととして考えさせることができた。また、理由も考えることで「教える」「お礼だけ」「悩む」の根底にある思いは、それぞれ違うことに気付かせ、多様な考えを引き出すことができた。
- ネームプレートを活用したことで、決めるまでに悩んだり、一度決めた考えを見つめ直したりするなど、思考の流れが見えるようになった。その児童の様子から意図的に指名して、迷っている児童の本音の部分を引き出すことができた。

(3) 終末

自己を見つめた

- 終末では、課題「友達とよい関係をつくるために大切なことは何だろう」を振り返り、今日の授業を通して、考えたこと、分かったこと、友達の考えでいいなと思ったこと、これからどうしたいかをノートに書かせることで、児童がこの時間にどのようなことを大事に思ったのか見取ることができた。

- ・よい関係をつくるには、相手のことをしっかりと考え、間違っていることや、なやんでいることなどを教えてあげたいと思います。
- ・友達のやさしさや思い、自分の気持ち、思ったことはちゃんと相手に伝わるように、まず考えるのは「相手はどう思っているか」だと思います。今日考えたことを活用して、みんなとたくさん仲良くしたいです。
- ・自分も広子さんのように友達を信らいして、自分の思ったことを書こうと思いました。相手の気持ちを考えて話せばいいと思います。
- ・友達は、信らいできるから、友達と言えろと思いました。不安やなやみ事があっても、友達だからこそ言えろと思いました。友達は、とてもありがたいと思いました。
- ・自分がもし教えてもらったなら、もっと仲良くなるなと思いました。広子さんがまようのは、当たり前なことだと思いました。
- ・友達が間ちがっているときは、注意するのが本当のやさしさだと思いました。それに、相手の気持ちを考えながら、注意すると友達とよい関係になれると思いました。
- ・ぼくも、もし間ちがえたことがあったら教えてほしいし、ぼくが「ありがとう」と言ったら、信らい関係がさらに上がると思いました。もし、こんなことが起きたら、みんなで今日話したことを見本にしたいと思います。そして、ぼくの友達の信らい関係も上げたいと思います。

【主題名】 かけがいのない生命 内容項目 「D- (19) 生命の尊さ」

【教材名】 コースチャぼうやを救え (東京書籍 新しい道徳5)

<あらすじ> 1990年、旧ソビエト連邦で大やけどを負った3歳のコースチャ坊やを治療してほしいとサハリン州知事から北海道知事に連絡がきた。坊やの命はあと数十時間と言われ、国境を越えて治療が始まった。日本内外の励ましと必死の治療で坊やの命は救われた。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

生命が多くの人々のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

生命が大事だということは分かっているが、家族や友達に限られていることが多く、異国の少年の命を大切にしようとする機会が少ない。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自他の生命を尊重し、かけがえのない命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 ICTを活用し、教材の内容に興味・関心を持たせる。</p> <p>○ みなさん、サハリンという場所を知っていますか。</p> <p>○ 今までに、やけどや大けがをしたことがありますか。その時、家族はどうしましたか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>人の命を守ることの大切さについて考えよう。</p>	<p>導入の工夫</p> <p>教材の活用</p>
展開	<p>3 教材の内容を把握し、状況を捉える。</p> <p>○ コースチャぼうやの大やけどを知った人達は、どのようなことをしましたか。</p> <p>○ コースチャぼうやの命が救われたのはなぜでしょう。</p> <p>4 自他の生命を尊重するために必要なことは何か考える。</p> <p>◎ みんなを動かしたものは、何でしょう。</p>	<p>多面的・多角的</p>
終末	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 現在のコースチャぼうやの資料があります。資料を聞いてどのように思いましたか。</p> <p>○ 人の命を大切にするために大切な思いは何ですか。</p>	<p>終末の工夫</p> <p>教材の活用</p>

【板書計画】

第○回 道徳 人の命を守ることの大切さについて考えよう。

サハリンの場所を示す地図

- ・サハリン州知事から北海道知事に連絡。
- ・外務省や北海道庁がパスポート、ビザなし入国の手配。
- ・札幌医科大学の医師が治療。
- ・励ましの手紙や見舞金が届く。
- ・両親が必死に看病する。

救われたのはなぜ

- ・なんとかして、助けたいと思った人がたくさんいた。
- ・応援の手紙がコースチャ坊やを勇気付けた。
- ・家族だけでなく、周りの人達の助けたいという思いが強かったから。

みんなを動かしたもの

- ・なんとしても助けようという、家族だけでなく、家族以外の人達の思い。
- ・国は違っても、救おうとする行動。
- ・一人一人の優しさ。

↓

人の命を大切にするために

【評価】

自他の生命を守ることの大切さについて考え話し合うことを通して、生命を救い守り抜こうとする人間の尊さに気づき、自他の生命を大切にしようと考えようとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
 授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

かけがいのない生命「D-(19) 生命の尊さ」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自他の生命を尊重し、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 教材名

「コースチャぼうやを救え」(東京書籍 新しい道徳5年)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、学習指導要領解説特別の教科道徳編小学校第5学年及び第6学年の「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導事項「(19)生命の尊重 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」を受けている。

ここでいう生命とは、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、さらには人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えている。主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心となるが、生きているもの全ての生命の尊さも大切に考えなければならない。この時期の発達段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、これまでの学習を通して、生命は唯一無二であることや自分一人のものではなく、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであるということを考えてきた。また、病気や怪我をしたときの様子から、一つしかない生命の尊さを知り、今ある命は、先祖代々受け継がれてきているということを理解している。自分や自分の身近な人の命は大切だと理解しているが、全ての生命を尊重しているかといったら、そうではない。そこで、家族や仲間とのつながりの中で共に生きることすばらしさや、生命救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な面から生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を尊重し、かけがえのない生命を大切にしようとする道徳的心情を育てることが必要であると考えた。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、1990年に旧ソビエト連邦で大やけどを負った3歳のコースチャ坊やを札幌医大病院の医師団が全力を挙げて治療を行う話である。サハリン州知事から北海道知事に連絡が届いたときには、あと数十時間の命と言われ、パスポートなし、ビザなしで入国を認め、救助要請があつてから13時間後には、医師団がサハリンへ向けて飛び立った。医師団の必死の治療とそれを知った日本全国の人から励ましの手紙や見舞金相次いで寄せられた。そして、コースチャ坊やは、元気になりソビエト連邦に戻っていった。

本時の指導に当たっては、授業当日の朝、児童に事前に読ませておき、内容を理解させすぐに話し合いに入ることができるようにする。授業では、1990年当時の日本と旧ソビエト連邦の関係やサハリンからの距離に触れ、国境を越えて一人の少年を救った周りの人達の思いはどのような思いだったのか、また、どのような行動をしたのかを考え、生命の尊重について深く考えさせたい。

4 学習指導過程

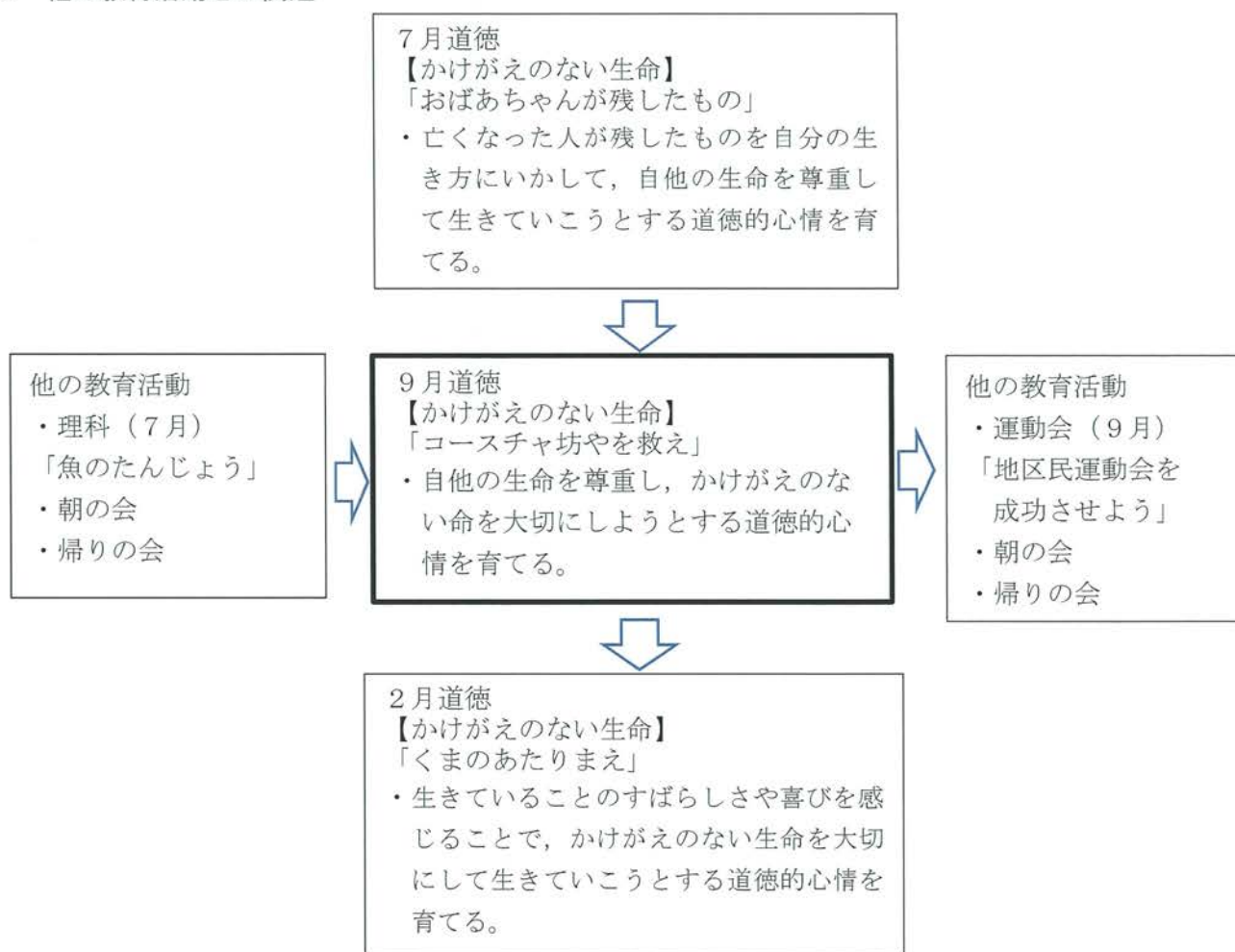
	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 7分	<p>1 ICTを活用し、教材の内容に興味・関心をもたせる。</p> <p>○ みなさん、サハリンという場所を知っていますか。</p> <p>・分からない。どこだろう。</p> <p>○ やけどや大けがをしたことがありますか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>人の命を守ることの大切さについて考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教材の内容を把握するために、プレゼンテーション資料を活用する。 プレゼンテーション資料を通して、サハリン、モスクワ、札幌の場所を確かめ、なぜ札幌で治療しなければならなかったのかを考えさせる。 今までの生活を振り返らせ、本時の課題をつかむために、やけどや大けがをしたときの自分自身の痛みや、家族が心配していたことなどを想起させる。
展開 前段 20分	<p>3 教材の内容を把握し、状況を捉える。</p> <p>○ コースチャ坊やの大やけどを知った人達は、どのようなことをしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サハリン州知事から北海道知事に連絡。 ・外務省や北海道庁がパスポート、ビザなし入国の手配。 ・札幌医科大学の医師が治療。 ・励ましの手紙や見舞金が届く。 ・両親が必死に看病する。 <p>○ コースチャ坊やの命が救われたのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとかして、助けたいと思った人がたくさんいた。 ・応援の手紙がコースチャ坊やを勇気付けた。 ・家族だけでなく、周りの人達の助けたいという思いが強かったから。 ・みんながあきらめないで助けようと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> すぐに話合いに入ることができるように、朝の読書の時間に事前読みをさせておく。 教材の内容を把握し、状況を捉え、当時の日本とソビエト連邦との国境の状況、行われた治療がどれだけ大変だったかということを実感させるために、プレゼンテーション資料を活用する。 あと数十時間と言われた命が助かった理由を考えることを通して、当時の人々の坊やを助けたいという気持ちと、助けるためにはどうすればよいのか考えて行動に移したことに気付かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問い返しの発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースチャ坊やを救うには、簡単ではなかったですね。 </div>
展開 後段 10分	<p>4 自他の生命を尊重するために必要なことは何か考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ みんなを動かしたものは、何でしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとしても助けようという、家族だけでなく、家族以外の人達の思い。 ・国は違っても、救おうとする行動。 ・一人一人の優しさ。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを整理させるために、ノートに自分の考えを記入させる。 たくさんの人を動かした根底にある思いを多面的・多角的考えさせるために、グループで話合った後に、全体で発表し考えを共有する。

終 末 8 分	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 現在のコースチャ坊やの資料があります。資料を聞いてどのように思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命が助かって良かったな。きっと、みんなに感謝して生きていると思う。 <p>○ 人の命を大切にするために、大事だと思うことはどのようなことでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書には、現在の様子は紹介されていないが、資料から現在の様子を伝え、当時のコースチャ坊やに関わった人達のたくさんの行動や思いの結果、今のコースチャがあることに気付かせる。 ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。
------------------	--	--

【評価】

自他の生命を守ることの大切さについて考え話し合うことを通して、生命を救い守り抜こうとする人間の尊さに気づき、自他の生命を大切にしようと考えようとしていたか。

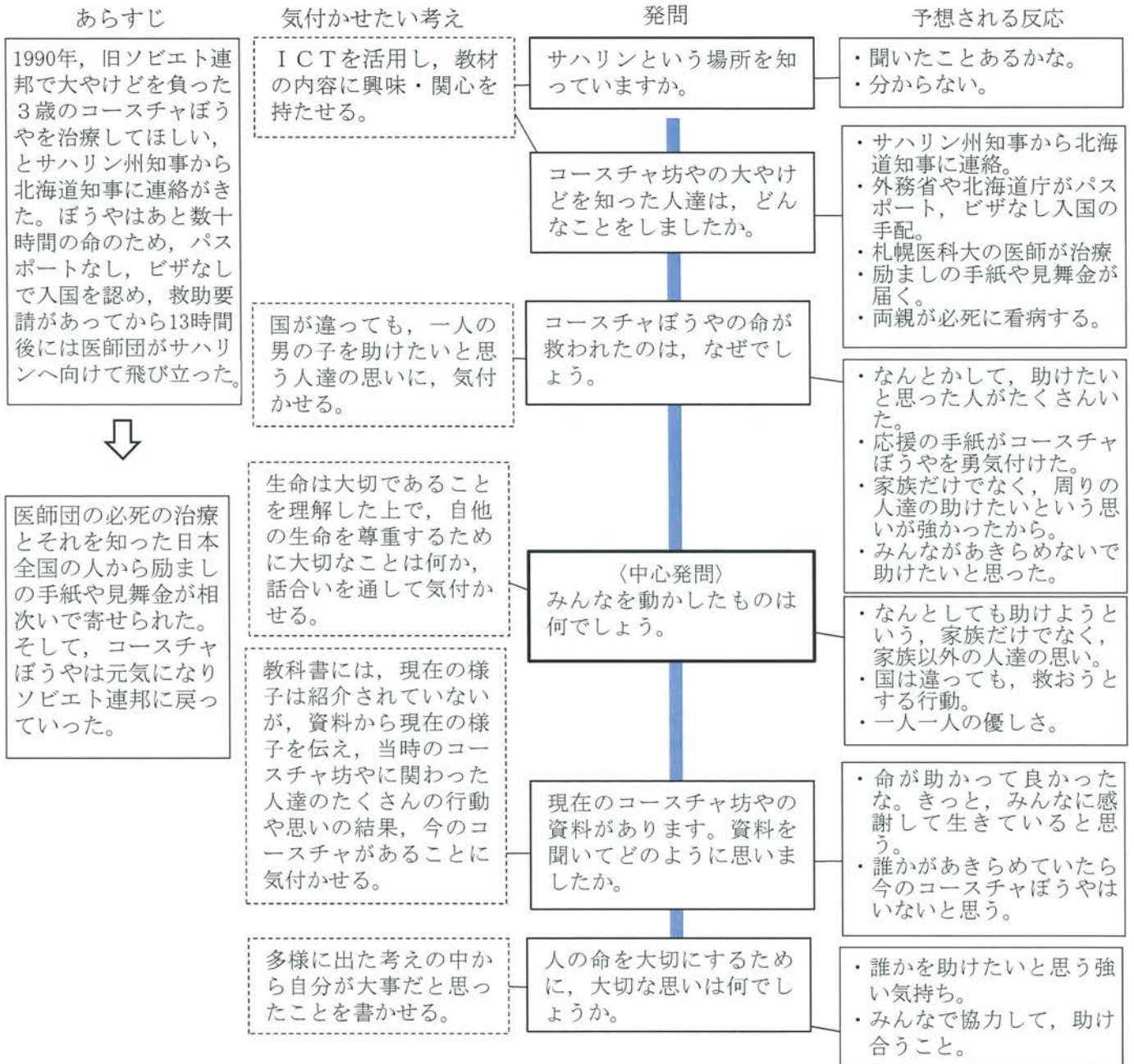
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、多様な道徳的価値について考えることができる内容である。自他の生命の尊重のためには、「相互理解，寛容」「親切，思いやり」「感謝」「善悪の判断，自律，自由と責任」「希望と勇気，努力と強い意志」などの道徳的価値が関連することが考えられる。様々な困難な状況の中で、生命を尊重するためには、自分の生命を尊重するだけでなく、他の人の生命を尊重する気持ちが育っていなければならない。よって、本時は、自他の生命の尊重について、深く考えさせたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書、場面絵、テレビ、パソコン

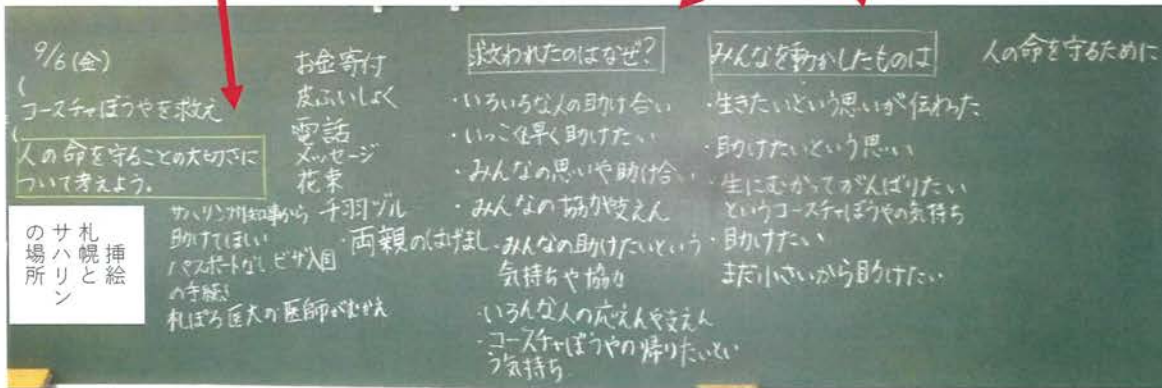
児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

児童に問題意識を持って考えさせるために、考えることを提示した。

児童の多様な考えを黒板に書き、多面的・多角的に考えさせるために活用した。



(1) 導入

問題意識を持たせた

実話を基にした教材である。1988年という、児童が生まれるだいぶ前の出来事なので、社会情勢も今とは違う。そのことも踏まえて、地図を活用し、どこか遠い国の出来事ではなく、現実にあった出来事として捉えさせたい。

- サハリン、モスクワ、札幌の位置関係を地図で確かめ、サハリンからは札幌に近いこと、しかし旧ソビエト連邦と日本の関係は必ずしも友好的ではなかったことを確かめることで、国境を越えてまで一人の少年を助けた人々の思いを考えさせるきっかけとなった。

(2) 展開

プレゼンテーション資料を活用し、教材の内容を自分の事として考えさせた

教科書は劇画タッチの挿絵だけなので、想像させにくいと考え、コースチャ坊やの話を取り上げた、インターネットのサイトから、実際の写真を活用し内容を把握するための助けとした。

- 実際の写真を見ることで、命に関わるやけどの大変さを実感させ、話の内容に興味を持たせることができた。
- 大やけどを負ったコースチャ坊やの写真と元気になったコースチャ坊やの写真を比べて見ながら、元気になるまでに、家族以外の周りの人々のどのような思いがあったからなのかを考える助けとなった。
- 教材の内容が難しく、内容の捉えに時間が掛かった。

多面的・多角的に考えさせるための発問の工夫をした

「コースチャ坊やの命が救われたのはなぜか」と問い、周りの人々やコースチャ坊や本人の思いや気持ちを話し合ってから、「みんなを動かしたものは、何か」という中心発問につなげた。

- 人々の助けたいという思いや行動、コースチャ坊や自身の生きたいという思いから、「みんなを動かしたものは何か」という問いに対して、行動の奥にある思いを深く考えさせることができた。

道徳ノートの記事より

- ・コースチャ坊やが生きたい、頑張りたいという気持ちが、みんなを動かした。
- ・コースチャ坊やは、まだ3歳で、人生や夢が始まったばかりで、もっと成長して、未来に活躍してほしいとみんなが考えたと思う。
- ・コースチャ坊やを僕も助けたいという気持ちがこんなに強かった。
- ・幼い命を救いたいという両親の気持ちがみんなに伝わり、みんなを動かした。

(3) 終末

画像を活用した

- 10年後のコースチャ坊やの画像やインタビュー記事を紹介したことで、人々の思いがコースチャ坊やを助け、今現在、元気に生きていることを実感させることができた。

自己を見つめた

- 終末では、「人の命を守るには」として振り返り、今日の授業を通して、考えたこと、分かったこと、これからどうしたいかを道徳ノートに書かせることで、児童がこの時間にどのようなことを大事に思ったのか見取ることができた。

児童の記述

- ・人の命を守るには、一人一つしかない命だから、大切にしたいと思う。
- ・どんなに小さな命でもみんなで助け合えば、一人の命が救えて、みんなも救われた人もうれしくなる。
- ・一人でも多くの人を助けるために役に立つようにする。
- ・助けたいと思ったら、思うだけではなく、そのために自分が動きたいです。
- ・「がんばれ」と応援する気持ちを伝えて、みんなで協力することが大切だと思います。

【主題名】誠実に生きる 内容項目 「A-(2) 正直, 誠実」

【教材名】豆電球 (令和元年度長期研修員自作資料)

〈あらすじ〉教室で、理科の実験で使う豆電球がなくなる。誰がいたずらをしたのか名乗り出るまで帰ることができなかったため、主人公が「私がやりました」と、うその報告をしてしまう。そのうそに気付いた担任に、やさしく諭され、主人公は涙が止まらなかった。

【ねらい】

内容項目の理解

正直, 誠実の中で, 誠実という道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

うそをつくことによって, 周りの信頼だけでなく, 誇りや自信を失ってしまうことに気付いていない。

本時のねらいを設定する

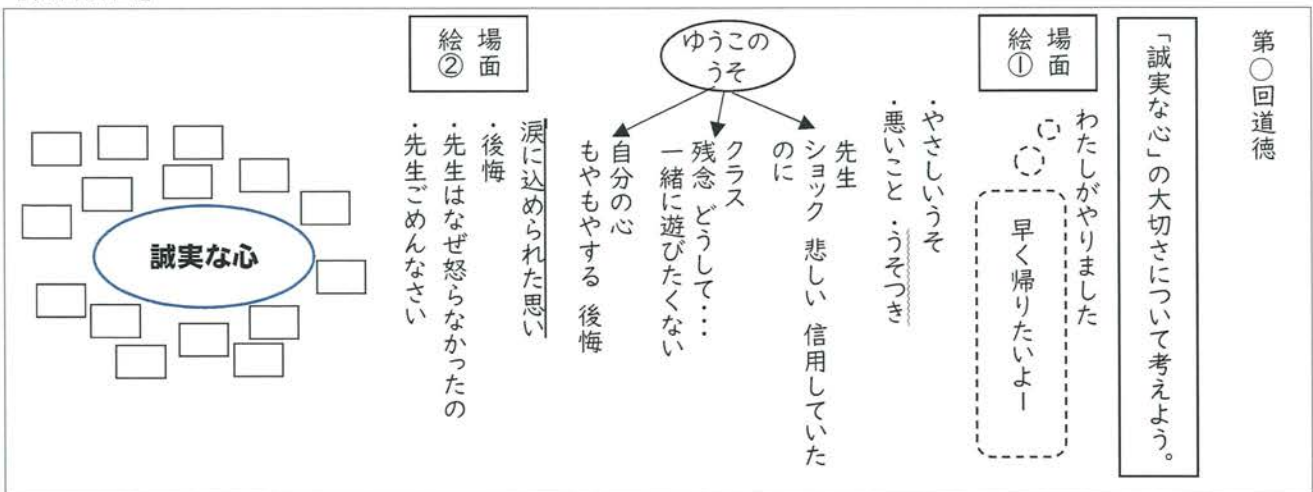
判断力 心情 実践意欲 態度

自己の過ちに気づき, 改めていく素直さとともに, 誠実な生き方を大切にする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 課題をつかむ。 「誠実な心」の大切さについて考えよう。 ○ 「誠実」とはどのような意味ですか。	
展開	2 教材の前半を読み, ゆうこの行動について考える。 ○ ゆうこは, どのようなうそをつきましたか。 ○ あなたは, ゆうこの行動をどのように思いますか。 ○ 教室に向かったゆうこは, どのような気持ちだったのでしょうか。 3 資料の後半を読み, 「誠実な心」の大切さについて考える。 ◎ ゆうこの涙には, どのような気持ちが込められていたのでしょうか。 ○ 「誠実な心」とは, どのような心だと思いましたか。自分の言葉で書いてみましょう。(児童が付箋に書いて, 黒板に貼る)	教材の活用 自分との関わり 多面的・多角的 展開の工夫 板書の工夫
終末	4 自己の生き方についての考えを深める。 ○ 授業を通して分かったこと, いいなと感じたこと, これからの自分に生かしていきたいことを書きましょう。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

誠実に生きることの大切さについて, 自分との関わりで考える学習を通して, 多面的・多角的に考えようとしていたか。



先生はおこっているのではなく、なんだかとても悲しい表情をしているように見えました。すると、ゆうこにゆっくりと話しかけました。

「これ、ゆうこさんが書いたの？でも、本当はゆうこさんがやったのではないよね。」

先生から意外な言葉をかけられたゆうこは、なぜか分からないけれど、がまんしていたなみだが次から次へとあふれ出てきました。

どれくらい時間がたったのでしょうか。何も答えられずにただずっと泣いているゆうこに、先生は、やさしく話し始めました。

れました。ゆうこのところにも、紙が回ってきました。

(いたずらをしたのは、自分ではないけれど…。)



わたしがやりました。

ゆうこは、だれにも見えないように、紙を二つ折りにして提出しました。心ぞうの音が、ドキドキと周りに聞こえるくらい高鳴っています。先生は、集められた全員の紙を一まい一まい見て、

「『わたしがやりました』と書いた人がいました。正直に書いた人は、残ってください。では『さようなら』のあいさつをしましょう。」と、きびしい表情のまま、みんなの前で言いました。

「やっと書いたのか。だったらはじめから正直に書けよな。」

あいさつの後、あちらこちらでそんなぐちが聞こえました。帰りの会から解放されたクラスみんなは、一目散に教室から出て行きました。ゆうこも、みんなの後ろからついて帰ろうとしました。しかし、とちゅうで、下校するみんなからそっとはなれ、だれのすがたも見えなくなるまで待つてから、重い足取りで教室に向かいました。どう話したらよいだろうと、いろいろ考えると、急に落ち着かなくなり、今にもなみだがこぼれそうになりました。教室では、先生が一人で待つていました。

豆電球

「ひろし君の豆電球がなくなりました。」

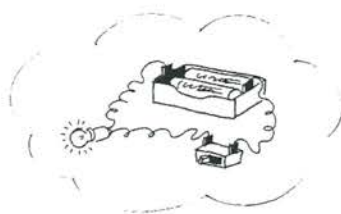
帰りの会で、とつ然、佐々木先生の表情がきびしくなりました。ひろしがロツカーにしまっていた、理科の実験用の豆電球がなくなったのです。(どうせまた、たかしがとったのだろう。)と、ゆうこをはじめ、だれもがそう思っていたのです。たかしは、前にも同じようなことをしてみんなを困らせていました。

「これからみんなに紙を配ります。ひろし君の豆電球をいたずらしてしまった人は正直に書きなさい。名前は書かなくてもよいです。」

早く帰りたいみんなはがっかりして、何度も時計を見ては時間がたつのを気にしていました。一回目も二回目も、配られた紙に正直に書いた人はいなかったようです。集められた紙を見て、先生はこう言います。

「まだだれも正直に書いていません。三枚目を配ります。」

すでに時間は三十分がすぎていました。みんなのため息が聞こえます。(いたずらした人、早く正直に書いてよ!もう、帰りたいよ。)と、なんとなく何人かの目がたかしに向いているような気がしました。教室の空気がはりつめています。三枚目の紙が配ら



1 主題名

誠実に生きる 「A-(2) 正直, 誠実」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自己の過ちに気付き、改めていく素直さとともに、誠実な生き方を大切にする道徳的心情を育てる。

(2) 資料名

「豆電球」 (令和元年度長期研修員自作資料)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

「誠実」とは、偽りのない心で真剣に人や物に対応することと捉える。児童が、健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。うそを言ったり、ごまかしたりすれば、信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。高学年の段階においては、自分自身に対する誠実さがより一層求められる。過ちや失敗は誰にでも起こりうることであるが、素直に認め、誠実に対応することが自己の向上や、他人との信頼関係にも結びつくと考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、学校生活のさまざまな場面で下級生の模範となるよう求められ、より一層、自分の意見を適切に述べたり人の意見を受け入れたりする機会が多くなり、高学年としての自覚が芽生え始めてきた。そのような中で、交友関係が広がり、仲間同士のふれあいを大切にする雰囲気がある。一方で、自分が他人よりも良く見られたいが故にうそをついたり、不利な立場に立たされることを回避しようとして、ごまかしたりする姿も見受けられる。例えば、人間関係のトラブルにおいて自分の非を認めなかったり、宿題に取り組めなかったことを他人のせいにしてごまかしたりする場面である。うそをつくことによって、周りの信頼だけでなく、誇りや自信を失ってしまうことに気付いていない。そこで、自己の過ちに気付き、改めていく素直さとともに、誠実な生き方を大切にする心情を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本資料は、理科の実験で使う豆電球が、何者かによっていたずらされ、「私がやりました」というその報告をしてしまう主人公と、そのうそに気付き、担任が主人公に優しく諭すという内容である。資料の前半では、やっていないことを「やりました」と書いた主人公の行動を取り上げ、その行動は誠実であると言えるのかを考えさせる。また、その後の主人公の行動を予想させた後、資料の後半を範読する。中心発問では、先生の前で流した涙に込められた、ゆうこの思いを考えさせることを通して、ねらいに迫っていきたい。また、展開での話合いを通して、「誠実な心」とはどのような心かを問い、黒板を開放して児童に考えを書かせることで、全員で共有し、道徳的価値への新たな気づきを期待したい。

4 学習指導過程

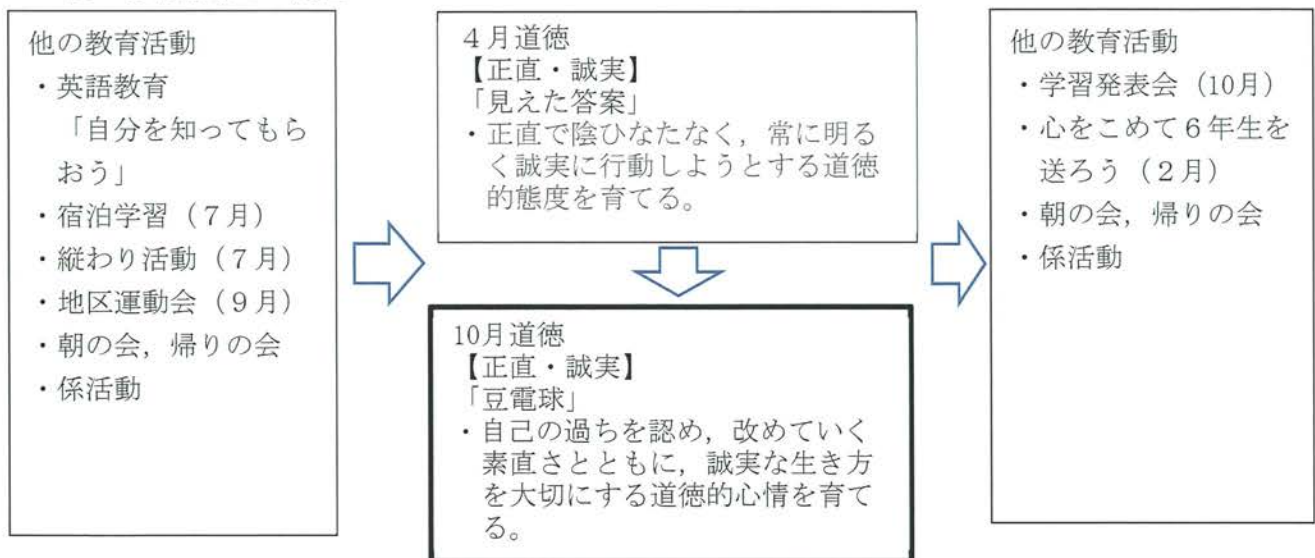
	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問) ・予想される反応	・指導上の留意点
導入 5分	<p>1 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「誠実な心」の大切さについて考えよう。</div> <p>○「誠実」とは、どのような意味ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直という意味だと思います。 ・まじめという意味だと思います。 ・分かりません。 ・聞いたことがありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「誠実」についての考えを授業を通して深めさせるため、児童の意見のみを取り上げる。 ・全く意見が出ない場合は「正直」を例に出す。
展開 前段 17分	<p>2 資料の前半を読み、ゆうこの行動について考える。</p> <p>○ ゆうこはどのようなうそをつきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やってないのに「わたしがやりました」と書いてきました。 <p>○ なぜ、そのようなうそをついたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も周りの人も早く帰りたいからです。 ・疑われているたかしかばったからです。 <p>○ あなたは、ゆうこの行動をどのように思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪いことです。 ・うそつきです。 ・自分もみんなも早く帰りたいから気持ちも分かります。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">先生の気持ち</div> <ul style="list-style-type: none"> ・信用していたのに残念だと思っています。 ・ショックだと思います。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">クラスみんなの気持ち</div> <ul style="list-style-type: none"> ・残念だと思います。 ・どうしてうそをついてしまったのでしょうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の心</div> <ul style="list-style-type: none"> ・後悔しました。 ・もやもやします。 ・ドキドキします。 <p>○ 教室に向かったゆうこは、どのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もやもやしています。 ・正直に言ったほうがよいという気持ちです。 ・何を言ったらよいだろうと迷っています。 ・何とごまかそうと考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が資料の内容を捉えやすくするため、登場人物の気持ちを考えながら範読を聞くことを伝える。 ・場面を想起させるために、場面絵①を提示する。 ・ゆうこのどのような行動が間違っていたのかを児童から率直な意見を引き出すため、資料の前半のみを範読する。 ・様々な人達の立場からゆうこの行動について考えさせるために、問い返しをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に対してうそをついたのですか。 ・ゆうこがうそをついたと知ったら先生やクラスみんなはどのような気持ちになりますか。 ・この中に、本当にいたずらをした人がいますよね。どのように思っていたのでしょうか。 ・もし、友達がそのようなうそを書いたことを知ったら、どのように思いますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしがやりました」と書いたときからのゆうこの気持ちの変化に気付かせる。

展 開 後 段 18 分	<p>3 資料の後半を読み、「誠実な心」の大切さについて考える。</p> <p>◎ ゆうこの涙には、どのような気持ちがこめられていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後悔の気持ちです。 ・信じてくれていた先生に申し訳ないという気持ちです。 ・自分に恥ずかしいという気持ちです。 <p>○ 「誠実な心」とは、どのような心だと思いましたか。自分の言葉で書いてみましょう。 (付箋に自分の考えを書き、黒板に貼る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直な心 ・自分にうそをつかない心 ・勇気ある心 ・明るい心 ・信頼される心 ・まっすぐな心 ・反省する心 ・自分に負けない心 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を想像させるために、場面絵②を提示する。 ・ゆうこの行動に対する後悔や自責の念に共感させると共に、相手の信頼を失ってしまうことに気付かせるために、涙にこめられた気持ちを考えさせる。 ・意図的指名するために、机間指導する。 ・一人一人が考えた「誠実な心」についての新たな気づきを共有させるために、黒板を開放する。
	<p>4 自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>○ 授業を通して分かったこと、いいなと感じたこと、これからの自分に生かしていきたいことを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。 ・「何が分かったか(知)、いいなと感じたこと(情)、これからのこと(意)」の視点を与えることを通して、児童の評価につなげる。
終 末 5 分		

【評価】

誠実に生きることについて、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

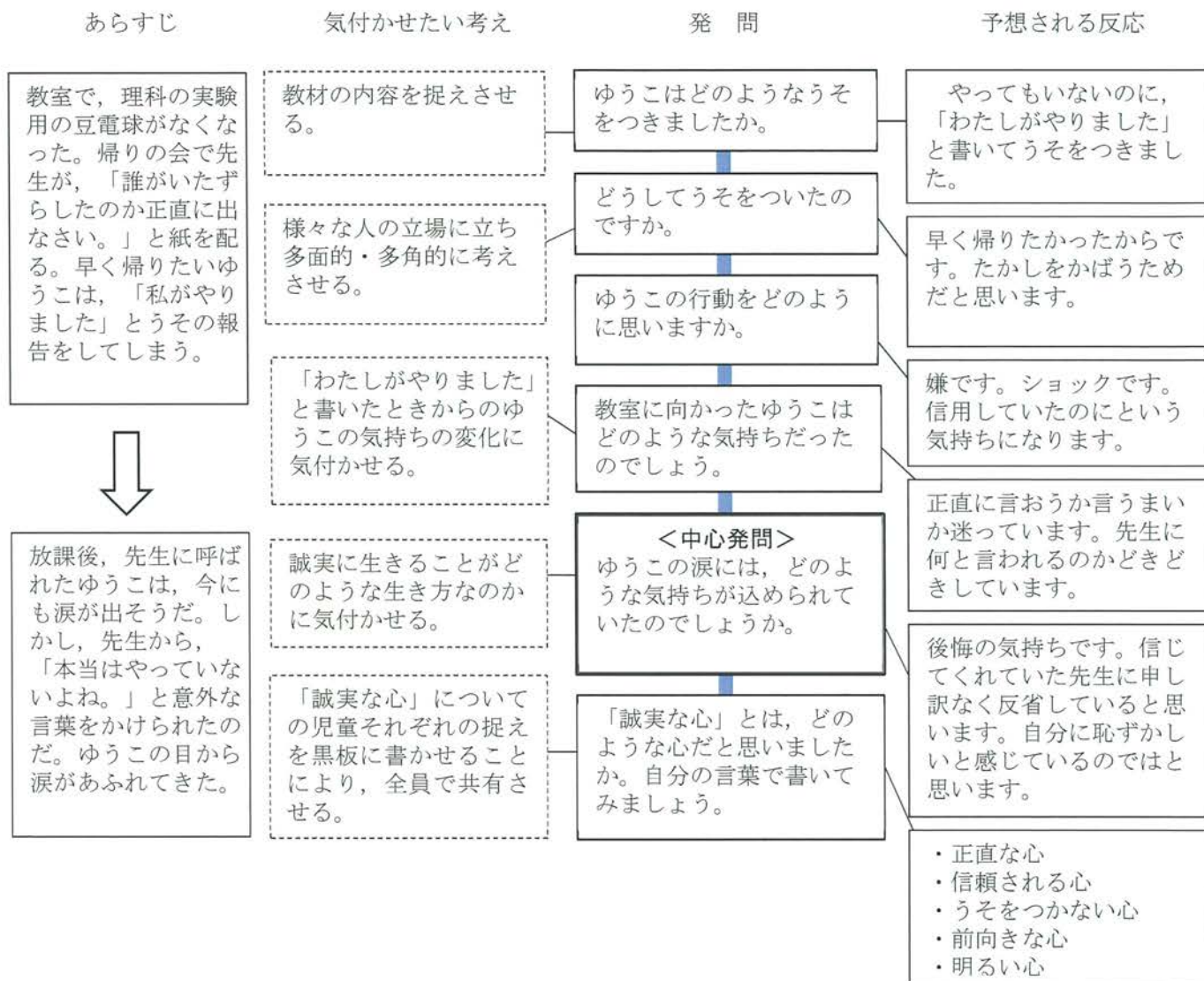
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化・統合】

本時は、これまでの諸活動での体験を生かしたり、振り返ったりしながら、「誠実な心」についての大切さや自己との関わりについて一層考えを深める（深化）。また、内容項目「礼儀」「よりよく生きる喜び」の大切さに触れながら、児童の新たな感じ方や考え方を生み出す（統合）授業である。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

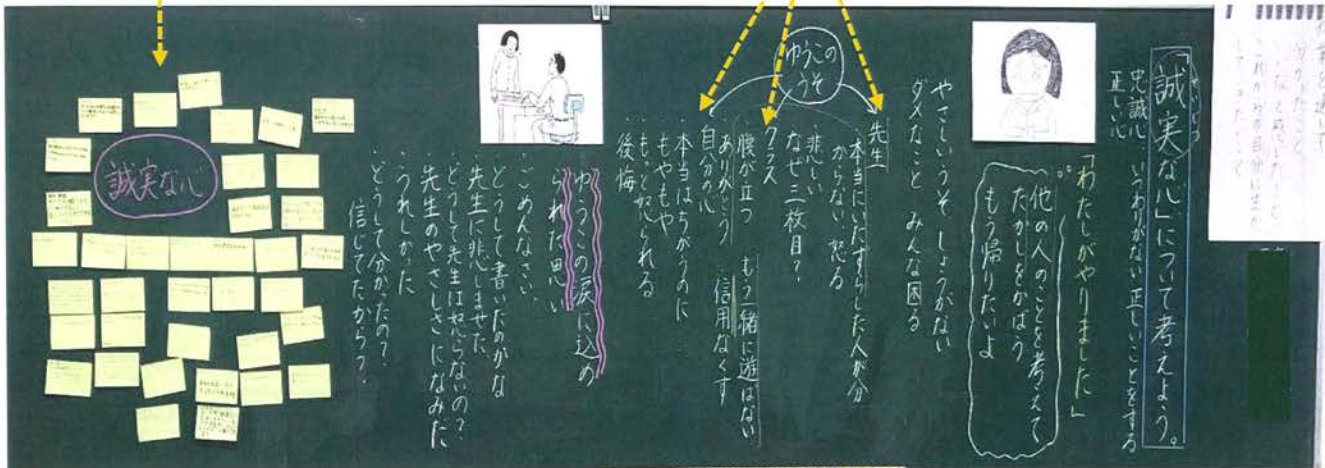
教師：自作資料，辞書，場面絵，児童用ワークシート，付箋紙
生徒：ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

「誠実な心とはどのような心か」について新たな気づきを共有させるために、一人一人が書いた付箋を黒板に貼らせた。

様々な人の立場からゆうこのうそについて考えられるよう、問い返しを行った場面。



(1) 導入

児童にねらいとする道徳的価値に方向付けるため、「誠実」についてのイメージを持たせた

「誠実」とはどのような意味か、またはどのようなイメージを持っているかを問い、ねらいとする道徳的価値について方向付けをした。

- 「忠誠心」「いつわりのない」「正しい」「正直」という言葉が児童から挙がったが、道徳的価値の捉えとは少しかけ離れた児童の意見を黒板に書いて良いか迷った。教師が辞書にある言葉の定義を伝えることも一つの方法だった。

(2) 展開

主人公の行動について、多面的・多角的に考えさせるために、問い返しをした

主人公のついたうそは、「優しいうそ」という肯定的な捉え方をする児童が数名いた。そこで、「主人公がうそをついたことを、先生やクラスの友達が知ったらどのような気持ちになるか。」を考えさせた。

- 問い返しを工夫することで、主人公のうそについていろいろな人の立場で考えさせることができた。
- 資料の分割読みをしたことで、資料の前半の主人公に自我関与し、後半の行動に興味を抱かせることができた。
- 資料の活用の仕方や発問が不十分だったため、うそをつかないことが「誠実な心」という一面的な捉え方になってしまった。

教師と児童の対話

T：ゆうこは誰にうそをついたのですか。

C：先生です。

T：もし、先生が、ゆうこがうそをついたことを知ったらどのような気持ちになりますか。

C：本当にやった人が分からなくなるから怒ると思います。悲しい気持ちになります。

T：そうですね。他には誰にうそをついたのですか。

C：クラスみんなにうそをつきました。

T：じゃあ、クラスみんなはどう思いますか。
 C：腹が立ちます。もう一緒に遊びたくないと思います。帰りの会が終わったので「ありがとう」って思うかも知れません。
 T：待って下さい。この中に本当にやった人がいますよね。その人はどう思ったのでしょうか。
 C：その人が「ありがとう」って思ったのではないのでしょうか。
 T：他にはいますか。
 C：自分の心にうそをつきました。
 T：自分の心にうそをつくってどのようなことですか。
 C：本当は自分がやったのではないのに、うそをついてしまったということです。
 T：自分の心にうそをついて、ゆうこはどのような気持ちになったのでしょうか。
 C：もやもやしていると思います。後悔もしていると思います。
 T：そうですね。それでは話の続きです。
 C：え～、どうなったのかなあ。説教されるのかな。いいわけするのかなあ。
 (児童は資料の話の続きに興味を持ち、友達と想像して盛り上がっていた。資料を配布すると、教室がシーンとなり、続きを読み始めた。)

一人一人が考えた「誠実な心」についての新たな気づきを共有させるために、黒板を開放した

展開での話合いを通して、「誠実な心」とは、どのような心かを問い、黒板を開放して児童に考えを書かせることで、全員で共有し、道徳的価値への新たな気づきを期待した。

- 一人一人に付箋を配り、一斉に書いて貼らせることで、時間短縮になった。
- 字が小さく、全員には見づらい。終末に書く振り返りの記述になっていた児童も多かった。

中心発問で、主人公の涙に込められた思いについて発問した

- 「後悔」「先生の優しさ」「信じてくれていたうれしさ」など、児童が主人公に共感していた。
- 中心発問の前に、うそをついた主人公が、なぜ、先生の待つ教室へ向かったのかを問うことで、「過ちや失敗は誰にでも起こりうることであるが、素直に認め、誠実に対応する」（ねらいや指導内容についての教師の捉え）という思考に発展させることができたのではないかと。

(3) 終末

自己の生き方についての考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「どのようなことが分かったか」、「いいなと思ったこと」、「これからの自分に生かしていきたいこと」の視点で振り返らせた。

児童の感想

- ・自分がやさしさだと思って何かをしたり、正しいと思ってやったりしても、結局、後から後悔することもあるから、考えて行動するとよいと思いました。
- ・ぼくは、正しい判断をし、自分の最善を尽くして行動することを「誠実な心」だと思いました。
- ・自分の知っている人だけでなく、知らない人にも優しく、うそのない親切な心をみせていけるようにがんばりたいです。
- ・今日の授業で、優しさも大事だけど正しいことをすることの方が大切で、自分のためにもなると思いました。
- ・分かったことは、誠実な心にはいろいろな意味があるということ。これからの生かしていきたいことは、うそをつかないで正しいことをすることや、まっすぐに自分でしたいことをやるということです。
- ・ゆうこさんは、本当は正しい心を持っているので、先生に正直に言うことで正しい人になります。これからも正しい生活を送ってほしいです。

【主題名】 誠実に生きる 内容項目 「A-(2) 正直, 誠実」

【教材名】 豆電球 (令和元年度長期研修員自作資料)

〈あらすじ〉教室で、理科の実験で使う豆電球がなくなる。誰がいたずらをしたのか名乗り出るまで帰ることができなかつたため、主人公が「私がやりました」と、うその報告をしてしまふ。そのうそに気付いた担任に、やさしく諭され、主人公は涙が止まらなかつた。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

正直, 誠実の中で、誠実という道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

自己の過ちや失敗を受け止め、改めていくことの大切さは理解しているが、不利な立場に立たされることを回避しようとうそを言ったり、ごまかしたりする。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自己の過ちに気づき、改めていく素直さとともに、誠実な生き方をしていこうとする道徳的態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 課題をつかむ。 誠実な行動をするためには、どのような考えが必要なのだろう。 ○ 「誠実」とはどのような意味ですか。	
展開	2 教材の前半を読み、ゆうこの行動について考える。 ○ ゆうこは、どのようなうそをつきましたか。 ○ あなたは、うそをついたゆうこをどのように思いますか。 ◎ 教室を離れたゆうこが、先生の所へ戻ったのは、どのような心の変化があったからなのでしょう。 3 資料の後半を読み、誠実な行動について考える。 ○ ゆうこの涙には、どのような気持ちが込められていたのでしょうか。	教材の活用 自分との関わり 多面的・多角的
終末	4 自己の生き方についての考えを深める。 ○ 授業を通して分かったこと、いいなと感じたこと、これからの自分に生かしていきたいことを書きましよう。	展開の工夫 終末の工夫

【板書計画】

自分に正直に生きる
失敗した後が大事
相手に対して心から思いを伝える

絵② 場面

←

涙

ゆうこのうそ

- ・ 自分の心
- ・ クラス
- ・ 先生
- ・ ショック 悲しい 信用していたのに
- ・ 残念 どうして…
- ・ 一緒に遊びたくない
- ・ もやもやする 後悔

絵① 場面

わたしはやりました

早く帰りたいよー

第○回道徳
誠実な行動をするためには、どのような考えが必要なのだろう。

・ やさしいうそ

・ 悪いこと ・ うそつき

・ 悪いことをしてしまった。

・ 先生に本当のことを言おう。

・ このままでは、みんなをだましてしまふことになる。

【評価】

誠実に生きることの大切さについて、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

【主題名】相手の立場を考えて親切に 内容項目 「B-(7) 親切, 思いやり」

【教材名】くずれ落ちただんボール箱 (東京書籍 新しい道徳5)

<あらすじ>ショッピングセンターに友人と買い物に出掛けた主人公。通路に積んであった段ボール箱を男の子が崩してしまっところを通り掛かる。落ちた段ボール箱を片付けていると、店員に崩したと勘違いされ注意を受ける。その後、お詫びと感謝の手紙が学校に届く。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

内容項目「親切, 思いやり」の中で, 相手の立場を考えて親切にするという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

学校内の活動では, 相手の立場に立って考え, 行動することができる。公共の場における, 多様な人々に対しての親切や思いやりについては経験が少ない。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

親切のよさや難しさを理解するとともに, 学校や公共の場において, 相手の立場に立って親切にしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ 親切な行いと聞き, どのような行いを思い浮かべますか。 2 課題をつかむ。 親切について考えよう	導入の工夫
展開	3 教材の前半を読み, 親切のよさについて確認する。 ○ 「わたし」と友子さんが落ちた段ボール箱の片付けを手伝ったことで, どのようなよいことがありましたか。 4 教材から登場人物の心情を捉える。 ○ 誰も手伝わないのに, なぜ「わたし」と友子さんは手伝ったのでしょうか。 ○ 店の人に注意を受けた「わたし」はどのような気持ちだったのでしょうか。 ◎ 「いいえ, いいんです・・・。」の後に, あなたなら, どのような言葉を入れますか。 5 教材の後半を読み, 親切という道徳的価値について理解を深める。 ○ 「わたし」の足取りがいつもより軽かったのはどのような変化があったからですか。	展開の工夫 自分との関わり 多面的・多角的
終末	6 自己の生き方について考える。 ○ 今日新しく分かったこと, 考えたこと, これからに生かしたいことを書きましょう。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回 道徳
くずれ落ちただんボール箱
○「いいえ, いいんです・・・。」

おばあさんが助かったならいいです。迷子にならなくてよかったです。

間ちがわれて, いやでした。いらいらしています。

嫌ですが, おばあさんには言えません。うまく言えません。

早く片付いて お店が助かった
私も誰かに親切にしよう
周りの人が助かる
感謝

おばあさんに喜んでもらった
男の子が迷子にならなかった
親切

自分が成長できる
あとで後悔しなくてすむ
また親切にしたい
お礼

思いやり やさしさ
相手の立場をよく考える
おばあさんへの気遣い

恥ずかしい
行動する勇気が必要
見返りを求めてしまう

【評価】

相手の立場に立って親切にするには何が大切になるか, 自我関与中心の学習を通して, 多面的・多角的に考えようとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

相手の立場を考えて親切に 「B-(7) 親切, 思いやり」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

親切のよさや難しさを理解するとともに、学校や公共の場において、相手の立場に立って親切にしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「くずれ落ちただんボール箱」 (東京書籍 新しい道徳5)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

相手に対する思いやりの心を持ち、親切にすることは、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢となる。この内容項目については、低学年で、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」、中学年で「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」とあり、相手を思いやり、親切にすることの大切さを指導している。高学年においては、それを発展させ、「誰に対しても」や「相手の立場に立って」という内容が加わるとともに、家や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所などの活動範囲においてもそれが求められることになる。相手の立場を深く理解し、自分がどのような言動を取ることが相手のためになるのかを考え、行動できるようになることで、よりよい人間関係が構築されていくものと考えられる。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、学級や学年といった集団の中で生活しながら、各教科の授業や行事等に取り組み、相手に対する思いやりや親切な行為の大切さについて理解してきている。道徳科の授業では、思いやりや親切な行為のよさを指導するとともに、日常生活においても、児童の具体的な行動を取り上げ、「親切, 思いやり」のよさについて励ましたり、確認したりしている。そのような指導を通して、学校生活においては、友人等の立場に立って考え、行動することができるようになってきている。しかし、公共の場における多様な人々に対しての親切や思いやりに関しては経験が少ないことが考えられる。初対面の人や初めて直面する場面においても、適切な言動を取ることができるように、「親切, 思いやり」のよさを深く理解するとともに、それを公共の場においても進んで実践しようとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、ショッピングセンターに友人と買い物に出掛けた主人公が、通路に積んであった段ボール箱を男の子が崩してしまったところを通り掛かるという内容から始まる。男の子が迷子にならないように、男の子と一緒に店に来ていた祖母の代わりに段ボールの積み直しを手伝っていると、店の人に崩したと間違えられ注意を受ける。後日、学校に店から誤解のお詫びと親切な行為への感謝の手紙が届き、全校朝会で紹介されるという内容である。

本時では、登場人物への自我関与を中心に学習を進めていく。おばあさんの立場を理解し、親切な行動を取った主人公たちの心情に目を向けさせたい。また、店員に注意を受ける場面で主人公に共感させることにより、親切な行為のよさや難しさといった価値理解や人間理解について考えを深めたい。最後に、教材を通して、相手の立場を考え行動することは、お礼の有無に関係なくよい行為であることと、認められることによってより意欲が高まり、周りにもよい影響が広がることにも気付かせ、相手の立場に立って親切な行為をしようとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

4 学習指導過程

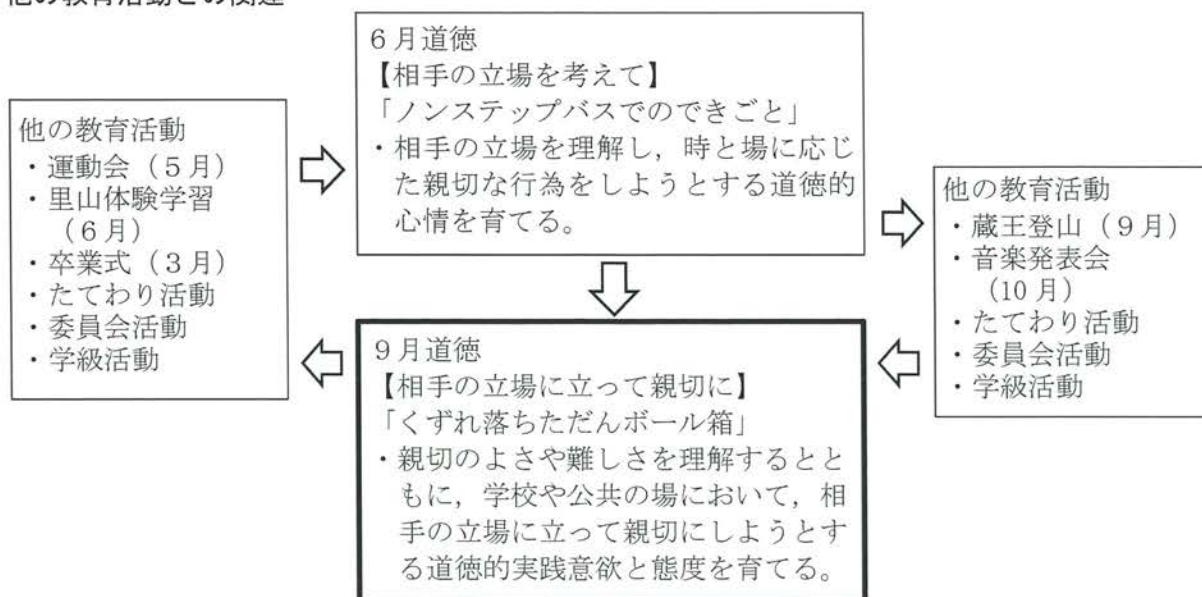
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問（◎中心発問）・予想される反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 親切な行いと聞き、どのような行いを思い浮かべますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に声を掛ける。 ・お年寄りの手を引く。 ・電車で席を譲る。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">親切について考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、具体的な親切な行為について想起させる。 ・自分事として考えさせるために、出た意見の中から具体的に自分がしたことのあるもの、しようと思ってできなかったものについて聞く。
<p>展開 35分</p>	<p>3 教材の前半を読み、親切のよさについて確認する。</p> <p>○ 「わたし」と友子さんが落ちた段ボール箱の片付けを手伝ったことで、どのようなよいことがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子が迷子にならずに済んだ。 ・手伝ったことで、おばあさんに喜んでもらえた。 ・周りの人が、通りやすくなった。 <p>4 教材から登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 誰も手伝わないのに、なぜ「わたし」と友子さんは手伝ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんが男の子のことをとても気にして心配していたから。 ・男の子が迷子になってしまわないように。 ・困っている状況で、手伝う人がなく自分たちがしなければと思ったから。 ・おばあさんへの優しさ、思いやり。 <p>○ 店の人に注意を受けた「わたし」はどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても複雑な気持ち。 ・いらいらしている。文句を言いたい。 ・手伝いを止めてしまうかもしれない。 ・おばあさんが助かったのならいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の複雑な気持ちを考えさせるため、資料の分割提示を行い、学校に手紙が来る前の場面まで範読する。 ・おばあさんの困っている状況をつかませるために、場面絵を利用してあらすじを紹介してから範読する。 ・「親切」に対する価値理解を深めるため、主人公たちの行いのよい面を確認する。 ・問い返しの例 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>・おばあさん（男の子、周りの人）にとって、どのようなよいことがありましたか。</p> </div> ・親切な行いはよいと分かっているにもかかわらずできないという人間理解を深めるために、すぐに行動せず少しの間様子を見ていた主人公たちの気持ちについて問い返しで深める。 ・問い返しの例 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>・主人公たちは、なぜすぐに行動せず、少しの間様子を見ていたのでしょうか。</p> <p>・おばあさんの立場になって考えてみるとどうでしょうか。</p> <p>・主人公たちが手伝わなかったらどうなっていたと思いますか。</p> </div> ・「わたし」に共感させるため、自分との関わりで心情を捉えさせる。ペアやグループでの話し合いで、意見交流させる。

<p>◎ 「いいえ、いいんです・・・。」の後に、あなたなら、どのような言葉を入れますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でも間違われて嫌でした。 ・役に立てて良かったけど、店の人から一方的に注意を受けたのでいらいらしています。 ・男の子が迷子にならなくて良かったですね。 ・おばあさんが男の子のところに行くことができ良かったです。 ・余計な気を遣わせてしまうので、注意を受けたことは、言わない方がいいかな。 <p>5 教材の後半を読み、親切という道徳的価値について理解を深める。</p> <p>○ 「わたし」の足取りがいつもより軽かったのはどのような変化があったからですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意されてもやもやしていたけれども、誤解が解けて良かった。 ・おばあさんを手伝ってよかったと改めて実感できて良かった。 ・少し後悔もあったけど、親切にするのはとてもいいことだと分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切な行いをしたにもかかわらず、注意を受けてしまった主人公の複雑な心情を、多面的・多角的に捉えさせるように、様々な視点から考えさせる。 ・問い返しの例 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、おばあさんに、店の人から注意を受けたことを言わなかったのですか。 ・おばあさんが、注意されたことを伝えられたら、どのような気持ちになりますか。 ・店の人に対しての感情はまったく無くなったのですか。 ・自分の行動に対して後悔はないのですか。 ・「親切」についての価値理解を深めるために、人に認められなくとも親切のよさは変わらないが、認められることによって更に意欲が高まり、よい影響が広がっていくということにも気付かせる。 ・問い返しの例 <ul style="list-style-type: none"> ・お礼がなかったら、親切な行いは、親切ではなくなるのですか。 ・うれしい気持ちになったのは、「わたし」と友子だけですか。
<p>終末5分</p> <p>6 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 今日新しく分かったこと、考えたこと、これからは生かしたいことを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場をしっかりと見極め、進んで親切な行いをしたい。 ・同じような場面に出会ったら、勇気を持って行動に移せるようになりたい。 ・親切にしてもらったら、素直にお礼を言うようにしたい。 ・難しいと思いますが、見返りを求めず行動したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値についての考えをまとめ、自己の生き方についての考えを深めさせるため、書く活動を取り入れる。

【評価】

相手の立場に立って親切にするには何が大切になるか、自我関与中心の学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

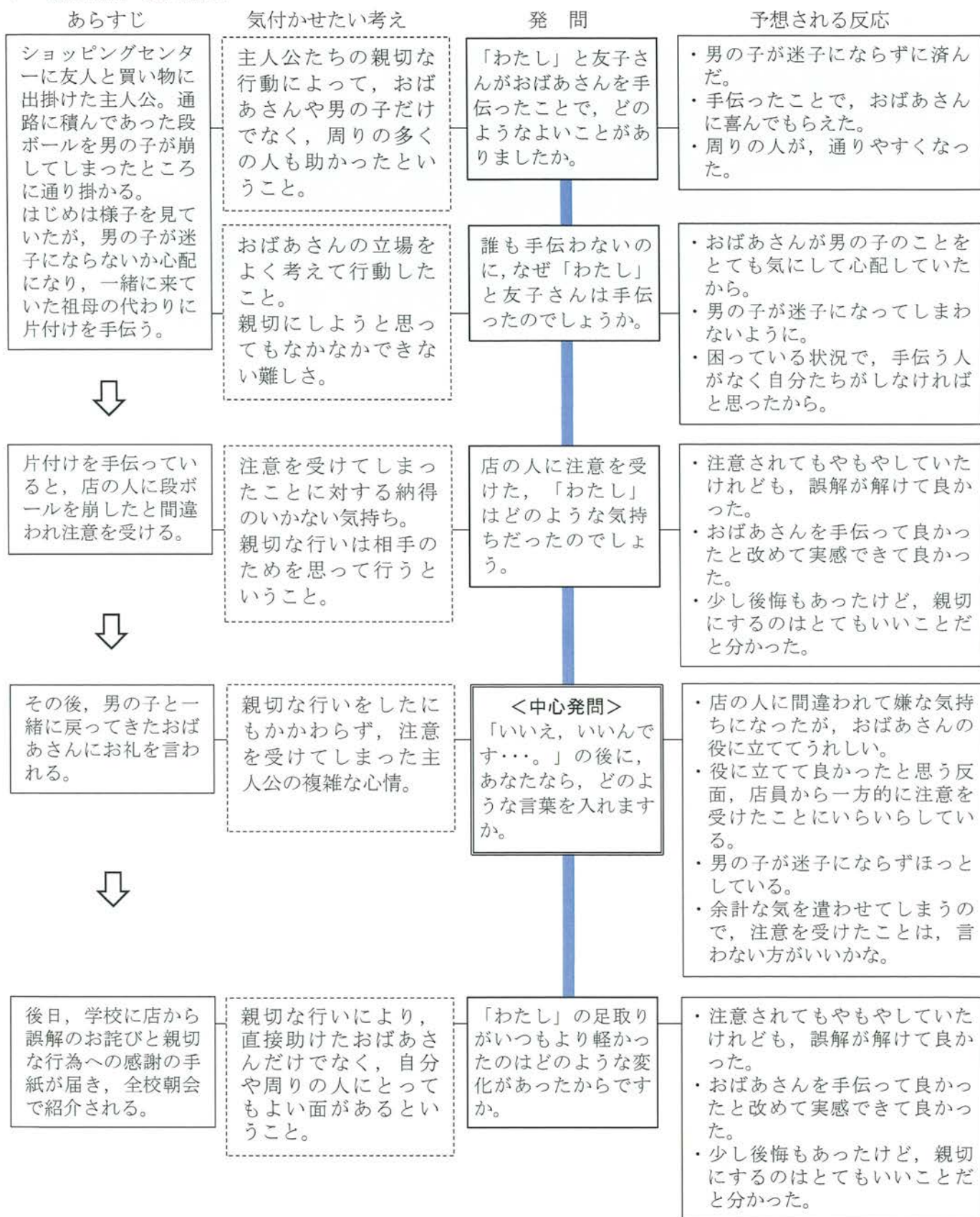
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、「親切、思いやり」をねらいとして扱っている。これまでに学んだり、経験したりしている「親切、思いやり」の行動については、学校における友人等児童同士のものが中心と考えられる。高学年という発達段階において、今後は公共の場での「親切、思いやり」が大切になる。教材に描かれている主人公の心情を捉えることにより、親切な行為のよさや難しさについて再確認したい。児童のこれまでの経験と照らし合わせながら、公共の場における、「親切、思いやり」の行動について深めたい。

7 教材分析・発問構成



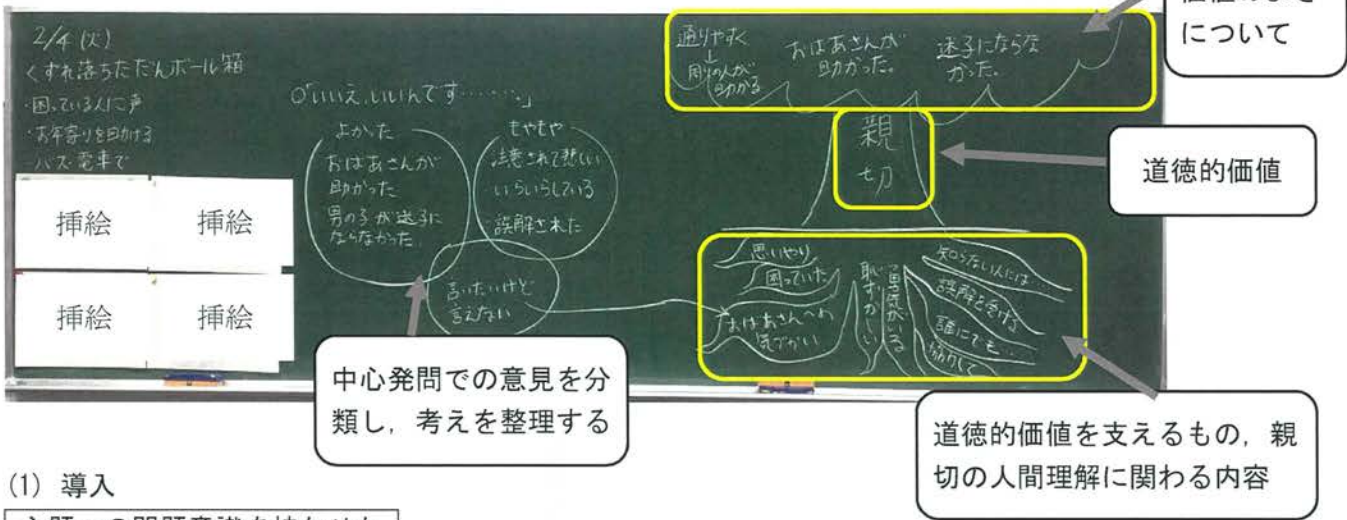
8 教材分析・発問構成

教師：教科書、ワークシート、場面絵

生徒：教科書

9 実践の記録

【板書】



(1) 導入

主題への問題意識を持たせた

親切な行為に関して、日常生活における具体的な場面を想起させた。「バスで席をゆずる」等の具体例を児童から引き出し、実際にそのような場面に出会ったことがないか、また、親切な行為はしようと思っても、できるときとそうでないときがあることを確認し、「なぜ、いつも親切にできないのだろうか」という問題意識につなげた。

- 学級の児童の親切な行い（相談に乗ってくれた等）を、掲示物から取り上げて紹介したら反応が良かった。
- 「老人を助けた」等具体的な場面も意見として出た。全体に挙手させることにより、自分との関わりで問題意識を持たせることができた。

実際のやりとり

T 「親切な行いと聞いて思い浮かべるものはありますか。5年生だと下級生の面倒を見てあげた経験がある人がいるのではないですか。経験ある人いますか。」

C (数名挙手)

T 「そのような学校の中での親切は経験ある人が多いと思いますが、学校の外で、公共の場で親切といったらどのような親切がありますか。」

C 「バスなどでお年寄りに席をゆずったり・・・。」

T 「じゃあ、実際にやったことある人はいますか。席をゆずったことがある人。」

C (数名挙手)

T 「先生も実際にこのような場面にてあったことがあります。ゆずったときもありますが、迷った末、結局ゆずらなかったときも多くありました。今日は、なぜ状況によって親切にできるときとできないときがあるのか授業で考えていきたいと思っています。」

(2) 展開

資料を分割提示し、中心発問につなげた

「わたし」の複雑な気持ちを考えさせるために、学校にお礼の手紙が来る前までを範読した。後半は、中心発問後に範読することにより、親切のよさについて再確認させた。

- 分割提示することにより、親切な行いをしたにもかかわらず、注意を受けてしまった主人公の複雑な心情を考えさせることができた。

板書の工夫で、道徳的価値を構造的に捉えさせた

「親切」という道徳的価値を木に見立て、構造的に示した。目に見える幹の部分を行動として表れる「親切」とし、親切によって広がる「親切のよさ」を木の枝や葉で表した。親切を支える道徳的価値である「思いやり」や「勇気」、親切にしようとしてもなかなかできない「人間理解」の部分をも木の根として表した。

- 道徳的価値とそれを支える構造が視覚的に分かりやすくなった。
- 登場人物の心情や思いをつかませ、道徳的価値の理解の広がりや深まりを視覚化するために、場面絵を活用して、話の流れに沿って板書を工夫してもよいと感じた。

(3) 終末

振り返りの視点を与え、自己の生き方について考えさせた

振り返りの際、「今日新しく分かったこと、考えたこと」「これからに生かしたいこと」を視点として示し、これまでの自分を振り返り、何を生かしていきたいか考えさせた。

- 視点を示したことにより、これからどのようにしていきたいかを考え、振り返ることのできた児童が多くいた。
- 親切をする際、「相手の立場に立って」という点についてももう少し考えられるように、中心発問やその前の基本発問において、深めておく必要があった。

児童の感想

- ・困った人がいたら、恥ずかしい気持ちや誰かがやってくれるなどの気持ちを捨てて助けたい。たくさんの人に親切にしたい。
- ・親切にしたら、勘違いをされてしまっても、自分に返ってくるということが今日新しく分かった。勇気を出して頑張りたい。私が親切にして勘違いされてしまっても、今日の勉強を生かして頑張りたい。お年寄りや困っている人、低学年にやさしく親切にする。
- ・親切にすれば、自分も親切にされた相手もうれしい気持ちになれるということが分かった。僕は今までそんな親切はしなかったもので、これからは積極的に親切にしようと思った。
- ・恥ずかしくても勇気を持って進んで手伝いをする、またはしてみようと思えることが大切だと分かった。これからは進んでやってみたい。
- ・怒ってしまった店員さんも後からしっかり理解してくれてことがよかった。今度は自分が困っている人を助けてあげたい。この話を読んで、見ているのではなく、自分からちゃんと手伝いたいと思った。

【主題名】 自他の権利を尊重すること 内容項目 「C-(12) 規則の尊重」

【教材名】 ピアノの音が…… (東京書籍 新しい道徳6)

<あらすじ> マンションで起きたピアノによる騒音トラブル。「隣の女性のピアノがうるさい。もう我慢できない。静かに生活する権利があるから裁判を起こす」と言うおじさんからの苦情があり、管理組合の岡さんはトラブルの解決について悩む。

【ねらい】

- 内容項目の理解
自他の権利を大切にす道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
休み時間、自由に過ごす権利はあることを知っているが、騒々しくすることで静かに本を読みたい友達の権利を守っていないことには気付いていない。

- 本時のねらいを設定する
- 判断力 心情 実践意欲 態度
- 自他の権利を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 休み時間の過ごし方について話し合い、問題の所在を確かめる。 ○ 休み時間の過ごし方で困ることは、どのようなことがありますか。	導入の工夫
	2 課題をつかむ。 お互いの権利を大切にするために大事だと思うことは何だろう。	問題解決的な学習
展開	3 登場人物の心情を捉える。 ○ 「裁判を起こす」と言ったおじさんの気持ちを考えましょう。 ○ おじさんにうるさいと言われた女の人の気持ちを考えましょう。	体験的な学習 多面的・多角的
	4 自他の権利を尊重するために必要なことについて考える。 ○ 二人の立場になって、解決に向けた話し合いを演じてみましょう。 ◎ 二人を解決に向かわせたものは何か考えましょう。	
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ あなたがお互いの権利を大切にするために、大事だと思うことはどのようなことですか。	

【板書計画】

第○回道徳
・教室でさわぐ。
・やりたいことができない。

お互いの権利を大切にするために大事なことは何だろう。

挿絵
おじさん

がまんできない。
うるさくて困る。
やめてほしい。
静かに過ごす権利がある。

解決した挿絵
おじさん

相手の顔を見ると、あまり強く言えなかった。
話を聞いて、ピアノを弾きたい気持ちが分かった。

挿絵
女の人

ルールを守っているのに。
練習したいのに。
ピアノを弾く権利がある。

解決に向かわせたもの
ゆずり合う気持ち。
やさしさや思いやり。
相手の気持ちを考えて、自分ができることをする思い。
大事だと思うこと

今まで自分の権利ばかり考えていたけれど、友達のことでも思いやる必要がある。自分がかまんすればいいと思っていただけ、勇気を出して自分の権利を伝えようと思った。

【評価】

自他の権利の尊重について、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
 授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

自他の権利を尊重すること 「C-(12) 規則の尊重」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自他の権利を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「ピアノの音が……」 (東京書籍 新しい道徳6年)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第5学年及び第6学年の「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の指導事項「(12)規則の尊重」 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすことを受けている。

この時期の児童は、法やきまりを守ることは大切なことであると理解している。しかし、自分の権利は主張しても、相手の権利までに思いを及ぼせることは少ないと考えられる。そこで、身近な集団生活を送る上で、お互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが、お互い気持ちよく生活するために大切であるということを理解することや、自ら進んで積極的に行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てることが大切であると考えられる。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、これまでに、約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ることを学んできた。毎日の生活の中で、学級のきまりを守り、よりよく生活しようとする意欲は身に付いてきている。しかし、雨の多いこの時期、児童は、休み時間に教室で過ごすことが増え、業間や昼休みに自分のやりたいことだけを考え、騒音の問題が起きることが考えられる。ある児童はオルガンを弾いたり、ある児童はダンスを踊ったりして騒々しく過ごしている。一方、ある児童は、静かに本を読んだり、友達と話したり静かに過ごしたいと思っている。休み時間は、どちらにも好きなことをして過ごす権利があり、どちらか一方が我慢すればいいわけではない。そこで、自分の権利を主張するだけでなく、相手の権利も尊重し、お互いに気持ちよく生活するためには、どうしたらよいかを考え行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、同じマンションに住む住民同士の騒音のトラブルを扱っている。マンションで、静かにする時間を決めたのだが、それ以外の時間にピアノを弾く女性に対して、隣に住むおじさんが静かに生活したいと、マンションの管理人に訴えるという内容である。女性は、きまりを守ってピアノを弾いているのだが、おじさんにとっては、静かに生活したいという権利が守られていることにはならない。集団生活の中で、規則を守っている上で起こる騒音という問題場面を取り上げ、お互いの権利を守りながら気持ちよく集団で生活するためには、どうしたらよいかということについて考えることを通して、相手の気持ちや立場も考えて、自分の権利だけでなく、相手の権利も尊重しようとする実践意欲と態度につなげていきたい。

教材では、マンションの管理人の岡さんが登場するが、今回は二人の権利の尊重を取り扱うため第三者の立場である岡さんの心情には触れない。また、登場人物の心情や問題場面を考えるために授業当日の朝の読書で、事前読みをさせておき、すぐに内容に入れるようにしておく。

4 学習指導過程

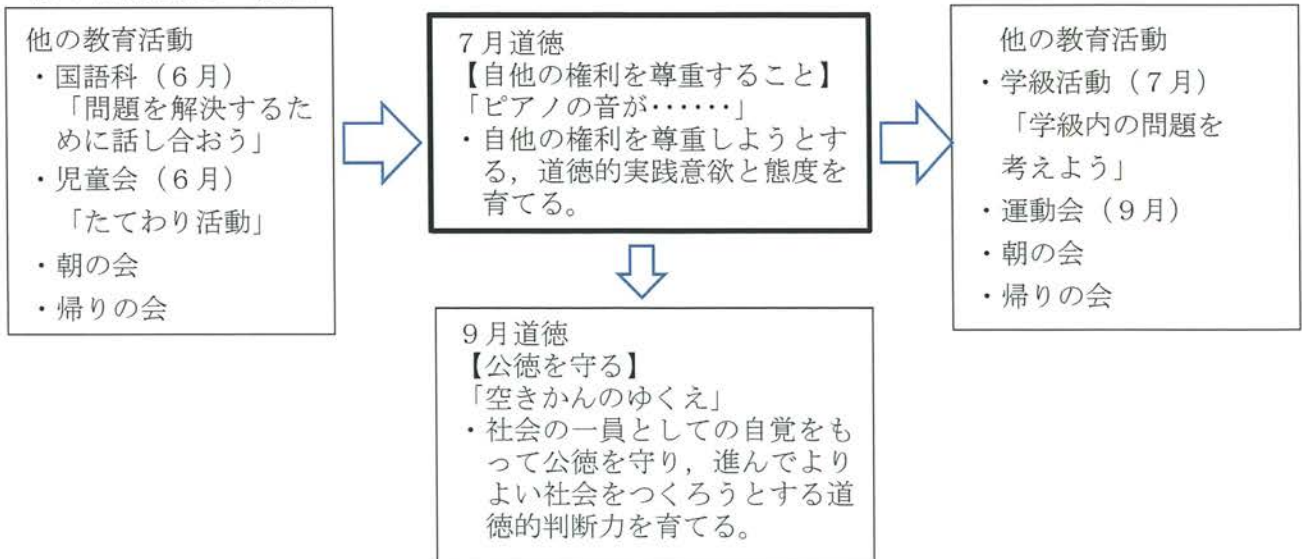
	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 休み時間の過ごし方について話し合い、問題の所在を確かめる。</p> <p>○ 休み時間の過ごし方で困ることは、どのようなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かに過ごしたいのにうるさい人がいて困る。 ・ボールの取り合いになる。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題につなげるために、日頃の休み時間の過ごし方での出来事など、児童が考える必然性がある問題を提示する。 ・困ることを話すことで、休み時間は、きまりを守っていれば、好きなことをして過ごすことができるが、相手のことを考えないと、互いの権利を尊重しているとは言えないことに気付かせる。
展開 前段 10分	<p>3 登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 「裁判を起こす」と言ったおじさんの気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うるさくて我慢できない。 ・ピアノを弾かないでほしい。 ・静かにしてほしい。 ・静かに生活する権利を守ってほしい。 <p>○ おじさんに「裁判を起こす」と言われた女の人の気持ちを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの練習をしたいのに。 ・ルールを守っているのに、文句を言われても困る。 ・ピアノを弾く権利があるのに。 ・どうしたらいいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの権利に気付かせるために、おじさんと女の人の気持ちを自分との関わりで考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なかなか考えが出ないときは、以下のよう に、問い返す。 「裁判を起こすって言うのは、普通のこと ではないよね」 「ルールを守っているのに、うるさいっ て言われてますよ」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・二人の気持ちを理解し、どちらにも権利があることに気付かせることを通して、どうしたら解決できるのかを考えさせていく。
展開 後段 25分	<p>4 自他の権利を尊重するために必要なことについて考える。</p> <p>○ 二人の立場になって、解決に向けた話し合いを演じてみましょう。</p> <p>女「どれだけうるさいですか」 男「とてもがまんできないほど、うるさいんだよ」 女「私も、ピアノを弾きたいのです。困ったな。どこから聞こえてきますか」 男「えーと、こっちのかべから聞こえてくるんだよ。うるさいよ」 女「そうですか。では、弾く場所を変えてみます」 男「変える？できますか。では、お願いします」 ○ おじさん役をしてどう思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が役になりきれるように、場面や人物の設定を明確に伝える。 ・児童が安心して本音で演じることができるよう、役割演技の上手い下手は関係ないこと、見ている人は茶化さないこと、演じる人はふざけないことを約束し、それぞれの思いや考えを理解するための学習であることを伝える。 ・役割演技を通して、自他の権利を尊重するためには、相手の立場や気持ちを考えて対応しなければならぬ難しさに気付かせる。 ・意図的指名につなげるために、初めは、ペアで考えたことを即興的に言わせ、児童の考え方や見方を見取るようにする。 ・次に、代表のペアに全体で役割演技をさせ、見ている児童は、それぞれがどのような気持ち

	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て訴えるというのは、難しく、あまり強く言えなかった。 ・女の人に、話を聞いてもらえたら、訴えるという怒りが収まってきた。 <p>○ 女の人役をしてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら、ピアノを弾くことができるのか、たくさん話を聞いて解決できるように考えました。 <p>○ 見ていた人は、二人のどのような思いを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくり話さないとは解決は難しいのだと思いました。 ・相手を思いやる気持ちがあると、解決に向かうのだなと思いました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 二人を解決に向かわせたものは何だと思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えて、自分ができるところをやる気持ち。 ・ゆずり合う気持ち。 ・やさしさや思いやり。 ・相手に、自分の思いを伝える勇気。 ・自分ができるところは何かを考えて行動すること。 	<p>ちで自分の思いを伝え、解決を図ろうとしているかを想像するという視点を与えることで、さらに道徳的価値について迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの権利を守るために大切なことは何か、他の内容項目との関連も踏まえて深く考えさせる。 ・全体で発表し合い、自分以外の多様な考えにも触れさせることで、相手の権利を守るためには、お互いに話し合ったり、相手のことを思いやったり、相手のことを思って行動することの大切さに気付かせたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>関連する道徳的価値の統合 「相互理解、寛容」「親切、思いやり」「自由と責任」「勇気と希望」など</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末5分</p>	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ あなたがお互いの権利を大切にするために、大事だと思うことはどのようなことでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで、自分の権利ばかり考えていたけれど、友達のことでも思いやる必要があるなと思いました。 ・お互いの権利を大切にするために、相手を受け入れることが大切。 ・自分は我慢すればいいと思っていたけれど、勇気を出して自分の権利を伝えようと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

自他の権利の尊重について問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

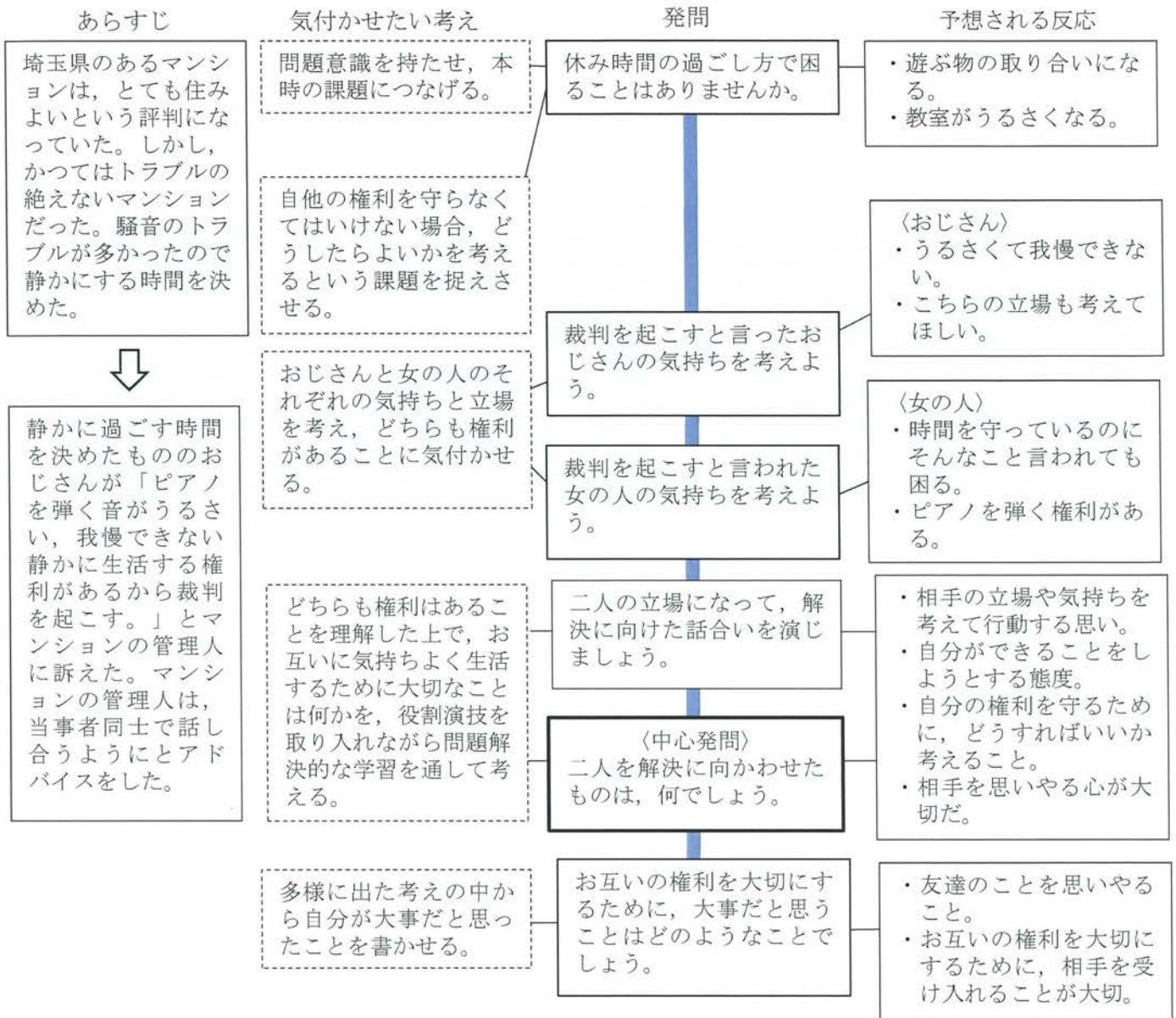
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【統合】

この教材は、多様な道徳的価値について考えることができる内容である。自他の権利の尊重のためには、「相互理解，寛容」「親切，思いやり」「善悪の判断，自律，自由と責任」「希望と勇気，努力と強い意志」「よりよい学校生活，集団生活の充実」などの道徳的価値が関連することが考えられる。自分の権利を主張するとともに，相手の気持ちや立場，権利も考えなければならない。よって，本時は，それらの道徳的価値を統合し自他の権利の尊重について，捉え直すことができるようにする。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書、場面絵

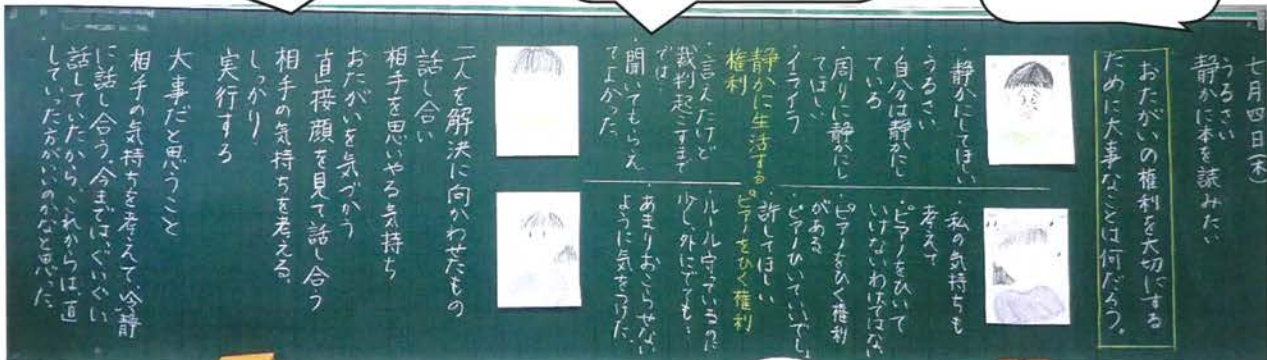
児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

終末に、自己の生き方を振り返ることができるように、考えを黒板に残しておく。

多面的・多角的な見方・考え方ができるように、上下段に分けた。

児童に問題意識を持たせるために身近な問題を取り上げた。



(1) 導入

本時の課題につなげるために、児童が考える必然性がある問題を提示した

○児童の実態から問題の所在を探り、本時のねらいを決めることで、子供たちに考える必然性のある課題を提示することができた。

課題「お互いの権利を大切にするために大事なことは何だろう」

取り上げる日常生活の問題「休み時間の過ごし方で困ることはありませんか」

気付かせたいこと「ルールを守っているだけでは、相手の権利を尊重していることにはならない」

実際のやり取り

T 「休み時間の過ごし方で困ることはありませんか」

C 「教室がうるさい」

T 「どう過ごしたいの」

C 「静かに本を読みたい」

T 「教室は静かに過ごすというルールはある」

C 「ないなあ」

T 「休み時間は自由に過ごす何を持っているの」

C 「自由に過ごす権利！」

T 「でも、自由だから何でもしていいの」

C 「えっ・・・」

※ 「自由は何でもしていいか」と問い返すことにより、本時の課題に気付かせる。

C 「ルールは守る」

T 「ルールを守った上で、自由に過ごす権利があるよね」

T 「今日は、自分だけでなく、『お互いの権利を大切にするために大事なことは何だろう。』という課題について、みなさんで考えていきます」

(2) 展開

事前読みを活用した

○ 朝の活動などで、事前読みをさせることで簡単に物語のあらすじをとらえ、何が問題なのか考えさせておくことで、すぐに話し合いに入ることができた。

○ 登場人物の心情を捉えるときに、児童の発言に対して、問い返しの発問をすることで、より深く

自分との関わりで心情を捉えさせることができた。

実際のやりとり

T「おじさんの気持ちを考えよう。おじさんは、どのような気持ちですか」

C「イライラしている」

T「おじさんは、なんでイライラしているの」

C「・・・」

T「みんなはピアノの音がずっと聞こえていたらどう思う」

C「イライラするなあ」

役割演技を取り入れた

おじさんと女の人の権利が対立する中心場面では、お互いの権利を尊重するためにどのような話し合いが行われたのかを、想像できるように役割演技を取り入れた。

- お互いの権利を主張するだけでは解決しないことに気付き、相手を思いやることや、お互いに聞き合う態度が必要など、実際にせりふを考えることで、大切な道徳的価値について考えさせることができた。
- 解決しなかったペアの役割演技の後、解決したペアの役割演技を見ることで、第三者立場から見ていた他の児童達は、何が解決に向かわせたのかを考えていたようで、その後の「二人を解決に向かわせたものは何でしょう」という中心発問に対して様々な考えを引き出すことができた。
- 代表のペアに感想を聞くのではなく、そのせりふを取り上げた訳を「どうして〇〇と言ったの？」「〇〇さんは、どうして、～と言ったと思う？」などと聞けば、さらにねらいについて深く考えさせることができた。

(3) 終末

自己を見つめた

- 振り返りの視点を与えることで、今までの自分を振り返り、自他の権利の尊重について、これから大事にしていきたいと思う考えを持たせることができた。

児童感想

- ・ 役割演技でAさんとBさんの気持ちも分かるし、CさんとDさんの気持ちもなるほど・・・となるので、すごくなやみました。そして、最終的には、おたがいに気遣い、相手の気持ちを考えることだと、よく分かりました。
- ・ 今までは、自分の意見をずばずば言っていたけれど、今日、役割演技を見て、原因を考えるだけでなく、解決方法を考えた方がいいと思いました。
- ・ 大事なことは、相手の気持ちを考えて冷静に話し合うことで、今までは、ぼくは考えをがんがんに言ってしまふときがあったので、そこを直した方がいいのかなと思いました。
- ・ 自分も迷惑だなあと思うことはたくさんあって、注意すると、逆に言い返されることがあったのでこれからは、相手の気持ちを考えて話すことが大切だなと思いました。

【主題名】 自他の権利を尊重すること 内容項目 「C-(12) 規則の尊重」

【教材名】 ピアノの音が…… (東京書籍 新しい道徳6)

<あらすじ> マンションで起きたピアノによる騒音トラブル。「隣の女性のピアノがうるさい。もう我慢できない。静かに生活する権利があるから裁判を起こす」と言うおじさんからの苦情があり、管理組合の岡さんはトラブルの解決について悩む。

【ねらい】

内容項目の理解

自他の権利を大切にす道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

休み時間、自分の思いのままに行動する児童が多く、学級や学校のために何をすればよいのか、考えが及ばない。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自他の権利を尊重しようとする道徳的判断力を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 休み時間の過ごし方について話し合い、問題の所在を確かめる。 ○ 休み時間の過ごし方で困ることは、どのようなことがありますか。	導入の工夫
	2 課題をつかむ。 お互いの権利を大切にするために大事な見方や考え方は何だろう。	問題解決的な学習
展開	3 登場人物の行動を支える判断力を捉える。 ○ 不満が多く寄せられ、管理人の岡さんはどのようなことを考えましたか。 ○ 岡さんはどうして、「静かに生活する権利も、ピアノを弾く権利もあります」と言ったと思いますか。	多面的・多角的
	4 自他の権利を尊重するために必要なことについて考える。 ◎ お互いが気持ちよく生活するためには、どのような見方や考え方が必要ですか。	
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ あなたがお互いの権利を大切にするために、大事だと思う見方や考え方を書きましょう。	

【板書計画】

第○回道徳
・教室でさわぐ。
・やりたいことができない。

お互いの権利を大切にするために大事な考えは何だろう。

挿絵
困った岡さん

挿絵
おじさん

挿絵
女の人

「どちらも権利がある。」

- ・どちらも間違っていない。
- ・お互いによく話を聞いてほしい。
- ・どうしたらよいか考えてほしい。

お互いが気持ちよく生活するために

- ・相手の話をしっかり聞く。
- ・自分ができることをする。
- ・相手の気持ちを考える。

大事だと思う見方や考え方

- ・今まで自分の権利だけ考えていたけれど相手のことも考える。
- ・周りが気持ちよく生活できるように、自分ができることをする。

【評価】

自他の権利の尊重について、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

【主題名】 目標に向かう強い心 内容項目 「A-(5) 希望と勇気, 努力と強い意志」

【教材名】 心をつなぐ音色～ピアニスト 辻井伸行 (東京書籍 新しい道徳6)

<あらすじ> 小さいときから音楽が好きで、目が不自由でも、ずっとピアノの練習を続けてきた辻井さん。聴いてくれる人達を喜ばすために演奏を続け、世界的なピアノのコンクールに出場する。練習を重ね3年後、見事にコンクールで優勝を果たす。

【ねらい】

- 内容項目の理解
より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
将来の夢が決まっている児童もいるが、まだ夢が決まらず、何を目標に頑張ったらよいか分からない児童が多い。

- 本時のねらいを設定する
- 判断力** **心情** **実践意欲** **態度**
- 目標を立て、希望や夢に向かって、あきらめずに努力しようとする道徳的判断力と道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 ICTを活用し、教材の内容に興味・関心を持たせる。 ○ 将来の夢はありますか。 ○ 夢に向かって努力していることはありますか。 2 課題をつかむ。 夢や希望について考えよう。	導入の工夫 教材の活用
展開	3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を捉える。 ○ 生まれたときから目が不自由なぶ君は、どうしてピアノが上手になったのでしょうか。 ○ ショッピングセンターの広場で演奏し、初めて拍手をもらう体験に心が高鳴ったぶ君はどのような気持ちだったのでしょうか。 ○ 先生に「もうだめだね」と言われた辻井さんは、どのような気持ちで深夜までピアノに向かったのだろう。 4 困難に負けず、夢や希望を叶えるために、必要な思いは何か考える。 ◎ 辻井さんは、目が不自由という障害がありながら、ピアニストとして成功することができたのは、どのような思いがあったからでしょうか。	自分との関わり 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 辻井さんの実際のインタビューを動画で見てください。 ○ 夢や希望を叶えるために、どのような思いが必要でしょうか。	終末の工夫

【板書計画】

第○回 道徳

夢や希望について考えよう

辻井伸行さん

1歳の頃の
写真

5歳の頃の
写真

- ・上手に弾くとお母さんが喜んでくれた。
- ・お母さんが喜びと自分も嬉しい。
- ・大勢の前で演奏することは楽しい。
- ・大きな拍手が嬉しい。
- ・もっと練習しよう。

「もう、だめだね」

- ・あきらめたくない。
- ・お客さんためにまだまだ練習しよう。
- ・悔しいから、もっと練習しよう。
- ・後悔しないように最後まで、頑張ろう。
- ・今まで頑張ったから、最後まで頑張ろう。

辻井さんの思い

- ・聴いてくれる人のためにもっと努力したい。
- ・人のことを笑顔にしたい。
- ・もっと、拍手がほしい。
- ・聴いてくれる人の心を動かしたい。
- ・支えてくれた人達への感謝。

コンクールで優勝した写真

夢や希望をかなえるために

【評価】

辻井さんの生き方を通して、夢や希望を持つためにどのような思いが大切であるかを考えようとしている。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

目標に向かう強い心「A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

目標を立て、希望や夢に向かって、諦めずに努力しようとする道徳的判断力と道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「心をつなぐ音色～ピアニスト 辻井伸行」(東京書籍 新しい道徳6年)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第5学年及び第6学年の「A 主として自分自身に関すること」の指導事項「(5) 希望と勇気、努力と強い意志」より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くことを受けている。

児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲を持つことが大切である。そのためには、自分の目標を高く持って、その達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、これまでの学習を通して、先人や著名人の生き方に触れる機会が多くあり、その生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりしてきた。一方、自分自身に自信が持てなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを感じるようになってきている。このような時期だからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成を目指して、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする道徳的判断力と道徳的心情を育てる必要があると考える。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、盲目のピアニスト辻井伸行さん(のぶ君)がピアノ演奏の喜びを知り、世界的なコンクールに出場する姿を描いている。辻井さんは、困難にぶつかりながらも努力し、自分のピアノを聴いてくれた人が喜んでくれるような演奏をすることを何よりも大切にしている。聴いてくれる人の心に響く音楽を目指して日々練習に取り組む姿は、幼い頃から変わらない。その思いが世界的なコンクールの優勝につながり、今のピアニストとしての音楽活動につながっている。この辻井さんの生き方に触れることで、児童が自分の夢を見つめるきっかけとしたい。

教材の活用としては、導入で辻井さんが弾く「英雄ポロネーゼ」のVTRを見せ、目が見えなくてもピアノを弾くことの大変さや素晴らしさに気付かせる。展開では、「無理だね」と言われてもあきらめずに練習を続ける辻井さんの思いを考えさせることを通して夢に向かってあきらめない思いや考えを多面的・多角的に考えさせたい。終末では、コンクールで優勝した辻井さんのインタビューの様子をVTRで見せる。高い目標を持ち努力したことによって、世界的なピアニストとして活躍する辻井さんの姿から、夢をあきらめないことや努力を続けること、聴いてくれる人達のために弾いていること、支えてくれる人達への感謝な気持ちなど深く考えさせたい。

4 学習指導過程

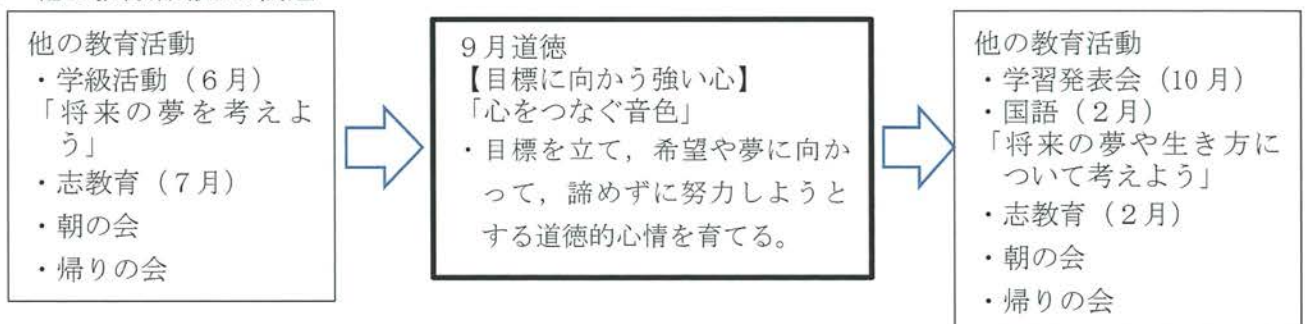
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問 ・予想される児童生徒の反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 7分</p>	<p>1 教材の内容に興味・関心をもたせる。</p> <p>○ 将来の夢がある人はいますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー選手になりたい。 ・ピアニストになりたい。 ・まだ決まっていない。 <p>○ 夢に向かって努力していることはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日練習を頑張っている。 ・夢はあるけど、特に何もしていない。 <p>○ 辻井伸行さんの演奏している姿を見て、どう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えないのにピアノを弾くなんてすごい。 ・気持ちよさそうに演奏している。 ・全身を使って演奏している。 <p>○ 辻井さんの生き方から、夢や希望を叶えるために大切な思いは何か考えよう。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>夢や希望について考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢は何かを想起させることで、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高める。 ・辻井伸行さんに興味をもたせるために、実際に演奏している映像を見せ、盲目のピアニストである辻井伸行さんの紹介をする。 ・実際に目をつぶってみることで、目が見えないのにピアノを弾くことへの困難さに気付かせる。 ・課題として、困難を抱えても、ピアニストとして成功している辻井さんの生き方を通して、夢や希望を持つことについて考えることを捉えさせる。
<p>展開 前段 28分</p>	<p>3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ のぶ君がどんどんピアノが上達したのはどうしてですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対音感があった。 ・お母さんが喜んでくれた。 <p>○ ショッピングセンターの広場で演奏し、初めて拍手をもらう体験に心が高鳴ったのぶ君はどのような気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大勢の人に喜んでもらえてとても嬉しい。 ・感動した。 ・今までとは違う。 <p>○ 「もうだめだね」と言われた辻井さんは、どのような気持ちで深夜までピアノに向かったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悔しい。 ・最後まで諦めたくない。 ・やれるところまで頑張ろう。 ・今まで頑張ってきたから、途中であきらめない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の内容を理解し、話し合う時間を確保するために、朝の読書の時間に事前読みさせておく。 ・お母さんが喜んでくれたことが嬉しかった、また、初めて大勢の人の前で演奏して拍手をもらって嬉しかったという心情を捉えることで、聴いてくれる人の笑顔のためにピアニストを目指す原動力となったことにつなげる。 ・多面的・多角的に考えることができるよう、悔しいという気持ちには、どんな思いが含まれているのか、問い返しをしながら広げていく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>自分との関わりで考えさせるための発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がもうだめだねと言われたら、どのように思いますか。 </div>

<p>展開後段 5分</p>	<p>4 困難に負けず、夢や希望を叶えるために、必要な思いは何か考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 目が不自由なのに、ピアニストとして成功することができたのは、どんな思いがあったからでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと、実力をつけて、聴いてくれるお客さんの心を動かしたい。 ・自分の弾くピアノで人のことを笑顔にしたい。 ・自分が思う最高のピアノを弾きたい。 ・諦めないで、もっと努力したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを整理するために、ノートに書かせる。 ・夢や希望を持つことについて、多面的・多角的に考えることができるように全体で考えを共有する。
<p>終末 3分</p>	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 辻井さんの実際のインタビューを動画で見てください。どのようなことを感じますか。 ○ 夢や希望を叶えるためには、どのような思いが必要でしょう。 ・辻井さんのように諦めないで、努力を積み重ねて自分の好きなことをしっかりしていきたい。 ・夢や希望を叶えるために、強い目標を持ち、その目標にたどり着くために努力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辻井さん本人の思いに触れさせるために、コンクールで優勝した時のインタビューの様子を動画で視聴させる。 ・「夢や希望を叶えるためには」として、振り返り、今日の授業を通して、考えたこと、分かったこと、これからどうしたいかをノートに書かせる。

【評価】

自分との関わりで考えることを通して、夢や希望を持つためにどのような思いが大切であるかを考えようとしている。

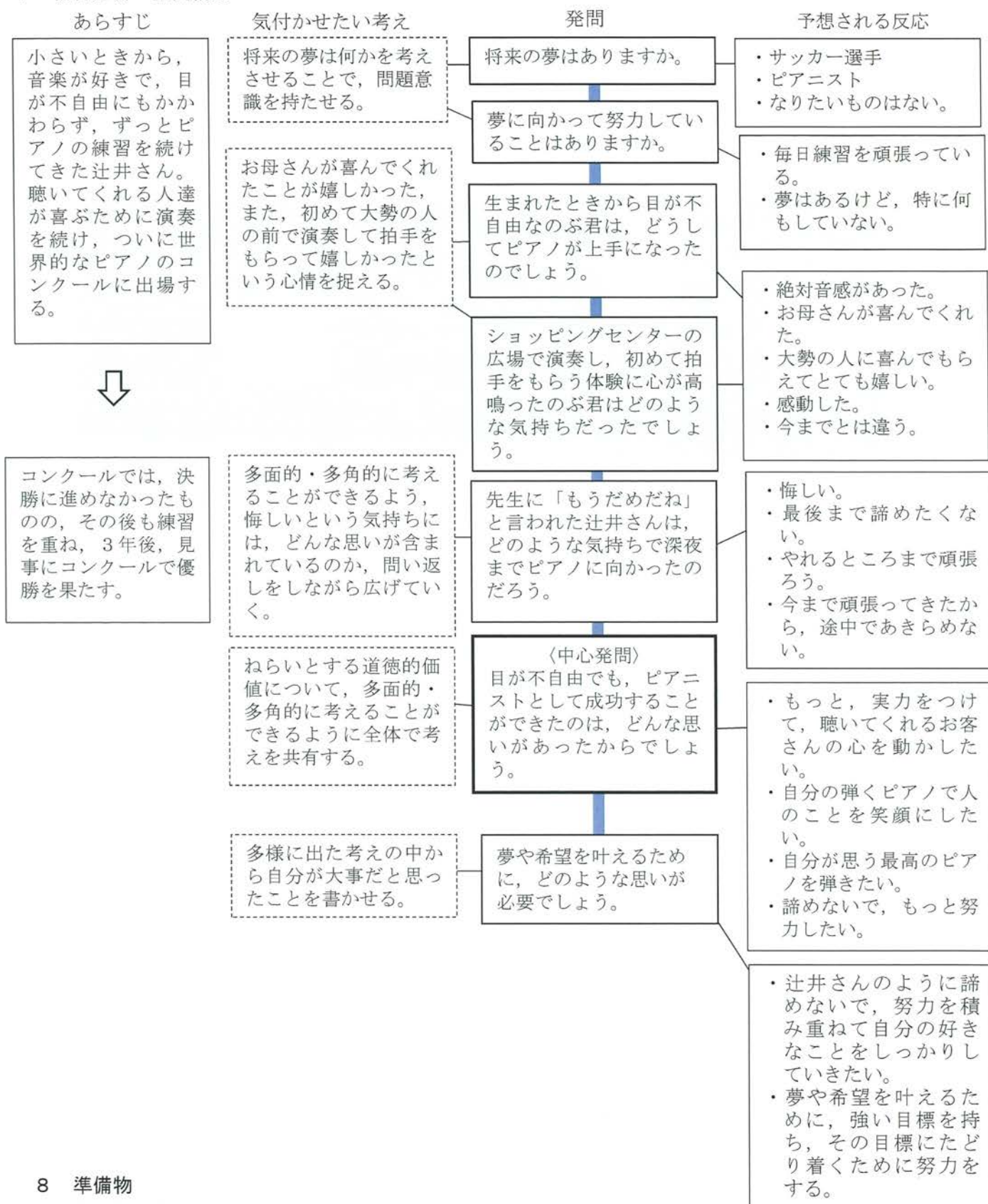
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、夢や希望を叶えるために、こうなりたいという強い思いがあれば、困難があってもくじけずに努力できるということを考えさせることができる。目が不自由という困難を乗り越えて、将来の夢に向かって「希望と勇気、努力と強い意志」を持つために必要な思いについて、辻井さんの生き方を通して深く考えさせる。

7 教材分析・発問構成



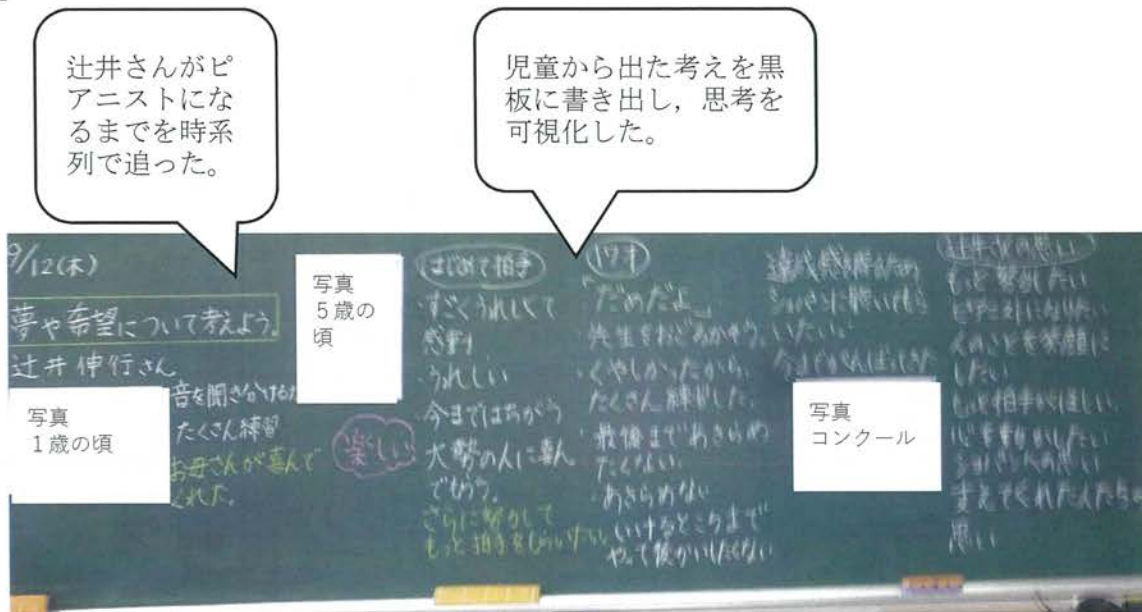
8 準備物

教師：教科書，拡大写真，VTR

児童：教科書，ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】



(1) 導入

問題意識を持たせた

将来の夢は何かを問い、夢を叶えるためにどのような目標を立てているのかを問うことで、今日の道徳は、夢や希望を持つことについて考えるのだという意識を持たせる。その際、まだ夢は決まっても焦る必要はないことを伝え、高い目標を掲げ、ピアニストになるという夢を叶えた辻井伸行さんのお話の中から、よりよく生きるためにヒントを考えるということを伝える。

- 導入を丁寧に扱うことで、本時に考える道徳的価値について、どの児童も集中して考えることができた。
- 夢がある児童は、自分の夢と重ねて、夢がまだ決まっていない児童は、生き方のヒントをもらおうとして意識を持たせることができた。

動画を活用した

辻井さんが実際にピアノを弾いている動画を見せた後、児童に目をつぶらせ、その状態でピアノを弾いていることについてどう思うか簡単に感想を言い合い、目が不自由という困難な状況に負けずに、ピアニストになった辻井さんの生き方について考えさせる。

- 目をつぶってピアノを弾く振りをするという動作化を通して、辻井さんは、目が不自由なのに「どうしてピアニストになることができたのだろう」と自分の事として考えさせることができた。

(2) 展開

挿絵を活用し、教材の内容を自分の事として考えさせる

自分との関わりで考えさせる手立てとして、教科書の挿絵を活用しながら、辻井さんの心情を幼少期から追って考えさせる。

- 辻井さんの2歳の頃のピアノを弾く様子から、「お母さんに喜んでもらえることが自分の喜び」であると気付かせ、5歳では、お母さんという家族以外の人からもらった大きな拍手で、音楽を聴いた人を喜ばせたいと思ったことに気付かせる。そこから、どうしてそのような思いになるのか、話し合い、自分の好きなことのためには、夢に向かって頑張ることができるという思いに気付かせることができた。

中心発問に対して、書く活動から話合う活動を行った

展開前段で、辻井さんの思いを十分に考えさせた後、中心発問で「辻井さんは、目が不自由という障害がありながら、ピアニストとして成功することができたのは、どのような思いがあったからか」と問い、自分の考えをノートに記述する。その記述をもとにグループで話し合ったあと、全体で考えを出し合わせる。

- 展開前段で十分に自我関与して考えていたので、辻井さんにどのような思いがあったのかを多様に引き出すことができた。
- 表面だけの思いではなく、相手を喜ばせたい、笑顔にしたいという行動の原動力になる部分を考える児童が多くいた。
- 授業後にノートを改めて見ると、もっと多様な思いや考えが記述されているので、一単位時間のなかで、座席表などを活用して児童の多様な考えをもっと表に出すようにしていく必要がある。

道徳ノートの記述より

- ・もっと実力をつけて、聞いてくれるお客さんの心を動かしたい。
- ・5歳の時にもらった拍手より大きな拍手をもう一度聞きたい。
- ・自分の弾くピアノで人のことを笑顔にしたいから。
- ・自分が思う最高のピアノを弾きたい。
- ・何があっても、昔からやってきたピアノだからやめないでこれからももっと努力したいという思い。

(3) 終末

映像を活用した

- コンクールで優勝した時のスピーチの動画を流すことで、優勝してもなお、高い目標を持って努力を続けようとする姿に気付かせることができた。

自己を見つめた

- 終末では、「夢や希望を叶えるには」として振り返り、今日の授業を通して、考えたこと、分かったこと、これからどうしたいかをノートに書かせることで、児童がこの時間にどのようなことを大事に思ったのか見取ることができた。

道徳ノート記述より

- ・辻井さんのように諦めないで、努力を積み重ねて自分の好きなことをしっかりしていきたい。
- ・夢や希望を叶えるためには、諦めない心や人生の深い思い、経験、いつまでも追究する心が大切だと思う。
- ・たとえ、「だめだよ」と言われても、諦めないで最後までやり続ける。
- ・夢や希望を叶えるために、その仕事を好きになって、楽しくなって、支えてくれている人に感謝して努力をしていきたい。
- ・夢や希望を叶えるために、強い目標を持ち、その目標にたどり着くために努力をする。

【主題名】 自他の生命について考える 内容項目 「D-(19) 生命の尊さ」

【教材名】 決断！骨髄バンク移植第一号（東京書籍 新しい道徳1）

＜あらすじ＞ 日本初の骨髄移植によって白血病患者の命を救う話。血液の適合を告げられた一人のドナー登録者が提供を決断するまでの葛藤を描く。全国集会で患者とドナーは出会い、固い握手を交わす。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重するという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

「いのち」は大切であるという漠然とした理解にとどまり、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいか理解が不十分である。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自他の生命を守り、尊重するためには、どのような考えが必要か話し合わせ、道徳的判断力を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時の主題に価値付けを行う。 ○ 自分の命や健康を守るために心掛けていることはありますか。 2 課題をつかむ。 自他の生命を尊重する時に必要な考えは何か。	導入の工夫
展開	3 資料の範読、及び骨髄移植についての補足説明を聞く。 ○ 田中さんの足取りが重かったのはなぜでしょう？ 4 グループで自分なら提供できるかどうか話し合う。 ○ あなたなら骨髄を提供できますか？ 5 資料に戻り、考えを深める。 ◎ 手を握り合う二人はそれぞれ何を考えていたのでしょうか？	自分との関わり 問題解決的な学習
終末	6 授業を振り返り、自分との関わりで考える。 ○ 自他の生命を尊重するために大切な考えは何でしょうか？ ・最後の発問前に、「命の感謝状（手紙）」または、「命のリレーの物語（映像）」を紹介する。	終末の工夫

【板書計画】

第○回道徳

自他の生命の尊重とは？

骨髄バンクについて

- ・白血病の治療のため設立
- ・ドナーから患者へ骨髄液を移植
- ・約2万3千件実施
- ・バンク登録者は52万人
- ・移植待ち患者数約2千人

○田中さんの足取りはなぜ重かったのか？

- ・手術への不安。・家族の心配。
- ・仕事を休まなければならない。

○自分なら提供できるか？

1班

・手術が怖いので無理。
・不安だが提供する。
・家族と相談して決める。

2班

・迷って決められない。
・家族の意見に従う。

3班

・針を刺すのは怖い。
・絶対提供したい。
・自分しかいないのなら。

4班

・誰かの命を助けたい。
・役に立ちたい。
・仕事を休むのは・・・

5班

・危険を冒したくない。
・自分では選べない。
・家族だったら提供する。

※グループごとに心情円をホワイトボードに貼る。

自他の生命を尊重する時に必要な考えは？

- ・相手のことを考える。
- ・自分の命も大切にすること。
- ・勇気を持って行動すること。

【評価】

自他の生命を尊重するために必要な考えについて、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

【主題名】 自他の生命について考える 内容項目 「D-(19) 生命の尊さ」

【教材名】 決断！骨髄バンク移植第一号（東京書籍 新しい道徳1）

＜あらすじ＞ 日本初の骨髄移植によって白血病患者の命を救う話。血液の適合を告げられた一人のドナー登録者が提供を決断するまでの葛藤を描く。全国集会で患者とドナーは出会い、固い握手を交わす。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重するという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

自他の生命を大切にしなければならないことは理解しているが、具体的な場面で、どのように命を大切にしていこうかという意欲は高くない。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

生命の有限性、唯一性について理解を深め、自他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時の教材に興味・関心を持つ。 ・骨髄移植や骨髄バンクについてクイズ形式で聞く。 2 課題をつかむ。 生命を大切にするには	導入の工夫
展開	3 資料の範読を聞き、内容をつかむ。 ○ 田中さんはなぜ、「提供します」とすぐ答えたのだろうか？ ○ 「断るなら今だ」と思った田中さんは何を考えていたのだろうか？ 4 田中さんの葛藤を理解する。 ・「提供する田中さん」と「提供しない田中さん」での役割演技を通して考える。 5 資料後半を聞き、内容をつかむ。 ◎ もし、あなたが橋本（田中）さんなら、田中（橋本）さんに、どのような手紙を書きますか。	自分との関わり 体験的な学習
終末	6 授業を振り返り、自分との関わりで考える。 ○ 自他の生命を大切にするために、これからどのようなことに心掛けて生活していきたいですか。 ・最後の発問前に、「命の感謝状（手紙）」または、「命のリレーの物語（映像）」を紹介する。	終末の工夫

【板書計画】

自他の生命を尊重するためには？

- ・他の人のことも気に掛ける。
- ・自分の命をまず大切にすること。
- ・周りの人に感謝する。
- ・勇気を持って行動する。
- ・様々な人がいることを知る。

◎ 田中さん（橋本さん）に手紙を書きましょう。

断るなら今だ

田中さんの心

- ・母も反対していた
- ・仕事を休まなければならぬ
- ・太い針を刺す恐怖
- ・自分に誠実に生きたい
- ・息子に宣言した
- ・人の命が救える

提供する

骨髄バンクとは？

白血病の治療のため設立

ドナーから患者へ骨髄液を移植

約二万三千件実施

バンク登録者は五十二万人

移植待ち患者数約二千人

決断！骨髄バンク移植第一号

第〇回道徳

生命を大切にするには

【評価】

自他の生命の尊重について、体験的な学習を通して、自分との関わりで考えようとしていたか。

【主題名】大切な友達だから・・・ 内容項目 「B-(8) 友情, 信頼」

【教材名】短文投稿サイトに友達の悪口を書くと (東京書籍 新しい道徳1)

<あらすじ> ナオコにきつい口調で注意されたイチロウは「悪口を書いて、ネットに投稿してやる。」と言い出す。それに同調してしまったコウタはだんだん心配になり、悪い夢を見てしまう。次の日の朝、イチロウに書き込みをやめるよう、電話をする。

【ねらい】

内容項目の理解
友情, 信頼の2つの道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握
今までの友達関係を崩したくないあまり, 正しいことではないと自覚しながら, 友達に同調して流されるなど, 信頼関係についての理解が不十分である。

本時のねらいを設定する

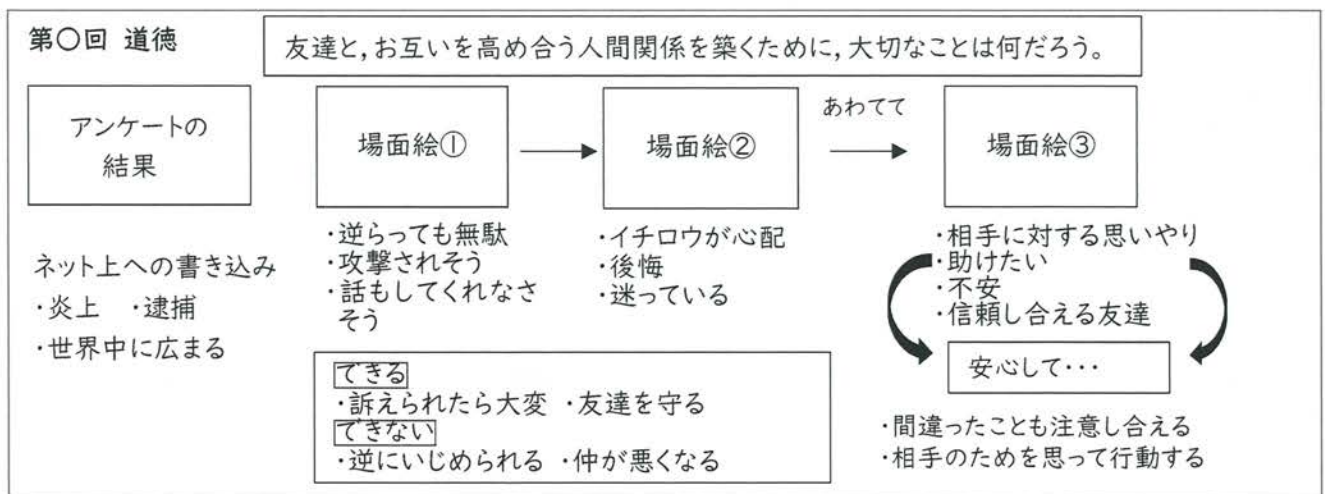
判断力 心情 実践意欲 態度

安易に友達の意見に同調するのではなく, 正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 主題に関わる問題意識を持つ。 ・ 事前アンケートの結果を確認し, 日常生活を振り返る。 2 課題をつかむ。 友達と, お互いを高め合う人間関係を築くために, 大切なことは何か。	導入の工夫
展開	3 教材前半の内容を把握し, 主人公の心情の変化を捉える。 ○ ネット上に人の悪口を書くと, どうなりますか。 ○ コウタが, なかなか眠れなかったのは, なぜでしょうか。 4 友達と, お互いを高め合う人間関係を築くために, 大切なことを考える。 ○ もし, あなたがコウタの立場だったら, 友達に忠告することはできますか。またそれはなぜですか。話し合ってみましょう。 ◎ コウタをあわてて電話に向かわせたものは何だと思いますか。	展開の工夫 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方についての考えを深める。 ○ 友達と, お互いを高め合う人間関係を築くために大切なことは何でしょうか。考えたことを書きましょう。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

友達との人間関係について, 自我関与中心の学習を通して, 自分との関わりで考えようとしていたか。

第1 学年道徳科学習指導案

日 時	令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者	T 1 〇 〇 〇 〇
	T 2 〇 〇 〇 〇

1 主題名

大切な友達だから・・・ 「B-(8) 友情, 信頼」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

安易に友達の意見に同調するのではなく、正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てる。

(2) 教材名

「短文投稿サイトに友達の悪口を書くと」 (東京書籍 新しい道徳1)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

お互いの人間的な成長と幸せを願って励まし合い、時には意見がぶつかることがあっても、忠告し合える人間関係は、互いの信頼を基盤としているからこそ、築くことができると考える。そのような関係を築くことで、いざという時に頼ることができ、切磋琢磨しながらお互いを高め合って生きていくことができる。中学生の段階では、心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願う気持ちが高まる一方で、相手に無批判に同調し、自分が傷つくことを恐れる余り、最初から一定の距離をとった関係しか持たないなど複雑な思いにとられる場合もある。このような時期だからこそ相手の内面的なよさ、ものの見方や考え方を理解し、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していくことが必要である。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、中学校に入学して以来、宿泊研修や部活動など様々な体験を通して、友達と励まし合いながら辛いことも乗り越え、信頼関係を築いてきた。一方で、ささいなことで言い争いになったり、正しいことではないと自覚しながら、今までの関係を崩したくないあまり仲の良い友達に同調して流されたりするなど、信頼関係についての理解が不十分である。例えば、仲の良い友達が、授業中に私語をしても、なかなか注意ができなかったり、級友の悪口を一緒に言ってしまったりする姿が見られる。そこで、安易に友達の意見に同調するのではなく、正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てることが重要であると考えます。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、同級生の悪口を「ネットに投稿してやる」と言い出した友達を心配する、主人公の心の葛藤や行動を取り上げている。主人公は、友達の言葉に対して、はじめは逆らえずに同調するのだが、夜になってにわかには心配になり、次の日に目が覚めると、あわてて友達に電話をするという内容である。友達の発言に対して、はじめは同調した主人公が、次の日に電話で注意を促したのはなぜかを考えさせることを通して、ねらいに迫りたい。教材の内容について、主人公の心情の変化を、それぞれの場面で、自分のこれまでの経験を基に振り返らせるため、分割読みを取り入れる。また、教材の内容は、ネットへの書き込みという、情報モラルに関する指導と関連している。インターネット上の法やきまりを守れずに引き起こされる弊害について触れながら、本時の指導に当たっていきいたい。なお、今回の授業では、授業者と生徒の対話を大切にしたいため、チームティーチングで授業を行い、役割を分担する。T 1は主に生徒と対話をし、T 2は、生徒の発言の板書や配慮の必要な生徒の支援に当たる。

4 学習指導過程

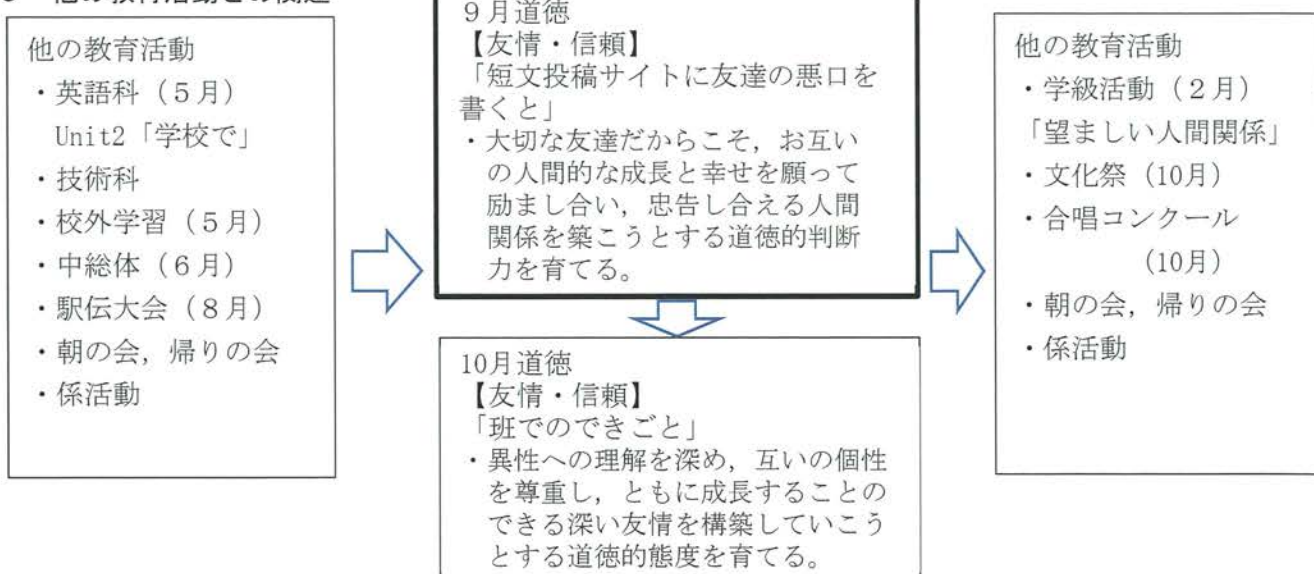
	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問) ・予想される反応	・指導上の留意点 (T 1) ☆T 2の動き
導入 5分	<p>1 主題に関わる問題意識を持つ。</p> <p>アンケート結果</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○ 「友達がいる良かったな」と思う場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ趣味のことを話せる。 ・ 悩みを聞いてくれた。 ・ 体育でペアになって活動するとき。 </div> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何か。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に回答した内容と展開後段での考えを比較させるために、アンケート結果は最後まで掲示しておく。 ・ 生徒の回答の内容について、友達（自分）が何のためにそのような行動をしてくれているのか（しているのか）を考えることを通して、本時の課題につなげる。 <p>☆1時間の授業を通して、生徒の発言を板書する。</p>
展開 前段 12分	<p>3 教材の前半の内容を把握し、主人公の心情の変化を捉える。</p> <p>○ ネット上に人の悪口を書くとどのようなことが起きるか知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 炎上します。 ・ 訴えられて処罰されるかも知れません。 <p>○ コウタがなかなか眠れなかったのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イチロウが心配になったからです。 ・ 自分の行動を後悔しているからです。 ・ 注意すべきかどうか迷っているからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲の良い友達にはなかなか注意できないという場面を、自分のこれまでの経験を基に振り返らせるために、教材の前半のみ範読する。 ・ 情報モラルと関連して考えさせるために、法についても触れておく。 <p>☆教材の内容を正しく捉えさせるために、場面絵を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言うべきかどうか葛藤している気持ちを理解することを通して、どのように行動することがお互いのためになるのかを考えさせることにつなげていく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どういう心配があるのですか。 ・ どうして後悔しているのですか。 </div>
展開 後段 26分	<p>4 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことについて考える。</p> <p>○ もしも、あなたがコウタの立場だったら、イチロウに忠告することはできますか。理由とともに自分の意見を書き、その後、グループで意見を発表し合ってみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">できる</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名前がばれて広まったら大変だからです。 ・ 友達が訴えられるかもしれないからです。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">できない</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲が悪くなるかもしれないからです。 ・ 逆にいじめられるかもしれないからです。 ・ 言っても聞かないと思うからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の気持ちに自我関与させ、道徳的価値に対する自覚を可視化させるために、心情円を活用させる。 <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;"> </div> <p>(青：できる 赤：できない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見をワークシートに書かせることを通して、自らの考えを整理させ、発表につなげさせる。 ・ 多面的・多角的に考えさせるために、グループで友達の多様な考えに触れさせる。 <p>☆支援が必要な生徒の机間指導を行う。</p>

	<p>迷う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたいけれど、本当にできるか分かりません。 ・どれくらい相手を信頼しているかで行動も違うと思うからです。 <p>◎ コウタをあわてて電話に向かわせたものは何だと思えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を良い方向に導こうとする思いやりだと思います。 ・これからもずっと信頼し合える友達でいたいという思いです。 ・訴えられたら、大切な友達を失ってしまうという不安です。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「できる」と答える生徒が圧倒的に多かった場合の問い返し ・逆に文句を言われたらどうしますか。 ・本当にできますか。 * 「できない」と答える生徒が圧倒的に多かった場合の問い返し。 ・それは友達と言えないのではないですか。 ・友達が後で大変なことに巻き込まれてもいいのですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・後半を範読することで、コウタがとった行動に対しての自分の考えを持たせ、道徳的価値についての理解を深めさせたい。 ・意図的指名をするために、座席表に生徒の考えを書き込みながら机間指導する。 ・全員の前で発表させることで、大切な友達だからこそできる行動について考えを広げさせたい。
<p>終末7分</p>	<p>5 自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>○ 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで、いつも一緒にいてくれたり遊んだりしてくれる人が友達だと思っていたけれど、間違っただけを注意し合ったりすることも大切だと思いました。 ・自分は友達に注意できるか分からないけど、お互いの幸せのためには言いづらいことも言っておくことが大切だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。 ・導入で提示したアンケートの回答を再度取り上げることを通して、今日の授業での新たな気づきを共有する。

【評価】

友達との人間関係について、主人公に自我関与する学習を通して、自分との関わりで考えようとしていたか。

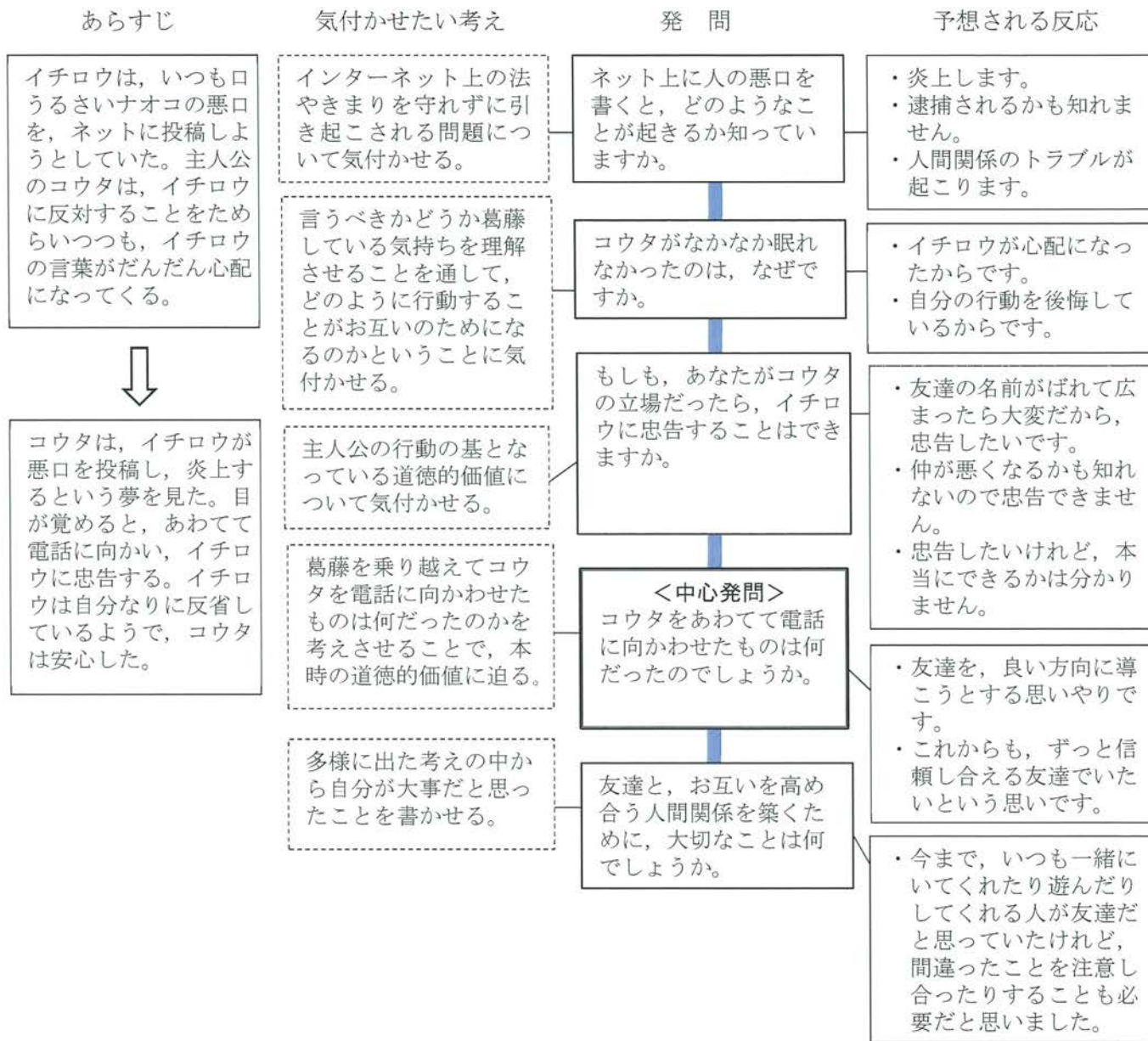
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

本時は、これまでの諸活動での体験を生かしたり、振り返ったりしながら、「友情」についての意義や自己との関わりについて一層考えを深める授業である。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書、ワークシート、場面絵、心情円、板書用発問シート

心情円：心情の変化を表す教具。本時では、「できる」「できない」を2色の割合で表現させる。

生徒：教科書、心情円

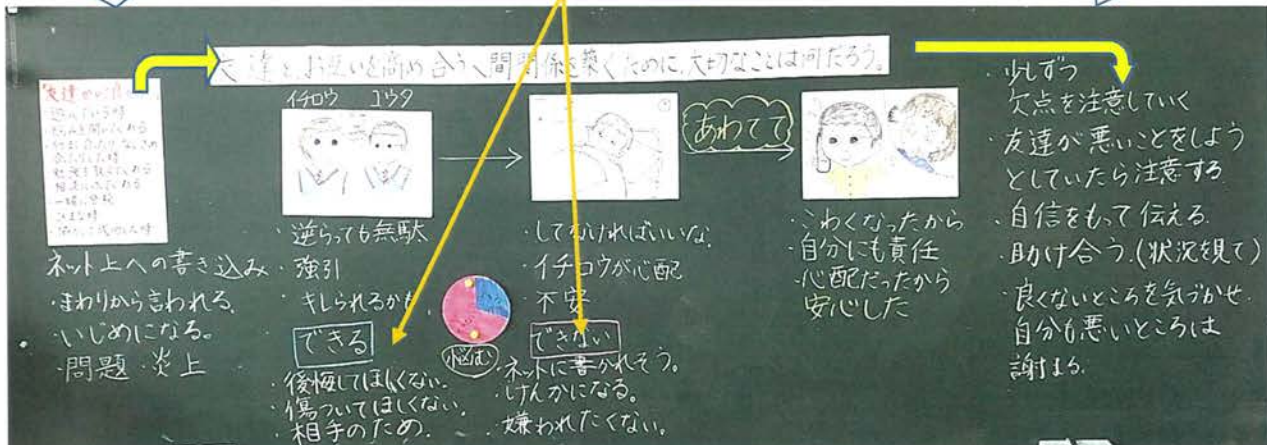
9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

事前アンケートの回答を、終末での振り返りと比較できるよう、黒板に残しておく。

自分との関わりで考える。

終末に、自己の生き方について考える。授業を通して、多面的・多角的に考えることができた。



(1) 導入

事前アンケートの結果を示す

本時の道徳的価値に関わる問題意識を持たせるために、事前アンケートの結果を提示した。

- アンケートを実施することで、本時の道徳的価値に関わる学級の実態を知ることができた。
- 結果を黒板に残すことで、終末の振り返りと比較して学んだことを記述していた生徒がいた。
- 発問の意図が十分ではなかったため、アンケート結果から課題に結び付けるまでの過程で、うまく問題意識を持たせることができなかった。

導入時の生徒との対話

T 「(アンケート結果から) どうして友達はこのようなことをしてくれるのかな？」

S 「相手に喜んでもらいたいから。」 「相手の役に立ちたいから。」 「信頼関係があるから。」

T 「なるほどね。自分もそう思ってるし、相手もそう思ってるよね。それでは、一步成長して『友達とお互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何だろう』ということについて一緒に考えていきましょう。」

(2) 展開

チームティーチング(TT)による指導を行った

T1は、主に生徒と対話をし、T2は、生徒の発言の板書や配慮の必要な生徒の支援に当たった。

- 生徒との対話と、板書を役割分担することにより、指導計画どおりの時間配分で進められた。
- 生徒の記述を座席表に記入することで、意図的指名することが容易になり、多面的・多角的な考えを発表させることができた。

心情円を用いてグループで意見交換をさせた

登場人物の気持ちに自我関与させ、道徳的価値に対する自覚を可視化させるために、心情円を活用させた。また、多面的・多角的に考えさせるために、グループで友達の多様な考えに触れさせた。

- 言葉ではうまく表現できない生徒にとっても心情円の活用は有効であった。
- 「できる」と答えた生徒でも、少しだけ「できない」という気持ちがあることを一目で認識する

ことができた。

- 1回目の授業では「できる」に傾いてしまい、多様な意見を引き出せずに終わってしまった。その反省を踏まえ、2回目の授業では、「できる」と答えた生徒に「でも逆に悪口を言われるかも知れないよ。」など、揺さぶりをかけたことにより、グループで議論が交わされたところがあった。
- 複数の道徳的価値の関わりについて、生徒の意見が少なかった。
- グループを作る目的は、友達の多様な考えに触れさせるための発表の場であったが、それだけでは多面的・多角的に考えさせることができなかった。2回目の授業では、発表の後、「友達の意見に対して聞いてみたいことがあったら聞いてみよう。」と指示した。

グループ活動で友達と議論していた班

T 「もしも、あなたがコウタの立場だったら、友達に忠告することはできますか。」

S1 「できる。後悔はしたくないから。ゆっくり怒らないように忠告すればいいのでは。」

S2 「ぼくはできないな。強引な相手だから、逆に何か言われたり、悪口を書き込まれたりするかも知れないから。」

S1 「それじゃ、S2は、友達がどうなってもいいの？」

S2 「どうなってもいいわけじゃないけど、・・・」

場面絵を提示した

教材の内容を把握しやすくするために、場面絵を提示した。

- 生徒を授業に引き付けることができた。教材の登場人物の気持ちに自然と自我関与させることができた。

(3) 終末

課題に対する自分の考えを、本時の授業を通してまとめさせた。

生徒の感想

- ・ 友達の言葉に対して、よく耳を傾けるということが、お互いを高め合うには大切だと思った。
- ・ 思いやり、注意すること、助ける心が大切だと思う。
- ・ みんなの考えていることや意見が聞けて良かった。自分と違う意見の理由を聞くことができ、「その考えもあるんだ」と思った。
- ・ 注意するところは注意したり、楽しかったら笑い合ったりと、メリハリをつけるのも大事ななあと思った。
- ・ 仲良く遊んだりしゃべったりするのが友達だけど、その中でも、もし悪いことをしようとしていたら、恐れなくて注意したい。
- ・ 後からけんかになると思っても、注意するのは悪いことではないと自信を持つ。
- ・ 自分が思ったことだけをはっきり言うのではなく、相手が思ったこともしっかり聞いてあげることが大切だということが分かった。
- ・ 自分は嫌われるのが怖くて、注意したりできないかもしれないけど、これからは今日学んだことを生かして、お互いを注意し合えるような関係づくりをしていきたい。
- ・ 友達と協力して何かを成り遂げていったり、悪いことをしていたら注意してあげたりすることで、お互いのことを理解し合えると思った。

【主題名】大切な友達だから・・・ 内容項目 「B-(8) 友情, 信頼」

【教材名】短文投稿サイトに友達の悪口を書くと (東京書籍 新しい道徳1)

＜あらすじ＞ナオコにきつい口調で注意されたイチロウは「悪口を書いて、ネットに投稿してやる。」と言いつくす。それに同調してしまったコウタはだんだん心配になり、悪い夢を見てしまう。次の日の朝、イチロウに書き込みをやめるよう、電話をする。

【ねらい】

- 内容項目の理解
友情, 信頼の中で、友情という道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
互いに相手のよさを認め合い、信頼することの大切さを理解しているが、お互いを向上させるために必要な行動には、躊躇してしまうことがある。

本時のねらいを設定する

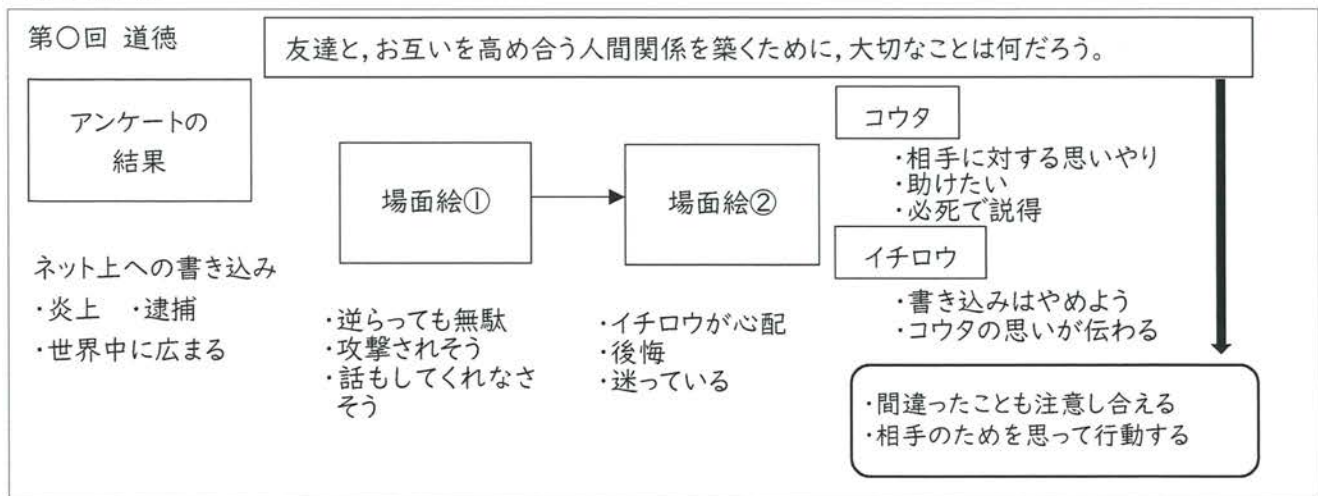
判断力 心情 実践意欲 態度

大切な友達だからこそ、お互いの人間的な成長と幸せを願って励まし合い、忠告し合える人間関係を築こうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 〇主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 主題に関わる問題意識を持つ。 ・ 事前アンケートの結果を確認し、日常生活を振り返る。 2 課題をつかむ。 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何か。	導入の工夫
展開	3 教材前半の内容を把握し、主人公の心情の変化を捉える。 ○ ネット上に人の悪口を書くと、どうなりますか。 ○ コウタが、なかなか眠れなかったのは、なぜでしょうか。 4 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことを考える。 ◎ もしも、あなたがコウタの立場になり、忠告してあげるとしたら、どのように伝えますか。演じてみましょう。 ○ 友達とお互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何でしょうか。	教材の活用 多面的・多角的 体験的な学習
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 学習を振り返り、学んだこととこれから大切にしたいと思うことを書きましよう。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

友達との人間関係について、役割演技を通して、自分との関わりで考えようとしていたか。

1 主題名

大切な友達だから・・・ 「B-(8) 友情, 信頼」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

大切な友達だからこそ、お互いの人間的な成長と幸せを願って励まし合い、忠告し合える人間関係を築こうとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

(2) 教材名

「短文投稿サイトに友達の悪口を書くと」 (東京書籍 新しい道徳1)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

お互いの人間的な成長と幸せを願って励まし合い、時には意見がぶつかることがあっても、忠告し合える人間関係は、互いの信頼を基盤としているからこそ、築くことができると考える。そのような関係を築くことで、いざという時に頼ることができ、切磋琢磨しながらお互いを高め合って生きていくことができる。中学生の段階では、心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願う気持ちが高まる一方で、相手に無批判に同調し、自分が傷つくことを恐れる余り、最初から一定の距離をとった関係しか持たないなど複雑な思いにとらわれる場合もある。このような時期だからこそ相手の内面的なよさ、ものの見方や考え方を理解し、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していこうとする実践意欲や態度を育てていくことが重要であると考えられる。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、中学校に入学して以来、宿泊研修や部活動など様々な体験を通して、友達と励まし合いながら辛いことも乗り越え、信頼関係を築いてきた。このように、お互いに相手のよさを認め合い、信頼することの大切さを理解してはいるが、お互いを向上させるために必要な行動には、躊躇してしまう場面が見られる。例えば、仲の良い友達が、授業中に私語をしても、なかなか注意ができなかったり、級友の悪口を一緒に言ってしまう姿が見られる。そこで、自分が傷つくのを恐れて心を開かない表面的な友達関係ではなく、お互いの人間的な成長と幸せを願って励まし合い、忠告し合える人間関係を築こうとする実践意欲と態度を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な方法

本教材は、同級生の悪口を「ネットに投稿してやる」と言い出した友達を心配する、主人公の心の葛藤や行動を取り上げている。主人公は、友達の言葉に対して、はじめは逆らえずに同調するのだが、夜になってにわかには心配になり、次の日に目が覚めると、あわてて友達に電話をするという内容である。友達の発言に対して、はじめは同調した主人公が、次の日に電話で注意を促したのはなぜかを考えさせることを通して、ねらいに迫りたい。教材の内容について、主人公の心情の変化を、それぞれの場面で、自分のこれまでの経験を基に振り返らせるため、分割読みを取り入れる。また、教材の内容は、ネットへの書き込みという、情報モラルに関する指導と関連している。インターネット上の法やきまりを守れずに引き起こされる弊害について触れながら、本時の指導に当たっていききたい。

4 学習指導過程

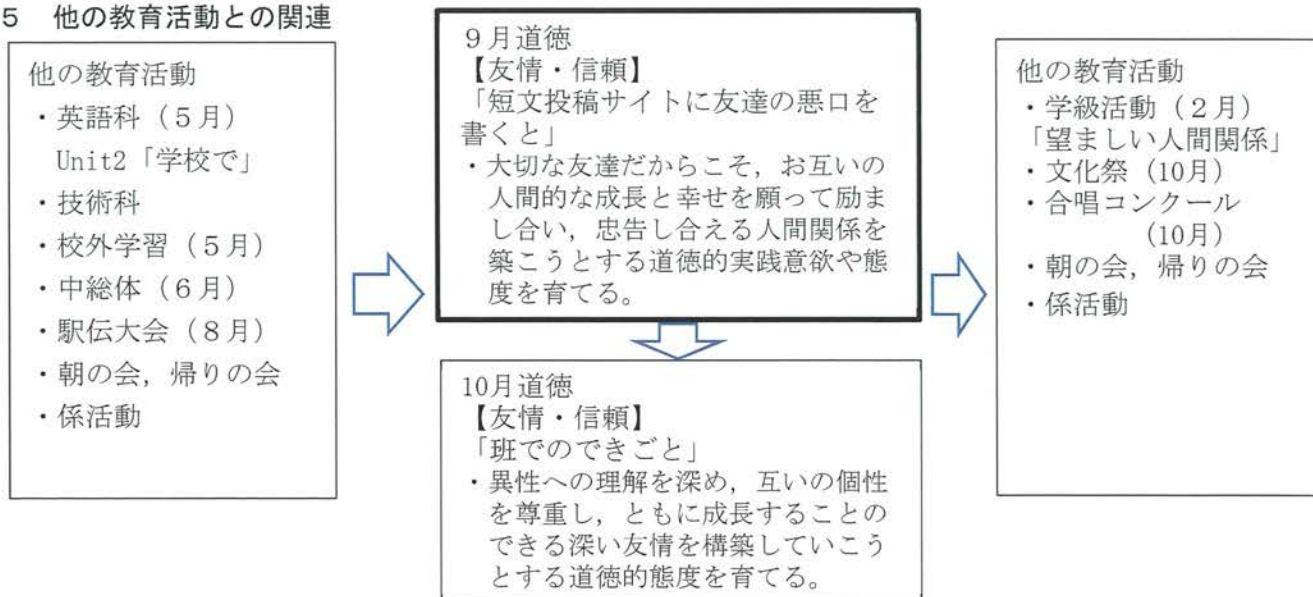
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問 (◎中心発問) ・予想される反応</p>	<p style="text-align: center;">・指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 主題に関わる問題意識を持つ。</p> <p>アンケート結果</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○ 「友達がいる良かったな」と思う場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ趣味のことを話せる。 ・ 悩みを聞いてくれた。 ・ 体育でペアになって活動するとき。 </div> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何か。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に回答した内容と展開後段での考えを比較させるために、アンケート結果は最後まで掲示しておく。 ・ 生徒の回答の内容について、友達（自分）が何のためにそのような行動をしてくれているのか（しているのか）を考えることを通して、本時の課題につなげる。
<p>展開 前段 12分</p>	<p>3 教材の前半の内容を把握し、主人公の心情の変化を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネット上に人の悪口を書くと、どのようなことが起きるか知っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 炎上します。 ・ 訴えられて処罰されるかも知れません。 ○ コウタがなかなか眠れなかったのは、なぜでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ イチロウが心配になったからです。 ・ 自分の行動を後悔しているからです。 ・ 注意すべきかどうか迷っているからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲の良い友達にはなかなか注意できないという場面を、自分のこれまでの経験を基に振り返らせるために、教材の前半のみ範読する。 ・ 情報モラルと関連して考えさせるために、法についても触れておく。 ・ 言うべきかどうか葛藤している気持ちを理解することを通して、どのように行動することがお互いのためになるのかを考えさせることにつなげていく。
<p>展開 後段 26分</p>	<p>4 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ もしも、あなたがコウタの立場になり、忠告してあげるとしたら、どのように伝えますか。演じてみましょう。 (一斉に2人ペアの後、教師と代表生徒) <p>コウタ 「昨日の件だけど、やっぱり他人の悪口を投稿するのはまずいと思うよ。」</p> <p>イチロウ 「どうして。」</p> <p>コウタ 「悪口を載せたら、誰が見ているか分からないし、訴えられた例もあるから。」</p> <p>イチロウ 「そうか。やめた方がいいよね、やっぱり。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような気持ちでコウタ役を演じましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割演技をする時の留意点を示すことを通して、生徒が安心して役になりきれるようにする。 ・ 役割演技を通して、友達に忠告することの難しさや、自分のことを考えて忠告してくれた友達の思いに気付かせる。 ・ 意図的指名につなげるために、机間指導を行う。 ・ コウタ役を指名し、イチロウ役の教師と役割演技をさせることを通して、観衆役の生徒には、以下の演技を見る視点を与える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>コウタがどのような気持ちで自分の思いを伝えているか。イチロウはどのような気持ちで聞いているか。</p> </div>

	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとかイチロウの行動を止めようと必死でした。 ○ どのような気持ちでイチロウ役を演じたか。 ・はじめは言われて反抗したかったけれど、だんだんコウタの気持ちが分かるようになりました。 ○ 見ていた人は、二人のどのような思いを感じましたか。 ・コウタが、説得するのに必死でした。 ・イチロウは、だんだん心配になって、コウタの言うことが正しいと思ってきたのではないかと思いました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何でしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を、良い方向に導こうとする思いやりです。 ・これからも、ずっと信頼し合える友達でいたいという思いです。 ・相手が間違っただ行動をしようとしていたら、注意してあげることです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後半を範読することで、コウタがとった行動に対しての自分の考えを持たせ、道徳的価値についての理解を深めさせたい。 ・全員の前で発表させることで、大切な友達だからこそできる行動について考えを広げさせたい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末7分</p>	<p>4 自己の生き方についての考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業を通して分かったこと、いいなと感じたこと、これからの自分に生かしていきたいことを書きましよう。 ・自分は、友達に注意できるか分からないけれど、お互いのためには言いづらいことも言ってあげることが大切だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。 ・導入で提示したアンケートの回答を再度取り上げることを通して、今日の授業での新たな気づきを共有する。

【評価】

友達との人間関係について、役割演技を通して、自分との関わりで考えようとしていたか。

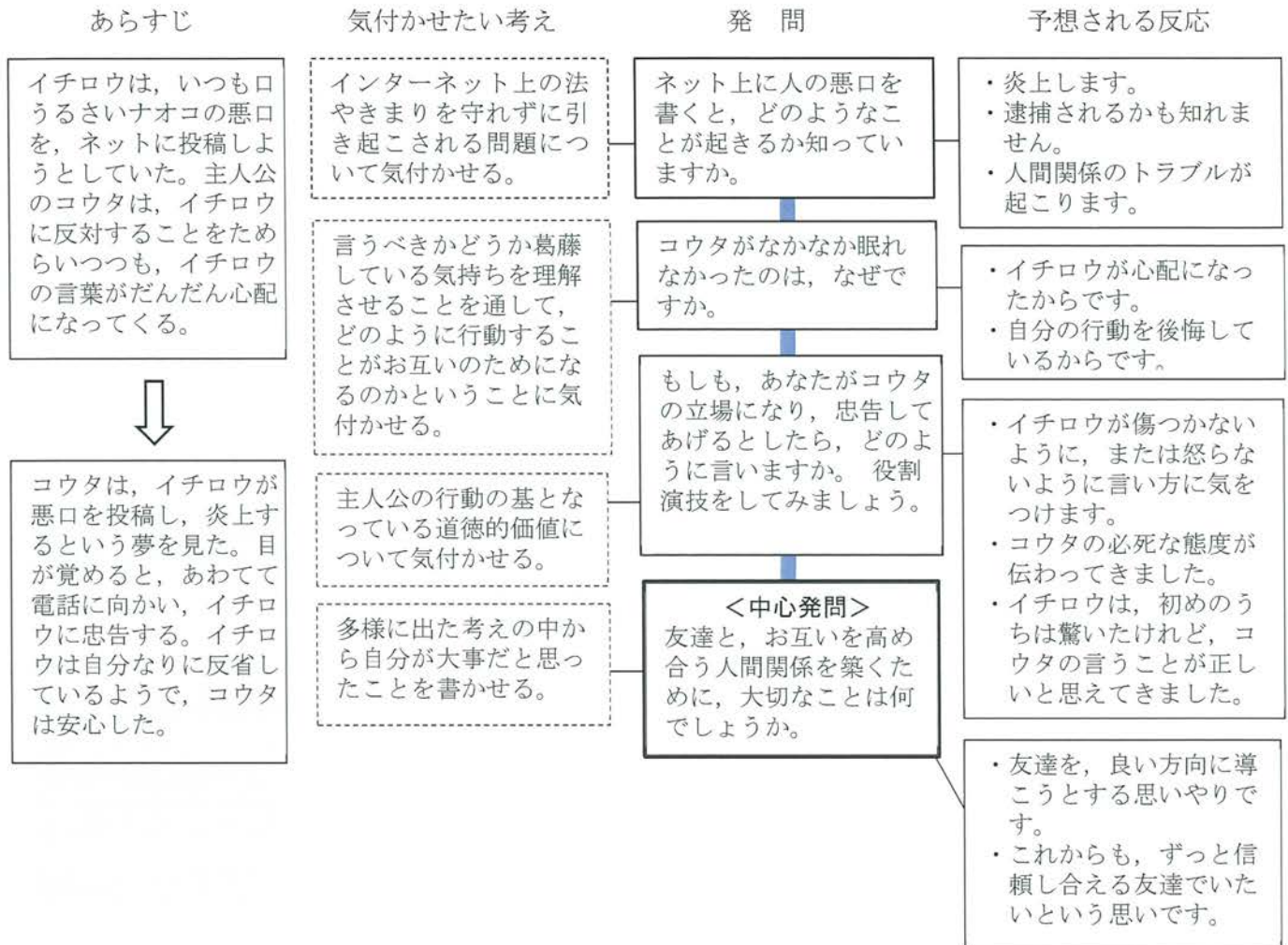
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

本時は、これまでの諸活動での体験を生かしたり、振り返ったりしながら、「友情」についての意義や自己との関わりについて一層考えを深める授業である。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書、ワークシート、場面絵、板書用発問シート

生徒：教科書

【主題名】夢を追い続けるために 内容項目 「A-(4) 希望と勇気, 克己と強い意志」

【教材名】サザンカ

<あらすじ>夢を追い掛け、あきらめそうになりながらも、努力を続ける主人公を、そばで応援する内容の歌詞で、夢のために努力してきたことを知っているからこそ、成功してほしいと願う応援する立場から書かれた曲。平昌オリンピック公式テーマソング。

【ねらい】

- 内容項目の理解
より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げるといった道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
はっきりとした将来の目標を持っている生徒もいる反面、夢や希望を持つことのよさを深く理解せず、目標を持たずにいる生徒が多い。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

夢や目標を持ち、周りへの感謝を大切にしながら、困難に負けず挑戦し続けようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

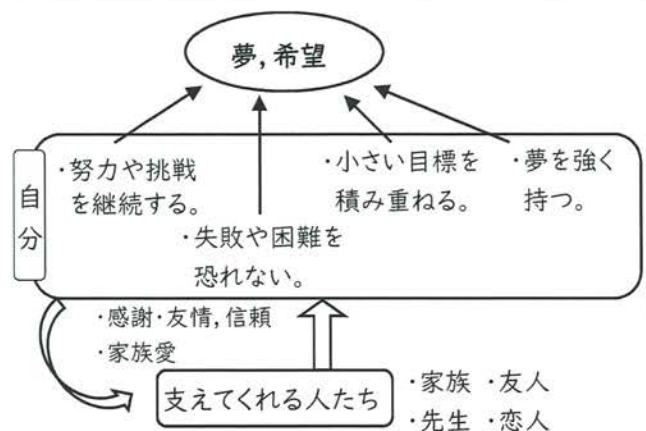
段階	主な学習活動 ○主な発問例 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時の主題に興味・関心を持つ。 ○ あなたには夢や目標がありますか。 ・心情円を活用し、どのくらいはしっかりと夢を持っているか示させる。 2 課題をつかむ。 夢や希望を達成するのに大切なことは何でしょうか。	導入の工夫
展開	3 「サザンカ」を聞き、印象に残る歌詞を伝え合う。 ○ どの部分が一番印象に残りましたか。 ○ 夢や目標の達成のために大切なことは何でしょうか。 4 役割演技を通して、応援する立場について理解する。 ○ 映像に出てくる主人公に、兄になったつもりで声を掛けてみましょう。 5 歌詞について改めて考える。 ◎ この歌詞から考えさせられたことは何でしょうか。	教材の活用 展開の工夫 体験的な学習 自分との関わり
終末	6 自己の生き方について考える。 ○ 今日の授業で学んだこと、大切だと思ったこと、これからは生かしたいことを書いてください。	終末の工夫

【板書計画】

第○回 道徳

夢や希望を達成するのに大切なことは何でしょうか？

サザンカ 歌詞	サザンカ 歌詞
---------	---------



【評価】

夢や希望を達成するために何が大切か、役割演技や自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

1 主題名

夢を追い続けるために 「A-(4) 希望と勇気, 克己と強い意志」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

夢や目標を持ち、周りへの感謝を大切にしながら、困難に負けず挑戦し続けようとする道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「サザンカ」

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

目標や希望を持つことは、日々の生活を充実させ、よりよい人生を送ることにつながる。生涯を掛けて達成するような大きな目標に向かうためには、日常生活の中で小さな目標を立て、それを達成する満足感や自信を積み重ねていくことが大切である。目標の達成は、簡単なものではなく、誰しも様々な困難や失敗を経験することになる。困難に直面したとき、自分の弱さを受け入れ、それを認めて乗り越えることが大切になる。

中学生になると、自分の進路や人生について深く考えるようになり、より強く目標や希望を持つようになる。しかし、努力しなければならないと分かっているが、自分の欲望に負けたり、プレッシャーから逃げたりすることも考えられる。目標の実現のためには、弱い自分を受け入れ、困難を乗り越える強さを持つとともに、自分自身の努力だけでなく、周りの励ましや賞賛があることについても気付かせることが大切であると考えられる。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

これまでの学校生活の中では、運動会や文化祭などといった行事で目標を立て、個人や学級で努力を重ね、それが達成されたかどうか振り返る学習を継続して行っている。その中で、何ができて何が足りなかったのかと自己を振り返る体験を積み重ね、努力の大切さについては理解している。しかし、まだ、将来の目標や希望をはっきりと持つことができていないために、学習や日常生活、部活動といった場面で、どのような努力が必要なのかということについて、具体的に見えていない生徒も多くいる。これから直面することが考えられる困難や失敗に対して、どのような姿勢を大切にして乗り越えていけば良いのか理解させるとともに、応援し、支えてくれている周りの人々への感謝を大切にしようとする道徳的心情を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本題材は、平昌オリンピックの公式テーマソングとして、「SEKAI NO OWARI」が歌っている「サザンカ」という歌である。夢を追い掛け、あきらめそうになりながらも努力を続ける主人公が歌詞の中に描かれている。しかし、歌詞は頑張る主人公を陰ながら応援するという支える側の視点で書かれており、応援してくれている人への感謝や応援する立場になったら、どうするかということについて、考えさせることもできる教材である。

歌詞の意味や情景をイメージしやすいように、映像資料としてミュージックビデオを活用する。視聴後、歌詞で印象に残った部分を話し合わせることで、歌詞に込められた思いを深めさせたい。展開部分では、役割演技を通して、応援する側の立場の難しさについて理解させたい。それによって、目標達成のためには、自分の努力だけでなく、周りの人々の支えも大切であるということに気付かせたい。

4 学習指導過程

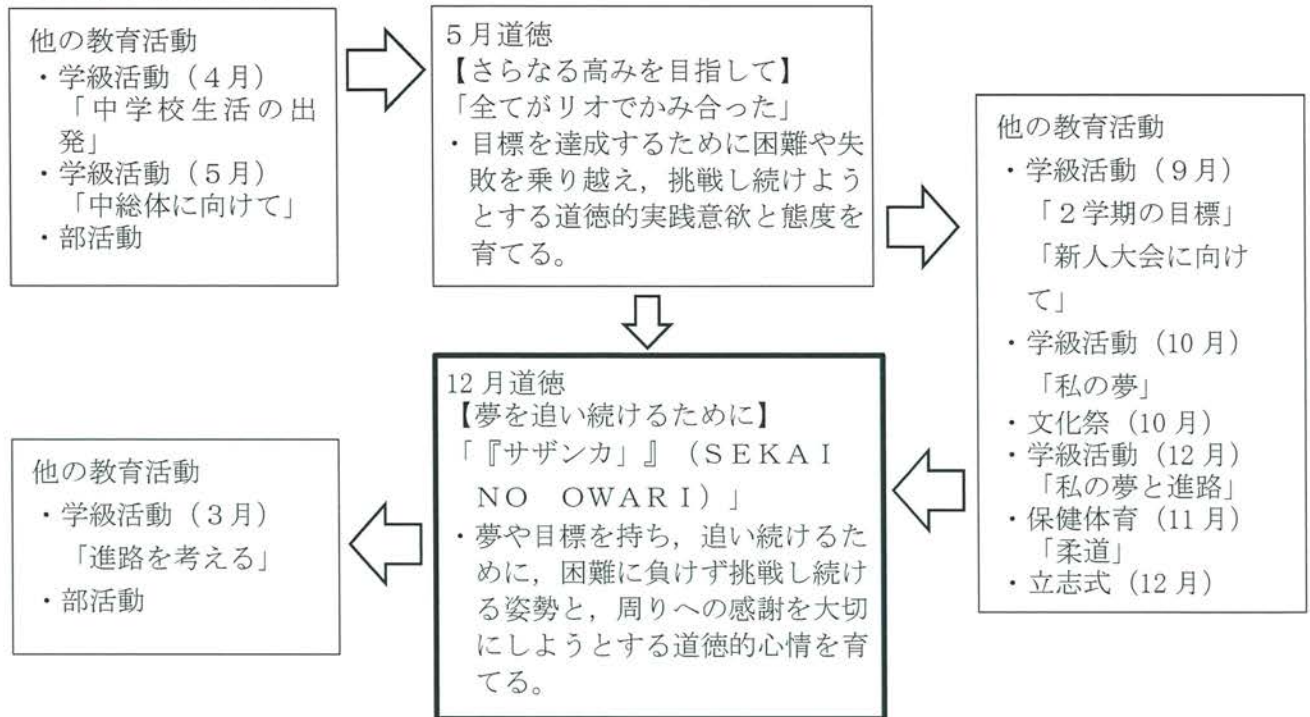
	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>○主な発問（◎中心発問）・予想される反応</p> <p>1 教材への興味・関心を持つ。</p> <p>○ あなたには夢や目標がありますか。心情円で表してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとした夢がある。 ・まだ具体的には決まっていない。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>夢や希望を達成するのに大切なことは何でしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が夢を持っているのか、視覚的に捉えさせるため、心情円を活用する。夢があれば赤色、はっきりしていなければ青色で示させる。 ・お互いの現在の夢や目標を共有させるため、心情円をペアやグループ等で見合わせる。 ・他の教育活動との関連も図るため、立志式に参加して感じたことについても振り返らせる。
展開 40分	<p>3 「サザンカ」を聞き、印象に残る歌詞を伝え合う。</p> <p>○ どの部分が一番印象に残りましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分が可哀想だと君は泣いた」の部分 ・「いつだって物語の主人公は笑われるほうだ」の部分 ・「誰よりも転んで 誰よりも泣いて 誰よりも君は 立ち上がってきた」の部分 ・「誰よりも君が一番輝いている瞬間を」の部分 ・「いつだって物語の主人公が立ち上がる限り物語は続くんだ」の部分 ・「君が歩んできた道のりをしっているから」の部分 <p>○ 夢や目標の達成のために大切なことは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきらめずに努力や挑戦を続けること。 ・弱い自分を素直に受け入れること。 ・夢を強く思い描くこと。 ・小さい目標を持って今から頑張ること。 <p>4 役割演技を通して、応援する立場について理解する。</p> <p>○ 映像に出てくる主人公に、兄になったつもりで声を掛けてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援しているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲のイメージをより強く持たせるために、公式のミュージックビデオを活用する。 ・視聴後の話合いに活用させるため、印象に残った歌詞に線を引かせる。また、全体での共有を図るため、黒板に拡大した歌詞を貼っておき、線を引かせる。 ・選んだ歌詞の部分やなぜ選んだのかを共有させるため、視聴後は、ペアで印象に残った部分を話し合わせ、その後全体で共有する。 ・印象に残った部分を聞いた際、なぜ選んだのかを深めるための問い返し <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、「今までの自分が可哀想」のところを選んだのですか。 ・「笑われるほうだ」とは、どのような意味なのでしょう。 ・「一番輝いている瞬間」とは、どのような瞬間ですか。 ・「道のり」とは、どのような道のりかイメージできますか。 ・自分の経験と重なる部分はありましたか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標の達成に大切なことについて、多面的・多角的に捉えさせるため、夢を追い掛けている主人公目線で考えさせ、意見交流を図る。 ・自分との関わりで考えさせるため、自分で心掛けていたことがあれば併せて発表させる。 ・応援する立場で声を掛けることの難しさを理解させるため、ペアによる役割演技を全体で行う。「映像に出てきた夢をあきらめ掛けた主人公」と「それを励ます兄」の役割を設定し、交代してどちらの役割も行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで頑張ってきたあなたなら大丈夫だよ。 ・まだまだチャンスがあるからあきらめずに頑張ってみようよ。 ・失敗したっていいじゃないか、困難や失敗は誰にでもあるんだから。 ・…（なかなか声を掛けられずに悩む。） <p>5 歌詞について改めて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ この歌詞から考えさせられたことは何でしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・努力がすぐに報われる人は多くない。 ・目標に向かって、失敗しても逃げずに挑戦し続けることが大切。 ・そばで支えてくれる人への感謝も大切。 ・応援する立場になったとき、そばで見守ることが力になる場合もある。 ・目標を持つことは大切、早く自分のしたいことを探したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい励ましをすることよりも、励ます難しさを体感させるために、なかなか言葉にできない場合もせかさずに見守る。 ・体験してみた感想を共有するため、全体での感想発表を行う。 ・感想の共有で更に深めるための問い返し <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・声を掛けてもらって励ましを感じましたか。それはなぜですか。 ・なぜ声を掛けづらかったのですか。 ・声を掛けずにできることは何かありますか。 ・応援してくれるのは、あなたにとって誰だと思いますか。 </div> ・歌詞に込められた思いを深く理解させるため、応援する側とされる側、両方の立場で考えさせてから再度歌詞に戻る。 ・なかなか考えをまとめられない生徒には、応援する側と応援される側、どちらかの視点で書いてみるように声掛けをする。 ・多面的・多角的な意見を共有するため、できるだけ多くの生徒に発表させる。机間指導を行いながら、多様な意見を拾い上げておき、意図的な指名も行う。
<p>終 末 5 分</p>	<p>6 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 今日の授業で学んだこと、大切だと思ったこと、これからは生かしたいことを書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢のためにできることをもう一度考え、小さなことから頑張りたい。 ・早く夢や目標を見付け、充実した毎日になりたい。 ・応援してくれる人への感謝や礼儀についても大切にしながら努力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で考えたことを自分との関わりで深めさせるため、書く活動を通して振り返らせる。 ・「サザンカ」に込められた意味を更に深めるため、サザンカの花言葉である、「困難に打ち勝つ」「ひたむきさ」を紹介する。 ・最後にサザンカが校木であることについても触れ、冬に花を咲かせるサザンカの強さ、そうやってほしいという思いが込められていることについて説話で語る。

【評価】

夢や希望を達成するために何が大切か、役割演技や自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

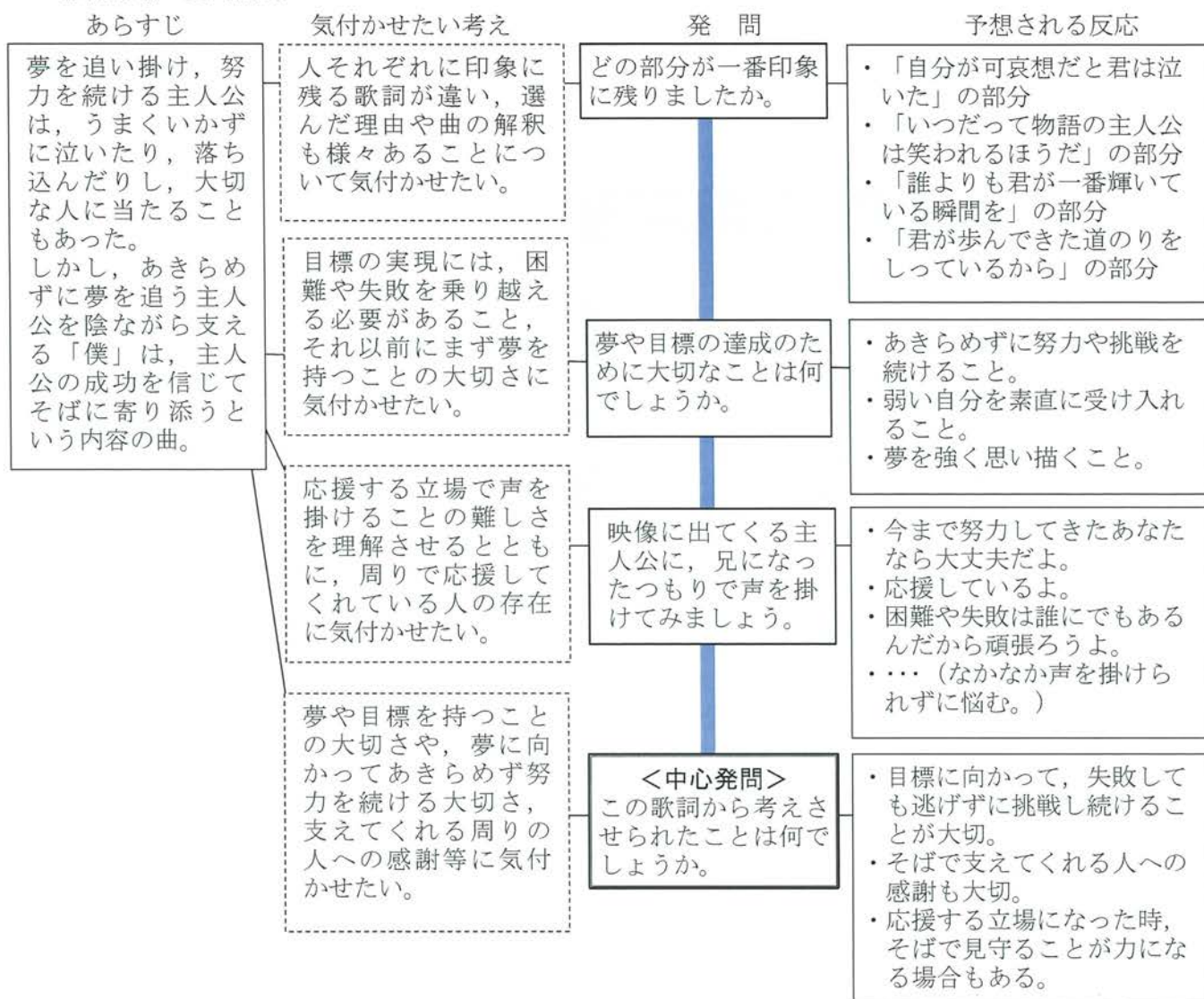
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【統合】

夢や目標を持つことの大切さや、その達成のために、あきらめずに努力することについては、各教科等で扱う偉人の生き方、これまでの道徳科の授業などから学んでいる。しかし、夢や目標の達成には、周りで支える人たちの励ましや賞賛があることについては気付いていない場合がある。この教材を通して、支える側についても考えさせることにより、夢や目標を達成するためには、自分が努力するだけでなく、周りで支えている人に対する「感謝」や「礼儀」も大切であるということに気付かせたい。さらに、支えてくれる人が家族なら「家族愛」、友人なら「友情、信頼」などというように、様々な内容項目のつながりについても考えを広められるようにしたい。

7 教材分析・発問構成



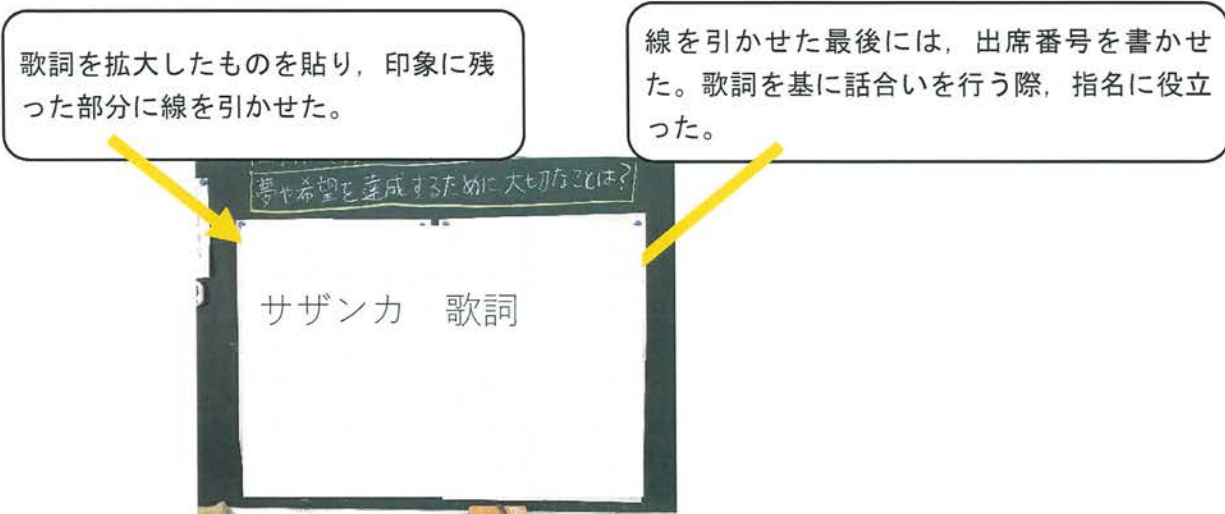
8 準備物

教師：教科書，ワークシート，TV，タブレット，心情円

生徒：教科書，心情円

9 実践の記録（○成果，●課題）

【板書】



(1) 導入

心情円を活用し，主題への興味・関心を高めた

夢や希望があっても，なかなか自信を持って発表できない生徒もいる。また，中学校1年生では，将来の夢や希望がはっきりしていない生徒も多い。そのため，心情円を利用して現在どのくらい夢を持っているか示させた。夢があれば赤，なければ青で示し，迷っている場合はその中間とした。

- 視覚的に分かりやすくなるとともに，夢や希望がある生徒を指名する際にも役立った。
- ペアやグループでの共有も短時間で終わらせることができ，夢や希望に関する現在の状況を確認させることができた。
- 共有後は自分から進んで夢や希望について発表する生徒も出た。
- 心情は，意思表示をするために有効であった。しかし，時間が掛かったので，事前アンケートを取り，夢や希望の有無や具体的な夢や希望についての集計結果を示した方が短時間で確認や共有ができる。

(2) 展開

ミュージックビデオを用いて，イメージを持たせた

「サザンカ」は，公式ミュージックビデオをYouTubeにて配信している。曲に沿ったストーリーが歌詞とともに表示されるのでとてもイメージをつかみやすいものとなっている。ミュージックビデオの設定（画家を目指す弟とそれを支える兄）については，一度見ただけでは理解できない場合もあるので，事前に説明してから視聴した。

- 生徒の興味・関心を高めることができた。
- 展開後半で，ミュージックビデオに出てくる兄弟をモデルにして役割演技をさせたため，イメージをつかませることができた。
- 映像に集中するあまり，歌詞に注目できなくなり，印象に残った箇所を選ぶのに時間が掛かってしまった生徒がいた。

歌詞を拡大し，印象に残った部分に生徒自身の手で線を引かせた

- 自分で線を引いたため，授業への主体性が高まったと感じた。
- 印象に残った部分について共有する場面では，たくさんの生徒が線を引いた場所がはっきりしたため，やりとりがしやすかった。また，線の終わりに出席番号を書かせたため，指名が容易にでき

た。

- 自分で線を引かせると、思ったよりも時間が掛かることが分かった。
- 印象に残った部分のやりとりでは、「なんとなく」で線を引いた生徒も多く、問い返して「なんとなく」を形にするのが難しいと感じた。
- 学級によってどこに線を引くか分からないので、様々なパターンを予想し、問い返しを用意しておく必要があった。

実際のやり取り

T：この部分に線を引いた出席番号3番の生徒は、どのような理由でここ（「努力が報われず不安になって）の部分を選んだのですか？

S：なんとなく自分に重なったからです。

T：そういう経験があったのかな？部活動などですか？

S：はい、あと、勉強の時もです。

T：なるほどね。勉強したからといってすぐに成果がでないことはよくありますね。他に同じような経験をしたり、自分と重なったりしたという人はいませんか？

（数名手を挙げる）

T：じゃあ、〇〇さんはどのような経験が重なったのですか。

（以下省略）

(3) 終末

説話を行い、考えを深めさせた

終末では、サザンカの花言葉である、「困難に打ち勝つ」「ひたむきさ」を紹介し、「サザンカ」に込められた思いを再度考えさせた。また、サザンカは校木にも指定されているので、校木に指定された時に込められた思いを伝えることで、より深く自己の生き方について考えさせることができた。

生徒の感想

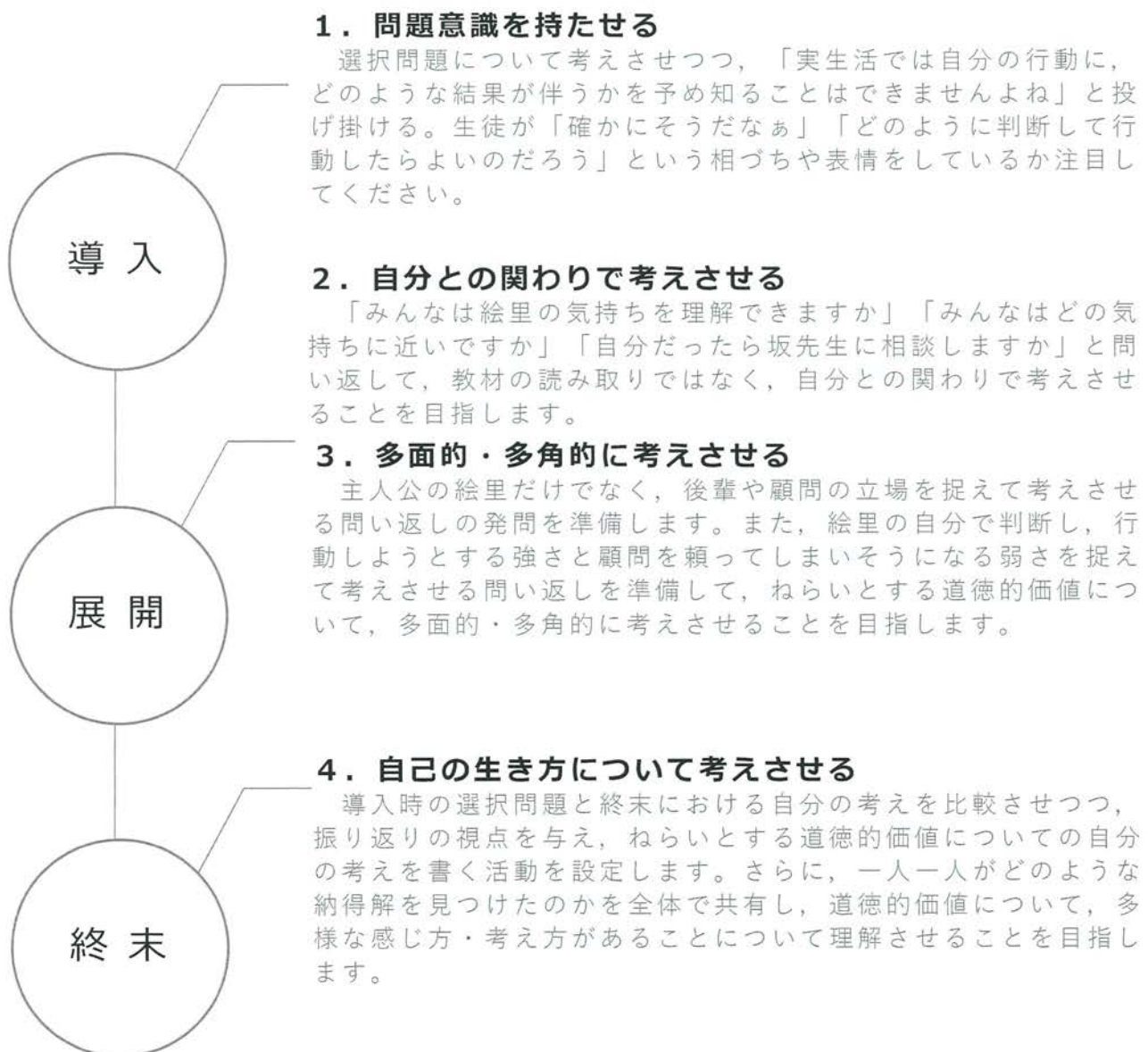
- ・夢を叶えるためには、いろいろな人の支えとあきらめないことが大切だということを学びました。これからいろいろなことがあると思いますが、あきらめずに努力し続け、夢や希望を叶えることができるようにしたいです。
- ・あきらめずに続けることが大切だと思いました。私も、心から好きと思えるものと出会えるといいなと思います。
- ・今は夢へ向かう大切な「道のり」の一つだから、将来くじけてしまったらどう立ち上がるべきか、今学んだことも自分への励ましとなるよう生きていきたい。
- ・自分は歌詞のように、「努力が報われず」といっしょで努力してもうまくいかず、投げ出してしまいます。でも、あきらめないことでいいことがきつと来ると改めて知ることができました。
- ・今日サザンカを聞いて、みんなで考えて、努力することが大事だと改めて実感しました。自分は建築関係の仕事に就きたいので、苦手な数学も頑張りたいです。
- ・周りの人がいることを、当たり前だと思っではだめだと言うこと、人に頼って、頼られる人になれるように努力することが大切だと思いました。

本時の授業の見方

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「考え、議論する道徳」の授業づくりを進めることで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが大切です。

道徳科の授業は、教師と児童生徒が一緒になってつくるものであり、「考え、議論する道徳」の捉え方も一つではないと私たちは考えています。その上で、私たちの研究においては、以下の4つの視点で、「考え、議論する道徳」の授業づくりについて、研究してきました。

1. 児童生徒に問題意識を持たせる授業
 2. 登場人物の心情や考えを自分との関わりで考えさせる授業
 3. 多面的・多角的に考えさせる授業
 4. これまでの自分を振り返らせ、これから生きていく上で大切にしたい自分なりの考え（納得解）を見つけさせる授業
- ※ 学習指導案（細案）には、上の1, 2, 3, 4に、特に対応する学習活動や発問にそれぞれ(問),(自),(多),(生)の記号を付けています。



【主題名】自分で判断し、行動すること 内容項目「A-(1) 自主、自律、自由と責任」

【教材名】スイッチ (文部科学省 中学校道徳 読み物資料集)

＜あらすじ＞顧問が病気のために不在の卓球部で、絵里はキャプテンを任される。顧問が過去に行った練習メニューの通りに指示を出すのが、後輩から不満の声が出る等、部の運営に行き詰まってしまう。顧問を頼るために病室を訪れると、ライバル校の監督が見舞いにきており、「今、君たちは試されているんだよ」と声を掛けられる。自分で判断し、行動することの大切さに気付いた絵里は、由美に「明日から私たち、スイッチ切り替えよう!」と声を掛ける。

【ねらい】

- 内容項目の理解
自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つとする道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
自律の精神を重んじることや自主的に考えることの大切さについて理解しているが、すぐに人に頼ってしまうなど、他者の考えに依存して行動してしまう生徒が多い。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ 4つの選択肢のうち、あなたがよいと思う順番に並べ替えてください。 2 課題をつかむ。 自分で判断し、行動することについて考えよう。	問題解決的な学習
展開	3 自分で判断し、行動することについて考える。 ○ 「いいの。これが城南の練習なんだから」と答えたときの絵里は、どのような気持ちだったと思いますか。 ○ 「今、君たちは試されているんだよ」と言われた絵里は、どのようなことを考えていたと思いますか。 ◎ 「スイッチ切り替えよう!」と言った絵里の中には、どのような心があったと思いますか。	自分との関わり 多面的・多角的
終末	4 自己の生き方について考える。 ○ 自分で判断し、行動することについて、分かったこと、友達の考えを聞いていいなと思ったこと、これからの生活に生かしていきたいことについて書きましよう。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回 道徳

「スイッチ」

自分で判断し、行動することについて考えよう。

・自分で決めてうまくいった。
 ・自分で決めただけうまくいかなかった。
 ・人の言うとおりにしてうまくいった。
 ・人の言うとおりにしただけ、うまくいかなかった。

いいの。これが城南の練習なんだから。

・坂ノートの通りだから大丈夫
 ・みんなを引っ張らなければ
 ・不安
 ・早く先生に戻ってきて欲しい

今、君たちは試されているんだよ。

相談する
 ・坂先生に相談するか迷う
 ・部員をまとめることができるか

自分たちで
 ・先生を頼ってはいはダメ
 ・自分の力で部員をまとめなければ

スイッチ切り替えよう!

・自分を信じる心、勇気
 ・仲間を信じる心
 ・勝ちたいという気持ち
 ・周囲の支えを感じる心

【評価】

自分で判断して、行動し、その結果に責任を持つことについて、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

自分で判断し、行動すること 「A-(1) 自主、自律、自由と責任」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「スイッチ」(文部科学省 中学校道徳 読み物資料集)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

自律とは、他者の考えに依存するのではなく、自分の内面に善悪を判断する規律を作ることである。自主とは、いくつかの選択肢の中から良心に基づいて判断した事柄を周囲に対して発揮しようと決定することである。自律と自主は一体的に捉えることができる。

よりよく生きるためには、自分の行為は、全て自分の意志で決定したものであることを自覚する必要がある。また、自分が行動した結果に対して責任を持つことも大切である。そこで、自分で判断し、行動することについて考えを深めさせることで、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つようとする態度を育むことができると考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、これまでの学校生活を通して、自律の精神を重んじることや自主的に考えることの大切さについて理解している。しかし、普段の生活場面では、すぐに人に頼ってしまうなど、他者の考えに依存して行動してしまう生徒が多い。そのため、自分の行動の結果に対して、無責任な様子が見られることもある。生徒の実態を踏まえると、「自主、自律、自由と責任」という道徳的価値について、自律した精神を重んじ、自主的に判断し、行動しようとする自分とそうでいていない自分との葛藤から生じる問題があると考えられる。

そこで、授業を通して、自分で判断して、行動し、その行動の結果に責任を持つようとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、顧問の教師が病気のために不在となった卓球部で、新チームのキャプテンを任された中学生の絵里の話である。絵里は、顧問が過去に行った練習メニューの通りに、練習の指示を出すのが、後輩から不満の声が出る等、部の運営に行き詰まってしまう。絵里と部員の由美が、顧問の教師を頼るために病室を訪れると、ライバル校の監督が見舞いにきていた。顧問の教師に悩みを打ち明けられずにいる絵里と由美に対して、ライバル校の監督は「今、君たちは試されているんだよ」と声を掛ける。ライバル校の監督の言葉を受けて、自分で判断し、行動することの大切さに気付いた絵里は、病院の玄関を出たところで立ち止まり、由美に「明日から私たち、スイッチ切り替えよう!」と声を掛ける。

本時の指導に当たっては、授業当日の朝、生徒に教材を読ませておき、内容を理解させておくことで、授業中の考える時間を確保する。授業では、絵里が「明日から私たち、スイッチ切り替えよう!」と由美に声を掛け、自分で判断し、行動しようとする場面を中心場面に設定する。「今、君たちは試されているんだよ」と声を掛けられたときの絵里の気持ちを、自分との関わりで考えさせながら、自分で判断し、行動することや自分の行動に責任を持つことの大切さに気付かせたい。

4 学習指導過程

	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問（◎中心発問）・予想される反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 学習方法や進路、職業等、様々な場面で選択を迫られることがあります。ある事柄について選択を迫られたとします。4つの選択肢のうち、あなたがよいと思う順番に並べ替えてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 自分で決めて、うまくいった。</p> <p>2 自分で決めたが、うまくいかなかった。</p> <p>3 人の言うとおりにして、うまくいった。</p> <p>4 人の言うとおりにしたが、うまくいかなかった。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1, 2, 3, 4の順番です。 ・ 1, 3, 2, 4の順番です。 ・ 1, 2と3は同じくらい、4の順番です。 ・ 1と2は同じくらい、3, 4の順番です。 <p style="text-align: right;">問 →</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分で判断し、行動することについて考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ねらいとする道徳的価値についての実態を再確認するために、自律の精神を重んじることや自分の行動の結果に対して責任を持つことについて考えさせる。 ・ 多様な生徒の考えを引き出すために、「同じくらい良いと思う」選択肢があれば、ひとまとまりと考えてよいことを伝える。 ・ 生徒がどのような基準で自分の行動を選択しているのかに気付かせるために、生徒から出された考えの傾向を全体で確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で決めるということを大切にしている人が多いですね。 ・ 結果を大切にしている人が多いですね。 </div> <p>課題をつかませるために、実際の生活場面では、自分が選択した行動に伴う結果を知ることにはできないことを確認する。</p>
<p>展開 37分</p>	<p>3 自分で判断し、行動することについて、自己を見つめ、多面的・多角的に考える。</p> <p>○ 「いいの。これが城南の練習なんだから」と答えたときの絵里は、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 坂ノートの通りに練習しているのだから大丈夫という気持ちです。 ・ キャプテンとして、みんなを引っ張らなければならないという気持ちです。 ・ 不安な気持ちです。 ・ 顧問の先生に早く戻ってきてほしいという気持ちです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が、教材の内容をより理解できるようにするために、範読前に教材中のキーワードを使って、教材の内容を確認する。 ・ 主人公の心情について考えさせるために、範読を聞くときの視点を与える。 ・ 絵里が、キャプテンとしてどのような行動を取るべきか悩んでいる心情に共感させるために、練習に不安を感じている絵里の心情について考えさせる。 ・ 練習に不安を感じている絵里の心情を表面的に読み取り、自分との関わりで考えることができている学習状況が見られるときの問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなは、このような絵里の気持ちを理解できますか。 ・ みんなの気持ちは、この中のどれに近いですか。 ・ どうして坂ノートのメニュー通りに練習しようと考えたと思いますか。 </div>

- 「今、君たちは試されているんだよ」と言われた絵里は、どのようなことを考えていたと思いますか。
- ・坂先生に相談するか、坂先生を頼らずに自分たちの力で練習するかを試されていると考えていました。
 - ・坂先生を頼らずに、自分たちの力で練習をしなければならぬと考えていました。
 - ・坂先生がいない状況で、部員をまとめることができるのだろうかと考えていました。
 - ・どう行動したらよいのか悩んでいると思います。

多

自

◎ 「スイッチ切り替えよう！」と言った絵里の中には、どのような心があったと思いますか。

- ・自分を信じる心や勇気があったと思います。
- ・仲間を信じる心があったと思います。
- ・応援してくれる家族や先生の支えを感じる心があったと思います。
- ・勝ちたいという気持ちがあったと思います。

・坂ノートのメニュー通りに練習して、3年生は負けてしまいましたが、それでも坂ノートのメニュー通りに練習した方がよいと思いますか。

- ・自分がどのような行動を取るべきかを判断し、自主的に行動しようとする絵里の心情に共感させるために、ライバル校の監督に声を掛けられたときの絵里の心情について考えさせる。
- ・ライバル校の監督に声を掛けられたときの絵里の心情を表面的に読み取っている学習状況や自分の行動に伴う結果について考えることができていない学習状況が見られるときの問い返しの発問

・「君たちは試されている」とはどういうことですか。

・部員はキャプテンにどのような行動を取ってほしいと考えていると思いますか。

・坂先生はどのようなことを考えていたと思いますか。

・自分だったら坂先生に相談しますか。相談しませんか。

・相談しないと問題は解決できないということですか。

・相談することはダメなことなのですか。

・自律の精神を重んじ、自分で判断し、行動することの大切さに気付かせるために、「スイッチ切り替えよう」と言った絵里の中にあつた心について考えさせる。

・「スイッチ切り替えよう」と言った絵里の心の奥底にある道徳的価値について考えを深めさせるための問い返しの発問

・仲間（坂先生）に対しては、どのような心があったと思いますか。

・もし、絵里がこの後の大会で負けてしまったら、坂先生に相談しなかったことを後悔すると思いますか。後悔しないと思いますか。

・絵里の中にある自分や仲間を信じる心はもともとあつたものですか。ライバル校の監督の言葉によって、新たに生まれたものですか。

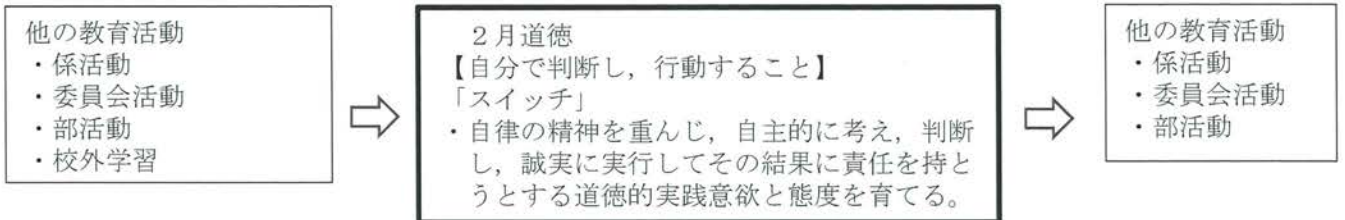
・絵里の中にある自分や仲間を信じる心はみなさんの中にもありますか。

生 終 末 8 分	4 自己の生き方について考える。 → 自分で判断し、行動することについて、分かったこと、友達の考えを聞いていいなと思ったこと、これからの生活に生かしていきたいことについて書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。 ・ 自己の考えの深まりや変化に気付かせるために、導入の選択問題に触れ、導入時の自分の考えと比較する視点を与える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で判断し、行動することは、難しいけれど、人に頼るより自分で判断して行動した方が、自分が成長できると思いました。 ・ 自分を応援してくれる人はたくさんいるけれど、周りに頼るのではなく、自分で判断し、行動できる人になりたいです。 ・ 自分の行動によって、よい結果が出るか、よくない結果が出るかは分からないけれど、自分を信じて行動していきたい。 	

【評価】

自分で判断して、行動し、その結果に責任を持つことについて、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

5 他の教育活動との関連

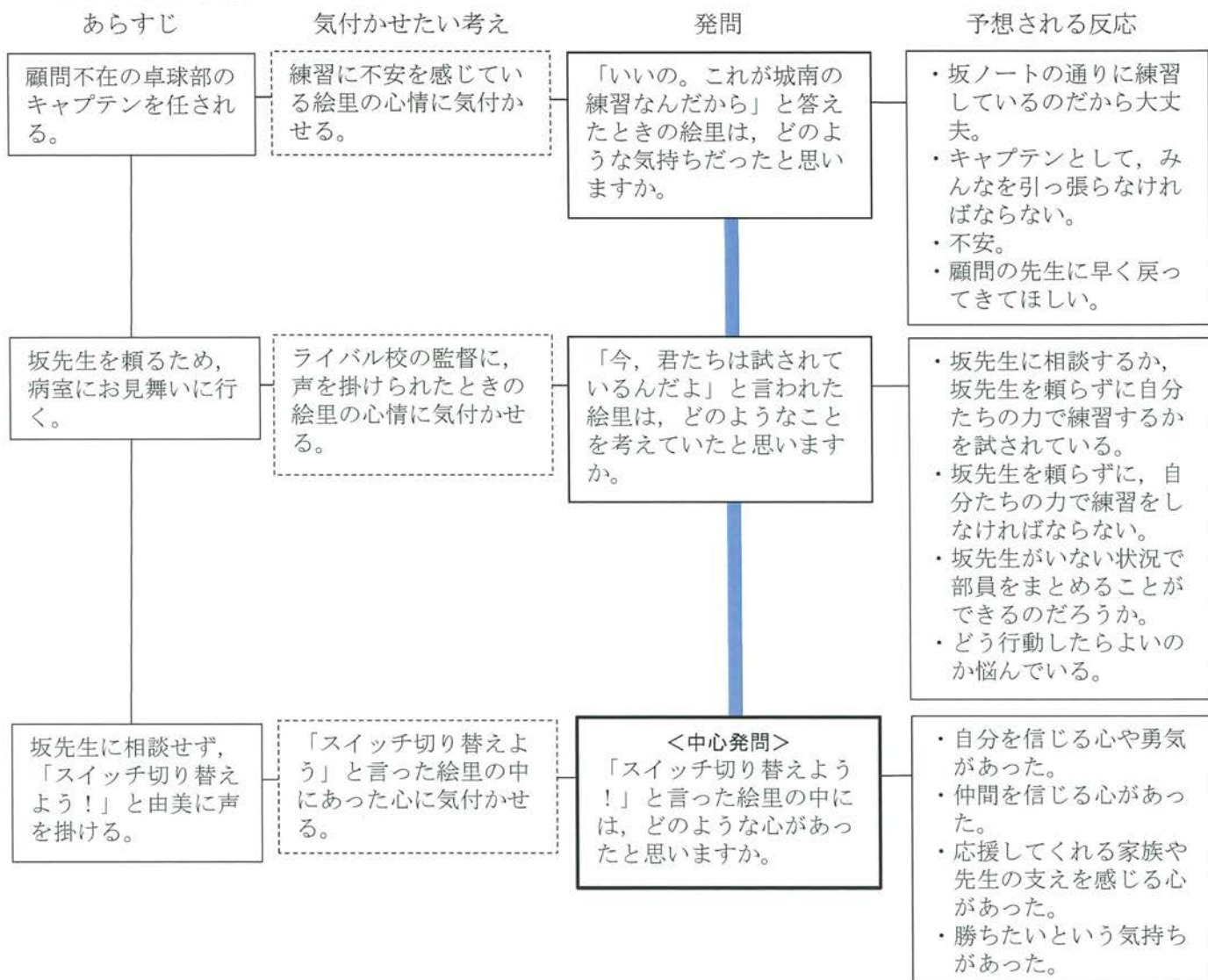


6 補充・深化・統合の視点【深化】

「自分で判断し、行動すること」という道徳的価値について、生徒は、係活動や委員会活動等、これまでの学校生活を通して学んできている。

本時は、生徒の実態を踏まえ、自分で判断し、行動することについて考えさせるだけでなく、その行動の結果に責任を持つことの大切さについて気付かせる授業である。自己の行動の結果に責任を持つことの大切さについて考えることで、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになり、よりよい生き方を追求していくことにつながる。「自分で判断し、行動する」という道徳的価値について、生徒の考えを、本時の授業を通してより一層深めていきたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書，挿絵，学習プリント

生徒：筆記用具

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

①ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態を把握するために選択式の問いを提示した。

②「自分だったら坂先生に相談するか」という問いに対して挙手をさせ、それぞれの根拠となる考えについて発表させた。

③主人公以外の坂先生、部員の考えはどこに位置付くのかを考えさせ、板書した。

(1) 導入

授業開始時に、ねらいとする道徳的価値に関する生徒の考えを発表させた

○ 「自分で判断し、行動することについて考えよう」という本時の課題につなげるために、導入では選択形式の問いを設定した。以下に、実際の生徒との対話の記録を紹介する。

生徒との対話記録

T 自分がよいと考える順に、4つの選択肢に順番を付けてください。
 S 上から1, 2, 3, 4です。1, 3, 2, 4です。1, 1, 1, 4です。
 T 「自分で決めて、うまくいった」という選択肢が1番よいと考えている人が多いですね。けれど、実際の生活場面を考えると、自分で決めたとしても、人の言うとおりにしたとしても、その結果、うまくいくかどうかは分かりませんよね。だからこそ、どうしたらよいか迷うことってたくさんありますよね。今日は、そのことを踏まえて、自分で判断し、行動することについて、一緒に考えていきましょう。

※ 課題を提示

選択形式の問いを設定したことで、生徒も問いに対して答えやすい様子だった。また、短い時間でペア学習を取り入れ、自分と同じ考えや違う考えの生徒を見つけ、興味・関心が高まっている様子が見えかけた。実際の生活場面では、自分で決める、人の言うとおりにするのどちらを選択してもうまくいくかどうかは分からないということに共感させることで、本時のねらいとする道徳的価値に関する問題意識を持たせることができた。

(2) 展開

生徒が考える時間を確保した

● 1回目の実践では「いいの。これが城南の練習なんだから」と言ったときの絵里の気持ちや「今、君たちは試されているんだよ」と言われたときの絵里の考えについて、時間を取って考えさせていた。しかし、予定以上に時間が掛かり、中心発問で生徒が考える時間を十分に確保できなかった。2回目の実践では、上記の発問に掛ける時間を減らし、中心発問に時間を掛けた。その結果、2回目の実践では、生徒がねらいに迫る考えを持つことができたのではないかと感じた。

生徒の考えを深めさせるために、問い返しをした。

- 中心発問では、「『スイッチ切り替えよう』と言った絵里の中には、どのような心があったのか」ということについて考えさせた。生徒からは「自分で決めたことだから、これが正解だ」「坂先生の練習で先輩たちは負けてしまっているの、自分たちで改善点を見つけていこう」「『試されているよ』の言葉には、自分たちに対する期待も込められているから、それに応えよう」「もっと成長しようという気持ちがあった」という考えが出された。さらに、自分で判断し、行動するだけでなく、その行動に責任を持つことについて考えさせるために、「もし、スイッチを切り替えた後、思うような結果が出なかったら、坂先生に相談しなかったことを後悔すると思うか」という問い返しを準備した。生徒からは「相談したからと言って勝てる保証があったわけではない。自分で決めて、自分が部員に示した道であり、胸を張ってこれでよかったと思える判断をしたので、負けてしまっても、これからどうしたらよいかをちゃんと考えられる判断を下したと思う」という考えが出された。また、生徒の記述には「改めて考えてみて、私は後悔が大きいかなと思い、自分の本当の気持ちに気付いた」という記述もあった。問い返しを通して、後悔するかどうかではなく、自分で判断し、行動した結果に対して責任を持つことについて考えさせることができた。

(3) 終末

自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「自分で判断し、行動することについて考えよう」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

生徒の感想（1回目の実践）

- ・何事にも、自分で行動することによって、自信が付くと思った。
- ・私は誰かの言うとおりにするのが嫌いで、相談することもどちらかという嫌いだ。けれど、今日の授業で、自分で決めて動くことも大事だけれど、誰かに相談することもよいということが分かった。
- ・私は自分で判断することは難しいと思った。自分で判断しても、どれが正解かは分からないけれど、積極的にいろいろなことに挑戦したいと思った。
- ・もし、これから先に部活動のこととか、いろいろなことで悩んだときに、まず、自分なりに考えてみようと思った。誰かに頼ることもよいけれど、自分自身を成長させるためには、自分で考えて、自分で解決するのもいいなと思った。

生徒の感想（2回目の実践）

- ・最初は坂先生に相談するという一択だったけれど、みんなの考えを聞いているうちに自分で考えてからでもよいなどだんだん考えが変わってきた。
- ・人に頼り過ぎても、自分に対して成長を感じられるわけではないので、自分で考えて行動した結果、失敗してもこれからは生かせる経験になるということが新しく分かった。
- ・私は結果がよいことが最も大切だと思う。けれど、自分の考えを持ち、人に頼ることは嫌だという友達を少しうらやましく思った。自分の考えを一番に持てる友達はとてもかっこいいと思った。これからは利益、不利益かより先に、自分の意見を持つことも大切にしたい。
- ・友達の考えを聞き、勝ちを求めるために相談してもよいと思った。けれど、それだけでは自分の力にはならないから自分で考えて行動することも大切だと思った。
- ・私は、自分で考えて行動するという事はすごく大変なことだと思った。けれど、その結果がどうであっても全く後悔しないと思う。自分がたくさん時間を掛けて考えたことであれば、もうそのときに成功していると思う。

【主題名】 生きることのすばらしさを感じて 内容項目 「D-(22) よりよく生きる喜び」

【教材名】 花に寄せて (東京書籍 新しい道徳1)

〈あらすじ〉 肩から下の全ての自由を失った主人公が、口に筆をくわえて絵を描き始める。ひっそりとやるはずの展覧会に多くの人がおとずれ、主人公の作品が人々に感動を与える。

【ねらい】

- 内容項目の理解
よりよく生きる喜びという道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
困難なことに直面したときに、「どうせできない」「やっても無駄だ」などとすぐに諦め、弱い自分に負けてしまう姿が見られる。

- 本時のねらいを設定する
- 判断力 心情 実践意欲 態度

困難を乗り越え、絵をかき続ける主人公の生き方に共感させることを通して、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 教材の内容に興味や関心を持たせる。 ・ 星野富弘さんに関する写真や資料を提示する。 2 課題をつかむ。 「生きる喜び」について考えよう。	導入の工夫
展開	3 範読を聞き、主人公の心情を捉える。 ○ 星野さんは、どのような気持ちで、病院の天井だけを見詰めていたのでしょうか。 ○ 展覧会の日の朝、星野さんは、どのような気持ちだったのでしょうか。 4 道徳的価値について多面的・多角的に考える。 ○ 星野さんの作品を見た人々が、涙を流して感動するのはなぜでしょうか。 ◎ 星野さんは、自分の人生を振り返り、どのように考えていると思いますか。	発問づくり 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 「生きる喜び」について考えたこと、これからの生活で生かしていききたいと思うことを、今日の授業で学んだことを含めて書きましょう。 6 教師の説話を聞く。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回 道徳

「生きる喜び」について考えよう。

星野富弘さん

場面絵
(天井を見詰める星野さん)

- ・何もしたくない。
- ・生きている意味がない。
- ・夢も希望もない。
- ・健康な人がうらやましい。

場面絵
(展覧会の様子)

落ち着かない, 不安だけど...
一歩踏み出したい。

「感動しました」「涙が・・・」「絵は心」

- ・生き生きとした絵をかいている。
- ・はげまされた。
- ・強い心に感動。

- ・生きていてよかった。
- ・恩返しができた。
- ・生きる喜びを感じている。

→

- ・困難を乗り越えた先に、生きる喜びが待っている。
- ・やりたいことが見つかったり、人の役に立ったりしたときに生きる喜びを感じる。

【評価】

よりよく生きることについて、自我関与中心の学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

生きることのすばらしさを感じて 「D-(22) よりよく生きる喜び」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

困難を乗り越え、絵をかき続ける主人公の生き方に共感させることを通して、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きようとする道徳的心情を育てたい。

(2) 資料名

「花に寄せて」(東京書籍 新しい道徳1)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

人間は誰にでも、心の中に弱さや醜さがある。自分に自信が持てなかつたり、劣等感に悩んだり誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。しかしながら、同時に、その弱さや醜さを克服したいと願う心を持っている。こうした苦しみに打ち勝って、自分に誇りを持つことができたとき、人間として生きる喜びに気付くことができる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になり得る。

指導に当たっては、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけるということに目を向けられるようにする必要がある。さらに、人間が持つ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。本時では、人間が持つ弱さを強さに変え、誇りを持ってよりよく生きる喜びを見出すという道徳的価値に焦点を当てて指導していきたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、学校生活の様々な活動に取り組むことを通して、協力し合い、温かい人間関係を築くことができるようになってきた。係活動や委員会活動など、与えられた仕事に対して責任を持って取り組むことができる。その反面、困難なことに直面したときに、「どうせできない」「やっても無駄だ」などとすぐに諦め、弱い自分に負けてしまう姿が見られることが課題である。これまで、道徳の学習では、生命を大切に、輝いて生きようとするということについて考えたり、「銀色のシャープペンシル」という教材を通して、人間には弱さや醜さを乗り越えていく強さがあることについて、自分との関わりで考えたりしてきた。そこで、本時では、困難を乗り越え、絵をかき続ける主人公の生き方に共感させることを通して、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きようとする道徳的心情を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、肩から下の全ての自由を失い、口に筆をくわえて絵をかき続けた星野富弘さんに関する実話である。展覧会に訪れた人々から寄せられる感動の声に、「何か新しいものが、息づき始めたような気がした」と、障害という困難を乗り越えて、生きる喜びを見出していく様子が描かれている。授業の前半では、絶望のふちにいた時期や、展覧会を開こうとした主人公の心情を共感的に捉えさせ、後半につなげていきたい。中心発問では、主人公が、自分の人生を振り返り、どのように考えているかを問うことで、よりよく生きる喜びという道徳的価値について、多面的・多角的に考えさせたい。

また、生徒に、教材の内容をより分かりやすく捉えさせるために、事前読みをさせておく。

4 学習指導過程

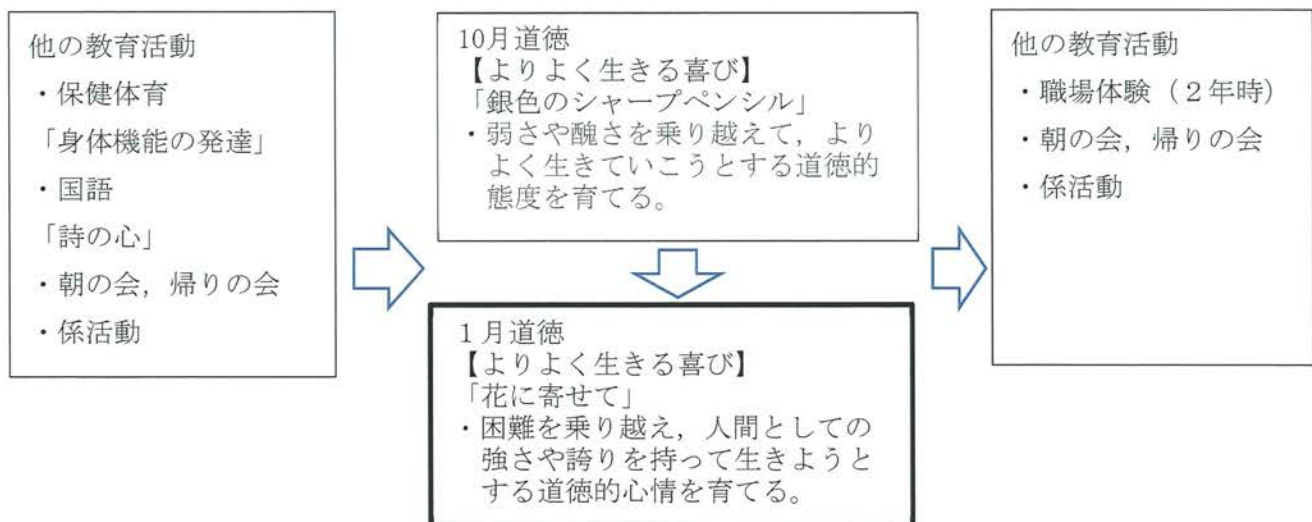
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問 (◎中心発問)・予想される反応</p>	<p style="text-align: center;">・指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 教材の内容に興味や関心を持つ。</p> <p>○ (星野さんの詩を提示し) この詩はどのような人がかいた詩でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首から下が動かない人がかきました。 ・星野富弘さんという人がかきました。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「生きる喜び」について考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の詩 (135ページ) や写真を提示することを通して、教材の内容に興味や関心を持たせる。 ・「人間の持つ強さ」について考えるきっかけをつくるために、星野さんのエピソードを紹介する。 ・ICT機器を使用し、資料を見やすくする。
<p>展 開 35分</p>	<p>3 範読を聞き、主人公の心情を捉える。</p> <p>○ 星野さんは、どのような気持ちで病院の天井だけを見つめていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう何もやりたくないなという気持ちです。 ・生きていく自信がないという気持ちです。 <p>○ 展覧会の日の朝、星野さんはどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着かない気持ちです。 ・不安な気持ちです。 <p>4 道徳的価値について、多面的・多角的に考える。</p> <p>○ 星野さんの作品を見た人々が、涙を流して感動するのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害を持っているのに、生き生きとした絵を描いているからだと思います。 ・作品を見た人が、自分も頑張ろうという気持ちになったからだと思います。 ・有名な画家がかいた作品とは違ったよさがあるからです。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ 星野さんは、自分の人生を振り返り、どのように考えていると思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・死んでしまいたいと思ったこともあったけど、自分の絵に人々が感動してくれて、生きていて良かったと思っています。 ・これまで、いろいろな人に支えられて生きて 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読の時間を短縮させるために、「語りかけ帳」の部分は省略する (事前読みで触れている)。 ・場面を想起させるために、場面絵を提示する。 ・道徳的価値についての考えを深める場面につなげるために、人間の弱さを感じる場面や、強さに変えることができた場面の、主人公の心情を捉えさせる。 ・展覧会を開くことで、弱い自分から一歩踏み出そうとしている主人公の姿に気付かせるために、問い返しをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ不安だったのですか。 ・不安だったら展覧会を開くことを諦める選択もあったのに、どうして開こうと思ったのですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・人々に感動を与える理由を問うことで、弱い心に負けず、生命に満ちあふれている主人公の姿が絵に表れていることに気付かせる。 ・生きる喜びについて多面的・多角的に考えさせるために、生徒の反応に問い返しをしたり、理由を聞いたりする。 ・主人公が誇りある生き方をしていることに気付かせるために、問い返しをする。

	<p>きたから、その恩返しのようなものができてよい人生だったなと考えていると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の先生としてやっていけば、それはそれで充実した人生だったと思うけど、このような体になったからこそ、気付いたことがあって、生きる喜びを感じていると思っています 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆を口にくわえて字や絵をかいた星野さんの生きる喜びと、もしげがをせず体育教師として生きた喜びとでは、同じだと思いますか。違うと思いますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分との関わりで道徳的価値を深めさせるために問い返しをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・人はどのような時に、生きる喜びを感じたり、生きていてよかったな、と感じたりするのでしょうか。 </div>
<p>終末10分</p>	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 「生きる喜び」について考えたこと、これからの生活で生かしていきたいと思うことを、今日の授業で学んだことを含めて書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことに出会っても、人にはそれを乗り越えられる力があるし、その先には、その人にしか味わうことができない生きる喜びが待っているのだと思いました。 ・自分のやりたいことがを見つけたり、周りの人の役に立ったと実感できたりしたとき、生きる喜びを感じるのだと思います。これから辛いことがあっても、生きる喜びを見つけて生きていきたいです。 <p>6 教師の説話を聞く。</p> <p>○ 「辛いという字がある もう少しで幸せになれそうな気がする」という詩があります。どうしてこの詩をかいたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値についての自分の考えを整理し、自己の生き方についての考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。 ・道徳的価値に関連する、主人公のもう一つの詩を紹介することで、生徒の心に余韻を残す。

【評価】

よりよく生きる喜びについて、自我関与中心の学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

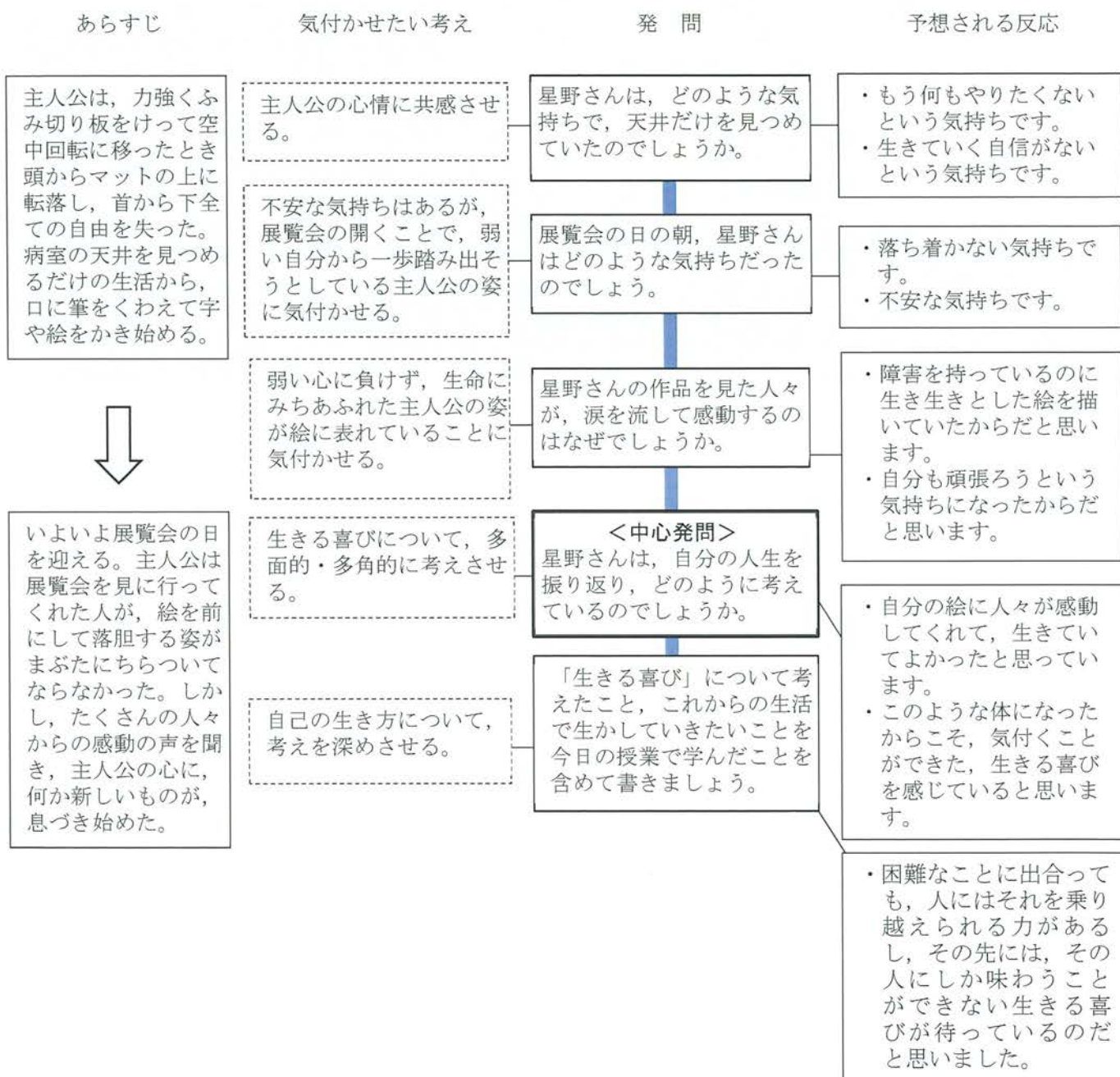
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

生徒にとって、困難なことに合う場面は、多く存在する。集団生活でうまくいかなかったり、けがをして思うように動けなくなったり、進路について悩む時などである。本時では、これまでの関連する教育活動を踏まえ、今後出会うであろう様々な場面において、自分の弱い心や困難を乗り越え、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きることについて、考えを深めさせる(深化)。

7 教材分析・発問構成



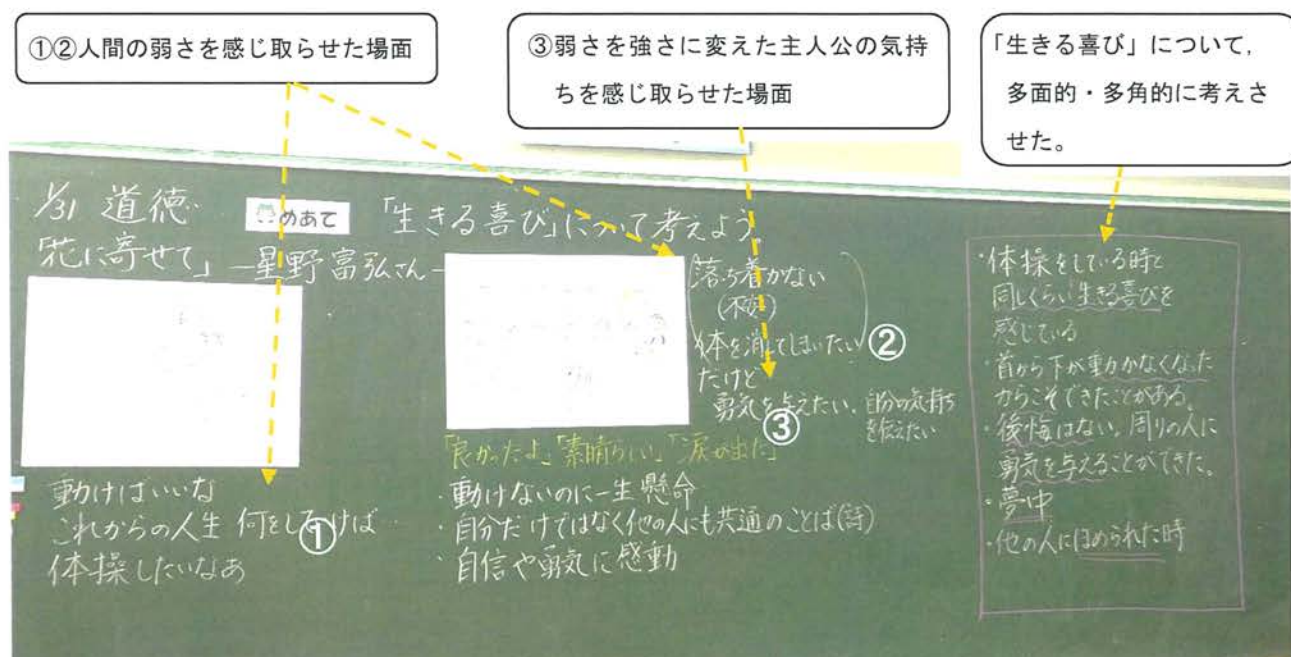
8 準備物

教師：教科書、場面絵、星野さんの資料

生徒：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】



(1) 導入

教材に興味や関心を持たせた

事前読みをさせたので、教材の内容はほぼ理解できていると思われたが、主人公がけがをする前の職業や、献身的に闘病生活を支えた母について、スライドを活用しながら紹介した。また、生徒が普段「楽しい」と感じていることは何かを聞き、主人公にも体操という生きがいがあったことに触れた。それが一瞬にして絶たれてしまった悲しみを想像させ、課題である「生きる喜び」につなげた。

○ 写真 (大型テレビ) を活用したので、生徒にとって分かりやすかったと思われる。

● 課題につなげていく問いに工夫が必要だった。

(2) 展開

生徒の考えを深めさせるために、問い返しをした

展覧会を開くことで、弱い自分から一歩踏み出そうとしている主人公の姿に気付かせるために、「展覧会の日の朝、星野さんはどのような気持ちだったのでしょうか」という発問の反応に対する問い返しをした。反応例は、以下のとおりである。

- ・ (展覧会を) 見る人に勇気を与えたいと思ったからです。
- ・ 自分の気持ちを他の人達に伝えたいと思ったからです。

また、中心発問の生徒の反応「障害を負ってしまったけど、人々に勇気を与えることができたから、後悔はない」「障害を負ったからこそ生きる喜びを見つけることができた」に対し、道徳的価値を自分のこととして捉えさせるために、「みなさんはどのような時に生きる喜びを感じたり、生きていてよかったなと感じたりしますか」と問い返した。反応例は以下のとおりである。

- ・ 何かに夢中になっている時です。
- ・ 誰かに褒められた時です。

- 問い返しを準備することにより、主人公の言動の背景にある道徳的価値の大切さを引き出すことができた。
- 準備していた問い返しに関する内容を、生徒が気付いて自ら発言した。それに対して一人一人が考えを持つ時間を確保せず、全体で共有することができなかった。多様な反応を予想し、更に生徒の考えを深める手立てが必要であると感じた。

(3) 終末

自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「生きる喜び」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

生徒の感想

- ・体が不自由ではない私は、もっとできることがあるはずだと思いました。どんなに辛いときでも、きっとできると思いながら、一生懸命そのことに取り組んでいきたいと思いました。
- ・星野さんがかいた詩の最後に「強い茎になろう」という前向きな気持ちを持てるように、これからの生活に生かしていきたいです。
- ・星野さんは周りの人を笑顔にしたり、勇気を与えたりしているので、「あきらめないこと」が大切だなと思いました。今の自分では出来ないような事でも、それを続けていったら、だんだん出来るようになってくるという事を信じて、行動していこうと思いました。
- ・生きる喜びを感じる瞬間は、自分が積極的に動いて、感謝された時、好きになったことを全力で出来る時です。今全力でしていることは、生きている限り諦めずに、その他にも新しいことに挑戦して、自分だけではなくて、他人のためにもなるようなことができたらいいと思いました。

【主題名】いじめのない世界へ 内容項目 「A-(1) 自主, 自律, 自由と責任」

【教材名】あの子のランドセル (東京書籍 新しい道徳2)

<あらすじ> 小学校に入ってすぐいじめをした主人公。友達と一緒に、「あの子」のランドセルに傷を付けた。中学になってランドセルを見なくなりほっとするが、心の中は、なかなか晴れない。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

自主, 自律, 自由と責任の中で, 責任という道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

無責任な言動をとることにより, 後悔することはあっても, それを自己の責任において結果を受け止めることができない。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自分の言動が, 自分や他者にどのような結果をもたらすかを, よく考えて行動しようとする道徳的判断力を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 主題に関わる問題意識を持つ。 ○ どのような時に責任を感じますか。 2 課題をつかむ。 自分言動に責任を持つとはどのようなことか。	導入の工夫
展開	3 教材の内容を把握し, 登場人物の気持ちについて話し合う。 ○ あの子のランドセルに傷を付けていたとき, 主人公はどのような気持ちだったのでしょうか。 ○ 小学校に入学する妹を見て, 主人公はどのようなことに気付いたのでしょうか。 4 自分の言動に責任を持つことについて考える。 ◎ 主人公に足りないものは, 何だったのでしょうか。 ○ どのような言動が, 自分の言動に責任を持つことにつながるのでしょうか。	展開の工夫 多面的・多角的 自分との関わり
終末	5 自己の生き方についての考えを深める。 ○ 今日の授業で感じたこと, これからの自分に生かしていきたいことを書きましょう。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回 道徳

自分の言動に責任を持つとはどのようなことか。

<責任>

- ・係活動
- ・委員会活動
- ・部活動
- ・家庭の手伝い
- ・学級会の司会

↓

役割があるから?

小学生の時・・・いじめ
傷つけたランドセル

- ・私だけじゃない
- ・おもしろい
- ・ストレス発散
- ・断れない

中学生になり「ほっとした」

妹のランドセル

- ・申し訳ない (いじめた子, その家族)
- ・考えて行動するべきだった
- ・もういじめはしない
- ・こんなに苦しくなるとは思わなかった

→

✕

後のことを考えて行動する

- ・周りに流されない
- ・自分の意志で行動する
- ・よいことに自信を持って行う

【評価】

自分の言動に責任を持つことについて, 自我関与中心の学習を通して, 主体的に考えようとしていたか。

【主題名】いじめのない世界へ 内容項目 「A-(1) 自主, 自律, 自由と責任」

【教材名】あの子のランドセル (東京書籍 新しい道徳2)

〈あらすじ〉小学校に入ってすぐいじめをした主人公。友達と一緒に、「あの子」のランドセルに傷を付けた。中学になってランドセルを見なくなりほっとするが、心の中は、なかなか晴れない。

【ねらい】

内容項目の理解

自主, 自律, 自由と責任の中で, 責任という道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

善悪の判断はできているが, 自分の責任を追求されると, 「みんながやってるから」「〇〇がやれと言ったから」と他に責任転嫁をすることが見られる。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

過去の自分の行動に心を痛める主人公の気持ちに寄り添い, 自分の行動に責任を持つとする道徳的態度を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 主題に関わる問題意識を持つ。 ○ 無責任で勝手な言動とは, どのような言動ですか。 2 課題をつかむ。 自分 の言動に責任を持つことについて考えよう。	導入の工夫
展開	3 教材の内容を把握し, 登場人物の気持ちについて話し合う。 ○ あの子のランドセルに傷を付けていたとき, 主人公はどのような気持ちだったのでしょうか。 ○ 中学になってほっとした主人公が, 「だけど, やっぱりだめだった」と感じたのはどうしてでしょうか。 4 自分の言動に責任を持つことについて考える。 ○ 小学校に入学する妹を見て, 主人公は, どのようなことに気付いたのでしょうか。 ◎ 今後, 主人公は, どのような生き方をしていくと思えますか。	展開の工夫 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方についての考えを深める。 ○ 今日の授業で感じたこと, これからの自分に生かしていきたいことを書きましょう。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回 道徳	自分の言動に責任を持つことについて考えよう	
	あの子のランドセル	妹のランドセル ○○
小学校	中学校	
「おもしろ半分」	「ほっとした」「やっぱりだめだった」	・あの子も家族に愛されていた ・取り返しのつかないことをした
・みんなもやっている	・反省している	
・断れない	・後悔している	生き方
・ストレス発散	・心に引っかかって前に進めない	他人の心の痛みが分かる
・おもしろい	・あの子はどう思っているか	自分の行動に責任を持つ 後のことを考えて行動する

【評価】

自分の言動に責任を持つことについて, 自我関与中心の学習を通して, 主体的に考えようとしていたか。

【主題名】気持ちをこめて 内容項目 「B-(6) 思いやり, 感謝」

【教材名】心に寄りそう (東京書籍 新しい道徳2)

<あらすじ>看護師の山田さんは、これまでの経験から、一人一人の患者さんと目線を合わせてあいさつをしたり、名前を呼んで声を掛けたりすること、そのときどきの心に寄りそって接することの大切さに気付いた。

【ねらい】

内容項目の理解

思いやり, 感謝の中で、思いやりという道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

思いやりや感謝の気持ちの大切さには気付いているが、言葉や態度にうまく表すことができない。

本時のねらいを設定する

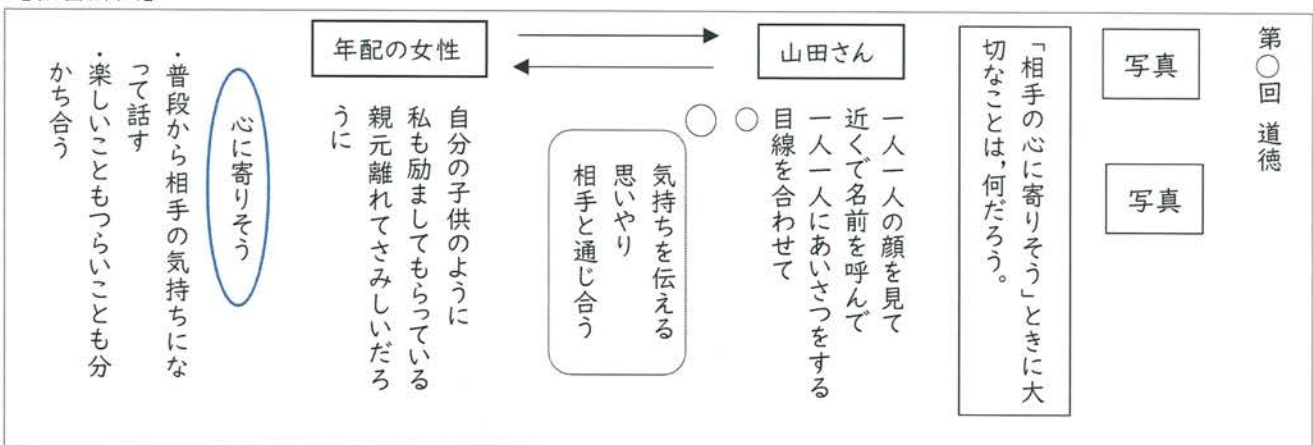
判断力 心情 実践意欲 態度

他の人の気持ちや立場を尊重し、心に寄りそいながら温かく接していこうとする道徳的実践意欲を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 教材の内容に興味や関心を持つ。</p> <p>○ この写真に共通していることは、どのようなことですか。 (患者の心に寄りそっている看護師の写真, 幼児と笑顔で接している保育士の写真など)</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>「相手の心に寄りそう」ときに大切なことは、何だろう。</p>	導入の工夫
展開	<p>3 教材を読んで話し合う。</p> <p>○ 山田さんの患者さんに対する心配りは、どのように変わっていききましたか。</p> <p>○ 山田さんは、なぜ接し方を変えようとしていたのでしょうか。</p> <p>4 「相手の心に寄りそう」ときに大切なことを考える。</p> <p>○ 女性は、どのような気持ちで山田さんに話しかけてくれたのでしょうか。</p> <p>◎ 相手の心に寄りそいながら接していくためには、どのようなことを心掛けていけばよいのでしょうか。</p>	<p>展開の工夫</p> <p>多面的・多角的</p> <p>自分との関わり</p>
終末	<p>5 説話を聞いて、自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>・ 「情けは人の為ならず」ということわざについての説話を聞く。</p>	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

相手の心に寄りそうときに大切なことについて、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

【主題名】気持ちをこめて 内容項目 「B-(6) 思いやり, 感謝」

【教材名】心に寄りそう (東京書籍 新しい道徳2)

〈あらすじ〉看護師の山田さんは、これまでの経験から、一人一人の患者さんと視線を合わせてあいさつをしたり、名前を呼んで声を掛けたりすること、そのときどきの心に寄りそって接することの大切さに気付いた。

【ねらい】

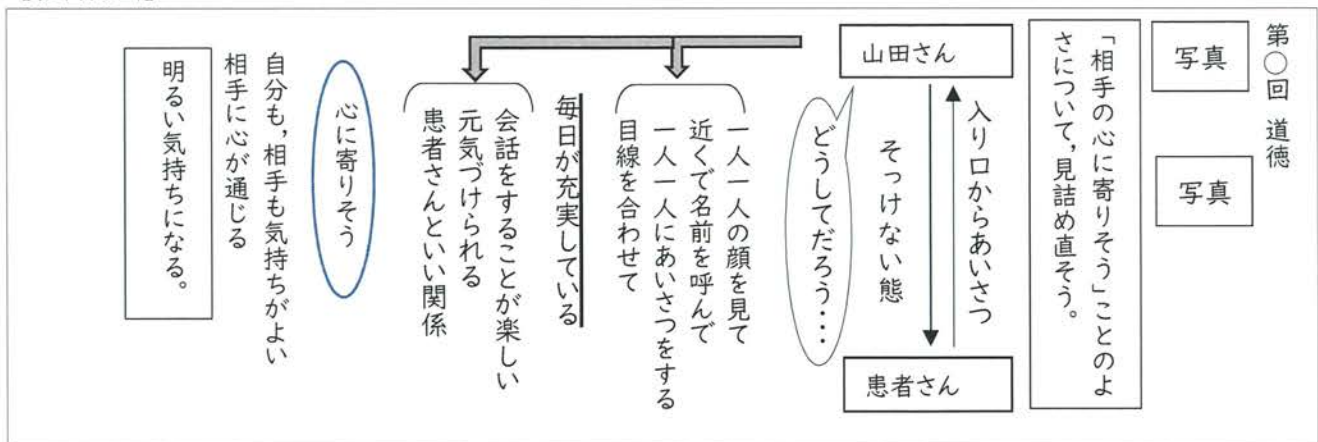
- 内容項目の理解
思いやり, 感謝の中で、思いやりという道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
相手の気持ちを察することなく、自己中心的な接方をしてしまう。

- 本時のねらいを設定する
判断力 心情 実践意欲 態度
- 思いやりの心を持って、他者との交わりを深めようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 〇主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 教材の内容に興味や関心を持つ。 ○ この写真に共通していることは、どのようなことですか。 (患者の心に寄りそっている看護師の写真, 幼児と笑顔で接している保育士の写真など) 2 課題をつかむ。 「相手の心に寄りそう」ことのよさについて、見詰め直そう。	導入の工夫
展開	3 教材を読んで話し合う。 ○ 最初、患者さんは、なぜ山田さんにそっけない態度をとったと思いますか。 ○ 山田さんは、どのような心配りをしましたか。 4 「相手の心に寄りそう」ことについて考える。 ◎ 「毎日が充実している」と感じるようになったのはなぜでしょう。 ○ 「相手の心に寄りそう」ことのよさには、どのようなことがありますか。	展開の工夫 多面的・多角的 自分との関わり
終末	5 説話を聞いて、自己の生き方についての考えを深める。 ・ 「情けは人の為ならず」ということわざについての説話を聞く。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

心に寄りそいながら接することのよさについて、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

【主題名】 集団生活の充実と自分の成長 内容項目「C－(15) よりよい学校生活, 集団生活の充実」

【教材名】 明かりの下の燭台 (講談社 なせば成る！)

＜あらすじ＞ バレーボール選手としてオリンピックを目指していた主人公は、ある日、監督からマネージャーの仕事に依頼される。悩んだ末、マネージャーを引き受けた主人公は、その後、4年間、チームのために尽力し、金メダル獲得に貢献する。

【ねらい】

✓ 内容項目の理解

よりよい学校生活, 集団生活の充実の中で, 集団生活の充実という道徳的価値について指導する。

✓ 児童生徒の実態把握

集団生活を充実させることの大切さについて理解しているものの, 自分の気持ちを優先させてしまい, 与えられた役割を果たすことができない生徒が多い。

✓ 本時のねらいを設定する

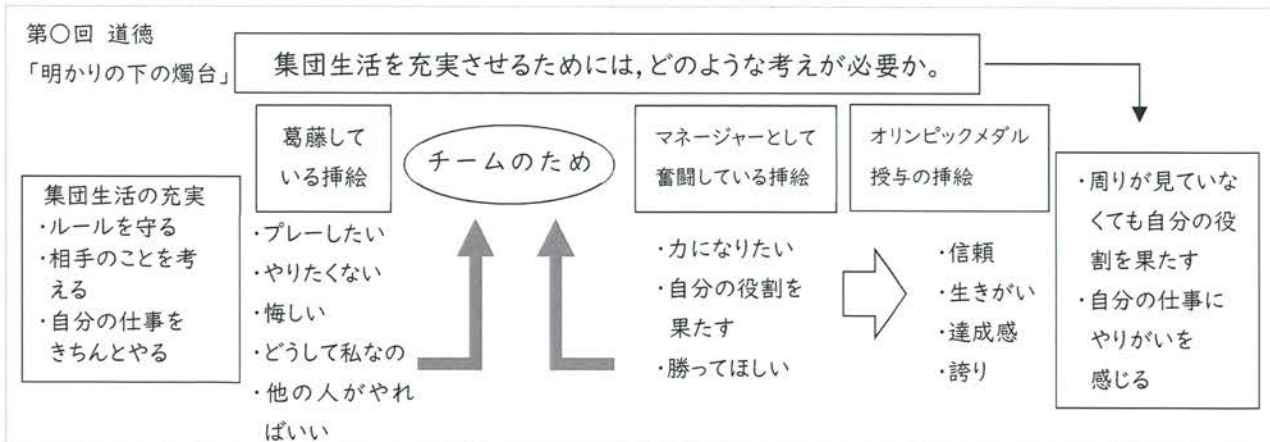
判断力 心情 実践意欲 態度

集団生活の充実に努めることの意義について理解し, 集団の中で自分の役割を果たし, 集団生活の充実と自己の成長の両方を実現しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。 ○ 集団生活を充実させるために大切なことは何ですか。 2 課題をつかむ。 集団生活を充実させるためには, どのような考えが必要か。	問題解決的な学習
展開	3 集団生活を充実させるために必要なことについて考える。 ○ 監督からマネージャーを依頼されたときの鈴木さんは, どのような気持ちだったと思いますか。 ◎ マネージャーとして, 4年間, 文句を一切言わずに頑張った鈴木さんを支えたものは何だったのでしょうか。 ○ 選手, マネージャーと立場が変わっても, 鈴木さんの中で変わらないものは何だと思いますか。 ○ 優勝しても金メダルをもらえなかった鈴木さんが, 4年間のマネージャーとしての活動を通して得たものは何だと思いますか。	多面的・多角的
終末	4 自己の生き方について考える。 ○ 集団生活を充実させるためには, どのような考えが必要か自分の考えを書きましょう。	自分との関わり 終末の工夫

【板書計画】



【評価】

集団生活の充実について, 自分との関わりの中で考える学習を通して, これからの生き方に生かそうとしていたか。

1 主題名

集団生活の充実と自分の成長 「C-(15) よりよい学校生活, 集団生活の充実」

2 ねらいと教材**(1) ねらい**

集団生活の充実に努めることの意義について理解し, 集団の中で自分の役割を果たし, 集団生活の充実と自己の成長の両方を実現しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「明かりの下の燭台」(講談社 なせば成る!)

3 主題設定の理由**(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方**

学校における集団生活の充実とは, 学校独自の校風を継承し, 更に発展させ, よりよい校風をつくることである。また, 仲間と互いに協力し合う関係を築き, 自己の人間的な成長につなげることも大切である。

そのためには, まず, 自分が所属する集団の意義を理解し, その中で自分の役割や責任を自覚する必要がある。そして, 協力することで得られる達成感や集団の中で自分よさを発揮する充実感を味わうことにより, 集団生活の充実に努めようとする主体性を育むことにつながると考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は, これまでの学校生活において, 集団生活の中で自分の役割を果たすことの大切さについて理解している。しかし, 自分の思いを優先させてしまい, 与えられた役割を果たすことができている場面が見られる。例えば清掃の取組である。自分の役割があるにも関わらず, 「面倒くさい」「誰かがやってくれるだろう」という思いから, 取り組むのが遅かったり, 友人との話に夢中で作業が雑になったりすることがある。生徒の実態を踏まえると, 集団生活の充実という道徳的価値に対して, 理解はありつつも, 実現できていないという道徳的な問題が考えられる。

集団生活の充実とは, 自己を犠牲にした消極的なものではなく, 自分自身の成長にもつながるということに気付かせたい。集団生活の充実に努める意義について考え, 仲間と協力し, 集団生活の充実と自己の成長を同時に実現していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は, バレーボール日本代表チームを支えるマネージャーの奮闘に関する話である。主人公の鈴木さんは, バレーボール選手としてオリンピックを目指していた。しかし, ある日, 監督からマネージャーの依頼を受ける。鈴木さんは悩んだ末にマネージャーになることを決意する。マネージャーになってからは一切愚痴を言わず, 4年間チームのために尽力する。

本時の指導に当たっては, 授業当日の朝, 生徒に資料を読ませておき, 内容を理解させ, 授業中の考える時間を確保する。授業では, 監督からマネージャーを依頼され, 葛藤する主人公の心情に共感させる。生徒には, 「選手として活躍したい」という主人公の気持ちを自分との関わりで考えさせる。中心場面は, 選手以上の苦労があったにも関わらず, 4年間愚痴を一切言わず, マネージャーの仕事をやりきる場面に設定する。選手としてプレーすることとマネージャーとして働くことは, どちらも「チームのために力を発揮する」という共通の目的があることに気付かせ, 集団生活の充実にはどのような考えが必要なのか, 深く考えさせる。

4 学習指導過程

	学習活動 ○主な発問（◎中心発問）・予想される反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 集団生活を充実させるために大切なことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守ることです。 ・相手の気持ちを考えることです。 ・自分の仕事をしっかりとやることです。 <p>2 課題をつかむ。</p> <p>集団生活を充実させるためには、どのような考えが必要か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、導入で集団生活を充実させることについての生徒の考えを取り上げる。生徒から出された考えは、授業後半、集団生活の充実についての生徒の考えの変容を捉えさせる場面で活用する。 ・本時の課題に対して生徒が考える必然性を持てるように、授業後に予定している新人大会や合唱コンクールと関連させて課題を提示する。
展開 37分	<p>3 集団生活を充実させるために必要なことについて考える。</p> <p>○ 監督からマネージャーを依頼されたときの鈴木さんは、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手としてプレーをしたいという気持ちだったと思います。 ・マネージャーをやりたいくないという気持ちだったと思います。 ・自分はチームに必要なのかという気持ちだったと思います。 ・選手として認めてもらえなくて悔しいという気持ちだったと思います。 ・どうして私がマネージャーをやらなければならないのかという気持ちだったと思います。 ・自分以外の方がマネージャーをやればいいのかという気持ちだったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が資料の内容を理解した上で発問について考えられるよう、教材の挿絵を活用して資料の内容を確認する。 ・主人公の心情について考えさせるために、範読を聞くときの視点を与える。 ・選手として活躍したいという思いを諦め、マネージャーになることを決意する鈴木さんの心情を捉えさせるために、監督からマネージャーを依頼されたときの鈴木さんの心情を考えさせる。 ・生徒の本音を引き出すために、問い返しの発問を準備しておく。 ・マネージャーを引き受けるかどうか悩む鈴木さんの心の葛藤を表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問 <p>・どうして自分がマネージャーをやらなければいけないのか、自分以外の方がマネージャーではダメなのかとは思わなかったのでしょうか。</p> <p>・自分だったらマネージャーを依頼されたらどのような気持ちになりますか。</p> <p>・自分だったらマネージャーを引き受けますか。それは、どうしてですか。</p> <p>・選手としてプレーしたいという気持ちとマネージャーとして頑張らなければならないという気持ちはどちらが強いと思いますか。</p>

◎ マネージャーとして、4年間、文句を一切言わずに頑張った鈴木さんを支えたものは何だったのでしょうか。

- ・チームのために力になりたいという気持ちだと思います。
- ・自分の役割を果たしたいという気持ちだと思います。
- ・チームに勝ってほしいという気持ちだと思います。

○ 選手、マネージャーと立場が変わっても、鈴木さんの中で変わらないものは何だと思いますか。

- ・バレーボールが好きという気持ちです。
- ・チームのために役に立ちたいという気持ちです。

○ 優勝しても金メダルをもらえなかった鈴木さんが、4年間のマネージャーとしての活動を通して得たものは何だと思いますか。

- ・選手からの信頼だと思います。
- ・人のために働くことへのやりがいだと思います。
- ・達成感だと思います。
- ・誇りだと思います。

・生徒の考えが「自分だったら選手としてプレーしたい」に偏ったときに、集団生活の充実について考えさせるための問い返しの発問

・みんながやりたいことを主張したら、チームとしてうまくいくと思いますか。

・生徒の考えが「自分だったらマネージャーを引き受ける」に偏ったときに、個人の欲求について考えさせるための問い返しの発問

・選手としてプレーしたいという気持ちを持つことはダメなことなのですか。

・集団のためには、選手個人の気持ちは必ず我慢しなければならないのですか。

・集団生活の充実には、どのような考えが必要なのかに気付かせるために、4年間マネージャーの仕事に尽力した鈴木さんの心情を考えさせる。

・マネージャーの仕事をやり抜こうとする鈴木さんの決意の強さについて、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

・選手のために、ここまでする必要はあったのでしょうか。マネージャーとして必要なことをやるだけではダメなのでしょうか。

・もし、鈴木さんが愚痴を言っていたら選手はどのように感じたと思いますか。

・マネージャーの仕事を頑張っても誰かに褒めてもらえるわけではないのに、4年間続けられたのはどうしてでしょうか。

・集団生活の成実は、立場に限らず、同じ目標を持つことが大切であることに気付かせるために、選手、マネージャーの立場のときの気持ちの共通点について考えさせる。

・集団生活の成実を実現することで、自己の成長につながることに気付かせるために、マネージャーの仕事をやり切ったときの鈴木さんの心情を考えさせる。

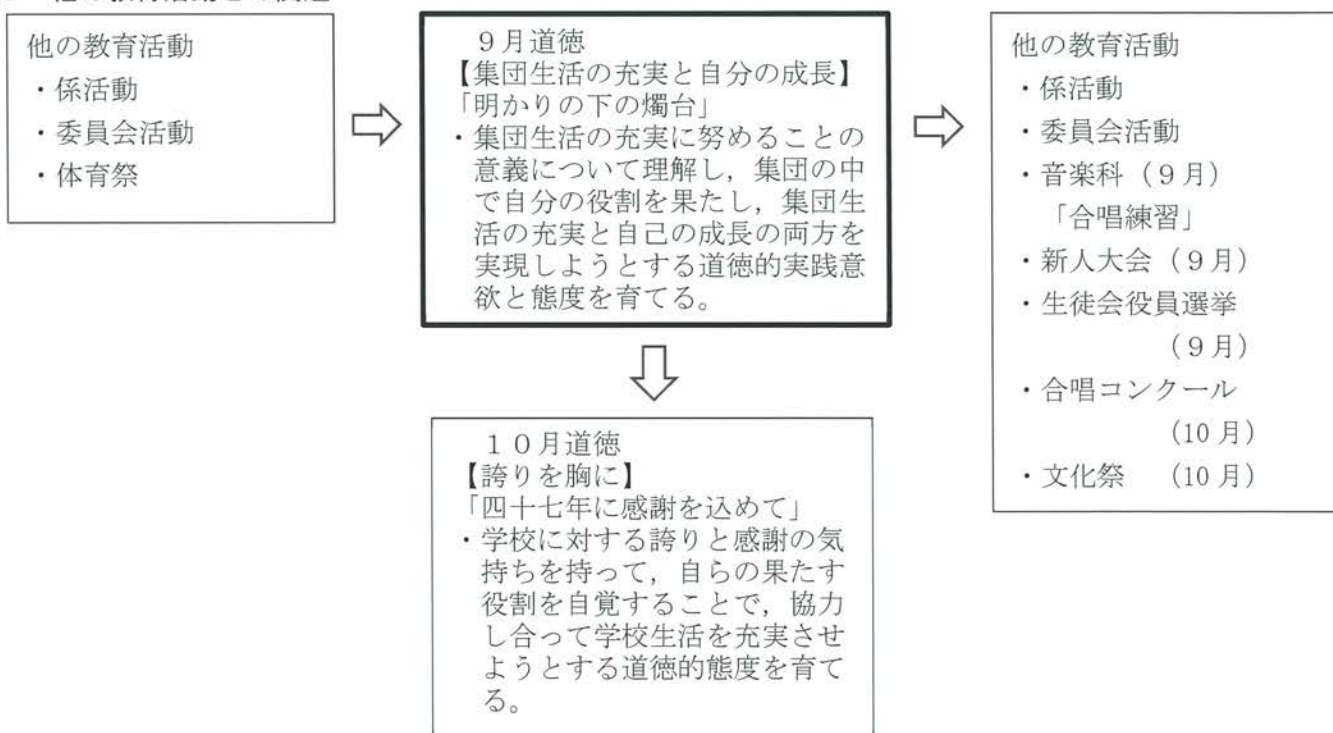
・導入で考えた集団生活の成実についての考えが、授業を通して深まったことを確認するために、導入との比較を板書で行う。

終 末 8 分	<p>4 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 集団生活を充実させるためには、どのような考えが必要か自分の考えを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団生活を充実させるためには、周りの人が見ていなくても、自分の役割を果たすことが必要だと思います。 ・ 集団生活を充実させるために頑張ることで、自分自身も達成感を味わうことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。
------------------	--	---

【評価】

集団生活の充実について、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

5 他の教育活動との関連

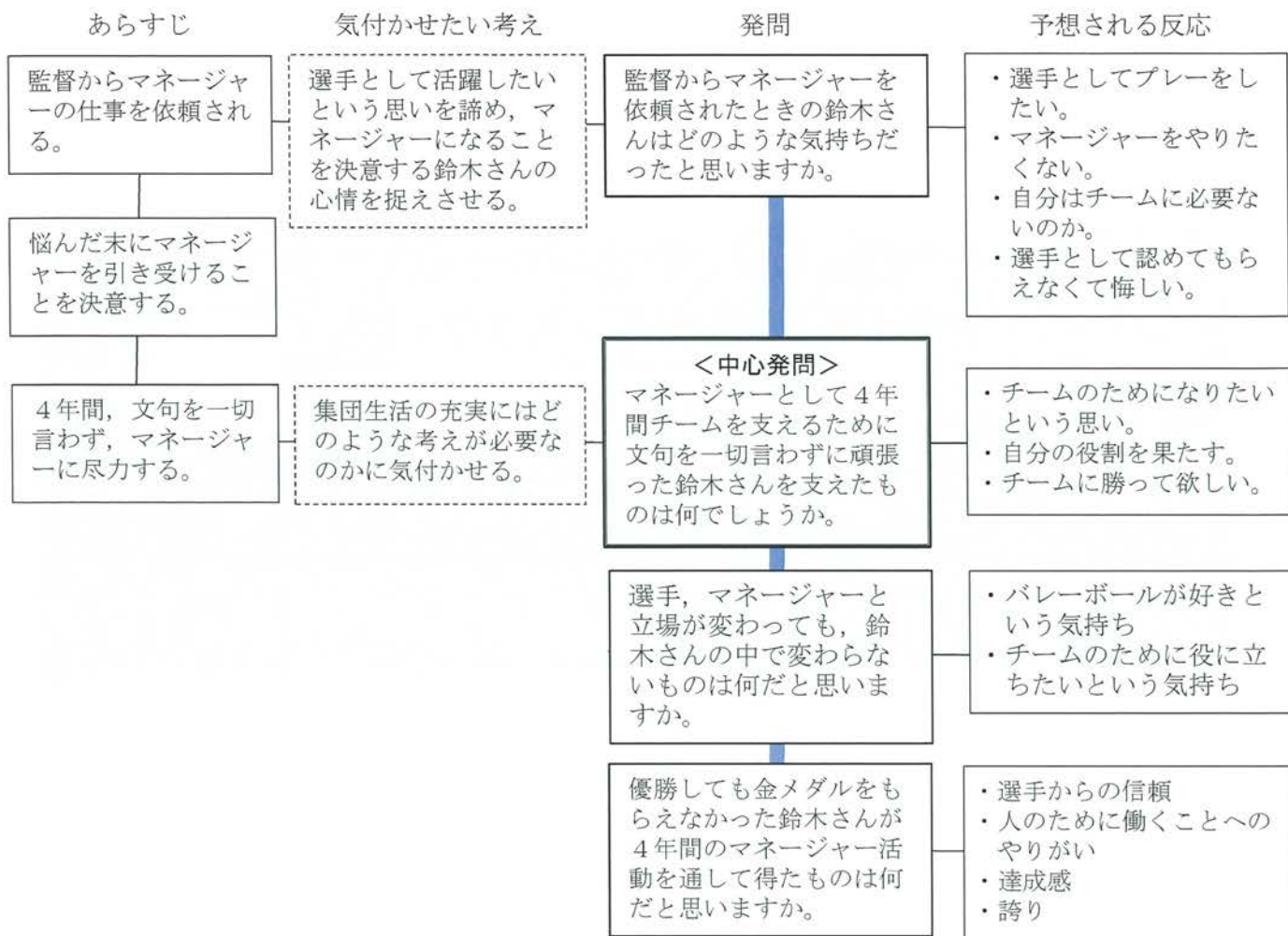


6 補充・深化・統合の視点【深化】

「集団生活の充実」という道徳的価値について、生徒は学校行事や部活動等、様々な教育活動を通して学んできている。

本時は、生徒の実態を踏まえ、集団生活の充実には自分の役割を果たすという責任感だけではなく、自分の役割に対してやりがいを感じることも大切であることに気付かせる授業である。役割を果たすことで得られる達成感は、集団の中で自分のよさを発揮することや自身の資質・能力を向上させることにつながる。「集団生活の充実」という道徳的価値についての生徒の考えを、本時の授業を通してより一層深めていきたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書，教科書挿絵，学習プリント

生徒：筆記用具

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

①授業開始時の生徒の考え, ②本時の課題,
③終末の生徒の考えを構造的に板書に示した。

マネージャーを依頼されたときの葛藤, マネージャーを決意した後の心情, 選手・マネージャーの立場に関係なく, 変わらない思いを示した。

(1) 導入

授業開始時に, ねらいとする道徳的価値に関する生徒の考えを發表させた

授業後半に, ねらいとする道徳的価値についての考えの深まりを生徒に実感させたいと考え, 授業開始時に「集団生活を充実させるためにはどのようなことが大切か」と問い, 授業後半は, 「金メダルをもらえなかった鈴木さんは何をすることができたのだろう」と発問した。

○ 授業開始時の生徒の考えは, 自分勝手な行動はしない, ルールを守る等の内容だった。授業後半の生徒の考えは, 達成感, 使命感, 仲間との絆, 自分自身のメンタルという内容だった。一部, 団結と仲間との絆のように似たような考えのものもあったが, 授業開始時と授業後半で比較することで, 生徒に考えの深まりを実感させることができた。

(2) 展開

生徒の考えを深めさせるために, 問い返しをした

「自分だったらマネージャーを引き受けるか」と発問した際, 生徒全員が引き受けないと答えた。その理由として, 「バレーボールをやるために合宿に参加した」「最後までプレーしたい」という考えが出された。主人公のマネージャーを引き受けるまでに至った心情に共感させるために, 「全員が自分のやりたいことを主張したらチームはどうなるのだろう」と問い返した。

○ 問い返しに対して, 生徒から「監督以外にチームを支える人がいなくなってしまうから, チームを支えきれなくなってしまう」「チームが崩壊してしまう」等の考えが出された。問い返しによって, 選手としてプレーしたいという気持ちとチームを支えなければならないという主人公の葛藤について考えさせることができた。

(3) 終末

自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「集団生活を充実させるためにはどのような考えが必要か」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

生徒の感想

- ・ 集団生活は信頼関係、仲間との絆が大切だと思った。支えている人がいることを忘れないようにしたい。
- ・ 自分中心に考えるのではなく、常に周りの仲間のことを考えて、自分はどうすればよいのか、どうすれば良い方向へ行けるのかをよく考えることが大切だと思った。そして、自分も全力で頑張れるようなことをすると良いと思った。
- ・ 私は仲間がいて当たり前と思っていた。けれど、この話を読んでみて、改めて仲間がいるからこそできることがたくさんあることに気付くことができた。相手を思う気持ちや感謝する心をもって集団生活をしていこうと思った。
- ・ 集団生活では支える立場の責任感や支え合うことが大切だと思う。
- ・ 仲間を支え、頑張るためには、仲間との絆や使命感が必要だと思った。自分はそういう考えがなかったので、これから大切にしていきたい。
- ・ 一人一人がチームのために何ができるのかを考えて、積極的に行動していくことが大切だと思った。特に、マネージャーのように支えてくれる人がいれば充実すると思う。常に支えてくれている人に感謝の気持ちを持つことが大切だと思う。自分も鈴木さんのように、チームに、プレーだけではなく、他のことでも貢献できるような人になりたい。目標を持ち、その目標に向かってどんな立場でも一生懸命できることを行いたい。

【主題名】 集団生活の充実と自分の成長 内容項目「C-(15) よりよい学校生活, 集団生活の充実」

【教材名】 明かりの下の燭台 (講談社 なせば成る!)

<あらすじ> バレーボール選手としてオリンピックを目指していた主人公は, ある日, 監督からマネージャーの仕事に依頼される。悩んだ末, マネージャーを引き受けた主人公は, その後, 4年間チームのために尽力し, 金メダル獲得に貢献する。

【ねらい】

- 内容項目の理解
よりよい学校生活, 集団生活の充実の中で, 集団生活の充実という道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
集団生活を充実させるためには, 自分の気持ちは後回しにしなければならないと思い込んでいる等, 集団生活の充実に対する理解が不十分な生徒が多い。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

集団生活の充実に努めることの意義について理解し, 集団の中で自分のよさを発揮しながら, 自分の役割を果たそうとする道徳的判断力を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 集団生活を充実させるために大切なことは何ですか。</p> <p>○ 自分のよさを発揮することと, 集団生活を充実させることはどちらが大切ですか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>集団生活の中で自分のよさを発揮するためには, どのような考えが必要か。</p>	問題解決的な学習
展開	<p>3 集団生活を充実させるために必要なことについて考える。</p> <p>○ 監督からマネージャーを依頼されたときの鈴木さんは, どのような気持ちだったと思いますか。</p> <p>○ マネージャーになることを決意した鈴木選手をどう思いますか。</p> <p>○ もし, 鈴木選手がマネージャーの仕事に断ったとしたら, 鈴木選手をどう思いますか。</p> <p>○ 集団生活を充実させるためには, 必ずマネージャーになることを選ばないといけないのですか。</p> <p>◎ 全日本女子バレーボールチームにとって, 最も大切なことは何だと思いますか。理由も答えてください。</p>	多面的・多角的
終末	<p>4 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 集団生活の中で自分のよさを発揮するためには, どのような考えが必要か自分の考えを書きなさい。</p>	自分との関わり 終末の工夫

【板書計画】

第〇回 道徳
「明かりの下の燭台」

集団生活の中で自分のよさを発揮するためには, どのような考えが必要か。

葛藤している挿絵

- ・プレーしたい
- ・やりたくない
- ・悔しい
- ・どうして私なの
- ・他の人がやればいい

マネージャーとして奮闘している挿絵

- ・チームのために頑張っている
- ・すごい
- ・チームメイトも助かっている

Q もしマネージャーを断っていたら?

- ・自分勝手
- ・周りが困る
- ・自分の気持ちを大切にした

Q チームにとって最も大切なことは何?

- ・チーム全員の達成感
- ・一人一人が生き生きとしている
- ・勝ち負けにこだわらない

【評価】

集団生活の充実について, 自分との関わりの中で考える学習を通して, これからの生き方に生かそうとしていたか。

【主題名】 自己の向上を目指して 内容項目 「A-(3) 向上心, 個性の伸長」

【教材名】 この人に学ぶ メッセージ 山中伸弥 (文部科学省 私たちの道徳 中学校)

〈あらすじ〉 ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥さんが iPS 細胞を開発するまでの話。初めは整形外科医師を目指していたがうまくいかず, あるとき難病患者を救うため研究者の道を歩むことを決意, あきらめずに苦労した末, 現在に至る。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求するという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

自分の短所や長所はある程度理解しているが, 将来の目標や生き方が明確ではなく, 個性を生かして充実した生活をしていくことにつなげていない。

☑ 本時のねらいを設定する

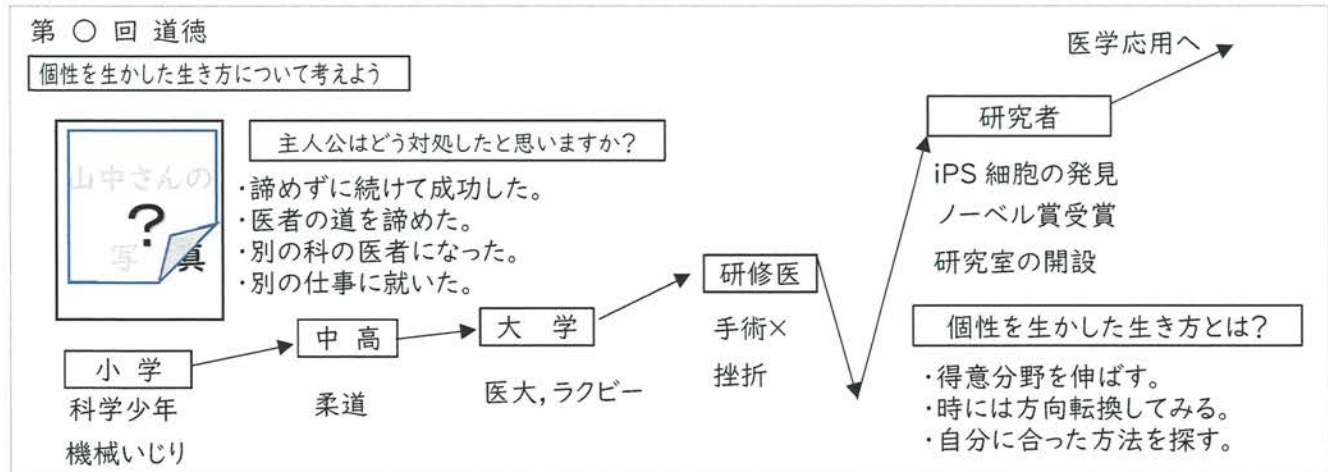
判断力 心情 実践意欲 態度

自分の個性とその伸長について考え, 個性を生かして生活していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時の教材に興味・関心を持つ。 ○ 今までに何か壁にぶつかったことはありませんか。 2 課題をつかむ。 個性を生かした生き方について考えよう	導入の工夫
展開	3 資料の前半を聞き, 話の内容をつかむ。 ○ 「ジャマナカ」と言われた時の主人公は, どのような気持ちだと思いますか。 ○ 主人公は, この困難に対してどのように対処したと思いますか。 ○ この困難に対してあなたならどのようにしますか。 4 資料後半を聞き, 話の内容をつかむ。主人公の山中伸弥さんの生き方を知り, 個性を生かして生きることについて考える。 ◎ 困難に直面したとき大切な事は何でしょうか。	教材の活用 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 今日の授業で学んだことを踏まえ, これからどのような将来にしていきたいですか。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

個性を生かした生き方について, 自分との関わりで考える学習を通して, 多面的・多角的に考えようとしていたか。

1 主題名

自己の向上を目指して 「A-(3) 向上心、個性の伸長」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自分の個性とその伸長について考え、個性を生かして生活していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「この人に学ぶ メッセージ 山中伸弥」(文部科学省 私たちの道徳 中学校)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

「個性を伸ばす」とは、固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせることである。自分自身で嫌だと思っている所も、見方を変えて磨きを掛けることで、輝く個性になり得る。個性を伸ばすためには、自己を見つめ、自己の優れている面の発見に努めるとともに、短所も自分の特徴の一側面であることを肯定的に受け止めさせる必要がある。人生において、誰もが様々な困難に直面することが考えられるが、その際、個性を生かして対処していくことが、よりよい人生につながるものとする。中学生の時期に、自分の個性について理解し、それを生かして、これからどのように生きていくか考えさせることは、とても重要であるとする。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、中学校1年次に学級活動の「自分を知ろう」において、自己を振り返り、お互いに認め合う活動をしており、長所と短所については、ある程度理解してきている。自分の個性を理解し、それを生かして学習や行事に取り組んだり、部活動で活躍したりできている生徒がいる反面、そうできていない生徒もいる。また、個性を生かして将来どのように生きていくかについて考えている生徒は多くない。昔の成人に当たる中学2年生という時期に、将来について見定め、自分の個性を生かしてどう生きていくか考えさせ、具体的に行動していこうとする実践意欲と態度を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、iPS細胞の研究でノーベル生理学・物理学賞を受賞した山中伸弥さんの話である。初め整形外科医として勤務していたが、手術がうまくできず時間が掛かってしまうという壁にぶつかる。あるとき、手術では治せない患者さんに出会い、研究者としての道を歩むことを決め、苦労の末にiPS細胞を見付けるという話である。展開前段では、山中さんの話であることが分からないよう「主人公」とし、壁にぶつかった場面まで分割提示する。それによって、困難に直面したとき、どのような対処の方法があるのか考えさせ、多面的・多角的な意見を出させたい。展開後段では、山中さんの決断や成功までの過程を知り、山中さんの人生について考えさせることにより、個性を生かして生きていくことについて考えを深めさせたい。また、終末においては、12月に行われる立志式と関連付け、これからの将来についても見通しを持たせたい。

4 学習指導過程

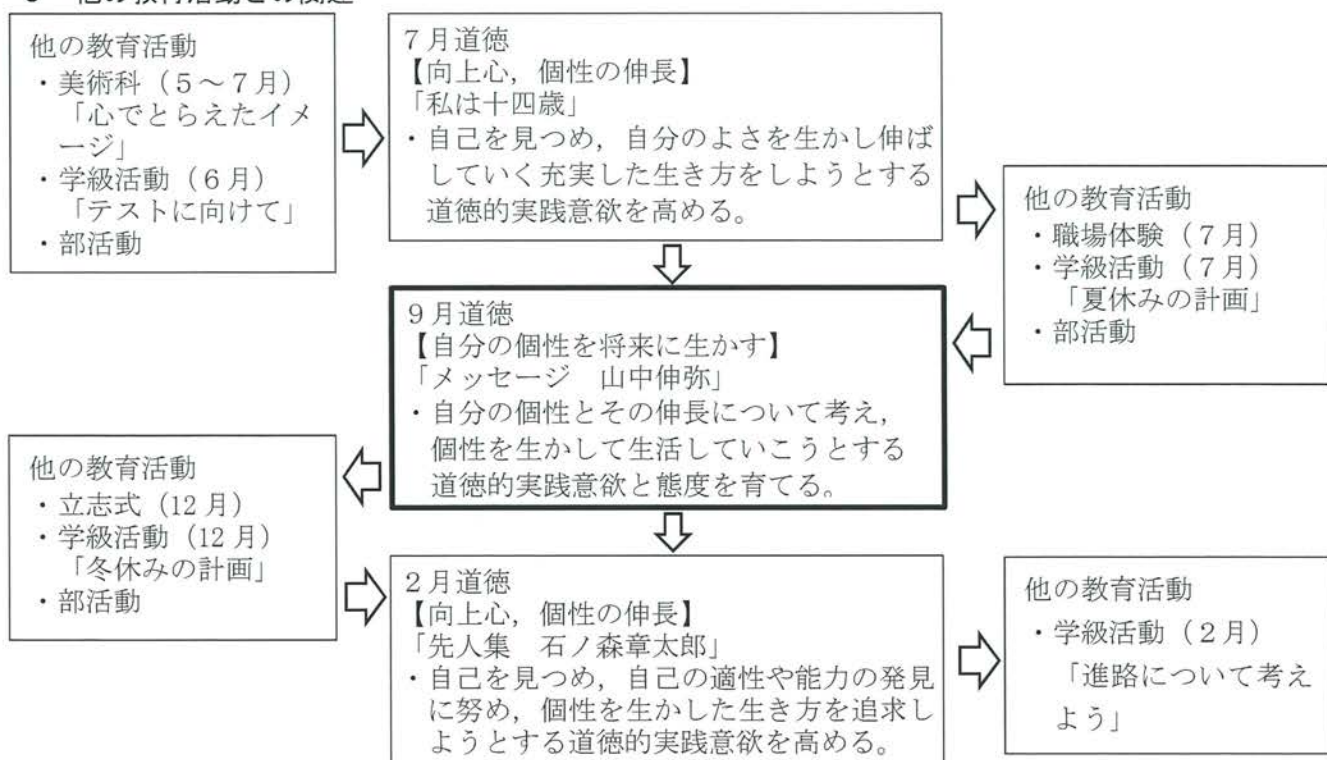
	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>○主な発問（◎中心発問）・予想される反応</p> <p>1 これまでの生活を振り返り、主題への興味・関心を持つ。</p> <p>○ 今までに何か壁にぶつかったことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動でうまくできなかった。 ・テストの点が悪かった。 ・運動会で隣の学級に勝てなかった。 <p>2 課題をつかむ。</p> <p>個性を生かした生き方について考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活につなげさせるため、部活動や学習面、直前に行われた運動会などについて振り返らせ、うまくいかずに悩んだことについて共有させる。 ・個性は人それぞれで、壁をどう克服するかについても人それぞれであることを確認しておく。 ・長所と短所についても、自分で分かっているかどうか簡単に挙手させる。
展開 前段 15分	<p>3 資料を読み、登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 「ジャマナカ」と言われた時の主人公は、どのような気持ちだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう嫌だと思った。 ・悔しい。 ・もっと練習してうまくなりたい。 ・自分は医師をされていてよいのだろうか。 ・父に申し訳が立たない。 <p>○ 主人公は、この困難に対して、どのように対処したと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張って努力し、医師を続けた。 ・医師の道を諦めた。 ・別の科の医者になった。 ・別の仕事に就いた。 <p>○ この困難に対して、あなたなら、どのようにしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきらめずに医師を続ける。 ・あきらめて別の職業に就く。 ・休みをとって充電する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山中さんは、ノーベル賞を受賞した偉人であるがゆえに、山中さんの人生の岐路における決断（整形外科を続けないこと）が生徒に大きな影響を与えてしまう恐れがある。これを回避するために、展開前段の場面における範読は、「山中さん」を「主人公」にして読む。1段落目は省略し、3段落目の最後まで読む。（部分削除と分割提示）また、主人公の顔写真も黒板に提示するが、隠しておく。 ・主人公の気持ちを理解できるように、生い立ちについて補足説明を入れる。 ※柔道やラグビーで骨折が多く、そのとき世話になったので医師を目指したこと。 ※父親が医師になるのを期待していたこと。 ※機械いじりや科学が好きだったこと等。 ・主人公の気持ちがなかなか理解できていない学習状況が見られるときの問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や係活動などで、チームメイトからじゃま扱いされたら、どのような気持ちになりますか。 </div> ・個性をどのように生かして対処するか考えさせるために、主人公の生い立ちにも再度触れる。 ・多面的・多角的な意見が出るようにするため、自分との関わりで考えさせる。 ・多様な意見に触れさせるため、個人で考えた後、ペアでも情報交換をさせる。 ・自分との関わりで考えられない場合の問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・乗り越えるだけが正解ですか。 ・自分だったら乗り越えられますか。 </div>

<p>展開後段 25分</p>	<p>4 資料の後半を読み、山中さんの人生について考える。</p> <p>◎ 困難に直面したときに大切な事は何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を知り、自分なりの答えを出すこと。 ・人と協力して克服すること。 ・あきらめずに努力し続けること。 ・時には立ち止まったり、方向転換してみたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料後半を読む。（4段落目から「最後は人の役に立って死にたいです。」まで） ・範読後、主人公は誰なのかクイズを出す。 ・「山中伸弥さん」との解答が出てから i P S 細胞やノーベル賞受賞について等補足説明と板書を行う。 ・考えの視点を広げるための問い返しの発問 <ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれ対処の仕方は違うのではないのでしょうか。 ・自分一人で困難に対処しなければならないのですか。 ・対処するときに自分の長所はどう役立つのか考えてみてはどうですか。
<p>終末 5分</p>	<p>5 学習を振り返り、自己の生き方について考える。</p> <p>○ 今日の授業で学んだことを踏まえ、これからどのような将来にしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は好きなことを続けるのが得意なので、何事にもあきらめずに頑張りたい。 ・時には立ち止まったり、考えを変えたりしながら将来の目標に向かって生きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性の伸長について考えるヒントにさせるため、私たちの道徳 p. 43 の名言を紹介する。 ※困難に対してあきらめずに乗り越えたウォルトディズニーの例。 ※困難があっても様々な仕事を経験し最後に成功したカーネルサンダースの例。 ・本時で考えたことを、今後の生活や将来に生かしていこうという気持ちを持たせるために、立志式についても触れ、個性を生かした生き方について考えさせる。

【評価】

個性を生かした生き方について、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

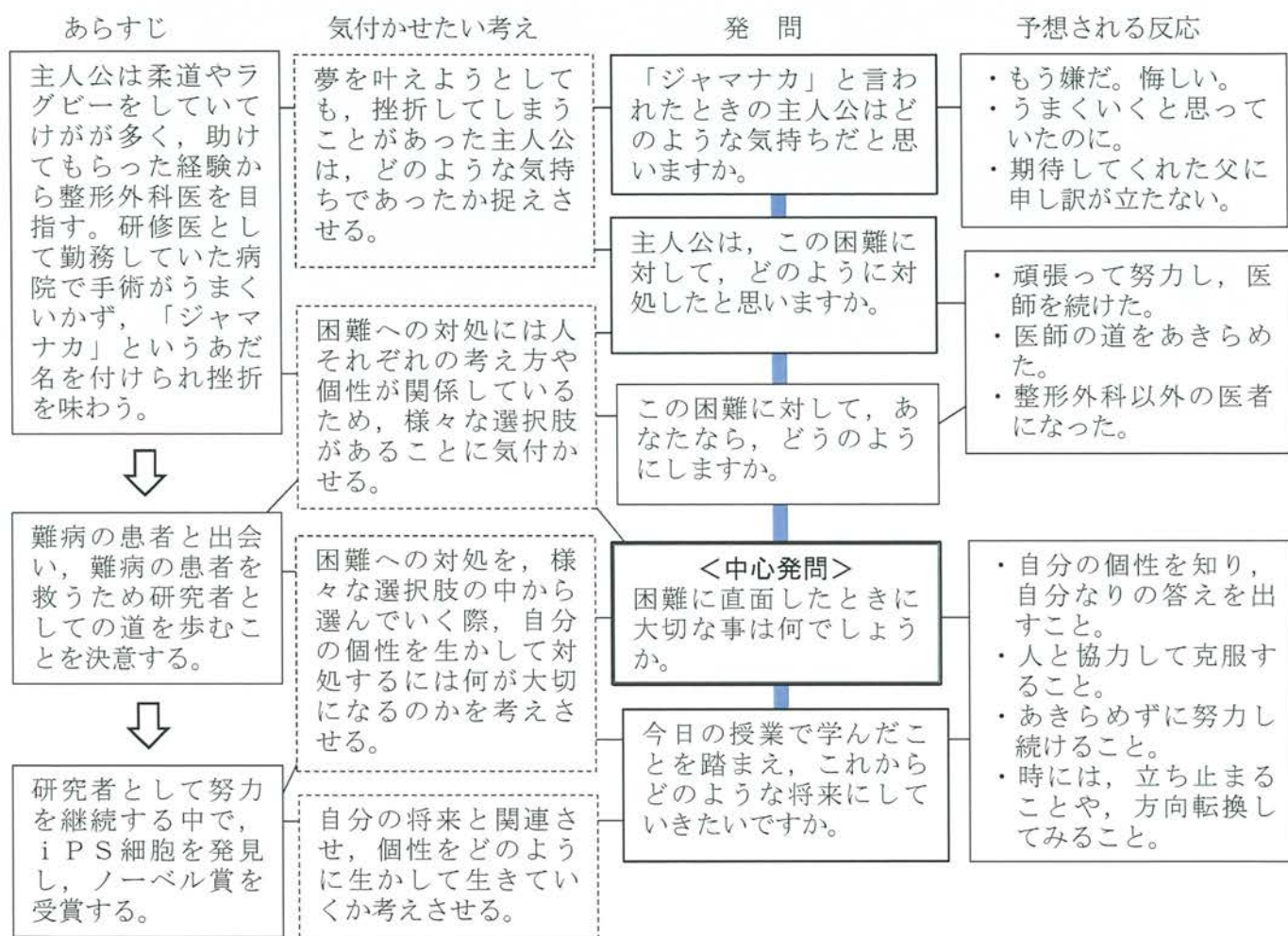
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、「個性の伸長」をねらいとして扱うが、これからの生き方に深く関わる内容であり、「よりよく生きる喜び」や「希望と勇気、克己と強い意志」などとも関連する。人生の選択肢は一つではなく、困難を自分の個性を生かしてどう乗り越えるかということに焦点を当てて考えさせたい。各教科や学級活動、部活動等で学んだ個性の大切さを確認しながら、個性の生かし方について考えを深めたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：私たちの道徳、山中さんの顔写真

生徒：私たちの道徳

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

前半の発問を生かすため、山中さんの写真は、後半の発問まで隠しておく。

折れ線を利用し、山中さんの生い立ちを分かりやすく提示した。

(1) 導入

主題への興味・関心を高めた

日常生活につなげさせるため、直前に行われた運動会、部活動や学習において壁にぶつかった経験を問う。長所と短所についても分かっているか挙手させ、主題への意識付けを図る。

- 日常生活を振り返らせる場面では、部活動の例を挙げたとき一番反応がよかった。
- 長所と短所についても確認したが、授業で突然聞かれたためか、自分の長所を認識している生徒がほとんどいなかった。事前にアンケートを取り、全体としてどのような長所や短所があるのか提示することで、自分の長所や短所に気付く生徒が増えたと思われる。

(2) 展開

資料を分割提示し、中心発問につなげた

山中さんは、ノーベル賞を受賞した偉人であるがゆえに、山中さんの人生の岐路における決断（整形外科を続けないこと）が生徒に大きな影響を与えてしまう恐れがある。これを回避するために、展開前段の場面における範読は、「山中さん」を「主人公」にして読む。1段落目は省略し、3段落目の最後まで読む。（部分削除と分割提示）また、主人公の顔写真も黒板に提示するが、隠しておく。壁にぶつかった場面まで提示することにより、様々な対処法を出させる。

- 主人公の生い立ちについて説明を加えたため、医師を続けるかやめるかだけでなく、柔道経験を生かすという意見など、壁にぶつかったときの対処法として様々な意見を出すことができた。
- 「あなたならどうするか」という自分との関わりで考えさせる発問をしたところ、「医師をやめる」といった、人間理解に関する意見も出され、多面的・多角的な考え方に触れさせることができた。
- 資料を分割提示し、後半の範読後主人公が誰であるかクイズを出したが、山中伸弥さんを知っている生徒がいなかった。社会の出来事に関する生徒の関心について、調査しておく必要があった。

(3) 終末

名言や偉人の生き方を活用した

終末では、個性を生かしてどう生活し、どのような人生にしていきたいか考えさせるため、私たちの道徳における関連ページの名言を紹介した。また、個性を生かしながら1つの夢に向かってあきらめずに取り組んだウォルト・ディズニーと様々な経験をしながら成功につなげたカーネル・サンダースの例を挙げ、振り返りにつなげさせた。

- 挫折してもあきらめずに続けることや長所と短所を理解して努力を続けていくことなど、個性を生かした生き方をしていくことの大切さについて気付くことができた。
- 自分の長所や短所について認識できている生徒が多くないため、自分の個性を具体的にどう生かすかといったところまで考えが及ばず、深まらなかった。

生徒の感想

- ・とにかくチャレンジし、自分の好きなことを見付けたい。
- ・いろんなことにチャレンジして、好きなことや嫌いなことを見付け、自分について知る。
- ・自分の長所で人のためになることをすること。
- ・自分の個性はいろいろな場面で生かすことができるということが分かった。挫折を味わってこそ、よい体験ができると思うので山中さんを見習いたい。
- ・自分の趣味や経験を生かす。
- ・自分の弱点で自分の将来も変わることが分かった。長所も短所も全部まとめて、人一倍努力することで生かせると思った。

【主題名】自分らしく生きる 内容項目 「A-(3) 向上心, 個性の伸長」

【教材名】ふるさとの絵を胸に (令和元年度長期研修員自作資料)

<あらすじ> 家族の生活を支えるために, 就職を選んだタケシ。仕事を転々とするが, いつか自分が好きな絵を描く仕事がしたかった。自分の境遇にもどかしさを感じながら, 偶然再会した同級生に刺激され, 夢を叶える。

【ねらい】

- 内容項目の理解
向上心, 個性の伸長の中で, 個性の伸長という道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
他者との比較において劣等感を感じ, 自分自身のよさや個性を見いだすことができない。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自己の優れている面の発見に努め, そのよさを伸ばしていこうとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 教材の内容に興味・関心を持つ。 ・戦後の日本の時代背景を写真や動画で紹介する。 2 課題をつかむ。 「自分らしく生きる」ことについて考えよう。	導入の工夫
展開	3 教材の内容を把握し, 登場人物の気持ちについて話し合う。 ○ タケシが, 高校進学をあきらめたとき, どのような気持ちだったのでしょうか。また, 母はどのような気持ちだったのでしょうか。 4 タケシの生き方について考える。 ○ タケシは, マサヒコの話聞いて, どのような気持ちになったのでしょうか。 ◎ 苦しい環境でも, タケシが夢を叶えることができたのは, どのような思いがあったからなのでしょう。 ○ 「自分らしく生きる」とは, どのような生き方だと思いますか。	展開の工夫 多面的・多角的 自分との関わり
終末	5 自己の生き方についての考えを深める。 ○ 今日の授業で分かったこと, 感じたこと, これからの自分に生かしていきたいことを書きましよう。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回道徳

「自分らしく生きる」ことについて考えよう。

場面絵①
 母：…申し訳ない。
 タケシ：…本当は高校に行きたい。

電車の中
 ・もし, 進学していれば。
 ・もやもやとした気持ち。

マサヒコとの再会
 タケシの心に火を灯した
 ・夢を達成させるきっかけ。
 ・マサヒコのようにになりたい。

場面絵②
 夢を叶える
 ・得意なことを仕事にしたい。
 ・母に恩返しをしたい。

自分らしく生きる

・何事もあきらめず, 自分を信じる。
 ・自分の得意なことを伸ばしていく。
 ・うまくいなくても, 環境や周りの人のせいにならない。

【評価】

自分らしく生きることについて, 自我関与中心の学習を通して, 主体的に考えようとしていたか。

年老いた母はときどき、

「タケシを高校に行かせられなかったのだけは、悔やまれるなあ。」
とつぶやく。しかしタケシは、

（過去の自分があるから、今の自分がある。高校や専門学校に進学していたら、今のようになっていたかは分からない。自分が置かれた環境や立場で、どう生きていくかは、結局、自分で切り開くしかない。）
と振り返る。

九九歳で母は亡くなった。仏壇に飾られているのは、個展の案内のはがき。はがきに描かれている絵は、かつて東京の電車の中で、学生が持っていた、スケッチブックに描かれていたような、懐かしく優しい田園風景だった。





いつかタケシが描いてみたかった風景だった。専門学校の課外授業で、教師と学生が一緒に東北地方へ出向いて仕上げた作品であるらしい。(専門学校に進学していれば、自分も、毎日、好きなことを勉強できたのに・・・) そんなことを思っではいけないと、今まで、心のどこかで感情を押し殺していたのかもしれない。自分の境遇をうらむのではなく、後悔でもなく、なんとも表現しがたい気持ちかもやもやと残るのであった。

タケシは、職を転々とし、ふるさとである宮城に戻って、看板を製作したり取り付けたりする仕事に就いた。ある日、新しく開店する中華料理店の看板を取り付けているときのことだった。

「おっ、タケシじゃねえか。」

振り向くと、そこには中学校の同級生であるマサヒコが立っていた。

戦争で両親を失ったマサヒコは、タケシと同じく高校へは行けず、独学で調理師の免許をとり、父親が営んでいた中華料理店を継いだということだ。高校に行けなかった悔しさや修行中に負った首もとの火傷が原因で、一時は自暴自棄になったという話を聞いた。それでもマサヒコは、古ぼけた中華料理店の前で両親と一緒に写っているたった一枚の写真を見ては、自分を奮い立たせたという。

マサヒコとの再会は、タケシの心に火を灯した。「自分の絵を描き続けたい」という心の奥底にしまっていた夢が、ふつつつと沸き上がってきた。ついに、自分の会社を設立することを決意し、イラストレーターとして再出発した。忙しい時期には、寝る間も惜しんで仕事に没頭した。今までの会社で社会人としての基本的なことは学んできたが、専門学校にも行っていないため専門的な知識はすべて独学だった。

ふるさとへの絵を胸に



梅雨が明けたばかりの蒸し暑い教室。外から聞こえるせみの鳴き声により、その暑さが一段と増している。夏休みが始まったばかりの教室で机を向かい合わせにして座っているのは、タケシと母、担任教師の三人。

「タケシ、本当に高校に進学しなくていいのか。」

高校に進学したくないわけではない。しかし、これから働いてお金を稼がなければ、弟二人を高校に行かせることができないばかりか、明日の生活も苦しい。申し訳なさそうにうつむく母の前に、タケシは決断を迫られた。

「ぼくは、大好きな絵を描きながら働いて、少しでも母の助けになれるようにがんばります。」

タケシは、昭和十七年に生まれた。当時の日本は敗戦の波にのまれて生活が苦しかった。アメリカ兵が近所を通るたびに、幼い子どもたちはキャンディーやチョコレートをもらおうと、みんなで群がり空腹を満たしていたような時代だった。そんな社会情勢の中、結核がはやり、タケシの父も若くして亡くなったのだ。

一人上京したタケシは、広告会社に就職した。高度経済成長期の日本では、会社員の多くが朝から晩まで働き詰めであった。ある日の仕事帰り、疲れ果てて乗車した満員電車の中で、スケッチブックを持った女子学生二人が座っていた。学生は、学校生活についておしゃべりをしたり、スケッチブックの作品を見せ合いながらきゅきゅと楽しそうに話したりしている。芸術専門学校で美術を学んでいる学生と思われる。乗客と乗客のちよつとした隙間から見えるスケッチブックの絵は、タケシの心を魅了した。残雪の山々を背景にどこまでも続く田園風景……。



【主題名】自分らしく生きる 内容項目 「A-(3) 向上心, 個性の伸長」

【教材名】ふるさとの絵を胸に (令和元年度長期研修員自作資料)

<あらすじ> 家族の生活を支えるために、就職を選んだタケシ。仕事を転々とするが、いつか自分が好きな絵を描く仕事がしたかった。自分の境遇にもどかしさを感じながら、偶然再会した同級生に刺激され、夢を叶える。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

向上心, 個性の伸長の中で, 個性の伸長という道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

自分の長所や短所を, 特徴の一側面であることは受け止めているが, 置かれた立場や環境に左右され, 自分自身のよさを伸ばしていくことができない。

☑ 本時のねらいを設定する

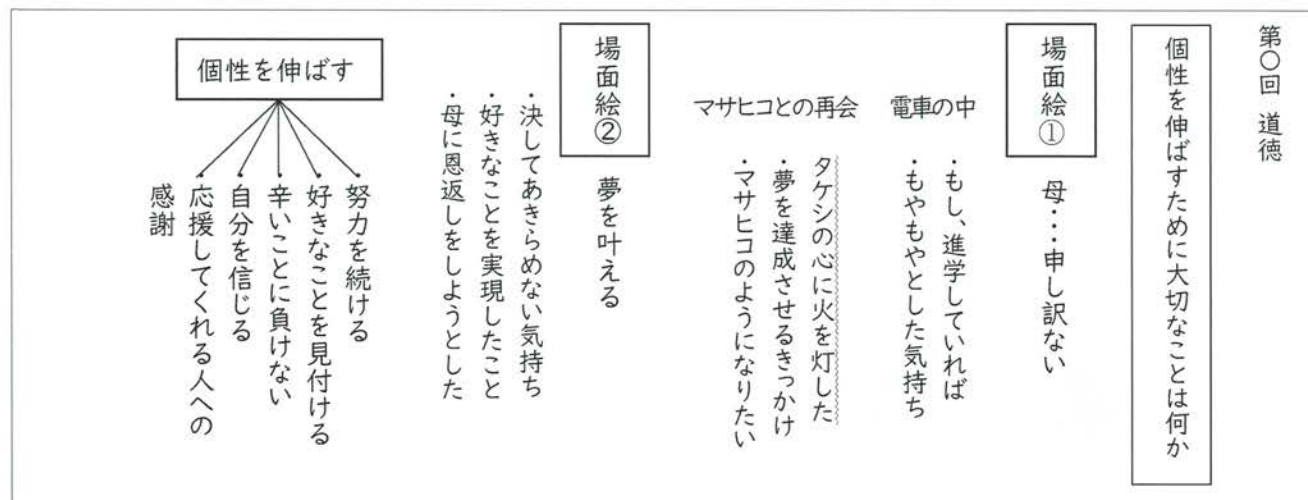
判断力 心情 実践意欲 態度

置かれた立場や環境に左右されることなく, 自己を肯定的に捉え, 個性を伸ばしてこうとする道徳的実践意欲を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 教材の内容に興味・関心を持つ。 ・ 戦後の日本の時代背景を写真や動画で紹介する。 2 課題をつかむ。 個性を伸ばすために大切なことは何だろう。	導入の工夫
展開	3 教材の内容を把握し, 登場人物の気持ちについて話し合う。 ○ タケシが高校進学をあきらめたとき, 母はどのような気持ちだったのでしょうか。 4 タケシの生き方について考える。 ○ タケシにとって, マサヒコとの再会にはどのような意味があったのでしょうか。 ◎ 主人公の生き方で, よいと思ったことはどのようなことですか。 ○ あなたは, 個性を伸ばすためにどのようなことをしていきたいですか。	展開の工夫 多面的・多角的 自分との関わり
終末	5 自己の生き方についての考えを深める。 ○ 今日の授業で分かったこと, 感じたこと, これからの自分に生かしていきたいことを書きましょう。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

個性を伸ばすことについて, 自我関与中心の学習を通して, 主体的に考えようとしていたか。

【主題名】いじめを許さない心 内容項目 「C-(11) 公正, 公平, 社会正義」

【教材名】卒業文集最後の二行 (文部科学省 私たちの道徳 中学校)

<あらすじ> 経済的に恵まれない家庭に育った女の子は、着ている服が汚いという理由で、同級生からいじめの対象にされる。誰にも相談できず、卑劣ないじめに耐える女の子は、小学校の卒業文集の最後にいじめに対する自分の思いを記す。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

公正, 公平, 社会正義の中の差別や偏見のない社会の実現に努めるという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

いじめをしてはいけないと分かっているが、ダメなことをダメと言えない等、公正, 公平な社会の実現に消極的な生徒が多い。

☑ 本時のねらいを設定する

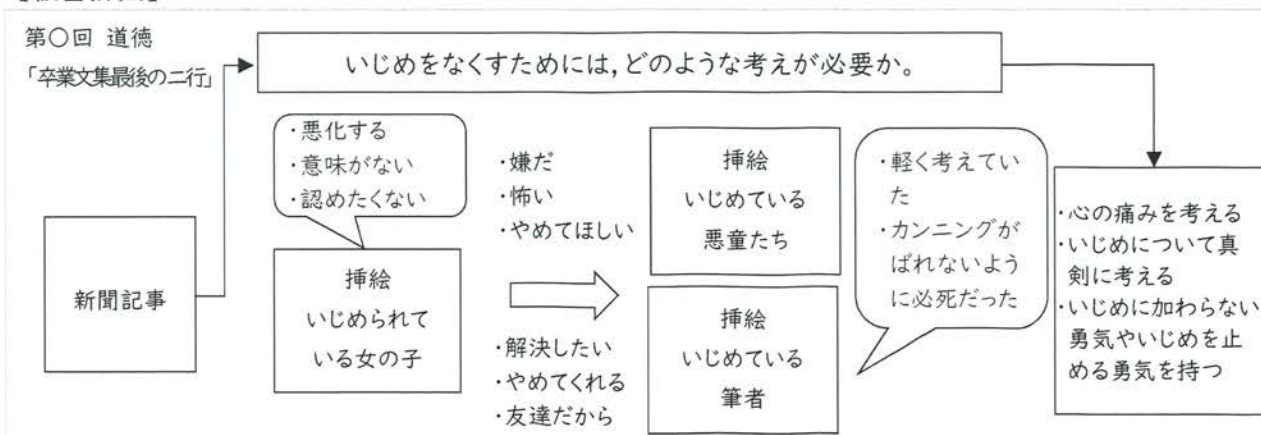
判断力 心情 実践意欲 態度

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会を実現しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 〇主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。 ・ いじめに関する新聞記事を取り上げ、いじめが深刻な問題であることを確認する。	導入の工夫
	2 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">いじめをなくすためには、どのような考えが必要か。</div>	問題解決的な学習
展開	3 いじめをなくすために必要なことについて考える。 ○ 女の子が担任に一度もいじめのことを言わなかったのは、どうしてだと思いますか。 ○ 女の子は、いじめの加害者に対して、どのような気持ちを持っていたのでしょうか。 ○ いじめられている女の子が「おめでとう」と声を掛けたのは、どうしてだと思いますか。 ◎ 卒業文集の最後の二行には、女の子のどのような思いが込められているのでしょうか。	多面的・多角的
	4 自己の生き方について考える。 ○ あなたは中学校の卒業文集にどのような内容を書きたいですか。昨年度の卒業生の卒業文集を読んで考えてみましょう。(スライドショーで昨年度卒業生の卒業文集を提示) ○ いじめをなくすためにはどのような考えが必要か自分の考えを書きましょう。	自分との関わり 終末の工夫

【板書計画】



【評価】

公正, 公平, 社会正義について、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
 授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

いじめを許さない心 「C-(11) 公正, 公平, 社会正義」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会を実現しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「卒業文集最後の二行」 (文部科学省 私たちの道徳 中学校)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

誰に対しても差別や偏見なく、公平に接することは、一人一人が社会をよりよく生きるために重要なことである。しかし、人は誰しも好き嫌いの感情を持ち合わせており、偏ったものの見方や考え方から他者を傷つけてしまうこともある。また、周囲で不公正があっても、多数の意見に同調したり傍観したりするなど、正義を守ることに消極的になってしまうこともある。

公平、公正な社会を実現し、正義を重んじる態度を育てるために、好き嫌いという自分の感情を素直に受け止めつつ、相手に対してどのように接すればよいのかを道徳的価値によって正しく判断する態度を育成することが大切である。また、差別や偏見を断固として許さないという態度を支える勇気や強い意志、他者を思いやる心も同時に育てていくことが大切である。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、これまでの学校生活の中で、差別をしたり、偏見を持ったりすることがいけないということは分かっている。また、いじめは人権を侵害し、社会的に許されない行為であることも理解している。しかし、公正、公平な社会を実現するという点に関しては、消極的な態度にとどまっている。例えば、ダメなことをダメと言えず、見て見ぬふりや避けて通る様子が見られる。生徒の実態を踏まえると、公正、公平、社会正義という道徳的価値に対して、理解はありつつも、実現できないという道徳的な問題が考えられる。

そこで、公正、公平、社会正義という道徳的価値が社会をよりよく生きるために必要不可欠であることに気付かせ、不正によって傷つく人の気持ちに寄り添い、強い意志で不正を正そうとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、筆者が小学生の頃の話である。筆者と同じクラスの女の子は、経済的に恵まれず、着ている服も汚かったことから、いじめの対象にされる。いじめにじっと耐えてきた女の子は、卒業文集の最後に「私が今一番欲しいのは母でもなく、本当のお友達です。そして、きれいなお洋服です」といじめに対する自身の思いを書いた。

本時の指導に当たっては、授業当日の朝、生徒に資料を読ませておき、内容を理解させ、授業中の考える時間を確保する。授業では、いじめの被害者の女の子、加害者の筆者、それぞれの立場の心情について共感させ、いじめについて多面的・多角的に考えさせる。女の子の卒業文集最後の二行に込められた思いを中心場面として取り上げる。いじめの卑劣さやいじめによって負った女の子の心の傷の深さについて考えさせることで、公正、公平な社会の実現のために、正義を貫くことの大切さについて深く考えさせたい。

4 学習指導過程

	学習活動	指導上の留意点
	○主な発問（◎中心発問）・予想される反応	
導入 5分	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>いじめをなくすためには、どのような考えが必要か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいについて問題意識を持たせるために、いじめに関する新聞記事（ニュース）を取り上げ、いじめが深刻な問題であることを確認する。また、いじめは、小学校、中学校に限ったものではないことを確認して課題を提示する。
展開 37分	<p>3 いじめをなくすために必要なことについて考える。</p> <p>○ 女の子が、担任に一度もいじめのことを言わなかったのは、どうしてだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談したら、いじめが悪化すると考えたと思います。 担任に怒られたら、いじめは一時的になくなるけれど、時間が経てば、また、同様のいじめを受けることになるから、相談しても意味がないと考えたと思います。 自分がいじめられていることを認めたくなかったと思います。 もしかしたら、そのうちいじめを止めてくれるのではないかと思ったと思います。 <p>○ 女の子は、いじめの加害者に対して、どのような気持ちを持っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 嫌だという気持ちを持っていたと思います。 怖いという気持ちを持っていたと思います。 やめてほしいという気持ちを持っていたと思います。 <p>○ いじめられている女の子が「おめでとう」と声を掛けたのはどうしてだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめられていたが、筆者のことを友人だと思っていたからです。 少しずつ自分の力でいじめを解決しようとしていたと思います。 笑顔で声を掛ければ、いじめを止めてくれると思ったからです。 筆者が高得点だったことが嬉しかったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が資料の内容を理解した上で発問について考えられるよう、教材の挿絵を活用して資料の内容を確認する。 筆者といじめられている女の子の心情について考えさせるために、範読を聞くときの視点を与える。 いじめへの恐怖といじめを耐えるしか選択肢がなかった女の子の心情を捉えさせるために、担任に相談しなかった女の子の行動の根拠を考えさせる。 生徒の本音を引き出すために、問い返しの発問を準備しておく。 いじめに苦しむ女の子の心情を表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問 <p>・相談すれば解決しそうなのに、どうして女の子は相談しなかったのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの加害者に対する女の子の心情を捉えさせるために、いじめの加害者に対する女の子の気持ちについて考えさせる。 いじめに負けず、勇気を振り絞り、筆者と友人として付き合いおうとする女の子の気持ちに気付かせるために、「おめでとう」と声を掛ける女の子の行動の根拠について考えさせる。

- 筆者の中の後ろめたさが消えたのは、どうしてだと思いますか。
- ・いじめについて軽く考えていたからだと思います。
 - ・自分のカンニングがばれずに、ほっとしたからです。
 - ・自分がカンニングしたことを周りにばれないようにしたかったと思います。

◎ 卒業文集の最後の二行には女の子のどのような思いが込められていますか。

- ・いじめが苦しかったという思いです。
- ・卒業前に、いじめていた友達に、自分の気持ちを知ってほしいという思いです。
- ・学級には自分を助けてくれるような本当の友達はいなかったという思いです。
- ・本当の友達がほしかったという思いです。
- ・服が汚いという理由でいじめられたことが辛かったという思いです。
- ・見た目さえ汚くなかったら、いじめられなかったという思いです。

- ・いじめの加害者に対して恐怖心を持ちながらも、友達として付き合いおうとする女の子の気持ちを捉えさせるために問い返しの発問を準備しておく。

- ・女の子は、いじめの加害者に対して「嫌だ」「怖い」という気持ちを持っていたのに、笑顔で「おめでとう」と声を掛けたのはどうしてだと思いますか。
- ・自分だったら「おめでとう」と声を掛けますか。
- ・声を掛ける（掛けない）のはどうしてですか。

- ・「おめでとう」と声を掛けた女の子の気持ちを踏みにじる筆者の行為の卑劣さに気付かせるために、カンニングをしながらもいじめに加わる筆者の行動の根拠について考えさせる。
- ・筆者の行為の卑劣さについて、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

- ・「おめでとう」と声を掛けてくれた女の子を傷つけることに抵抗はなかったのでしょうか。
- ・後ろめたさがあつたなら、いじめに加わらないこともできたのに、いじめに参加したのはどうしてでしょうか。

- ・いじめを受けた女の子の心の傷の深さや誰かに助けてほしかったという切なる願いに気付かせるために、卒業文集の最後の二行に込められた女の子の思いを自分との関わりで考えさせる。
- ・いじめを受けた女の子の心の傷の深さや誰かに助けてほしかったという切なる願いについて、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

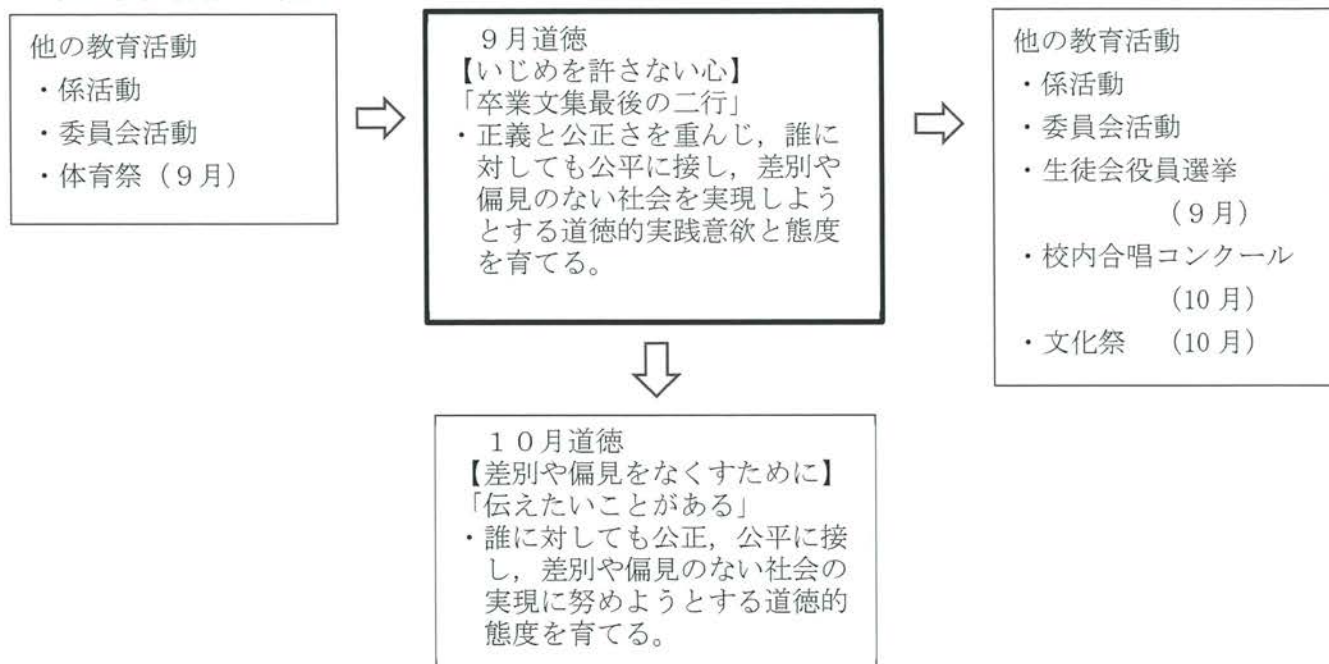
- ・このままいじめについて黙っていることも考えられたのに、T子さんは、どうしていじめに関わることを書いたのでしょうか。
- ・なぜ、一番ほしいのは母ではなく、本当の友達なのでしょうか。
- ・どうして、一行では終わらせずに、二行目に洋服のことを書いたのでしょうか。

終 末 8 分	<p>4 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 中学校の卒業文集には、どのような内容を書きたいですか。昨年度の卒業生の卒業文集を読んで考えてみましょう。</p> <p>○ 本時の課題「いじめをなくすためにはどのような考えが必要か」について自分の考えを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の心の痛みを考えることが必要です。 ・一人一人が、いじめはしてはいけないことだと真剣に考えることが必要です。。 ・いじめに加わらない勇気やいじめを止める勇気が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業文集にいじめのことを書かなければならなかった女の子の心情を捉えさせ、自己の中学校生活の過ごし方について考えさせるために、昨年度の卒業生の卒業文集をスライドショーで見せる。 ・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。
------------------	--	--

【評価】

公正、公平、社会正義について、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

5 他の教育活動との関連

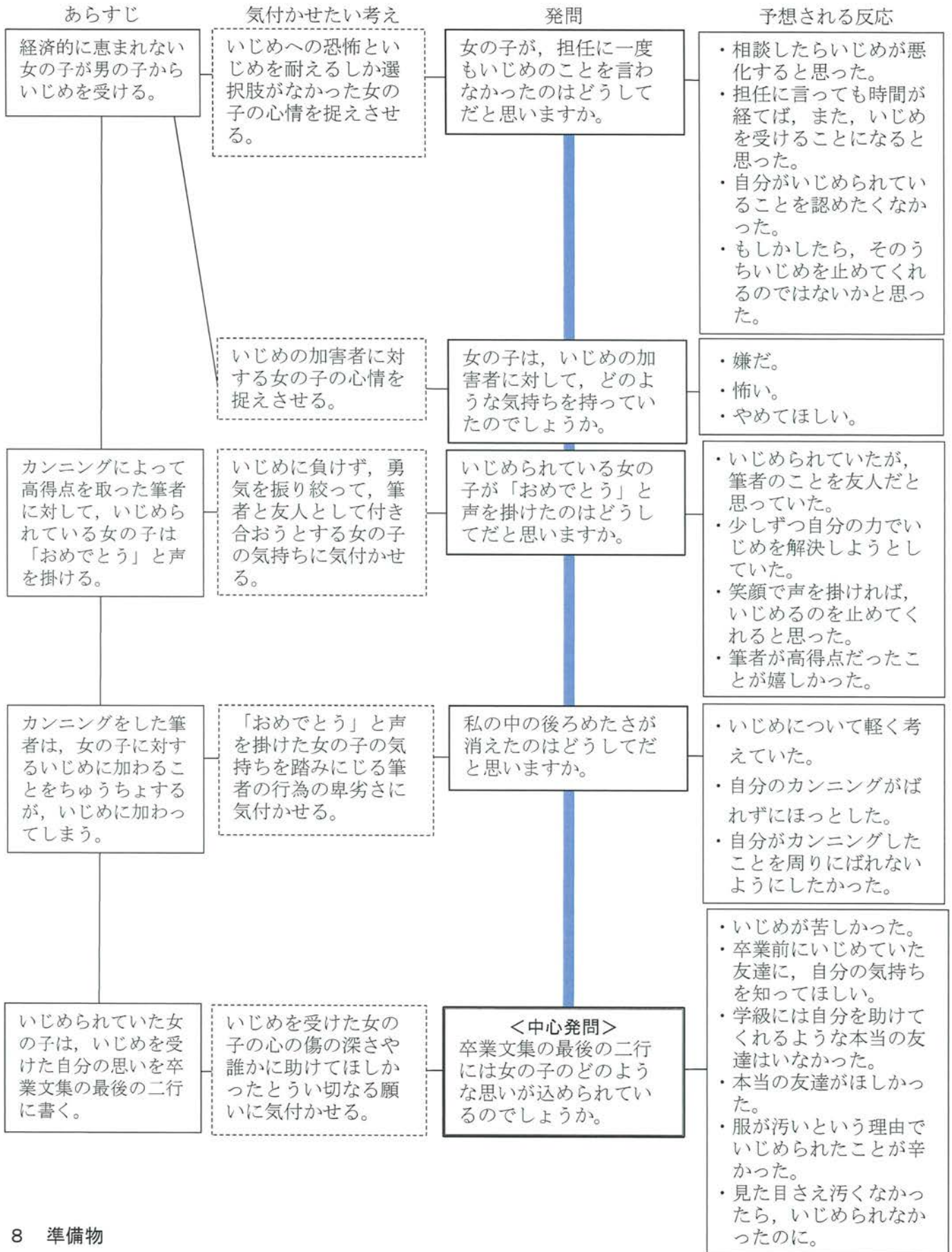


6 補充・深化・統合の視点【深化】

「公正、公平、社会正義」という道徳的価値について、生徒は様々な教育活動を通して学んでいる。

本時は、公正、公平な社会を実現するためには、いじめを憎み、不公正によって誰かが傷つく状況を正そうとする態度が大切であることに気付かせる授業である。学級内で深刻ないじめが起きていないからこそ、いじめを未然に防ぐ意味も込めて、いじめによって引き起こされる卑劣な行為の意味について考えさせる。本時を通して、「公正、公平、社会正義」という道徳的価値についての生徒の考えを、より一層深めていきたい。

7 教材分析・発問構成



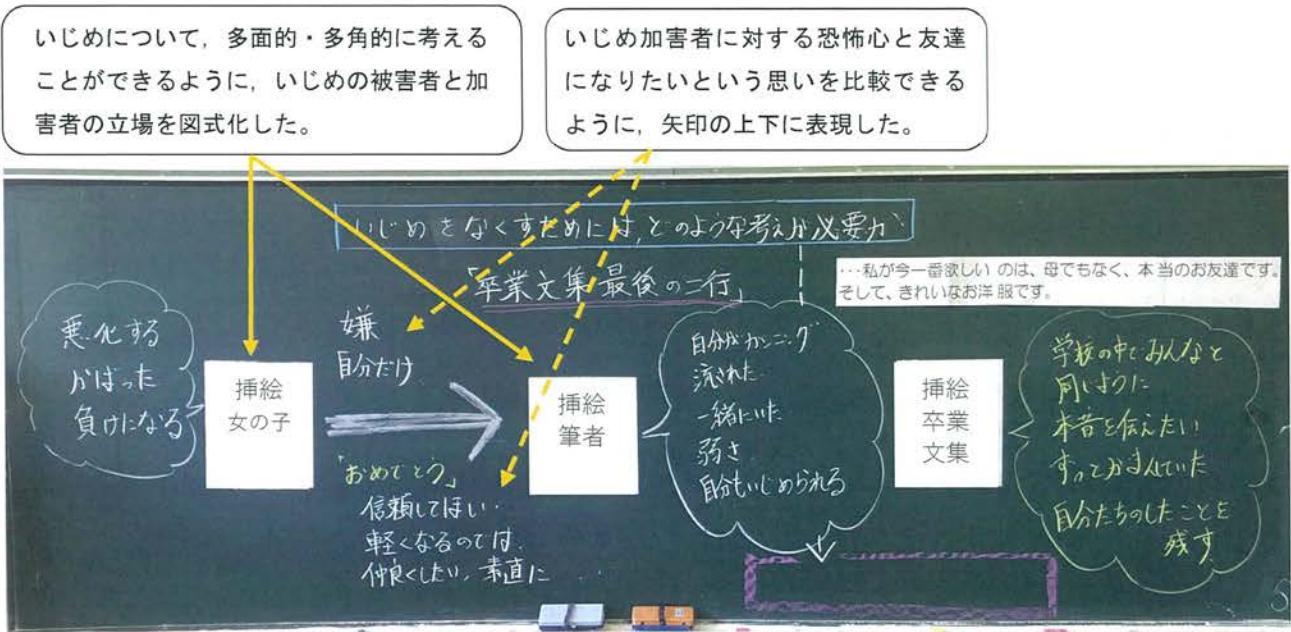
8 準備物

教師：教科書、教科書挿絵、学習プリント、パソコン、プロジェクター、スクリーン

生徒：筆記用具

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】



(1) 導入

生徒にいじめに対する問題意識を持たせるために、いじめのニュースを取り上げた

いじめは、小・中学校だけの問題ではなく、社会に出てからも向き合っていかななくてはならないものであるという意識を、導入で生徒に持たせたいと考えた。そこで、いじめに関する2つのニュースをスライドで紹介した。1つ目は、中学生のいじめに関するニュースである。2つ目は、職場トラブルの上位がいじめだというニュースである。

○ スライドを真剣な表情で見る生徒の姿や参観者の「導入でニュースを見せたことが良かった」という感想から、導入でいじめのニュースを取り上げたことが、問題意識を持たせるために有効だったと感じた。

(2) 展開

生徒の考えを深めさせるために問い返しをした

発問「筆者の後ろめたさが消えたのは、どうしてだと思いますか」について考えさせた際、「友達に流されて、いじめに参加してしまったのではないか」という考えが多かった。筆者の心情の表面的な読み取りにならないよう「後ろめたさがあつたなら、いじめに加わらないこともできたのではないか」と問い返した。

○ 問い返しに対して、生徒から「参加しなかったら、自分もいじめられてしまうのではないかと考えたと思う」「自分の中の弱さがあつたからだと思う」等の考えが出された。問い返しによって、友達に流された背景にある筆者の心情や心の弱さについて考えさせることができた。

自分との関わりの中で考えさせるために過去の卒業生の卒業文集を提示した

中心発問「卒業文集最後の二行にはどのような思いが込められているか」について考えた後、いじめに対する主人公の思いを自分との関わりの中で考えさせたいと考えた。そこで、「みなさんは卒業文集にどのような内容を書きたいですか」とう問い掛けと合わせて、過去の卒業生の卒業文集をスライドで紹介した。

○ 生徒の感想の中には「私は卒業文集にT子さんが書いた内容を書くことは想像できない」という感想もあり、学校行事の思い出や級友への感謝、自分の成長について書かれた卒業文集を見せたことで、自己と重ね合わせながら、改めて卒業文集にいじめのことを書かなければならなかったT子さんの心情について考えさせることができたと思う。

(3) 終末

自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「いじめをなくすためにはどのような考えが必要か」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

生徒の感想

- ・ T子さんは、いじめられていても、いじめの加害者である筆者に褒める言葉を掛けていて、本当に強いと思った。けれど、もし自分がいじめられたときはT子さんのようにできるとは考えられない。いじめられたときの気持ちは、とても痛いと思う。いじている方も、時間が経つにつれ、どんどん辛い思いをすと思う。
- ・ いじめを見ている人もいじめをしている人と同じだから、いじめをしている人と一緒にしないで助けてあげることが必要だと思った。いじている人は自分の気持ちの弱さを捨て、いじめないことが大切だと思った。今日の道徳でいじめていた人たちは後悔していたので、いじめをしてはいけないと改めて感じた。
- ・ いじめをなくすためには、まず、いじめる側の人がいじめられている人の気持ちになるということが大切だと思う。
- ・ いじめられている人の気持ちは、いじめられないと分からないものだと思う。だから、その人の気持ちに近いと思われることを考えて、寄り添ってあげることが優しさなのだと思う。人の痛みを考えなければいけないと改めて強く思った。
- ・ 周りがいじているからといって、流されて自分もいじめをしていいわけではない。「もし自分がいじめられたら」と思わずに、少しでもかばってあげたり、行動したりすることが大事だと思った。一人でいる人とか、一人で不安そうな人には仲が良い、良くないに関わらず、話しかけてあげようと思った。
- ・ 人を見た目だけで判断するのではなく、一人一人が、自分が同じことをされたらどういう気持ちになるのかを考えて行動することがとても大切だと思う。
- ・ 服が汚かったり、ちょっと変わっていたりする人も同じ人間。いじめる人もいじめられる人も将来、絶対に悔いが残ると思う。今の人生を悲しんだり、苦しんだりしないで毎日が笑顔で楽しい日々を送れるようにしたい。
- ・ 相手と自分の違うところや不満な部分などを罵ったり、けなしたりするのではなく、互いに認め合い、支え合うことがいじめをなくすためには大切だと思う。
- ・ いじめをなくすためには、他者の外見や内面も含め、自分と違うところがあっても認める広い心や、人と比べたりして自分が上に立とうとしたりする自分の弱い心に勝つことが大切だと思う。
- ・ これまでの自分を振り返ってみると、自分の考えを持ち、他者の意見に流されなかったこともあれば、自分の行動に責任を持てなかったこともある。このように人間には、良いところもダメなところもあるので、そのことを馬鹿にする人は心が弱く、かわいそうだと思った。
- ・ いじめに関して、本当に正しいと人に胸を張って言えるような考えを持ち、それを貫き通すことが大切だと思った。
- ・ いじめをしている人は強いと思う人がいるかもしれないけれど、いじめをしている人こそ、自分の弱い心に負けてしまうような人であると思う。みんながこの気持ちを持って、自分に負けない人になればいじめは減ると考えた。また、自分の卒業文集の内容を考えたときに、T子さんの書いたような文章は頭に浮かばなかった。たくさんの方が自分の卒業文集を楽しく書くことができたらいいなと思った。

【主題名】人間の尊さ・大切さを考える 内容項目 「D-(19) 生命の尊さ」

【教材名】人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考えるー(東京書籍 新しい道徳3)

〈あらすじ〉意識がなく生命維持装置で生きているカレンさんの延命治療を止めるよう両親は申し出るが、主治医と裁判所からは許可が出なかった。その後、最高裁で許可が出るが、装置を外してから約10年間生き続けたという尊厳死を扱った教材。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重するという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

生命の尊さについては、理解できるようになっているが、尊厳死を含む生命倫理について考える機会はほとんどない。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

生命倫理について様々な立場から考え、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時の教材に興味・関心を持つ。 ・尊厳死についての日本と海外の解釈や法律の違い等について知る。 2 課題をつかむ 生命倫理について考えよう。	導入の工夫
展開	3 資料の範読を聞き、内容をつかむ。 ○ カレンさんの両親は、なぜ、医療措置を打ち切るよう求めたのでしょうか。 ○ 主治医が反対した理由は、なぜでしょう。 4 グループで意見を交流する。 ○ あなたは、どうすべきだと思いますか。 5 資料に戻り、考えを深める。 ◎ 生命維持装置を外した後、カレンさんは何を考えていたのでしょうか。	展開の工夫 多面的・多角的
終末	6 命についての理解を深める。 ○ 生命を考える上で大切なことは何でしょうか。 ・「厚生労働省のアンケート」を紹介する。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回 道徳

生命倫理について考えよう

—カレン・クインラン事件—

カレンさんの両親

- ・チューブにつながれた娘を見ていられない。
- ・苦しみから解放させたい。
- ・意思もなく生きるのは人間の生き方ではない。

州最高裁

- ・本人に医療を拒否する権利がある。

主治医 州高等裁

- ・意識が戻るかも。
- ・意思はなくても生きてはいはず。
- ・医師は助けるのが仕事。
- ・法律の問題がある。

両親の考えは分かるが命は奪えない。

- ・両親の意見を尊重すべき。
- ・辛い思いをしてほしくない。
- ・痛い思いをしてほしくない。

医師の言い分も分かるが、家族の意見を尊重したい。

- ・家族間の問題に口出しできない。
- ・最終判断は家族。
- ・家族の意見を受け止めたい。

自力で生きさせてあげたい。

- ・生きてほしいが両親がそう望むなら、楽になるならそうしてあげたい。
- ・助かる希望が少ないなら仕方ない。

人の命は奪えないが、苦しみながら生きるのは辛い。

- ・本人の意思ではないので悩む。
- ・辛そうなら死なせてあげればいいのか？
- ・本人の意思が分からない。

長く過ごせるなら、医療措置をすべき。

- ・長生きさせてあげたい。
- ・治る可能性もあるけど、早く楽にしてあげたい。

楽にさせたほうがいい。

- ・楽にさせたいが、それよりも長生きしてほしい。
- ・本人の意思が分からないので迷う。
- ・長生きしたいのでできるだけことをしてほしい。

生命を考える上で大切なことは？

- ・自分や家族の命について自分の考えを持ち、周りの考えも尊重する。
- ・何が一番幸せなのか、みんなで考える。

【評価】

生命倫理の理解を基に、自他の生命の尊重について、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

第3学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

人間の命の尊さ・大切さを考える 「D-(19) 生命の尊さ」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

生命倫理について様々な立場から考え、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」(東京書籍 新しい道徳3)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

生命の尊重については、「思いやり、感謝」「家族愛」「相互理解、寛容」等、様々な内容項目との関連があり、小学校段階より、そのかけがえのなさについて理解を深めている。中学校段階では、それに加えて、生命の連続性や有限性、偶然性についても生命体の組織や生命維持の仕組みの不思議などから、改めて考えさせることができる。現代においては、科学技術の進歩により生命倫理に関する現代的な課題も出てきている。現代的な課題を取り上げ、多様な考えを交流することで生命について多面的・多角的に捉えることにより、より一層、生命の尊さについて理解が深まっていくものと考えられる。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

「生命の尊さ」について、自分の生命のみならず、他人の生命や動植物をはじめとするすべての命を大切にしなければならないことは、道徳科を中心に保健体育や理科の生物分野等において関連付けて指導し、理解を深めている。しかし、科学技術の進歩によって新たに課題となっている生命倫理については関心が低く、考える機会も多くない。人間の誕生から死に至るまで、科学技術や医療の進歩によって様々な課題があることについて触れ、本題材で扱う尊厳死を基に、生命の尊さについて改めて考えさせ、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本題材は、カレン・クインラン事件という、一人の女性の死をめぐる裁判で争われた事件の概要が紹介されている。生命維持装置によって生かされている状態のカレンさんの医療措置を打ち切るべきかどうかという問題に対して、両親と主治医、裁判所の意見が異なっている。そこで、それぞれの立場に立って考えさせることで、生命に対して何が大切なのかを深めていくことができると考える。生命倫理については、体外受精や出生前検査、クローン技術について等、尊厳死以外にも様々な技術と課題があることについても触れ、理解を深めたい。その上で、生と死に科学技術や医療技術がどこまで関わり、その際、どのような考えが必要なのか理解を深めさせたい。

4 学習指導過程

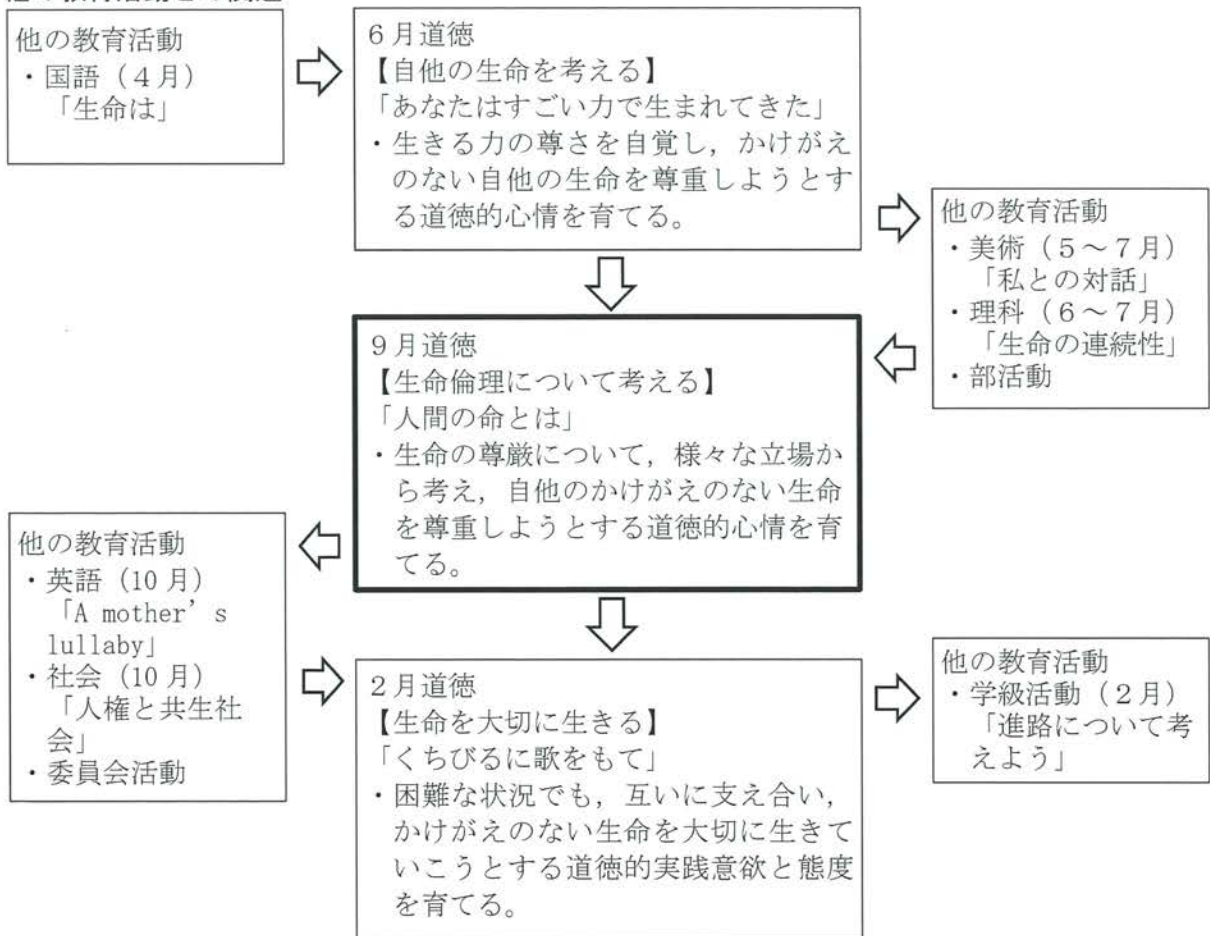
	学習活動 ○主な発問（◎中心発問）・予想される反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 教材への興味・関心を持つ。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">生命倫理について考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 生命倫理については、聞いたことがない生徒が多いと思われるので、スライドにまとめ、簡潔に確認をする。 I C T機器を活用することにより、興味・関心を高める。
展開 40分	<p>3 資料を読み、登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ カレンさんの両親は、なぜ、医療措置を打ち切るよう求めたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> チューブにつながれて生きている娘を見てもらえない。 苦しみから解放させてあげたい。 意思もなく生き続けるのは、人間の生き方ではない。 <p>○ 主治医や高等裁判所が反対した理由はなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> いつか意識が戻るかもしれない。 意思がなくとも人間は生きたいと思うはず。 カレンさんの生きる権利を奪ってしまうことになる。 医師は助けるのが仕事。 法律の問題もあるので許可できない。 <p>4 自分事として考え、グループで意見を交流する。</p> <p>○ あなたはどうすべきだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両親の希望どおりにすべき。 カレンさんが、どう思っているかは、分からないので難しい。 主治医の言うとおりに、できるだけのことをしてあげたほうがいい。 もっとたくさんの人の意見を聞いたほうが良い。 <p>5 資料に戻り、考えを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◎ 生命維持装置を外した後、カレンさんは何を考えていたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 尊厳死を選択してくれて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 立場によって生命倫理に対する考え方が異なることに気付かせるために、カレンさんの両親、主治医、裁判所、それぞれの立場から、その思いや考え、背景についてなどを考えさせる。 中心発問で考えさせるため、カレンさんがどう思っていたかについては最後まで触れない。 考えを深めさせるために、主治医や裁判所については、反対理由の背景にある立場や役割も視点として持たせる。 考えが深まらない時の問い返し <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 主治医の立場として求められるのは何でしょうか。 法律的には大丈夫ですか。 意思を伝えられない状態ですが、カレンさんにはどのような権利がありますか。 </div> 自分としての意見をより深いものにするため、両親、主治医、裁判所の意見と考え、その背景にあるものを再確認する。 グループで意見交換をすることにより、多面的・多角的な意見に触れさせる。 視覚的に分かりやすくするために、ホワイトボードと心情円を活用する。その際、外すべきかどうか悩むことが予想されるので、心情円を活用し曖昧な心の状態を視覚化する。 様々な立場からの多面的・多角的な意見を踏まえ、カレンさん自身について改めて考えさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しいけれど、家族と長くいるため、できるだけのことをしてほしかった。 ・ 自分の幸せについてみんなで考えてくれて感謝している。 ・ 自分を愛してくれる家族のため、少しでも長く生きよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えが深まらない時の問い返し <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がカレンさんならどのように思うでしょうか。 ・ 様々な人たちの意見をカレンさんはどのように受け止めているのでしょうか。 </div>
終末5分	<p>6 命についての理解を深める。</p> <p>○ 命を考える上で大切なことは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族の命について、自分の考えをしっかりと持ち、周りの考えも尊重する。 ・ 何が一番大切なのかをみんなで考える。 ・ 一人の命は多くの人々の思いで支えられている。 ・ 生命倫理についてもっと関心を持ち、自分なりに考えを深めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命倫理について考えを深めるために、厚生労働省のアンケートを紹介する。人生の最終段階において、医療措置を望まない人が多い結果になっているが、望む人も確実にいることに目を向けさせる。

【評価】

生命倫理の理解を基に、自他の生命の尊重について、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

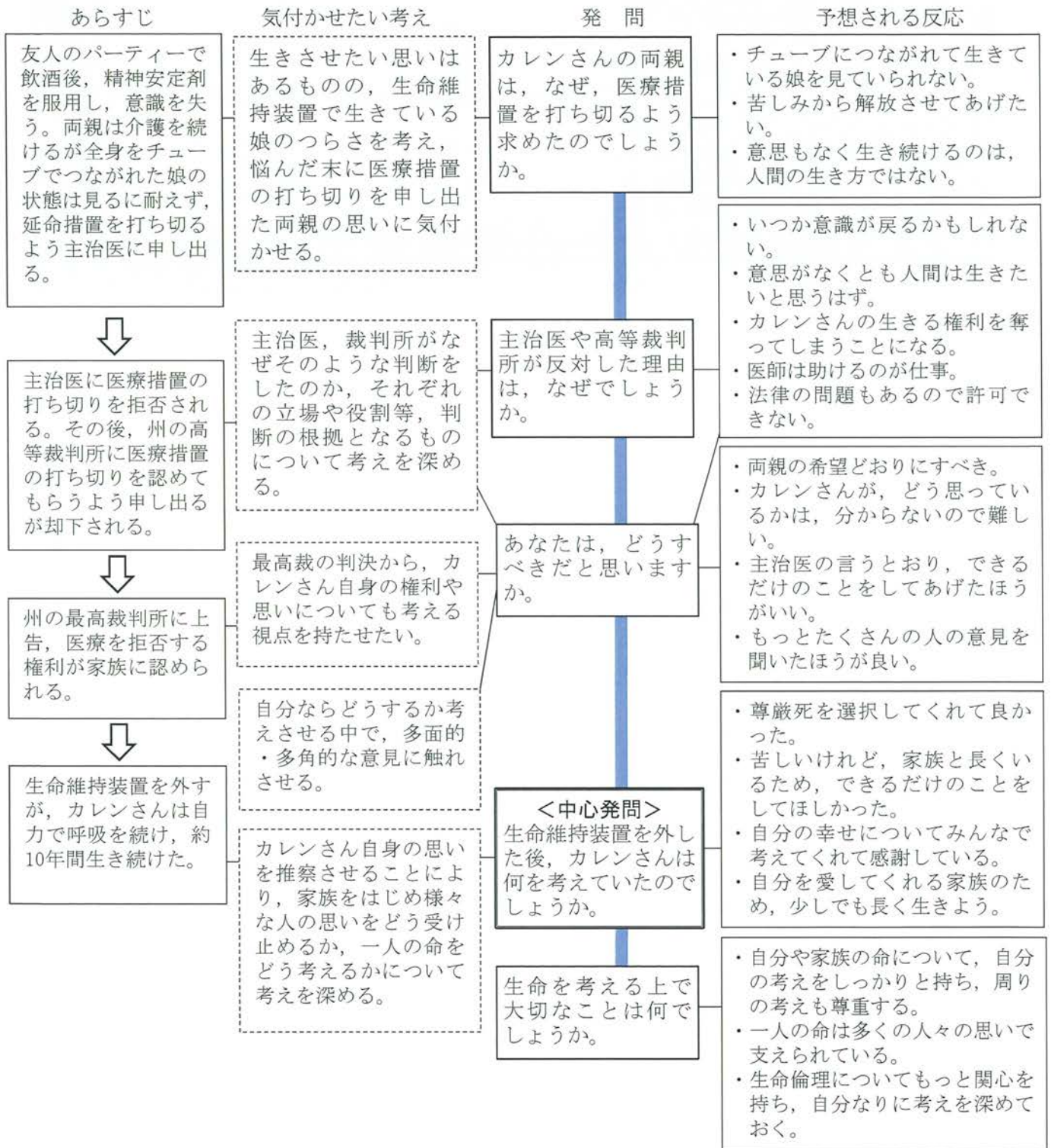
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、「生命の尊さ」をねらいとして扱っている。現代的な課題である生命倫理は難しい課題であり、人によって答えが変わる問題でもある。医療や科学技術が生と死にどう関わるかということも視点に入れながら考えることで、生命とは何か、生と死をどのように捉えていくかより考えを深めたい。

7 教材分析・発問構成



8 教材分析・発問構成

教師：教科書、ワークシート、TV、PC、ホワイトボード、マグネット（人数分）、心情円

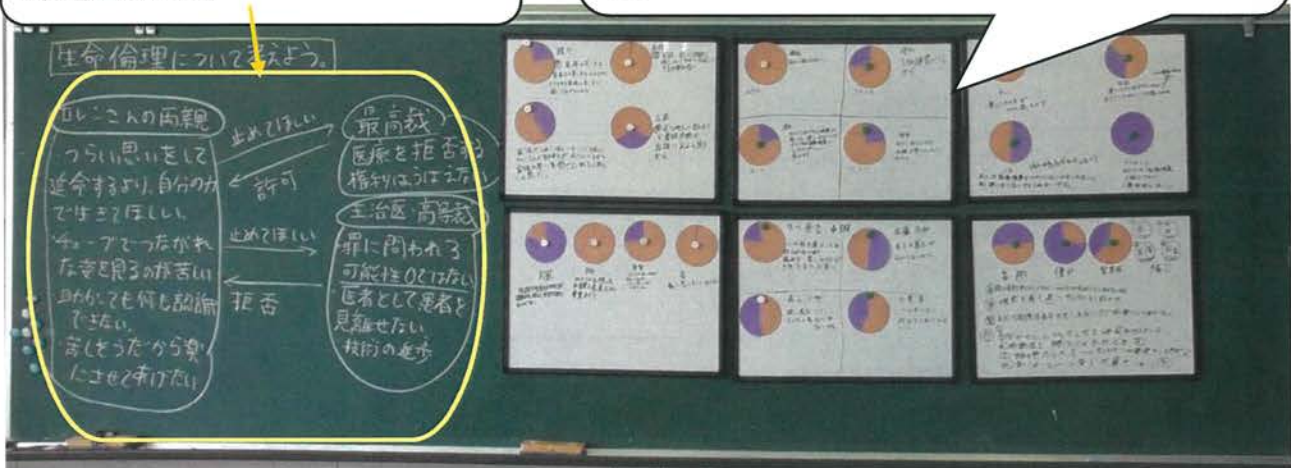
生徒：教科書、心情円

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

カレンさんの両親, 主治医, 裁判所の立場や考え方が分かるよう図式化し, 内容を整理した。

グループでの話し合いにホワイトボードを活用した。また, 心情円を利用することで, 個人としての意見を表示し, 多様な考え方を視覚的に分かりやすくした。



(1) 導入

教材および主題への興味・関心を高めた

「生命倫理」という聞き慣れないテーマであったため, スライドを使って生命倫理について簡潔に説明を行った。日本と海外における, 尊厳死の意味の違いや尊厳死に関わる法制化について等の説明を加え, そのきっかけになった事件として本教材を紹介した。

○ 説明が難しい「生命倫理」についても, スライドを活用することで, 短時間で理解させることができた。資料があったので分かりやすかったとの感想もあった。

(2) 展開

グループ活動を通して, 多面的・多角的な考えに触れさせた

グループ活動の前に, 心情円で自分の考えを表現させた。青が「生命維持装置を外す」, 赤が「外さない」, 迷っている場合は赤と青を半分にするよう指示した。その上でグループになり, 心情円を基に意見を交流した。

- ホワイトボードに記入することにより, 班ごとの意見を表示しやすくなったほか, 心情円により個人の意見を可視化することができた。各班で作成したホワイトボードを黒板に貼ることにより, 多面的・多角的な意見を共有することができた。
- 自分の考えを持つことが苦手な生徒がいるが, 心情円を活用したことで, 自分の考えを明確に表現し, 意見を述べることができていた。
- カレンさんの両親, 主治医, 裁判所の立場を踏まえて考えさせ, 最後に, 「カレンさん自身は生命維持装置を外した後, 何を考えていたのでしょうか」という中心発問につなげたことにより, どうすべきだったのかについて深く考えさせることができた。
- グループ活動において, 意見を発表し合って終わっている状況があった。個人の意見に対してグループのメンバーが深く理由を追及していくような話し合いになるような声掛けや支援, 普段から質問し合わせる指導が必要であると感じた。

(3) 終末

- 感想を書くだけの指示であったが, 自分ごととして捉えて考えている生徒がいた。
- 様々な立場からの意見を基に話し合いを行ったため, 多面的・多角的に考え, 視野を広げることができた生徒もいた。

- 時間配分がうまくいかず、振り返りの時間を十分に確保できなかった。
- 厚生労働省のアンケートは活用できなかった。現実の事として一般の人がどのように考えているのかを知ることで、自分事として捉え、考えを深めさせたかった。

児童・生徒の感想

- ・今日の考えることはすごく難しいことだったけれど、もし、自分の知り合いや友達などがカレンさんのような状態になったら真剣に考えられるのかなと思いながら考えることができた。
- ・生死がどうあるべきか話し合う機会がなかったからとてもやりがいがあった。いろんな意見があって面白いと思った。
- ・カレンさんが自分の家にいる猫に当てはまったので、自分の猫がそうなったら自分はどうするかと考えた。
- ・医療措置を外す判断は私にはなかったから、将来への考えが広まった。
- ・議題が難しいと思った。難しい分グループの人々と真剣に話し合うことができたので楽しかった。自分が両親に立場になって考えると難しい。
- ・「生命倫理」って難しい……。でもこの問題は正解が無い気がする。両親も医師も裁判官もカレンさんがどの選択をすれば幸せなのかを考えて主張しているし、でも、死を選ぶのが幸せなのか、生きることを選ぶのが幸せなのか、それを決めるのはやっぱり本人だし。立場によって意見も考え方も違ってくると思う。正解は無いからこそよく話し合っ自分たちが決めた決断が一番だと信じればいいと思う。あー、難しい。あと、みんなが思うよりよっぽど命って尊い。

【主題名】働くことの喜び 内容項目「C-(13) 勤労」

【教材名】たんぼぼ作業所（東京書籍 新しい道徳3）

〈あらすじ〉福祉施設「たんぼぼ作業所」で働く沢村くんは、川野修一くんを担当しているが、自分の仕事に自信が持てず、不安な日々が続いていた。ある日、作業の途中で修一くんがいなくなってしまう。沢村くんが公園にいた修一くんを見つけた翌日、修一くんの母からお礼の手紙が届く。手紙を読んだ後、沢村くんは、修一くんとのお礼の手紙から自分の仕事の意義や働く喜びについて考える。

【ねらい】

- 内容項目の理解
勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して社会に貢献しようとする道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
勤労の尊さや意義について理解しているが、自分の好みや経済性等で職業を選択しようとする等、勤労を通して社会に貢献することに消極的な生徒が多い。

本時のねらいを設定する

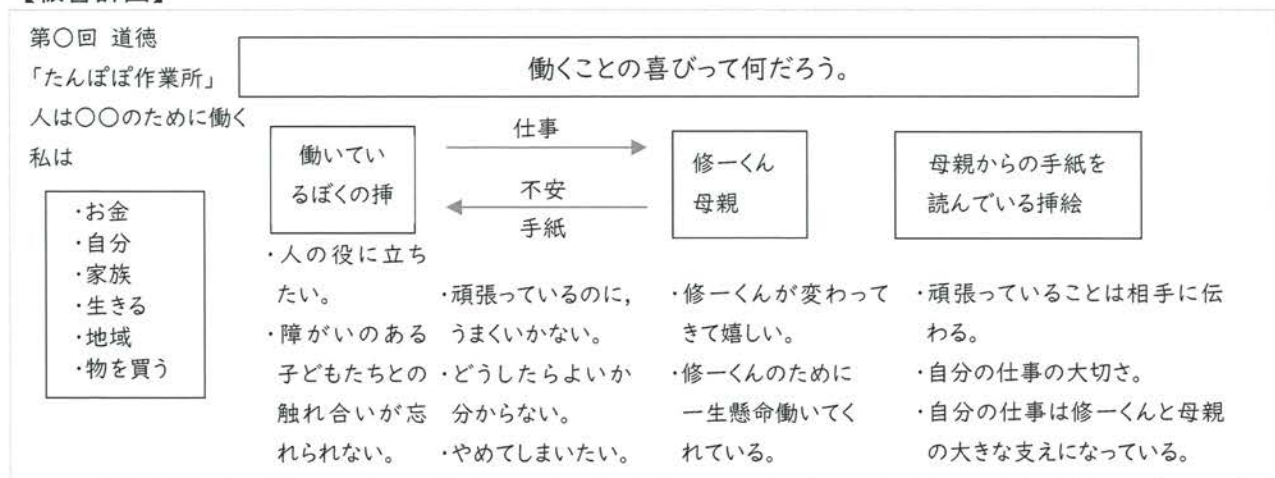
判断力 心情 実践意欲 態度

勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通して社会に貢献しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 「人（私）は〇〇のために働く」の〇〇に入る言葉は何ですか。</p> <p>○ 働く目的が達成できたとき、どのような気持ちになりますか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p style="text-align: center;">働くことの喜びって何だろう。</p>	問題解決的な学習
展開	<p>3 働くことの喜びについて考える。</p> <p>○ ぼくは、どうしてたんぼぼ作業所に就職しようと思ったのですか。</p> <p>○ 胸がしめつけられるような思いとは、どのような思いだと思いますか。</p> <p>○ 不安そうな様子だった母親がぼくにお礼の手紙を書いたのはどうしてだと思いますか。</p> <p>◎ 仕事に対して、ぼくが少し分かりかけたこととは、どのようなことだと思いますか。</p>	多面的・多角的
終末	<p>4 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 働くことの喜びについて、分かったこと、友達の考えを聞いていいなと思ったこと、これからの生活に生かしていきたいことについて書きましょう。</p>	自分との関わり 終末の工夫

【板書計画】



【評価】

働くことの喜びについて、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
 授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

働くことの喜び 「C-(13) 勤労」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通して社会に貢献しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「たんぼぼ作業所」 (東京書籍 新しい道徳3)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

「勤労」とは、自分の務めとして心身を労して働くことである。働く目的には、働くことで得られる収入で個人や家庭の生活を維持することや社会の中で一定の役割を果たすことが挙げられる。職業は、一人一人の人生の中で重要な位置を占めており、働くことそのものが、よりよく生きることと深くつながりがある。そこで、働く目的だけではなく、勤労の尊さや意義、勤労を通して社会に貢献することについて考えを深める必要がある。働くことの喜びや社会とのつながりについて考えることで、勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする態度を育むことができると考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、職場体験学習や進路指導等、これまでの学校生活を通して、勤労の尊さや意義について理解している。しかし、職業選択においては、個人の好みや経済性を優先させてしまう傾向にある。例えば、「自分のやりたい職業に就きたい」「収入が安定している職業に就きたい」等と考えている生徒が多い。生徒の実態を踏まえると、「勤労」という道徳的価値について、勤労の尊さや意義について理解し、勤労を通して社会に貢献しようとする自分とそうでいていない自分との葛藤から生じる問題があると考えられる。

そこで、働くことの喜びについて考えさせ、勤労を通して社会に貢献しようとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、高校卒業後、障がい者の自立を援助し、働く場を提供することを目的として開設された福祉施設「たんぼぼ作業所」に就職した沢村くんの話である。沢村くんは、川野修一くんを担当することになったが、自分の仕事に自信が持てず、不安な日々が続いた。ある日、作業の途中で修一くんが作業場を離れ、いなくなってしまう。沢村くんは、他の職員にも協力してもらい、公園にいた修一くんを見付ける。翌日、修一くんの母からお礼の手紙が届く。手紙を読んだ沢村くんは、自分の仕事の意義や働く喜びについて考える。

本時の指導に当たっては、授業当日の朝、生徒に資料を読ませておき、内容を理解させ、授業中の考える時間を確保する。授業では、中心場面を、沢村くんが修一くんの母からの手紙を読み、修一くんとの出会いから自分の仕事について考える場面に設定する。生徒には、自分の仕事に意義を見出せないときの気持ちを自分との関わりで考えさせながら、働くことに喜びを感じるためには、社会に貢献することに目を向ける必要があることに気付かせたい。

4 学習指導過程

	<p>学習活動</p> <p>○主な発問 (◎中心発問) ・予想される反応</p>	<p>指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 「人は○○のために働く」の○○に入る言葉は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金 ・生きる ・家族 ・誰かを助ける ・地域 ・欲しいものを買う <p>○ 「私は○○のために働く」の○○に入る言葉は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金 ・生きる ・家族 ・誰かを助ける ・地域 ・欲しいものを買う <p>○ 働く目的が達成できたとき、どのような気持ちになると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい ・働いて良かった <p>○ 普段、生活しているときに感じる嬉しい気持ちと働くことで得られる嬉しい気持ちは同じだと思いますか。違うと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ ・違う <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>働くことの喜びって何だろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、導入で働く目的についての生徒の考えを取り上げる。 ・働く目的を自分との関わりで考えさせるために、発問の主語を「人」から「私」に変えて、問い返す。 ・主語が「人」と「私」のときの生徒の考えの違いや共通点に着目し、生徒の社会に貢献しようとする道徳的価値についての実態を再確認する。 ・課題をつかませるために、働く目的を問うと同時に、その目的が達成できたときの気持ちを問う。 ・働くことの喜びに焦点化させるために、普段、生活しているときに感じる嬉しい気持ちと働くことで得られる嬉しい気持ちを比較させる。
<p>展開 37分</p>	<p>3 働くことの喜びについて考える。</p> <p>○ 数ある仕事の中でぼくは、どうしてたんぼぼ作業所に就職しようと考えたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つことがしたいと考えていたからです。 ・ボランティア活動での障がいのある子供たちとの触れ合いが忘れられなかったからだと思います。 ・将来は障がいのある人たちのために何か仕事をしたいと思っていたからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が資料の内容を理解した上で発問について考えられるよう、教材の挿絵を活用して資料の内容を確認する。 ・主人公の心情について考えさせるために、範読を聞くときの視点を与える。 ・個人の好みや経済性以外の働く目的があることに気付かせるために、ぼくがたんぼぼ作業所を就職先に選んだ根拠となる考えについて考えさせる。 ・たんぼぼ作業所を就職先に選んだぼくの考えを表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・この学級の中で、福祉施設で働きたいという人はいますか。それはどうしてですか。 ・ぼくがたんぼぼ作業所を就職先に選んだ理由は、(導入で考えた)○○のどの考えと似ていますか。 ・ぼくがたんぼぼ作業所を選んだ考えに、みなさんは共感できますか。 </div>

- 胸がしめつけられるような思いとは、どのような思いだと思いますか。
- ・頑張っているのに、うまくいなくて、苦しい思いです。
- ・働く意味を感じないと思います。
- ・どうしたらよいか分からないと思います。
- ・やめてしまいたい思いです。

- 不安そうな様子だった母親がぼくにお礼の手紙を書いたのはどうしてだと思いますか。
- ・修一くんの生活が少しずつ変わってきて、嬉しかったからだと思います。
- ・ぼくが修一くんのために一生懸命に働いてくれていることが分かったからだと思います。

◎ 仕事に対して、ぼくが少し分かりかけたこととは、どのようなことだと思いますか。

- ・頑張っていることは、必ず相手に伝わるということだと思います。
- ・自分の仕事の大切さが分かったのだと思います。

- ・働くことに喜びを感じることができていないときの心情に共感させるために、仕事に不安を感じるぼくの心情について考えさせる。
- ・仕事に不安を感じるぼくの心情を表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

- ・自分で選んだ仕事なのに、どうして胸がしめつけられるような思いになってしまうと思いますか。
- ・仕事を頑張っているのに、母から「あの先生、若いけど大丈夫ですか」と言われたら、どのような気持ちになりますか
- ・自分だったら、この仕事を続けていきますか。
- ・自分に向いていない、自信が持てないという仕事を続けることはできますか。どうしてですか。
- ・仕事を変えることも考えられると思いますが、それについてはどう思いますか。
- ・仕事を変えることはいけないことなのですか。
- ・仕事を変えれば、胸がしめつけられるような思いはしなくなるのですか。
- ・次の仕事も自分に向いていないと感じたらどうすればよいのですか。

- ・ぼくの仕事が、修一くんや母親の生活の支えになっていることに気付かせるために、母親が手紙を書いた根拠となる考えについて考えさせる。
- ・ぼくの仕事が修一くんと母親の生活に貢献していることについて考えを深めさせるための問い返しの発問

- ・ぼくは仕事として当たり前のことをしただけなのに、母親はお礼の手紙を書く必要があると思いますか。

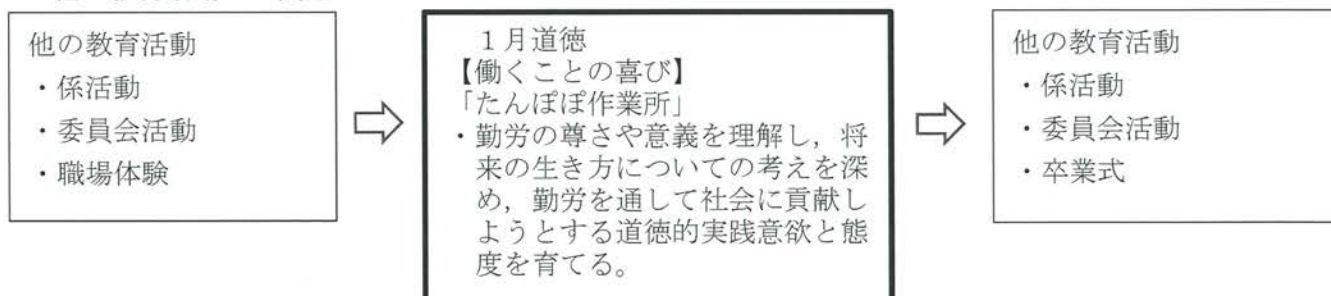
- ・社会に貢献しようとするぼくの気持ちに気付かせるために、修一くんの母からの手紙を読んだあとの僕の心情について考えさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事は修一さんと母親の大きな支えとなっていることだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修一さんの母からの手紙を読んだあとの僕の心情について、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは働くことの喜びを感じていると思いますか。その喜びとは、どのような喜びですか。 ・働く喜びを感じるためにはどのようなことが大切だと思いますか。 </div>
終末 8分	<p>4 自己の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことの喜びについて、分かったこと、友達の考えを聞いていいなと思ったこと、これからの生活に生かしていきたいことについて書きましょう。 ・働くことに喜びを感じるには、自分の仕事に自信を持つことが大切だと思います。 ・自分の頑張っていることが相手に伝わっていないと思っても、本当は相手の役に立っていることもあると思うので、続けることが大切だと思います。 ○ 働くことの喜びについて、教師の説話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。

【評価】

働くことの喜びについて、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

5 他の教育活動との関連

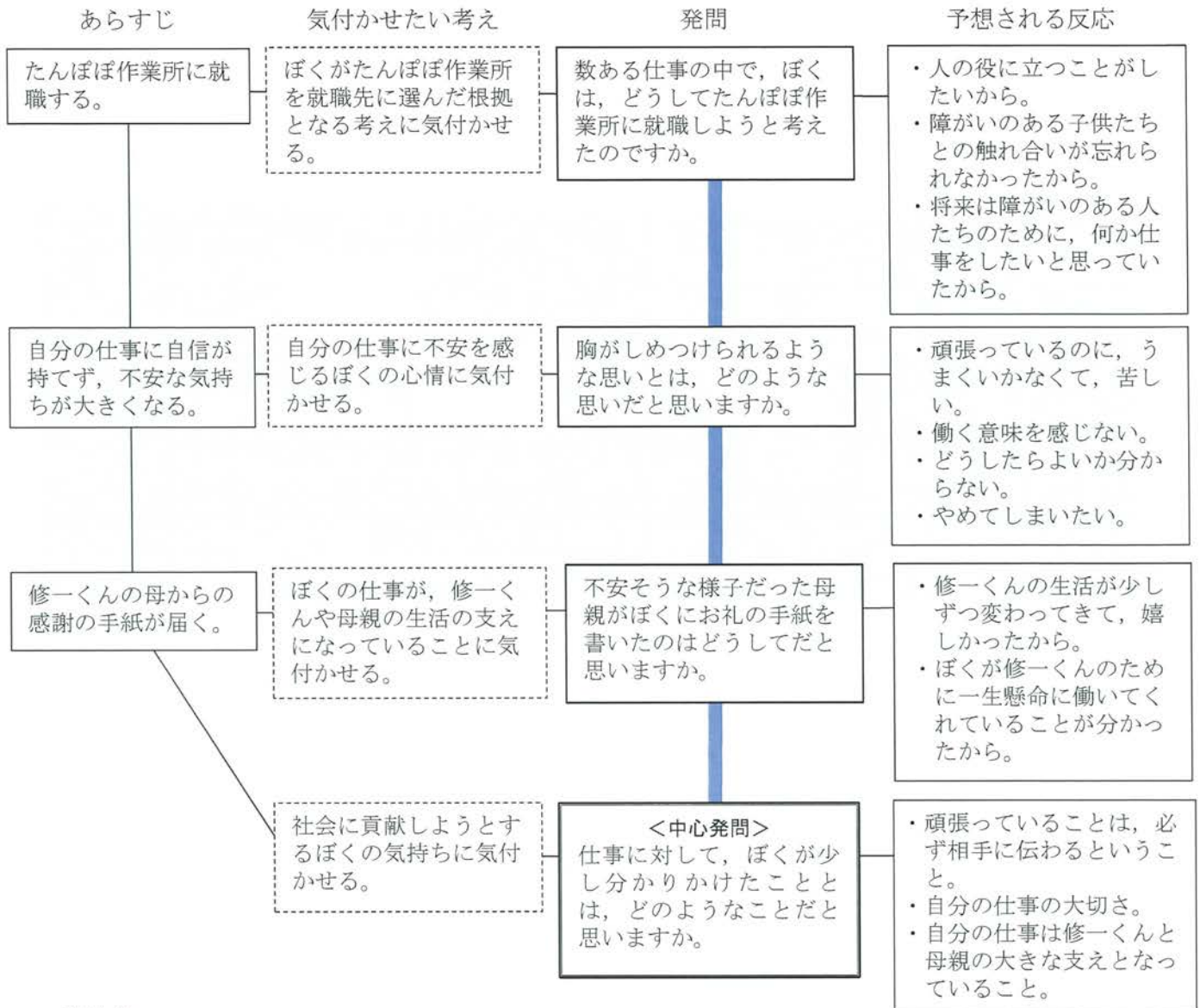


6 補充・深化・統合の視点【深化】

「働くことの喜び」という道徳的価値について、生徒は、職場体験学習や進路指導等、これまでの学校生活を通して学んできている。

本時は、生徒の実態を踏まえ、収入や経済性など、働く目的だけを重視するのではなく、勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献することが大切であることに気付かせる授業である。社会に貢献することで得られる成就感や充実感、勤労を通して社会に貢献し、よりよい生き方を追求していくことにつながる。「働くことの喜び」という道徳的価値について、生徒の考えを、本時の授業を通してより一層深めていきたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書，教科書挿絵，学習プリント

生徒：筆記用具

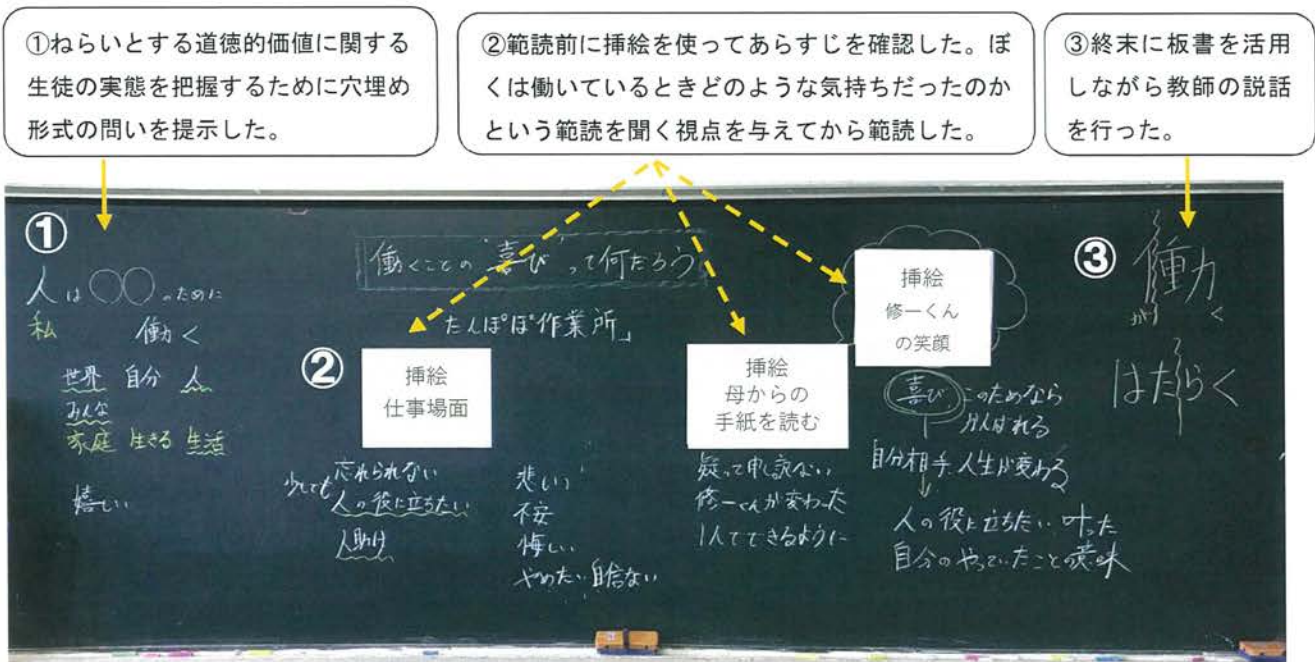
※ 教師の説話の内容

今日は働くことの喜びについて、考えてきました。「働」という漢字に線を一本引いて意味を分けるとしたら、どこに線を引きますか。「働」という漢字には「人」が「動く」という意味が込められています。「はたらく」という言葉に線を一本引いて、意味を分けるとしたら、どこに線を引きますか。「はたらく」という言葉には「はた」を「らく」にするという意味があります。

「働く」という言葉には、他の人を幸せにするために、人が動くという意味があります。今日の授業では更に、働くことで自分自身が感じる喜びは何だろうということについて考えてきました。皆さんの考えから、働くという言葉に込められた意味が更に分かったような気がします。

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】



(1) 導入

授業開始時に、ねらいとする道徳的価値に関する生徒の考えを発表させた

○ 「働く喜びって何だろう」という本時の課題につなげるために、導入では「人は○○のために働く」という穴埋め形式の問いを設定した。以下に、実際の生徒との対話の記録を紹介する。

生徒との対話記録

T 「人は○○のために働く」の○○にはどのような言葉が入ると思いますか。
自分の考えを発表してください。

S 世界です。自分です。人です。みんなです。

T それでは、主語を「私」に変えたら、どのような言葉が入りますか。

S 家庭です。生きるです。生活です。

T 働く目的は様々ありますね。

働く中でこれらの目的を達成できたとき、どのような気持ちになりますか。

S 達成感を感じます。嬉しい気持ちです。

T 普段生活していて感じる嬉しいという気持ちと、働くことを通して感じる嬉しいという気持ちは同じだと思いますか。違うと思いますか。

S (ほとんどの生徒) 違うと思います。(少数の生徒) 同じだと思います。

※ 「違う、同じ」と答えた根拠となる考えについては、教材を通して考えさせていく。

T 違うと考えている人が多いようですね。今日は、働くことを通して感じる嬉しい気持ち、つまり、働くことの喜びって何だろうということについてみんなで考えていきたいと思います。

※ 課題を提示

日常生活で感じる喜びと働くことで得られる喜びを比較させたことで、働く喜びとはどのようなものなのかという問題意識を生徒に持たせることができた。

(2) 展開

生徒の考えを深めさせるために、問い返しをした

- ぼくの胸がしめつけられるような思いに共感させる場面で、「自分だったら仕事を続けるか」「仕事を辞めて、仕事を変えるか」という問い返しをした。

授業者としては、どちらの選択も大切であり、答えが一つではないことを前提にして、仕事に悩むぼく的心情を自分との関わりで考えさせたかった。しかし、生徒から出された考えの中には、仕事を続けることがよいことで、仕事を変えたり、辞めたりすることは、嫌なことから逃げ出してしまう悪いことだという考えが多かった。そのため、仕事を変えた方がよいと考えている生徒が、自分の考えを発表しづらい状況になってしまった。

実践を通して、「自分だったら～」の問い返しの際に、「どちらか一方が正解ということではない」という留意点を生徒に伝えた方が、多数派、少数派に意見が分かれた際にも、生徒が自分の考えを発表しやすいと思った。

また、ぼくの胸がしめつけられるような思いや仕事を続けるか、辞めるかという葛藤は、生徒自身が今後、直面するであろう葛藤場面でもある。そのことを踏まえると、「自分だったら～」と考えさせた後に、「きっとぼくの中にも今、みんなが考えたような葛藤があったのだろうね。そして、将来、みんなも働いたら、ぼくのように葛藤する場面に出合うかもしれないね」と生徒に声を掛けた方が、より自分との関わりで考えさせることができると感じた。

- 「不安そうな様子だった母親が、ぼくにお礼の手紙を書いたのはどうしてだと思いますか」という発問を通して、母親の心情について考えさせた場面で、更に「ぼくは仕事として当たり前のことをしただけなのに、母親はお礼の手紙を書く必要があると思いますか」という問い返しをした。

1回目の実践では、「『自分にできないことをぼくが修一くんにしてくれた』と母親は考えたからぼくにお礼の手紙を書いたのではないか」という考えが出された。その考えを基にして、終末では「仕事は、自分の人生や相手の人生を変えることができる」と「自分の仕事で相手の生活や人生の可能性を広げることができる」という考えも生徒から出された。

2回目の実践では、同じ問い返しに対して、「母親は感謝の気持ちを伝える手段として手紙を書いたのだと思う」という考えが出された。しかし、そこから、社会に貢献したぼくの仕事について、生徒の考えを深めることができなかった。

1回目の実践と2回目の実践を比較すると、1回目の実践で生徒から出された考えの方がねらいとする道徳的価値に迫っていると感じた。

2回の実践を振り返って考えたことは、本時において、勤労という道徳的価値に迫るためには、ぼくは、仕事を通して社会（修一くんや母親）にどのように貢献することができたかということについて、生徒に考えさせることが大切であるということだった。つまり、2回目の実践では、「母親が伝えたかった感謝の気持ちとは、具体的にどのようなものだったのか」とか「修一くんの生活が少しずつ変化していったとき、母親はどのような気持ちになったのか」ということについても生徒に考えさせることで、勤労の意義や働くことの喜びについての考えを深めさせることができたのではないかと考えた。

(3) 終末

自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「働く喜びとは何だろう」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

生徒の感想（1回目の実践）

- ・ 友達の考えの中で「主人公のぼくは働くことの嫌な面しか見ていなかったから仕事を辞めようと思ったけれど、働くことの喜びを知ったので、次からは頑張れると思う」という考えに共感した。
- ・ 働くことは自分のためだけでなく、他人のためでもあるから逃げられないと思った。
- ・ 働くことは苦労の方が喜びよりも多くあるため、その分、喜びも大きくなると思う。だから、人助けをするときは、少しの苦労で諦めないで、決めたことは最後まで取り組むことが大切だと思った。また、あらゆる行動には苦労があるものなので、諦めずに取り組みたい。
- ・ これから自分が働くことを想像してみると、主人公と同じように苦しいことがあると思うけれど、諦めずに満足できるように最後までしっかり働きたいと思った。
- ・ 自分の仕事に対して不安を感じていても、その仕事のやりがいを見付けることで続けられることが分かった。
- ・ 仕事を通して自分がしたかったことを実現することが喜びなのだと分かった。自分には向いていないと思っていても、いつかは他人から褒められたり、認められたりすることを覚えておきたい。
- ・ 自分が望んでいた仕事に就いても挫折や辛いことがある。それを乗り越えてやりがいを感じたり、これまでの自分の行動はちゃんと意味があるものだったのだと感じたりすることができる。それが働くことの喜びなのかもしれない。
- ・ 働くことは、喜びがあることで「もっとやりたい」「長く続けたい」という気持ちになることが分かった。友達の意見の中で、仕事は自分や近くの人々だけでなく、世界の知らない人々の役に立つという意見が印象に残った。
- ・ 私は最初のクイズ（導入）のときに、働くことは自分の幸せのためだと思っていたが、私が働くようになったときに、他の誰かの人生をよくすることができたらいいなと思った。
- ・ 自分がしたことのおかげで人が笑顔になったら自分も笑顔になり、幸せな気持ちになると思う。人のためになることを当たり前でできる人になりたいと思う。

生徒の感想（2回目の実践）

- ・ 自分に自信がなくても、自分で選んだ仕事なら、誇りを持って堂々とするのが大事だと思った。
- ・ 人の役に立つことは難しいけれど、諦めないで、その人に寄り添えば、きっとできなかったことができるようになることが分かった。
- ・ これからの生活で何かをするときに、目に見えるような成果がなかなか出なくても、いつかは成果が出ることを信じて頑張ることを心掛けたいと思った。頑張って働いていれば、いずれは喜びを感じることができるようになると思った。
- ・ 今日の授業で喜びの意味が分かった。前までは喜びは、嬉しいとか別の意味で捉えていたけれど、今回の授業を通して、人に感謝されたり、挫けそうなきも諦めないで努力した先にあったりするの、本当の喜びだと感じた。友達の意見を聞いて、様々な考えが出てきて、自分一人では考えられないこともあるのだなと思った。
- ・ 働くことの喜びについて深く考えることができた。授業の最後に、みんなが「努力が大切」と言っていたけれど、努力するのは簡単だと思った。それを続けないとしっかりとした達成感を得られないと思った。
- ・ 働くことの喜びとは、仕事をして給料を得るだけでなく、感謝されたり、自分の変化や成長を感じたりすることだと思った。
- ・ 将来働くようになったら、ぼくみたいに不安や辞めたいとか思うかもしれないけれど、その仕事を続けて、自分を信じようと思った。みんなの意見を聞いて、自分の考えが深まった。自分の意見を言えるようにしたい。

学習指導案の書き方ガイド

学習指導案書き方ガイドは、小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（以下「解説」）を参考に作成しています。
参考にした解説のページ番号は「解説（小）p〇（中）p〇」と示してあります。

第〇学年道徳科学習指導案

日 時 令和 〇年 〇月〇日（〇）
授業者 教諭 〇〇 〇〇

解説（小）80,81（中）p 78,79

- ・道徳科の学習指導案は、教師が年間指導計画に位置付けられた主題を指導するに当たって、児童生徒や学級の実態に即して、教師自身の創意工夫を生かして作成する具体的な指導計画案のことである。
- ・ねらいを達成するために、児童生徒が何を、どのような順序、方法で指導し、評価し、さらに主題に関連する本時以外の指導にどのように生かすのかなど、学習指導の構想を一定の形式に表現したもの。
- ・形式に特に決まった基準はないが、一般的には主題名、ねらいと教材、主題設定の理由、学習指導過程、その他のような事項が取り上げられている。

1 主題名

例) たったひとつの命だから 「D-（19）生命の尊さ」

解説（小）p 73,74,80（中）p 71,78

- ・道徳科の「主題」とは、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。
- ・年間指導計画の「主題名」には、ねらいと教材で構成した主題を、授業の内容が概観できるように端的に表したものを記述する。
- ・学習指導案の「主題名」には、原則として、年間指導計画における主題名を記述する。

2 ねらいと教材

(1) ねらい

- ・「～しようとする道徳的心情を育てる。」
- ・「～しようとする道徳的判断力を育てる。」
- ・「～しようとする道徳的実践意欲を育てる。」 ←
- ・「～しようとする道徳的態度を育てる。」

ポイント集「ねらいの設定」

- ・道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業をするのかを記述する。
- ・道徳性の諸様相（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度）は一つ一つが独立しているものではなく、関わり合っている。
- ・ねらいは、必ず一つの様相とは限らず、複数の様相を育てることも考えられる。

(2) 教材名

「〇〇〇〇」 (◆◆◆)
教材名 出典

3 主題設定の理由

解説（小）p 80（中）p 78,79

- ・記述に当たっては、児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けて記述する。
- ・抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述するようにする。

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

解説 (小) p 26-71 (中) p 24-69 ポイント集「内容項目を理解するポイント」

- ・解説「内容項目の指導の観点」の内容項目の概要と指導の要点を理解し、参考にして記述する。
- ・内容項目の中に複数の道徳的価値が含まれている場合は、どの道徳的価値について指導するのかを記述する。
- ・授業のねらいとする道徳的価値と関連する道徳的価値についても記述する。

(2) 児童（生徒）のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

ポイント集「児童生徒の実態把握」「内容項目を理解するポイント」

- ・児童生徒の発達段階を踏まえ、道徳的価値に根差した問題（ねらいとする道徳的価値について、どのようなことが身に付きつつあり、どのようなことが課題として残されているのか）を具体的に把握し、記述する。
- ・児童生徒の実態把握から、道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業をするのかを記述する。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

解説 (小) p 83 (中) p 82 ポイント集「教材の活用」

- ・教材のあらすじを簡潔に記述する。
- ・教材には、伝記、実話、物語、詩等、多様な形式のものがああり、それらの特質を捉えて記述する。
- ・教材に対する感動を大事にする展開や道徳的価値を実現する上での迷いや葛藤を大切に展開等、教材のどの場面や発言等を取り上げて、ねらいに迫るのかを記述する。

4 学習指導過程

児童(生徒)目線で記述する
(文末の表現等)

教師目線で記述する
(文末の表現等)

	学習活動	指導上の留意点
	○主な発問 (◎中心発問)・予想される反応	
導 入 ○ 分	1 本時の主題に関わる問題意識を持つ。 (または、教材の内容に興味や関心を持つ等)	<input checked="" type="checkbox"/> 1～5は主な学習活動を記述する
	○ 発問1 ・予想される児童生徒の反応1	<input checked="" type="checkbox"/> ポイント集「導入の工夫」 導入は、本時の主題に関わる問題意識を持たせる、または教材の内容に興味や関心を持たせる発問や活動について記述する。
	2 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題がある場合は、本時の課題を記述する</div>	

<p>展開 ○分</p>	<p>3 登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 発問2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童生徒の反応1 ・予想される児童生徒の反応2 <p><input checked="" type="checkbox"/> ポイント集「展開の工夫」等</p> <p>指導上の留意点には、指導の工夫（教材の提示、問い返し、学習形態、等）と教師の意図をセットで記述する。</p> <p>例1 ~の心情を捉えさせるために、~をする。</p> <p>例2 ~に気付かせるために、~について考えさせる。等</p> <p>4 ~を通して考える。</p> <p>○ 指示</p> <p>例) ~の場面を役割演技しましょう。</p> <p>A 「 B 「 A 「</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ◎中心発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童生徒の反応1 ・予想される児童生徒の反応2 	<p>・~に気付かせるために、問い返しを行う。</p> <p>・〇〇はなぜ、~したと思いますか。</p> <p>・もし、自分だったら~しますか。等</p> <p>・~について考えさせるために、役割演技をさせる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習や話し合いを取り入れる場合、予想される児童生徒の具体的な対話の内容を記述する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 解説 (小) p 84,85 (中) p 83,84 ポイント集「発問づくり」</p> <p>まず、授業のねらいに深く関わる中心発問を考える。次にそれを生かすために、その前後の発問を考え、全体を一体的に捉えると有効な場合が多い。</p>
<p>終末 ○分</p>	<p>5 ~について考える。~について振り返る。</p> <p>○ ~について自分の考えを書きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童生徒の反応1 	<p><input checked="" type="checkbox"/> ポイント集「終末の工夫」</p> <p>児童生徒が自己の(人間としての)生き方についての考えを深め、納得解を得られるような発問や書く活動等を設定し、記述する。</p>

【評価】

- 解説 (小) p 107-116 (中) p 109-118
ポイント集「道徳科の評価」「指導要録と通知表における道徳科の評価の違い」
- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る視点を記述する。
 - ・「できた」「できない」と評価するものではないので、語尾は「~することができたか」ではなく、「~しようとしていたか」や「~に気付いていたか」等の表現にすると良い。
- 例) 「 」について、 を通して、 しようとしていた。
(道徳的価値) (指導の工夫) に気付いていたか。等

【板書計画】

解説 (小) p 85 (中) p 85 ポイント集「板書の工夫」

- ・ 思考の流れや順序を示すような順接的な板書ではなく、違いや多様さを対比的、構造的に示す工夫や、中心部分を浮き立たせる工夫などを意識して記述する。

5 他の教育活動との関連

解説 (小) p 89,90 (中) p 88,89 ポイント集「他の教育活動との関連」

- ・ 年間指導計画や別葉を基に、本時の授業と前後の道徳科の授業との関連や他の教育との関連について記述する。図等を用いる場合もある。

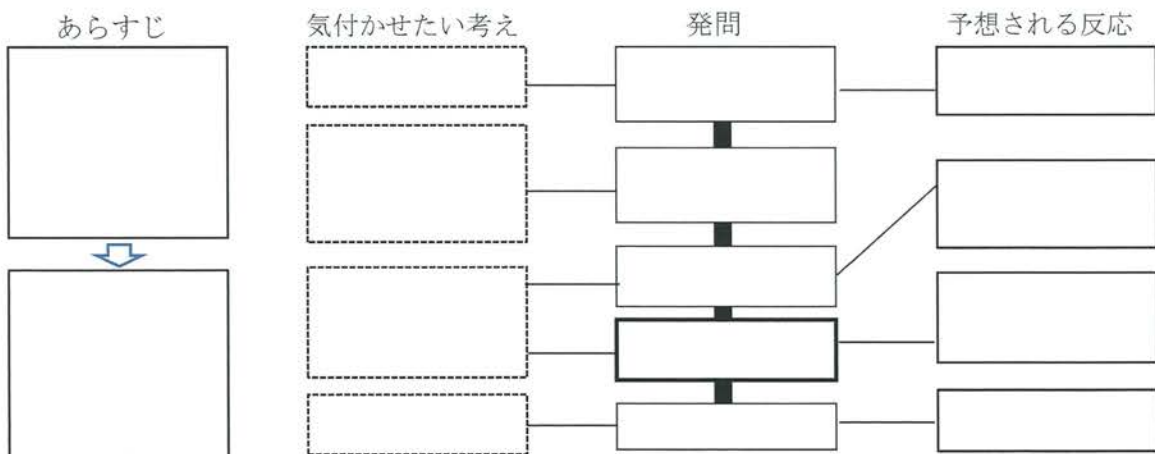
6 補充・深化・統合の視点【 】

解説 (小) p 89,90 (中) p 88,89 ポイント集「他の教育活動との関連」

- ・ 授業のねらいとする道徳的価値が、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の「補充・深化・統合」のどれに位置付けられるのかについて記述する。

7 教材分析・発問構成

教材のあらすじに従って、気付かせたい考え、発問、予想される児童（生徒）の反応について記述する。



8 準備物

教師：

生徒：

学年,内容項目別教材・資料一覧(小学校低学年)

学年,内容項目別教材・資料一覧は,「東京書籍 あたらしいどくとく1」のp118「1ねんかんでまなぶこと」,「東京書籍 あたらしいどくとく2」のp2,3「これから一年かんで学ぶこと」を参考に,「みやぎの先人集 未来への架け橋 第1集,第2集」や文部科学省 道徳教育アーカイブ内で紹介されている教材・資料を分類し,作成した。

※ 文部科学省 道徳教育アーカイブ内に掲載されている教材・資料について
 ・わたしたちの道徳 小学校1・2年 → 「わ」 ・中学校道徳 読み物資料集 → 「読み物」 ・実践事例 → 「事例」

A 主として自分自身に関すること

内容項目	東京書籍		文部科学省	
	新しいどくとく1	新しいどくとく2	道徳教育アーカイブ	道徳教育アーカイブ
(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任	・ダメ ・それって, おかしいよ ・どんぐり ・あのね ・いたずらがき ・べんきょうが ・きをよつけて ・かばちやのつる ・ええところ ・うかんだうかんだ ・こぐまのらっぱ	・わすれられない えがお ・おれたものさし ・さるへいと 立てふだ ・金の おの ・じぶんで オツケー ・「かむかむメニュー」 ・わがママな 大男 ・ありがとう, りようたさん ・さかあがり できたよ ・ぼくは 「のび太」でした ～藤子 F 不二雄	・ぼんたとかんた (わ, 読み物, 事例) ・お月さまとコロ (わ, 事例) ・るっぺどうしたの (わ)	・シロクマのクウ (読み物) ・小さな力のつみかさね ～二宮金次郎 (わ)
(2) 正直, 誠実				
(3) 節度, 節制				
(4) 個性の伸長				
(5) 希望と勇気, 努力と強い意志				

B 主として人との関わりに関すること

内容項目	東京書籍		文部科学省	
	新しいどくとく1	新しいどくとく2	道徳教育アーカイブ	道徳教育アーカイブ
(6) 親切, 思いやり	・はしのうえのおおかみ ・はなばあちゃんかわらった ・ぼくの はなさいたけど ・がっこうにはね ・みんな だれかに	・くまんの たからもの ・かっぱ わくわく ・学きゅうえんの さつまいも ・じぶんが しんごうきに	・はしの上のおおかみ (わ)	
(7) 感謝				
(8) 礼儀	・あいさつ ・おうだんぼどうで	・いそいで いても いいな ・「あいさつ」って	・たびに 出て (わ, 読み物)	
(9) 友情, 信頼	・ころはっば ・二わの ことり	・ともだちやもんな, ぼくら ・森のともだち	・およげないりすさん (わ, 事例)	

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しいどうとく1	東京書籍 新しいどうとく2	文部科学省 道徳教育アーカイブ
(10) 規則の尊重	・よみちのボール ・みんなのボール	・きいろいボール ・かくしたボール	・ごちそうさまのあとで (読み物) ・黄色いペンチ (わ) ・みんなのこうえん (事例)
(11) 公正, 公平, 社会正義	・みんな いっしょ	・大すきな フルーツポンチ	
(12) 勤労, 公共の精神	・ぼくの しごと	・いま, ぼくに できる こと	・もりのゆうびんやさん(わ, 読み物) ・みんなの ニュース がかり (読み物)
(13) 家族愛, 家庭生活の充実	・かやねずみの おかあさん	・だって おにいちゃんだもん ・金いろの まどの いえ	
(14) よりよい学校生活, 集団生活の充実	・ようこそ, 一ねんせい ・もう すぐ 二ねんせい	・ひかり小学校の じまんはね ・「三くみ 大すき」	
(15) 伝統や文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	・にちようびの さんぽみち	・ながい ながい つうがくろ	・ぎおんまつり (読み物)
(16) 国際理解, 国際親善	・ぼくと シャオミン	・ひろい せかいの たくさんの 人たちと	

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しいどうとく1	東京書籍 新しいどうとく2	文部科学省 道徳教育アーカイブ
(17) 生命の尊さ	・ハムスターの あかちゃん ・どきどき あつて よかった ・いのちが あつて よかった	・たんじょう日 ・ぼく ・ゆきひょうの ライナ ・いのちは いくつもあるのかな	・まりちゃんとおさがお (読み物) ・ハムスターの赤ちゃん (わ)
(18) 自然愛護	・ぼくの あさがお ・ぼくの しろくま	・げんきに そだて, ミニトマト ・まいごに なった 赤ちゃんくじら	・虫が大すき (わ)
(19) 感動, 畏敬の念	・にじが でた	・七つの ほし 中の お月さま ・ガラスの	

学年,内容項目別教材・資料一覧(小学校中学年)

学年,内容項目別教材・資料一覧は,「東京書籍 新しいどうとく3・4」のpp2,3「これから一年間で学ぶこと」を参考に,「みやぎの先人集 未来への架け橋 第1集,第2集」や文部科学省 道徳教育アーカイブ内で紹介されている教材・資料を分類し,作成した。

※ 文部科学省 道徳教育アーカイブ内で掲載されている教材・資料について

・わたしたちの道徳 小学校3・4年 → 「わ」 ・中学校道徳 読み物資料集 → 「読み物」 ・実践事例 → 「事例」

A 主として自分自身に関すること

内容項目	東京書籍 新しいどうとく3	東京書籍 新しいどうとく4	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集,第2集
(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任	・二つの声 ・S.L公園で	・ドッジボール ・全校遠足とカワセミ	・おひめさまと少年(読み物) ・少しだけなら(読み物) ・よわむし太郎(わ) ・六セント半のおつり ーリンカーンの話ー(わ)	
(2) 正直, 誠実	・一本のアイス ・ぬれた本ーリンカーン	・ひびが入った水そう ・「あかいセミ」		
(3) 節度, 節制	・ゆうすけの朝 ・こうすけならだじょうぶ	・いっしょになって, わらっちゃだめだ ・目ざまし時計 ・けいたい電話の落としあな	・少しだけなら(わ)	
(4) 個性の伸長	・じゃがいの歌	・うめのき村の四人兄弟	・うれしく思えた日から(わ, 読み物, 事例)	・石ノ森章太郎(2集) ・千葉亀雄(2集)
(5) 希望と勇氣, 努力と強い意志	・ーりん車にのれた ・まけるものかー野口英世	・ぼくのへんしん ・いつかにじをかける ー高橋尚子選手の走ってきた道	・きつとできる(わ)	・高山善右衛門 他9名(1集) ・小野寺久幸 他15名(2集)

B 主として人との関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しいどうとく3	東京書籍 新しいどうとく4	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集,第2集
(6) 親切, 思いやり	・やさしい人大さくせん ・ーさつのおくりもの ・六べえじいとちよ	・なにかお手つだいでできることはありますか? ・ゆうきの心配 ・ポロといっしょ	・心と心のあく手(わ) ・あの一とことで(事例)	
(7) 感謝	・大通りのサクラなみ木	・しょうぼうだんのおじいさん		
(8) 礼儀	・あいさつをすると	・「ありがとう」の言葉	・おじいさんのこんにちは(事例)	
(9) 友情, 信頼	・いいち, にいつ, いいち, にいつ ・なかよしだから	・ぼくらだつてオーケストラ ・大きな絵はがき	・卓球は四人まで(読み物) ・同じ仲間だから(わ)	
(10) 相互理解, 寛容	・たまちゃん, 大すき	・合い言葉は「話せばわかる!」		・落合直文(1集)

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しいどうとく3	東京書籍 新しいどうとく4	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集, 第2集
(11) 規則の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりじゃないか ・黄色いかさ ・それは、だれの作ひん 	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日のパーベキュー ・雨のバスでいりゅう所で 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひどいよね (読み物) ・レストランで(読み物) ・雨のバス停留所で(わ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・布施辰治(2集)
(12) 公正, 公平, 社会正義	<ul style="list-style-type: none"> ・みさきさんのえがお 	<ul style="list-style-type: none"> ・となりのせき 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについて考える(事例) ・いじめと生きる(事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・青柳文蔵 他1名(1集) ・牧野富三郎 他3名(2集)
(13) 勤労, 公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみステーション ・ことぶき園に行ったよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっこ」をせおって ・点字メニユーにちようせん 	<ul style="list-style-type: none"> ・妙見山のちかいー岩崎弥太郎ー (読み物) ・フラッドレーのせい求書(わ) 	
(14) 家族愛, 家庭生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・耳の聞こえないお母さんへ ・ぼくのおばあちゃん 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんのせいきゅう書 ・千春とわたし 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな, 待っているよ(わ, 読み物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦東山 他2名(1集)
(15) よりよい学校 生活, 集団生活 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・しょうたの手 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋空にひびくファンファーレ 		
(16) 伝統や文化の 尊重, 国や郷土 を愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのおべんどう ・ふるさとといいとこさがし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふろしき ・ふるさとを守った大イチョウ 		<ul style="list-style-type: none"> ・片平観平 他5名(1集) ・後藤桃水 他2名(2集)
(17) 国際理解, 国際親善	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの国 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の小学生 		<ul style="list-style-type: none"> ・フランク安田 (1集)

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しいどうとく3	東京書籍 新しいどうとく4	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集, 第2集
(18) 生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ヌチヌグスージ (いのちのまつり) ・いただきたいのち ・おじいちゃん, おばあちゃん, 見ていてね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私の見つけた小さな幸せ ・バルバオの木 ・走れ江ノ電 光の中へ ・また来年も待ってるよ ・「ふれあいの森」で 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの妹に(読み物) ・ヒキガエルとロバ(わ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・櫻井喜吉 他2名(1集) ・加藤さん 他1名(2集)
(19) 自然愛護	<ul style="list-style-type: none"> ・ツバメの赤ちゃん ・ホタルの引っこし 	<ul style="list-style-type: none"> ・一びきのセミに「ありがとう」 ・花さき山 		<ul style="list-style-type: none"> ・相澤幸四郎(2集)
(20) 感動, 畏敬の念	<ul style="list-style-type: none"> ・百羽のツル ・しあわせの王子 	<ul style="list-style-type: none"> ・富士と北斎(わ) 		

学年,内容項目別教材・資料一覧(小学校高学年)

学年,内容項目別教材・資料一覧は,「東京書籍 新しい道徳5・6」のpp.2,3「これから一年間で学ぶこと」を参考に,「みやぎの先人集 未来への架け橋 第1集,第2集」や文部科学省 道徳教育アーカイブ内で紹介されている教材・資料を分類し,作成した。
 ※ 文部科学省 道徳教育アーカイブ内で掲載されている教材・資料について
 ・わたしたちの道徳 小学校5・6年 → 「わ」 ・中学校道徳 読み物資料集 → 「読み物」 ・実践事例 → 「事例」

A 主として自分自身に関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳5	東京書籍 新しい道徳6	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集,第2集
(1) 善悪の判断,自律,自由と責任	・遠足の子どもたち	・修学旅行の夜	・うばわれた自由(わ)	
(2) 正直,誠実	・見えた答案	・手品師		
(3) 節度,節制	・流行おくれ ・「百ジャアのふたごしまい」きんさんざんさん	・お母さん,お願いね。 ・「すんまへん」	・ホームステイ(読み物)	
(4) 個性の伸長	・感動したこと,それがぼくの作品 ～バブアロピカン	・あこがれのバティシエ		・石ノ森章太郎 他1名(2集)
(5) 希望と勇氣,努力と強い意志	・いつも全力で～首位打者イチロー ・ペートーベン	・心をつなぐ音色 ・夢	・ヘレンととともに ・アニーサリバン	・高山善右衛門 他6名(1集) ・小野寺久幸 他11名(2集)
(6) 真理の探究	・ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ	・まんがに命を～手塚治虫	・天からの手紙(わ)	・川村瑞賢 他3名(1集) ・及川平治 他2名(2集)

B 主として人との関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳5	東京書籍 新しい道徳6	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集,第2集
(7) 親切,思いやり	・ノンステップバスでのきごと ・くずれ落ちただんだんボール箱	・車いすでの経験から ・心に通じた「どうぞ」のひとつ	・夏の日のこと(読み物) ・最後のおくり物(わ)	
(8) 感謝	・「ありがとう上手」に	・土石流の中で救われた命	・黄熱病とのたたかい(わ)	
(9) 礼儀	・オーストラリアで学んだこと	・心を形に		
(10) 友情,信頼	・心のレシーブ ・友の命	・ばかじゃん! ・言葉のおくりもの	・知らない間の出来事(わ,読み物) ・幸せコアラ(読み物)	
(11) 相互理解,寛容	・名医,順庵	・銀のしよく台	・ブランコ乗りとピエロ(わ)	・落合直文(1集)

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳 5	東京書籍 新しい道徳 6	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集, 第2集
(12) 規則の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場はだれのもの ・これって「けんり」？これって「ぎむ」？ ・これも、チエメンメール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの音が ・空まんのゆくえ 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しいときだからこそ(読み物) ・お客様(読み物) ・きまりは何のために(わ, 読み物) ・愛の日記(わ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・布施辰治(2集)
(13) 公正, 公平, 社会正義	<ul style="list-style-type: none"> ・転校生がやってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・田中正造 		<ul style="list-style-type: none"> ・青柳文蔵 他1名(1集) ・牧野富三郎 他3名(2集)
(14) 勤労, 公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> ・お父さんは救急救命士 ・わたしのボランティア体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちら「ネコの手」ボランティア ・秘守の話 		
(15) 家族愛, 家庭生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・お父さんのおべんとう 	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんのさがしもの 		
(16) よりよい学校生活, 集団生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・かれてしまったヒマワリ ・バトンをつなげ 	<ul style="list-style-type: none"> ・せんばいの心を受けついで ・小さな連絡船「ひまわり」 	<ul style="list-style-type: none"> ・小川笙船(わ, 読み物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦東山 他1名(1集)
(17) 伝統や文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・正月料理 ・親から子へ, そして孫へと 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神山地 ・新しい日本に～龍馬の心 	<ul style="list-style-type: none"> ・立志の人ー山川健次郎ー(読み物) ・人間をつくる道ー剣道ー(わ, 読み物, 事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・片平親平 他5名(1集) ・後藤桃水 他2名(2集)
(18) 国際理解, 国際親善	<ul style="list-style-type: none"> ・「折り紙大使」～加瀬三郎 ・同じ空の下で 	<ul style="list-style-type: none"> ・白旗の少女 ・エンザ口村のかまど 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルーは泣いている(わ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・フランク安田

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳 5	東京書籍 新しい道徳 6	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集, 第2集
(19) 生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんが残したものの ・コースチヤぼうやを救え ・クマのあたりまえ 	<ul style="list-style-type: none"> ・命の重さはみな同じ ・お母さんへの手紙 ・東京大空襲の中で ・愛華さんからのメッセージ ・タマゾン川 	<ul style="list-style-type: none"> ・二ひぎのカエル(読み物) ・その思いを受けついで(わ, 読み物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶念 他2名(1集) ・加藤さん 他1名(2集)
(20) 自然愛護	<ul style="list-style-type: none"> ・一ふみ十年 ・イルカ海の海を守ろう 			<ul style="list-style-type: none"> ・相澤幸四郎(2集)
(21) 感動, 畏敬の念	<ul style="list-style-type: none"> ・ひさの星 ・一本松は語った 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜空～光の旅 ・青の洞門 		
(22) よりよく生きる喜び	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうものにわたしはなりたいたい～宮沢賢治 	<ul style="list-style-type: none"> ・義足の聖火ランナー～クリスムーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・真海の手チャレンジ(わ, 事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤基 他1名(2集)

学年,内容項目別教材・資料一覧(中学校)

学年,内容項目別教材・資料一覧は,「東京書籍 新しい道徳1・2・3」のp8,9「一年間で学ぶこと」を参考に,「みやぎの先人集 未来への架け橋 第1集,第2集」や文部科学省 道徳教育アーカイブ内で紹介されている教材・資料を分類し,作成した。

※ 文部科学省 道徳教育アーカイブ内で掲載されている教材・資料について
 ・わたしたちの道徳 中学校 → 「わ」 ・中学校道徳 読み物資料集 → 「読み物」 ・実践事例 → 「事例」

A 主として自分自身に関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳1	東京書籍 新しい道徳2	東京書籍 新しい道徳3	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集,第2集
(1) 自主,自律, 自由と責任	・傍観者でいいのか ・父のひとこと	・あの子のランドセル ・金語楼さんのこと	・ある日の午後から ・廃品回収で学んだこと	・町内会デビュー(読み物) ・スイッチ(読み物) ・ネット将棋(わ, 読み物)	
(2) 節度,節制	・山に来る資格がない ・忘れ物	・ばなしの女王 ・田老の生徒が伝えたもの	・早朝ドリブル ・スマホに夢中! ・ぼくにもこんな 「よいところ」がある		・石ノ森章太郎 他1名 (2集)
(3) 向上心, 個性の伸長	・自分の性格が大嫌い!	・私は十四歳	・高い遠い夢		・林子平 他6名(1集) ・小宝達 他11名(2集)
(4) 希望と勇氣, 克己と強い意志	・全てがリオオでかみ合った	・左手でつかんだ音楽	・湖の伝説		・川村瑞賢 他3名(1集) ・及川平治 他2名(2集)
(5) 真理の探究, 創造	・「どうせ無理」という言葉に 負けない	・赤土の中の真実			

B 主として人との関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳1	東京書籍 新しい道徳2	東京書籍 新しい道徳3	文部科学省 道徳教育アーカイブ	みやぎの先人集 第1集,第2集
(6) 思いやり,感謝	・その人が本当に望んでいること /思いやりの日々 ・心をつなぐパス	・心に寄りそう ・愛	・一冊の漫画雑誌 ・植生の宿	・背番号10(読み物) ・帰郷(わ, 読み物) ・手のひらの小さな世界(事例) ・いじめをノックアウト (事例)	
(7) 礼儀	・朝市の「おはようございます」	・あいさつ	・言葉おしめ	・違うんだよ,健司(読み物) ・嵐の後に(読み物) ・期末テスト(事例) ・いつも一緒に(事例) ・終電車の出来事(事例)	
(8) 友情,信頼	・短文投稿サイトに友達が悪口を 書くと ・班での出来事	・ゴール ・みんなでとんだ!	・私を支えてくれた言葉 ・合格通知		
(9) 相互理解,寛容	・いじめに当たるのはどれだろう ・落語が教えてくれること	・遠足で学んだこと ・なみだ	・しあわせ ・心にしみこむ“言葉”のカー池上彰	・言葉の向こうに(わ, 読み物)	・落合直文(1集)

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳 1	東京書籍 新しい道徳 2	東京書籍 新しい道徳 3	文部科学省 道徳教育アーカーイブ	みやぎの先人集 第1集, 第2集
(10) 遵法精神, 公德心	<ul style="list-style-type: none"> ・選手に選ばれて ・ごみ箱をもっと増やして 	<ul style="list-style-type: none"> ・許さな心 ・宝塚方面行きー西宮北口駅 	<ul style="list-style-type: none"> ・缶コーヒー ・二通の手紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・闇の中の炎(読み物) ・仏の銀蔵(読み物) ・二通の手紙(わ) ・期末テスト(事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・布施辰治(2集)
(11) 公正, 公平, 社会正義	<ul style="list-style-type: none"> ・替え ・いじめっ子の気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・私のせいじゃない ・渡良瀬川の猛毒 	<ul style="list-style-type: none"> ・無実の罪 ・伝えたいことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業文集最後の二行(事例) ・私もいじめた一人なのに(事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・内海五郎兵衛(1集) ・高橋長十郎 他1名(2集)
(12) 社会参画, 公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> ・楽寿号に乗って ・本が泣いています 	<ul style="list-style-type: none"> ・住みよい社会に ・今度是我的番だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・加山さんの願い ・社会からの無言の賞賛を ・感じる感性 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳩が飛び立つ日 ・一石井筆子ー(わ, 読み物) ・缶コーヒーー(事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・青柳文蔵(1集) ・牧野富三郎 他1名(2集)
(13) 勤労	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいブライド ・「看護する」仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の中で ・我, ここに生きる 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな仕事が安定かなやんでいる ・たんぼぼ作業所 	<ul style="list-style-type: none"> ・一冊のノート(わ) 	
(14) 家族愛, 家庭 生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・母はおしいれ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごめんね, おばあちゃん 	<ul style="list-style-type: none"> ・背筋を伸ばして 		
(15) よりよい学校 生活, 集団生活 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全校一を指して 	<ul style="list-style-type: none"> ・四十七年に感謝をこめて 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け継がれる思い 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦東山 他1名(1集) 	
(16) 郷土の伝統と 文化の尊重, 郷 土を愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのふささと ・郷土を彫る 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りの夜 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥唄の心を伝えたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックローラーー(読み物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・片平観平 他3名(1集) ・後藤桃水 他2名(2集)
(17) 我が国の伝統 と文化の尊重, 国を愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・古都の雅, 菓子的心 	<ul style="list-style-type: none"> ・心でいただく伝統の味 ・大切なものは何? 	<ul style="list-style-type: none"> ・花火と灯ろう流し 	<ul style="list-style-type: none"> ・真の国際人ー嘉納治五郎ー (読み物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大槻盤溪 他1名(1集)
(18) 国際理解, 国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本から来たおばさん 	<ul style="list-style-type: none"> ・六千人の命のピザ 	<ul style="list-style-type: none"> ・その子の世界, 私の世界/そこ ・命見つめて 	<ul style="list-style-type: none"> ・海と空ー樫野の人ター (わ, 読み物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・フランク安田(1集)

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

内容項目	東京書籍 新しい道徳 1	東京書籍 新しい道徳 2	東京書籍 新しい道徳 3	文部科学省 道徳教育アーカーイブ	みやぎの先人集 第1集, 第2集
(19) 生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちって何だろう ・決断! 骨髄バンク移植第一号 ・見沼に降る星 	<ul style="list-style-type: none"> ・奇跡の一週間 ・妹に ・書かれなかった遺書 	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたはすごい力で生まれてきた ・くちびるに歌をもて ・たとえぼくに明日はなくても 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶やしてはならない ・緒方洪庵ー(読み物) ・キミはあちゃん椿 (わ, 読み物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶他 2名(1集) ・加藤さん 他1名(2集)
(20) 自然愛護	<ul style="list-style-type: none"> ・サクララに集う人の思い 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の使者「マガン」 	<ul style="list-style-type: none"> ・よみがえれ日本海! 	<ul style="list-style-type: none"> ・相澤幸四郎(1集) 	
(21) 感動, 畏敬の念	<ul style="list-style-type: none"> ・火の島 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜は人間以外のものの時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハッチを開けて, 知らない世 界へ 		
(22) よりよく生き る喜び	<ul style="list-style-type: none"> ・銀色のシャープペン ・花に寄せて 	<ul style="list-style-type: none"> ・本当の私 ・良心とのたたかい 	<ul style="list-style-type: none"> ・青番号15が歩んだ道ー黒田博樹ー ・足袋の季節 	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の弟子(わ, 事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤基 他1名(2集)

道徳科の授業づくりに活用できるサポートブックについて

宮城県総合教育センター令和元年度専門研究道徳教育研究グループでは、「考え、議論する道徳」を目指したサポートブックの作成と活用を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育む道徳科の授業づくりを提案しました。サポートブックの内容は、道徳科用語集、内容項目集、ポイント集、学習指導案集です。研究員による授業実践と他教師への意識調査から、サポートブックが、道徳科の授業づくりに有効であるかを検証しました。その結果、サポートブックを活用した授業づくりを行うことで、教師の「考え、議論する道徳」に対する理解が深まり、道徳科の授業づくりに対するやりがいが増すという効果が認められました。

各学校において、児童生徒の実態を踏まえて、協働による「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育むことができるよう本サポートブックを道徳科の授業づくりに活用されることを願っています。

学校における活用例

【研究主任の先生、道徳教育推進担当の先生】

- 各種会議等での参考資料として活用
 - ・研修会、授業研究会等において、サポートブックを参考に協議するなど
- 研修だより等への活用
 - ・内容項目集やポイント集等を掲載し、校内の教職員で共有するなど

【初任者研修担当の先生】

- 初任者研修での活用
 - ・学習指導案の書き方ガイドを参考資料として、初任者の指導助言に活用するなど

【学級担任の先生、指導にかかわる全ての先生】

- 授業づくりへの活用
 - ・学習指導案の作成や道徳科の授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど

編集

一條 美奈	(宮城県総合教育センター 次長)
木村 徹之	(宮城県総合教育センター 主幹)
保科 優子	(角田市立角田中学校 教諭)
草刈 誠	(塩竈市立玉川中学校 教諭)
阿部 優子	(名取市立増田小学校 教諭)
鳳京 邦彦	(気仙沼市立面瀬中学校 教諭)



宮城県総合教育センター

令和元年度 専門研究 道徳教育研究グループ



Support Book



発行年月 令和2年4月

編集 宮城県総合教育センター

住所 名取市美田園2丁目1番4号

電話 022-784-3541